

富山市埋蔵文化財調査報告 104

# 富山市上野井田遺跡発掘調査報告書

—みなみの星病院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2021

富山市教育委員会

# 富山市上野井田遺跡発掘調査報告書

—みなみの星病院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2021

富山市教育委員会

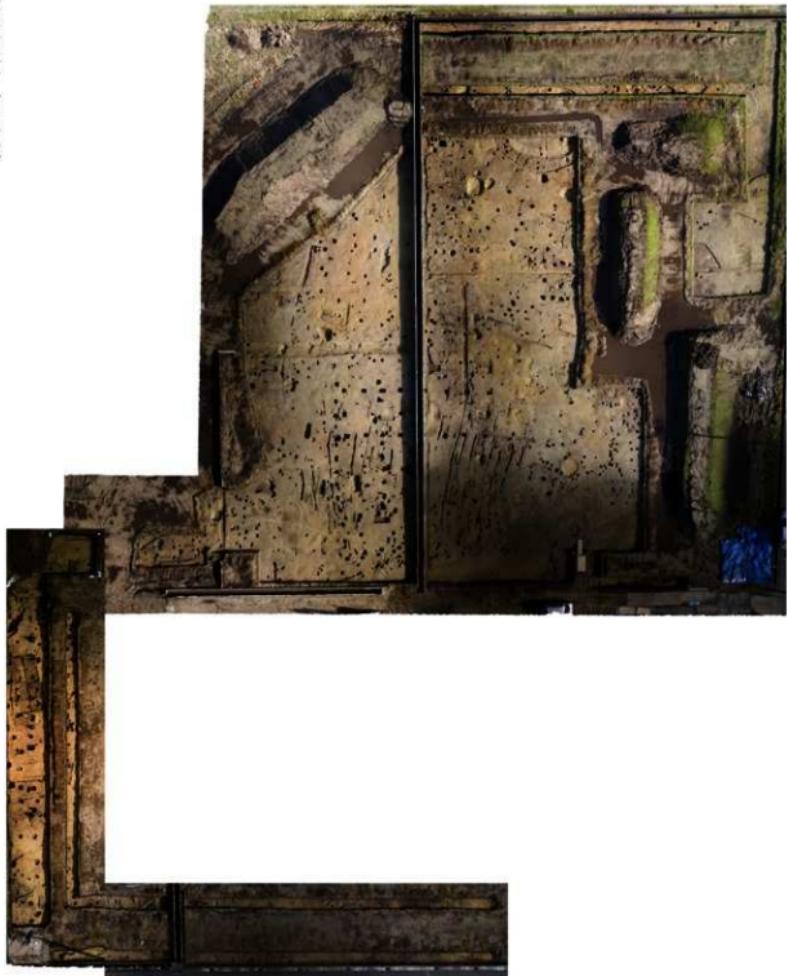


調査区全体完掘状況（北西から）



調査区全体完掘状況（南東から）

巻頭図版2  
調査区全体オルソ合成



調査区全体オルソ合成（左が北）



SI1 完掘（北から）



SI4・SI5 完掘（南東から）



SI2 遺物出土状況（北東から）



SI4-SK271 遺物出土状況（南から）



SK1025 遺物出土状況（北西から）



SD991 遺物出土状況（西から）



弥生時代終末期～古墳時代初頭土器



古代土器

## 例　　言

- 1 本書は、富山県富山市二俣に所在する上野井田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、医療法人社団双星会による、みなみの星病院建設に伴う発掘調査である。
- 3 調査は、医療法人社団双星会から北陸航測株式会社に発注され、富山市教育委員会埋蔵文化財センターの監理のもと実施した。
- 4 本書で報告する調査の概要は次のとおりである。

　　調査面積　　2, 524. 19 m<sup>2</sup>  
　　発掘作業期間　　令和元年10月10日～12月26日  
　　整理作業期間　　令和2年1月8日～令和3年5月31日  
　　監理担当者　　鹿島昌也（富山市教育委員会 埋蔵文化財センター 専門学芸員）  
　　細辻嘉門（富山市教育委員会 埋蔵文化財センター 専門学芸員）  
　　発掘作業担当者　朝田　要、橋　日奈子（北陸航測株式会社）  
　　整理作業担当者　朝田、橋（北陸航測株式会社）

- 5 現地調査にあたり、地元二俣地区の皆さんのご協力を得た。記して謝意を表します。
- 6 自然科学分析は、第4章第1節を胎土分析研究会（須恵器の蛍光X線分析）、第2・4・5・6節を株式会社パレオ・ラボ（放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、種実同定）、第3節を吉田生物研究所（樹種同定）に依頼し、その成果を掲載した。
- 7 本書の執筆は、第1章・第2章を細辻、第3章・第5章を朝田が行い、編集は朝田、橋が行った。文責は文末に記した。

## 凡　　例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系である。挿図の方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 層序および遺物観察表で記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠る。
- 3 遺構表記は、竪穴建物:SI、掘立柱建物:SB、溝:SD、土坑:SK、ピット:SP、その他の遺構:SXを用いた。
- 4 写真的縮尺は不統一である。
- 5 遺物実測図の縮尺は、原則1/3である。
- 6 挿図中の網掛けは、次のとおりである。なお、通常コゲが付着している煮炊具（縄文土器の深鉢、弥生土器の甕、土師器の甕・鍋など）のコゲ・煤は除く。

赤彩： 黒色処理： 須恵器： 珠洲： 油煙痕・煤・コゲ： 漆：

## 目 次

第1章 調査の経過	
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 試掘調査の概要	1
第3節 発掘作業及び整理等作業の経過	2
第4節 発掘調査日誌抄	3
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	8
第2節 層序	8
第3節 遺構と遺物	10
第4章 自然科学分析	94
第1節 須恵器の蛍光X線分析	94
第2節 放射性炭素年代測定	97
第3節 樹種同定	100
第4節 珪藻分析	101
第5節 花粉分析	106
第6節 種実同定	108
第5章 総 括	110
第1節 はじめに	110
第2節 弥生時代後期～古墳時代初頭の周溝を持つ建物(SI 1)について	110
第3節 古代建物の変遷について	114
引用・参考文献	118

## 挿 図 目 次

図 1 試掘出土遺物実測図	2
図 2 調査区位置図	4
図 3 調査区周辺の地形分類図	4
図 4 調査区周辺の遺跡分布図	7
図 5 調査区グリッド配置図 トレンチ・基本層序確認位置図	9
図 6 基本層序図	9
図 7 調査区割図	10
図 8～23 調査区全体区割図	11～27
図 24 SD772・SD777・SK1110遺構図、断面図、出土遺物実測図	28
図 25 SI 1遺構図、SK1130遺構図、断面図、出土遺物実測図	29
図 26 SI 1出土遺物実測図	30
図 27 SI 2遺構図、断面図、出土遺物実測図	31
図 28 SI 2出土遺物実測図	32
図 29 SB 1・SB 2・SD924・SD991遺構図・断面図、出土遺物実測図	33
図 30 SK83・778・914・1025遺構図、断面図、出土遺物実測図	35
図 31 SK1004・1006・1028・1040・1043・1074・1089・1162遺構図、断面図、出土遺物実測図	36
図 32 遺物実測図	38
図 33 SI 3遺構図、断面図、出土遺物実測図	42
図 34 SI 4・5遺構図、断面図	43
図 35 SI 4・5関連遺構出土遺物実測図	44
図 36 SI 6・7遺構図、断面図、出土遺物実測図	45
図 37 SB 1・3遺構図、断面図、出土遺物実測図	50
図 38 SB 4～6遺構図、断面図、出土遺物実測図	51
図 39 SB 7・8遺構図、断面図	52
図 40 SB 9・10遺構図、断面図	53

図 41 SB11・SK454 遺構図、断面図	54
図 42 SB12 遺構図、断面図、出土遺物実測図	55
図 43 SB13 遺構図、断面図、出土遺物実測図	56
図 44 SB14・15 遺構図、断面図、出土遺物実測図	57
図 45 SB16・17 遺構図、断面図、出土遺物実測図	58
図 46 SB18 遺構図、断面図	59
図 47 SD35・140・144 遺構図、断面図、出土遺物実測図	60
図 48 SK30・154・156・217・224 遺構図、断面図、出土遺物実測図	63
図 49 SX228・SK231・253・470・471・485 遺構図、断面図、出土遺物実測図	64
図 50 SK703・760・780・868・979・1007・1087 遺構図、断面図、出土遺物実測図	65
図 51 SK605・1032・1149 遺構図、断面図、出土遺物実測図	66
図 52～56 遺物実測図	69～73
図 57～65 K-Ca, Rb-Sr分布図	95・96
図 66 历年較正結果	99
図 67 堆積物中の珪藻化石分布図	104
図 68 上野井田遺跡における花粉分布図	108
図 69 弥生時代終末期～古墳時代初頭の集落の推定範囲	111
図 70 古代集落の変遷(1)(2)	116・117

## 表 目 次

表 1 遺構一覧表(1)～(15)	74～88
表 2 遺物観察表(1)～(5)	89～93
表 3 古代須恵器の分析データ	95
表 4 測定試料および処理	97
表 5 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	98
表 6 堆積物の特徴	101
表 7 堆積物中の珪藻化石算出表	105
表 8 分析試料一覧	106
表 9 堆積物中の珪藻化石算出表	107
表 10 SK1110から出土した炭化種実	109
表 11 周辺地域の弥生時代後期～古墳時代初頭の周溝を持つ大型建物一覧(1)(2)	112・113
表 12 古代の掘立柱建物一覧	115

## 図版目次

図版 1 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真	104
図版 2 弥生遺物包含層②-1から産出した花粉化石	108
図版 3 SK1110から出土した炭化種実	109

## 写真図版目次

卷頭図版1 調査区全体完掘状況	
卷頭図版2 調査区全体オルゾ合成	
卷頭図版3 壓穴建物完掘(SI1, SI4・SI5)	
卷頭図版4 遺物出土状況(SI2, SI4-SK271)	
卷頭図版5 遺物出土状況(SK1025, SD991)	
卷頭図版6 出土遺物集合写真(弥生時代終末期～古墳時代初頭土器、古代土器)	
写真図版1 繩文時代遺構(SD772, SD777, SK1110) 弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構 壓穴建物(SI1)	
写真図版2 弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構 壓穴建物(SI1, SI1-SK1130)	
写真図版3 弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構 壓穴建物(SI2)	

写真図版4	弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構	堅穴建物(SI2) 堀立柱建物(SB2)
写真図版5	弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構	堀立柱建物(SB2) 溝(SD991)
写真図版6	弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構	溝(SD924) 土坑(SK783、SK1004・1005、SK1006)
写真図版7	弥生時代終末期～古墳時代初頭遺構	土坑(SK1025、SK1040、SK1043、SK1087、SK1172) 古代遺構 堪穴建物(SI3)
写真図版8	古代遺構	堅穴建物(SI3、SI4～6)
写真図版9	古代遺構	堅穴建物(SI4)
写真図版10	古代遺構	堅穴建物(SI5、SI6、SI7)
写真図版11	古代遺構	堀立柱建物(SB1～5、SB1)
写真図版12	古代遺構	堀立柱建物(SB1、SB3)
写真図版13	古代遺構	堀立柱建物(SB3、SB4・5)
写真図版14	古代遺構	堀立柱建物(SB4、SB5、SB6)
写真図版15	古代遺構	堀立柱建物(SB6、SB7～12)
写真図版16	古代遺構	堀立柱建物(SB7)
写真図版17	古代遺構	堀立柱建物(SB8)
写真図版18	古代遺構	堀立柱建物(SB9・10、SB9)
写真図版19	古代遺構	堀立柱建物(SB9、SB10)
写真図版20	古代遺構	堀立柱建物(SB11・12、SB11)
写真図版21	古代遺構	堀立柱建物(SB11、SB12)
写真図版22	古代遺構	堀立柱建物(SB13)
写真図版23	古代遺構	堀立柱建物(SB13・14、SB14)
写真図版24	古代遺構	堀立柱建物(SB15)
写真図版25	古代遺構	堀立柱建物(SB16・17、SB16)
写真図版26	古代遺構	堀立柱建物(SB17、SB18)
写真図版27	古代遺構	溝(SD140・144、SD719、SD724) 土坑(SK30、SK89、SK138)
写真図版28	古代遺構	土坑(SK154、SK155・156、SK195、SK209)
写真図版29	古代遺構	土坑(SK213、SK217、SK224・230、SK253、SK466、SK494)
写真図版30	古代遺構	土坑(SK448・449、SK485、SK524、SK549)
写真図版31	古代遺構	土坑(SK572、SK574、SK683、SK685)
写真図版32	古代遺構	土坑(SK703、SK712、SK725、SK737、SK760)
写真図版33	古代遺構	土坑(SK748、SK776、SK778、SK780、SK851)
写真図版34	古代遺構	土坑(SK868、SK914、SK971、SK979、SK1007、SK1008)
写真図版35	古代遺構	土坑(SK1032、SK1040、SK1074、SK1087) 不明遺構(SX228) 近世以降遺構(SK605)
写真図版36	堅穴建物出土遺物(弥生時代終末期～古墳時代初頭)	
写真図版37	遺構出土遺物(弥生時代終末期～古墳時代初頭)	堅穴建物出土遺物(古代) 堀立柱建物出土遺物
写真図版38	写真図版38 試掘・遺構出土遺物(縄文時代晚期)	
写真図版39	堅穴建物出土遺物(弥生時代終末期～古墳時代初頭)	
写真図版40	遺構出土遺物(弥生時代終末期～古墳時代初頭)	堅穴建物出土遺物(古代)
写真図版41	遺構出土遺物(古代)	
写真図版42	遺構出土遺物(古代以降)	
写真図版43	遺構外出土遺物	
写真図版44	遺構外出土遺物	

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査にいたる経緯

上野井田遺跡（遺跡番号 2010557）は、昭和 63 年度～平成 3 年度に富山市教育委員会（以下：市教委）が実施した市内遺跡分布調査により新たに確認した遺跡である。平成 5 年に市教委が刊行した『富山市遺跡地図（改訂版）』には遺跡番号 201513 として登載・周知され、平成 25 年度刊行の『富山市遺跡地図』で、現在の遺跡番号となった。

本遺跡内では数度にわたって試掘調査及び発掘調査が行われており、その調査成果を踏まえ範囲の見直しを行い、現在の埋蔵文化財包蔵面積は 119,459 m<sup>2</sup>である。

平成 30 年 10 月 12 日、富山市二俣地区において、医療法人社団双星会（以下：双星会）から病院建設工事について埋蔵文化財包蔵地の所在確認依頼があった。開発予定地全域 9,250 m<sup>2</sup>が上野井田遺跡に含まれております、平成 14 年度に別の原因者の届出により開発予定地の一部 1,718.54 m<sup>2</sup>で試掘調査を実施して遺跡を確認していたため、平成 30 年 3 月 19 日～3 月 20 日に市教委で開発予定地のうち未試掘地について試掘調査を実施したところ、開発予定地のうち 6,148 m<sup>2</sup>で弥生時代終末期と奈良・平安時代の遺構を検出し、弥生土器、須恵器・土師器、珠洲などが出土した。

埋蔵文化財の所在を確認したため、試掘調査の結果に基づき、市教委と双星会で埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、開発計画のうち病院棟・調整池・駐輪場・井戸・擁壁、埋設管部分については工事の計画が遺構検出面より深く、埋蔵文化財を現地で保存できないため、2,524.19 m<sup>2</sup>について発掘調査による記録保存を行い、その他は掘削せず遺跡を現地で保存することで合意した。

文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の届出は、双星会から平成 31 年 2 月 28 日付けで市教委へ提出され、市教委の副申を付けて平成 31 年 3 月 19 日付け埋文第 211 号で富山県教育委員会へ提出した。

文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告は、市教委から令和元年 12 月 10 日付け 30 埋文第 300 号により富山県教育委員会へ提出した。

### 第2節 試掘調査の概要

開発対象地の試掘調査は、2 回にわたって実施した。第 1 次試掘調査は、開発予定地西側の市道沿い 1,718.54 m<sup>2</sup>を対象に平成 14 年 9 月 19 日に実施した。幅 1 m の試掘トレーナーを 11 カ所設定し、対象地の北側 1,200.54 m<sup>2</sup>で、奈良・平安時代の溝・土坑・ピットを確認し、縄文土器、土師器・須恵器・珠洲・八尾が出土した。

第 2 次試掘調査は開発予定地の未試掘調査地 6,469.32 m<sup>2</sup>を対象に平成 30 年 3 月 19 日～3 月 20 日に実施した。幅 0.8 m の試掘トレーナーを 21 カ所設定し、対象地の北東一部と南西一部を除く全域 6,148 m<sup>2</sup>で溝・土坑・ピットを確認した。遺跡確認範囲の中でも奈良・平安時代の遺構はほぼ全域に分布し、弥生時代の遺構は遺跡範囲の南東側に分布する。対象地の北東は遺構が確認できず、地山の高さが低くなるため、旧二俣川の流路と判断した。

試掘調査では、縄文土器、弥生土器、土師器・須恵器・珠洲・八尾、越中瀬戸、唐津などが出土した。1 は縄文土器である。6T (2018) 包含層出土である。縄文時代晩期中屋式で、器種は鉢である。外面に沈線文が配される。2～4 は弥生土器である。2 は 13T (2018) の SD119、3 は 12T (2018) の SK94、4 は 15T (2018) 包含層出土である。2・3 は弥生時代終末期、月影 II 式のもので 2 は台付壺、3 は有段鉢形高杯である。2 は突帯を巡らせ、3 は内外面に赤彩を施す。4 は高杯の脚部で、同時期のものと考

えられる。5～7は須恵器である。5・7は15T（2018）、6は6T（2002）出土である。5は杯蓋である。頂部はクロケズリ調整で、端部が内傾する。9世紀前半のものである。6・7は杯Bで、いずれも8世紀後半～9世紀前半のものである。8は古代の土師器の甕である。8T（2002）で出土した。口縁内外面横ナギ調整で、端部に面を取る。8世紀のものである。9は土師器碗である。8T（2018）SD25から出土した。内外面にミガキ調整を施し、内面には黒色処理も施す。外面は赤彩の可能性がある。8世紀のものである。10・11は珠洲である。10・11は9T（2002）から出土した。10は甕体部片、11は甕底部片である。12は中国青磁碗である。16T（2018）から出土した。内湾して立ち上がり、端部を丸くおさめる。12世紀末～13世紀前半のものである。

試掘出土遺物

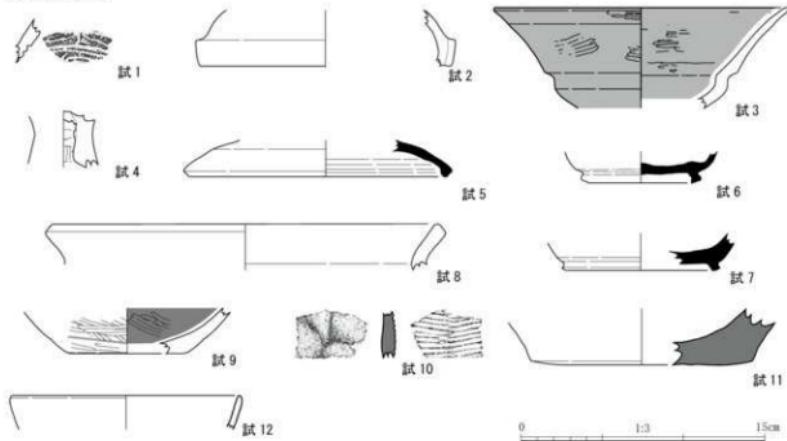


図1 試掘出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

### 第3節 発掘作業及び整理等作業の経過

発掘調査は原因者である医療法人社団双星会から北陸航測株式会社に委託業務を発注し、埋蔵文化財センター職員が発掘調査の監理にあたった。

調査着手前の令和元年9月12日に三者立会いの下、調査範囲について確認を行った。発掘調査は同年10月10日から12月25日まで行った。表土掘削はバックホウを用いて10月10日から10月28日まで行った。排土は発掘調査区外の敷地内に横置きした。表土掘削作業と並行して10月11日から人力による遺物包含層掘削・遺構検出作業を開始した。

試掘調査結果では、弥生時代と奈良・平安時代の遺構が想定されており、掘削を開始すると、試掘調査の結果のとおり、調査区全体で奈良・平安時代の遺物が出土した。遺物包含層は調査区の一部に拡がることがわかった。遺物包含層の遺物は、世界測地系第VII系座標に基づき10mグリッドを設定してグリッド毎に取り上げた。表土掘削・遺物包含層掘削が完了したところから遺構検出作業を行った。遺構検出作業で奈良・平安時代の遺構と弥生時代終末期の遺構が同一遺構面に分布することがわかつた。遺構検出作業完了後、UAVを使用して全景撮影を行い、引き続き遺構掘削作業を行った。掘削作業

と並行して随時写真撮影・測量・図面作成作業を行った。12月25日には遺構掘削を終え、UAVを使用して全景写真を撮影した。同日埋蔵文化財センター所長による現地作業終了確認を行った。

調査後の現地埋め戻しは行わず、令和2年1月8日現地作業完了と撤収を確認し、現地調査を完了し現地を引き渡した。

遺物整理・報告書作成作業は、現地調査終了後ただちに北陸航測株式会社で実施した。整理作業は、弥生時代堅穴建物出土遺物は組成を重視し、奈良・平安時代の遺物は遺構出土遺物を優先して抽出し、接合・図化した。弥生時代堅穴建物の埋土330袋は土壤洗浄を行い、玉髓製白玉1点が見つかった。遺物写真はフルサイズデジタル一眼レフカメラを使用し、図化したものを見優先して撮影した。これらの作業と並行して原稿作成を行い、令和3年5月31日に本書を刊行し、業務を完了した。

#### 第4節 発掘調査日誌抄

令和元年

9月12日 調査区位置出し確認

(双星会、北陸航測、埋蔵文化財センター)

10月8日 基準点及び水準点測量実施、調査区位置出し

10月8～11日 調査機材・資材搬入

10月10日 1区から順にバックホウによる表土掘削作業着手



10月11日 1区から遺構検出作業着手



10月18日 弥生時代堅穴建物検出



10月28日 表土掘削作業完了



10月30日 遺構掘削作業着手

11月1日 遺構検出全景空中写真撮影

11月7日 遺物集中部分記録作業、遺物取り上げ

11月8日～11月11日 雨天につき掘削作業中止、測量作業

11月12日 調査区中央部に3間×2間の掘立柱建物2棟検出

11月15日 掘立柱建物柱穴から須恵器完形品出土

11月26日 自然科学分析試料採取・弥生時代堅穴建物が周堤を持つことを確認

12月6日 埋蔵文化財センター所長現地確認

12月9日 埋蔵文化財センター所長代理現地確認

12月11日 遺構内遺物記録作業・取り上げ

12月19日 掘削完了全景空中写真撮影

12月25日 埋蔵文化財センター所長現地調査終了確認

令和2年

1月8日 調査機材・資材搬出、現地調査終了

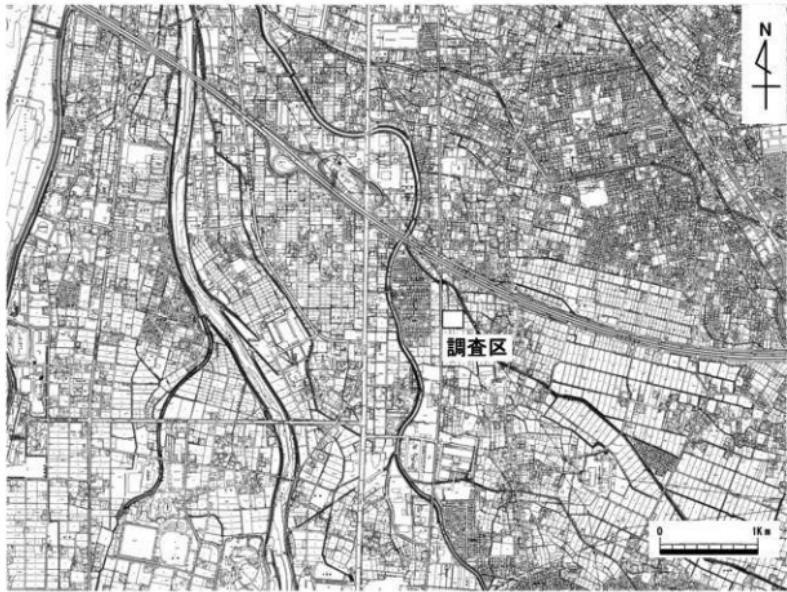


図2 調査区位置図 ( $S = 1/50,000$ )

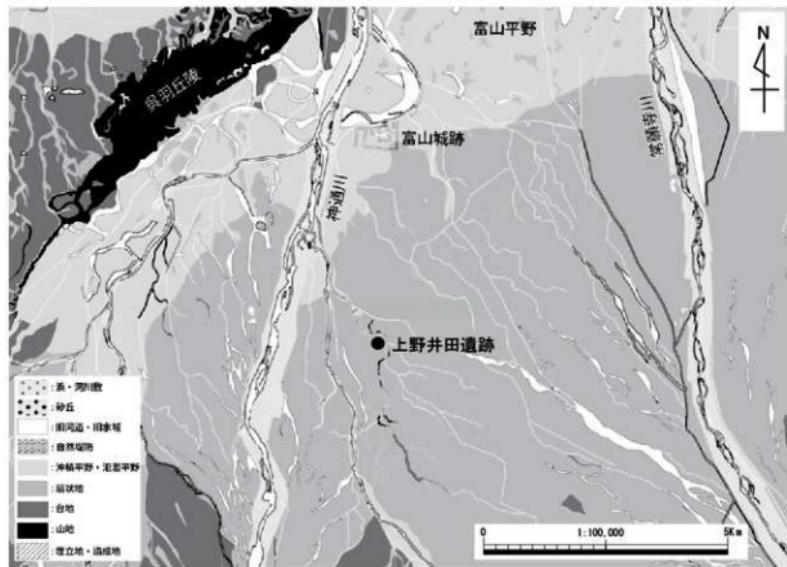


図3 調査区周辺の地形分類図 ( $S = 1/100,000$ )

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

富山市は富山県のほぼ中央部に位置する。富山市の地勢は大まかに山間部と平野部に大別され、南が高く、北が低くなるという地勢を示しており、海岸から標高3,000m級の高山地帯まで変化に富む。

富山平野は富山県中央部の大部分を占めており、北は富山湾と面し、東端は早月川扇状地、西端は県のほぼ中央を二分する呉羽丘陵に、南は飛騨山地から続く丘陵に接する。神通川・常願寺川とその支流が形成した扇状地や低位面・氾濫平野の発達が顕著である。

上野井田遺跡（図3・4）は、富山市中心部から南約5kmの富山市南部、二俣・上野に所在し、東西280m、南北600mに広がる繩文・弥生・奈良・平安・中世の集落である。

今回調査区の所在する二俣地区は、富山湾から12km内陸に入った熊野川支流土川右岸に位置する。神通川とその支流熊野川や土川の堆積によって形成された緩扇状地上に立地する（図2）。現在の地形は南東から北西に向かって緩やかに傾斜する。

神通川は、岐阜県の川上岳に源を発した渓谷が断崖絶壁を開析し、富山、岐阜県境で高原川と合流して、富山市後津付近で富山平野に出る。山麓山腹に段丘平野や扇状地を形成しながら北流し、富山市鴨島付近で井田川と合流して富山湾に注ぐ。富山市中心部では現在はほぼ真っ直ぐに北流して富山湾に注いでいるが、かつては現在の県立富山中部高校の辺りで東に曲がり、富山城の北を東向きに流れ、現在の赤江町の辺りで大きく西に曲がって蛇行していた。この蛇行部分でしばしば水害がおこり、その対策として明治時代に蛇行部分を短絡する分水路を開削し（馳越線）、一定量を超える洪水は分水路に流れるようにした。やがて元の本流には水が流れなくなり、馳越線が本流となった。

熊野川は、富山市有峰の西笠山に源を発し、高頭山のふもと三枚滝を経て北流し、富山市文珠寺付近で西に流れを変え、富山平野に出る。富山市東福沢で黒川と合流し、富山市布瀬付近で神通川と合流する。急流河川のため、古くから多雨時期には豪雨による災害が発生し、治水事業として1984年（昭和59）熊野川ダムが完成した（北日本新聞社 1994）。流域では試掘調査等で過去の洪水堆積層が見られ、たびたび水害に見舞われたことがわかる。

今回調査区は二俣地区の北西端、遺跡の東中部に位置する。調査前の現況は水田である。調査区付近の標高は25m前後である。調査区の周辺一帯は、かつては緩扇状地上の尾根部に宅地、谷部に水田が広がる農村地域であったが、都市化が進み、住宅やアパートが立ち並んでいる。調査区の西隣には市道今泉安養寺線が南北に通り、2.1km北で国道359号と交差する。調査区の北方2.5kmには富山地方鉄道南富山駅が所在する。調査区の北西には北陸自動車道富山インター・チェンジが所在し、北陸自動車道が南東～北西に貫く。調査区の西500mには国道41号が南北に通り、2.2km北西の掛尾地内で国道359号と交差する。国道沿線には富山市中心部と郊外への交通アクセスが良いため、大型店舗や工場、倉庫が建ち並び、富山市の物流や工業生産の中心を形成している。

### 第2節 歴史的環境（図4）

上野井田遺跡と二俣地区周辺一帯の遺跡について概観する。

遺跡では、開発の進展に伴って、ほぼ毎年試掘調査や工事立会が行われ、弥生時代後期から近世までの遺構・遺物を確認し、本遺跡の主要な時期は、奈良・平安時代であることが分かっている。

本遺跡内の発掘調査は今回調査を含めると2度実施している。平成9年度には今回調査区の北100mにある病院施設建設に伴う発掘調査で、古代の竪穴建物1軒・2間×2間以上の規模の掘立柱建物1棟・溝・土坑・ピット・畠跡を検出した。出土遺物には、縄文土器、土師器・須恵器、土錘、刀子、文久永寶があ

る。堅穴建物の帰属時期は8世紀末で、出土遺物の時期は縄文、8世紀後半～9世紀前半、12世紀後半～13世紀後半、近世と多岐にわたり、須恵器の中に焼成不良品が過半数みられ、須恵器からロクロ土師器に代わる時期の先駆的な様相の土器群の可能性がある(市教委1998)。

本遺跡周辺では、立地の関係上、現在までに旧石器時代の遺跡は確認していない。

縄文時代に入ると、昭和28年に上野鍋田割地内で千俵用水の改修の際、縄文時代中期から後期の石斧・石棒と須恵器・土師器が採集されている(中村1962)。本遺跡の南東にある吉岡遺跡(2)では、宅地造成に伴う発掘調査で、縄文時代晚期後葉の土坑・ビット・石組炉を検出し、縄文土器・打製石斧・磨製石斧・石鎌などが出土した(市教委2002)。このほか若竹町遺跡(3)・悪王寺遺跡(4)・大利屋敷遺跡で縄文土器が出土している。

弥生時代前期の遺跡は未確認である。中期に入ると経力遺跡(5)では、宅地造成に伴う発掘調査で、弥生時代中期の土坑を検出し、弥生土器が出土した(市教委2002)。本遺跡の北にある千石町遺跡(6)では、宅地造成に伴う発掘調査で、弥生時代中期の方形周溝墓5基を検出し、弥生土器が出土した(市教委2015a・2015b)。富山市内で確認した唯一の弥生時代中期の墓域である。弥生時代後期に入ると富山市内全体では遺跡が急増するが、本遺跡周辺では空白地帯となる。本遺跡の南西にある友杉遺跡(7)では、公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査で弥生時代後期後半の堅穴建物1棟が検出され、弥生土器が出土した。堅穴建物は方形プランで、床面から完形の弥生土器が潰れた状態で27点出土した(富山県文化振興財団2010)。続く古墳時代に入ても遺跡の分布は散発的で、先述の本遺跡の例のほか、友杉遺跡で古墳時代前期の土坑が1基検出され、土師器が出土した(富山県文化振興財団2010)。上新保遺跡(8)では、宅地開発に伴う発掘調査で土坑1基を検出し、6世紀代の須恵器壺と蓋が出土した(市教委2000)。朝菜町鳥ノ木遺跡(9)では試掘調査で古墳時代後期の遺構と須恵器を確認した。

古代になると本遺跡周辺では開発が進み、神通川と熊野川に挟まれた地域で大集落が形成され、確認される遺跡が急増する。本遺跡の西には黒瀬大屋遺跡(10)・黒崎種田遺跡(11)、南西には任海宮田遺跡(12)・友杉遺跡・南中田遺跡(13)・吉倉B遺跡(14)、北東には上新保遺跡、朝菜町鳥ノ木遺跡など集落遺跡が濃密に分布する。黒瀬大屋遺跡では宅地開発に伴う発掘調査で一面庭掘立柱建物1棟・堅穴建物3軒・溝・土坑を検出し、施釉陶器や「中田」墨書き土器・刻書き土器などが出土した。集落は7世紀に出現し、8世紀後半～9世紀前半、9世紀中頃～後半、9世紀後半～10世紀初めの3時期の変遷を確認した(市教委2018)。任海宮田遺跡では公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査で100棟を超える堅穴建物や掘立柱建物を検出し、「城長」「観音寺」「寺」「蟹田」などの墨書き土器が約800点・石器の帶飾り・縁釉陶器・奈良三彩火舎などが出土した。庭付大型掘立柱建物の存在から、公的施設や古代寺院の存在が推測されている(富山県文化振興財団2008)。上新保遺跡でも宅地開発に伴う発掘調査で堅穴建物や掘立柱建物を100棟以上検出した。しかし公的施設の特徴を示す遺物や土鍤が出土しないため、任海宮田遺跡とは違う性格の農村集落が想定される(市教委2000・2009a・2009b)。

中世に入ると本遺跡周辺一帯は徳大寺家領宮河荘に比定される。黒崎種田遺跡・任海宮田遺跡・吉倉A遺跡・吉倉B遺跡・上新保遺跡などの集落遺跡が営まれ、熊野川東側には蛭川館跡(15)や上熊野城跡・布市城跡などの城館跡が立地する。黒崎種田遺跡では、県医師会館建築に伴う発掘調査で13～15世紀代の屋敷跡・堅穴状遺構・馬小屋・井戸・石室などを検出した。井戸の中には「井戸終い祭祀」が行われていたものがある。出土遺物の中には金付き土器があり、県内初の出土例である。この地は蛭川氏一族の拠点であり、蛭川氏が関連する有力武士の屋敷跡が想定される(市教委2020)。

近世には調査区周辺一帯はさらに広範囲で水田開発が進んだとみられる。上新保遺跡では桃井直常の末裔とされる桃井清光家の敷地内で石垣遺構を検出し、近世屋敷跡を確認した(市教委2000)。また神通川と支流を利用して舟運も発達し、友杉にある産業展示館付近で荷揚げが行われていた。

(細辻)



1 上野井田遺跡 2 吉岡遺跡 3 若竹町遺跡 4 墓王子遺跡 5 経力遺跡 6 千石町遺跡 7 友杉遺跡 8 上新保遺跡 9 萩原町鳥ノ木遺跡  
10 黒崎大屋遺跡 11 黒崎種田遺跡 12 任萬宮遺跡 13 南中田D遺跡 14 吉島B遺跡 15 鮎川難跡

図4 調査区周辺の遺跡分布図 ( $S = 1/25,000$ )

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

今回、上野井田遺跡の発掘調査（調査面積 2,524.19 m<sup>2</sup>）は、まず調査区全体をカバーするグリッドを設定することから始めた。基点は世界測地系の X=71,840 と Y=4,230 の交点を A0 とし、座標軸に基づいて 10 m × 10 m のグリッドを設定した。グリッドの呼称は、建設予定地の範囲を対象に、X 軸（南北軸）は南から北へ A・B・C…のアルファベット、Y 軸（東西軸）は西から東へ 1・2・3…の数字を付し、グリッド呼称として使用した（図 5）。

調査区は大きく 3 つに分かれる。最も大きい中央全体 1,900 m<sup>2</sup> を 1 区と設定した。1 区はそのほぼ中央を農業用水により南北に分断されていることから、調査・整理の便宜上、“1 区（北）”・“1 区（南）”に分けた。同時に、1 区南東の調査区 250 m<sup>2</sup> は 2 区、1 区北西の調査区 350 m<sup>2</sup> を 3 区として調査を進めた。

表土の掘削にはバックホウを使用して、調査担当者の立ち会いのもと表土の掘削を行った。表土掘削が完了した箇所から、スコップやジョレンなどの発掘道具を使用して、人力で遺物包含層の掘り下げと精査を行い、遺構の検出を実施した。遺構検出の際に出土した遺物は、取り上げ番号を付けてグリッドごとに取り上げを行った。遺構検出後に、無人航空機（以下 UAV と記す）を使用して、遺構検出面の写真撮影を行った（写真図版 2）。

その後、UAV で撮影した遺構検出情報からオルソ画像、概略図を作成した。検出した遺構に遺構番号を付けた後、移植ゴテなどの発掘道具を使用して、人力による遺構の掘り下げを 3 区南側から開始した。土坑（SK）や柱穴・ビット（SP）などの遺構は半截した後に、建物跡（SI）や溝跡（SD）などの遺構はセクションベルトを設定し、各セクション毎に掘削を進め、写真撮影と断面図を作成した後、完掘掘り下げの作業を行った。また、1 区 SI1・SI2 のように、ほぼ完形に近い状態で土器が出土した遺構や、1 区 SK1025 や 3 区 SI4-SK271 のように遺物が集中して出土した遺構については、遺物の出土状況の写真撮影と詳細平面図による記録の作成、遺物の取り上げの後、完掘した。こうした遺構の完掘作業と合わせて、遺構平面図の作成を行った。遺構平面図は、トータルステーションを使用して測量を行い、全体遺構平面図と合わせて作成した。

完掘後に、UAV を使用して、全体写真の撮影を行った（巻頭図版 1・2、写真図版 1）。

### 第2節 層序

本調査区は、上野井田遺跡の北東に位置し、二俣川が調査区東側を北西へ向け流れ、約 500m 北北西で土川と合流している。調査区の遺構検出面の標高は約 24.2 ~ 24.9 m で、調査区内の地山は北側から南側に向かって傾斜する。

基本層序は昨年度の試掘調査でカバーされていない B 地区南西端、C 地区北東端・北西端・南西端の 4カ所を含むいくつかのグリッド杭・端杭で確認し、試掘調査の結果を合わせ、基本層序図を作成した（図 6）。

基本層序は上から順に、I a 層：耕作土（約 0.2m、10YR4/1 暗灰色シルト質土）、I b 层：水田底土（約 0.05m、10YR3/3 暗褐色シルト質土）、II a ~ II b 層：弥生・古代遺物包含層（約 0 ~ 0.2m、II a 層：7.5YR3/1 黒褐色シルト、II b 層：10YR2/1 黒色粘土質シルト）、III 層：地山（遺構検出面、10YR6/6 明黄褐色砂質シルト）となる。遺物包含層である IV 層には、1.0 ~ 5.0 mm の炭化物粒がまばらに含まれるとともに、V 層地山砂質シルトが含まれているのが特徴である。遺構の検出は、V 層の上面で実施した。

建設予定地北東側には、試掘時に二俣川の旧河道と考えられる堆積土を確認した。

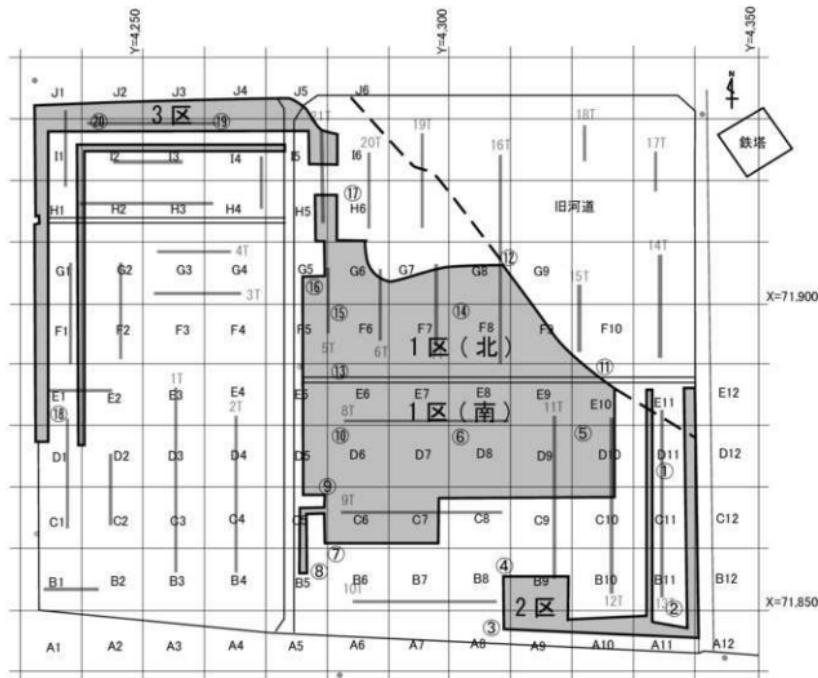


図5 調査区グリッド配置図 トレンチ・基本層序確認位置図 ( $S = 1/800$ )

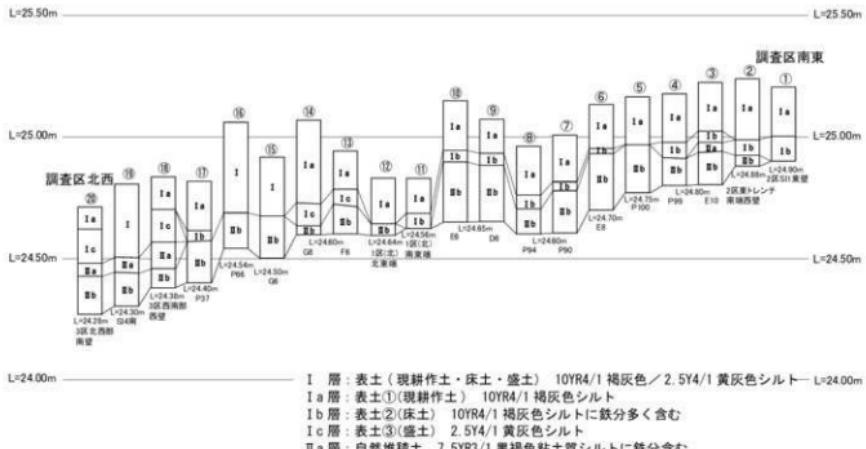


図6 基本層序図 ( $S = 1/200$ )

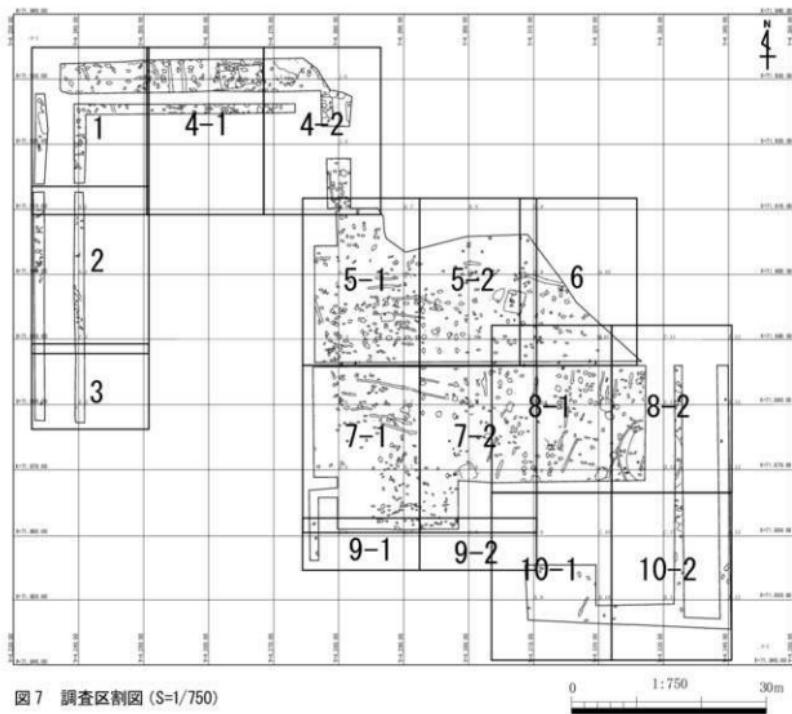


図7 調査区割図 (S=1/750)

0 1:750 30m

### 第3節 遺構と遺物

調査で検出した遺構は1,143を数え、1区では堅穴建物3棟、掘立柱建物18棟、溝38条、土坑639基、ピット131基、不明遺構2基（うち堅穴状遺構2基）、2区では堅穴建物1棟、溝2条、土坑39基、3区では堅穴建物4棟、溝18条、土坑246基、不明遺構2基（うち堅穴状遺構と思われるもの1基）を検出した。遺構の時期は主に奈良・平安時代で調査区の全域に広がるほか、調査区の南東では縄文時代晚期、弥生時代終末期の遺構も検出した。

以下、1～3の各地区で検出した主要な遺構の内容を時期毎にまとめて記す。遺構番号は、個別の遺構については通し番号で、複数の遺構により構成される掘立柱建物については新たに番号を付した。また紙面数の都合上、文中で触れられない遺構については、表1 遺構一覧表にまとめた。表中、建物を構成する柱穴や建物に伴う土坑については“SB1-SP941”的ように、調査の際に使用した旧番号については備考に記載した。

#### 1 縄文時代晚期～弥生時代中期

縄文時代の遺構は1区調査区東側に位置する。遺物包含層は削平されており、現代の耕作土直下が遺構検出面（地山）のため、出土遺物は少ない。時期は縄文時代晚期である。当該期の遺構は廃棄土坑と考えられるSK1110のみで、このほか縄文土器が出土した遺構として溝2条、土坑2基がある。

1

N

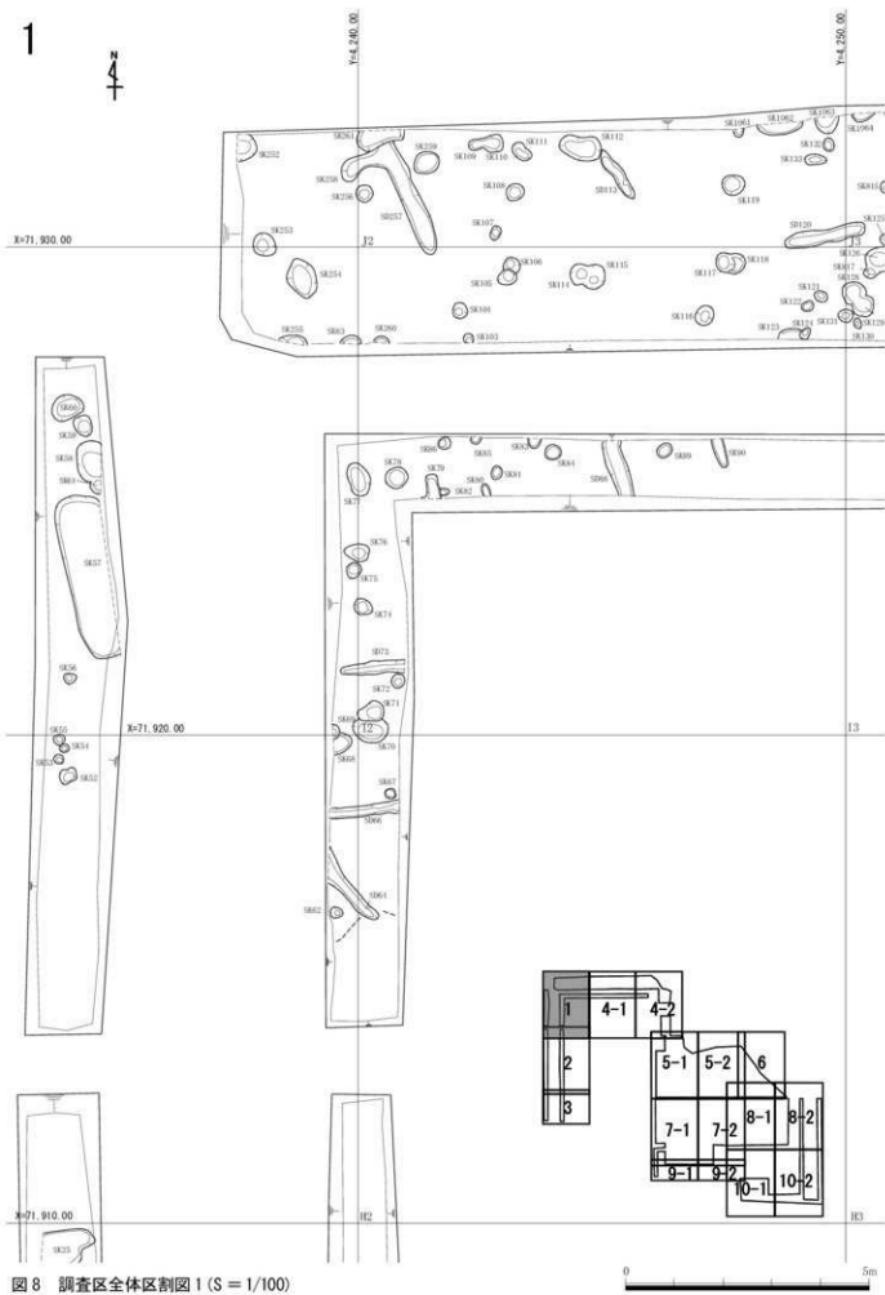


図8 調査区全体区割図1 (S = 1/100)

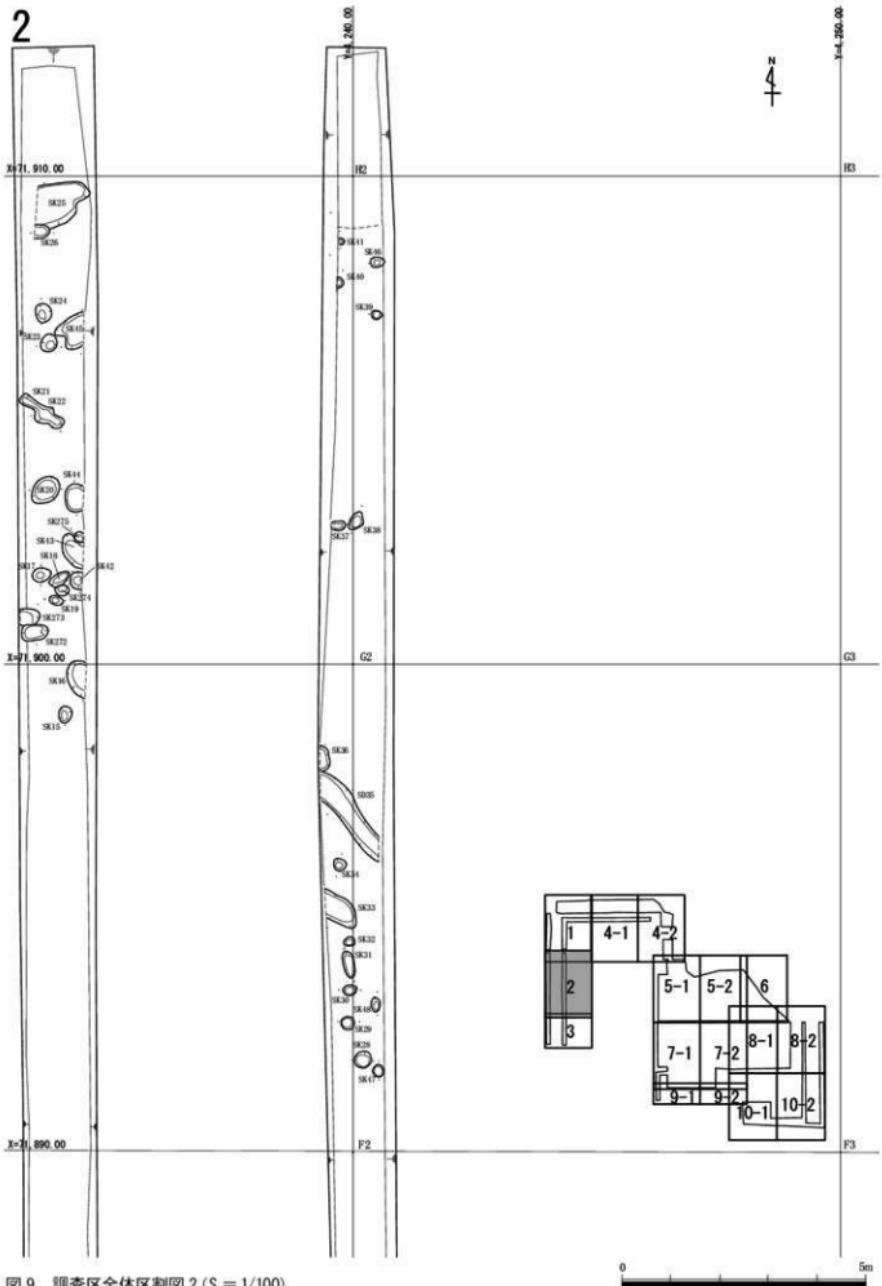


図 9 調査区全体区割図 2 (S = 1/100)

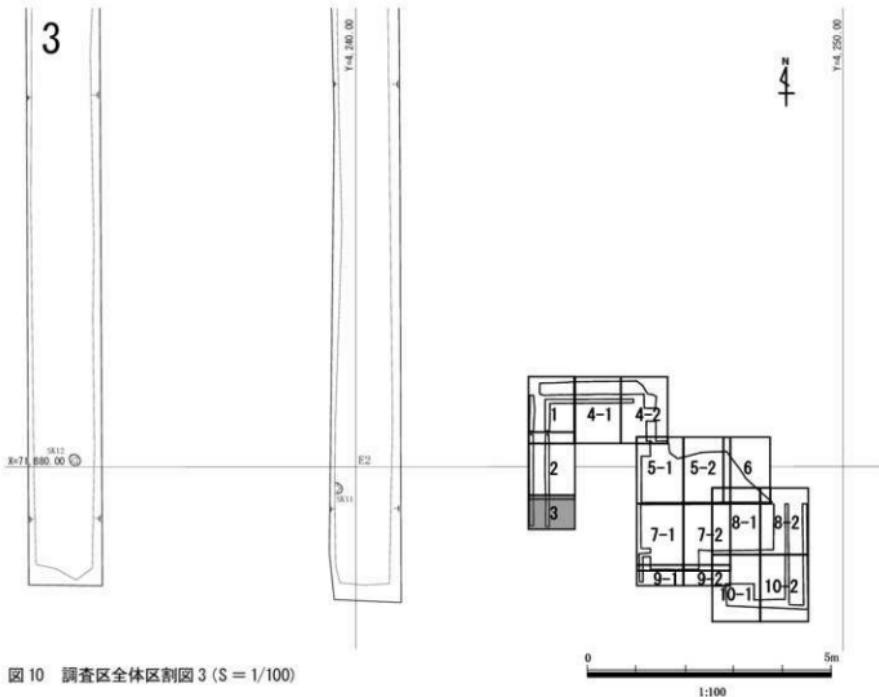


図10 調査区全体区割図3 (S = 1/100)

### (1) 造構

#### SD772 (図19・24、写真図版1)

1区(南)北東端に位置する。南北方向に伸びる溝であり、長さ 2.93 m、幅 0.32 m、深さ 0.12 mを測る。埋土は 10YR4/2 灰黄褐色シルトの単層である。遺物は縄文土器の浅鉢(1)が出土した。口縁端部から外面に沈線を 3 条巡らせ、LR 単節縄文を施す。沈線の間は無文である。口径 21.3 cmを測る。縄文時代晩期の中屋式である。

#### SD777 (図19・24、写真図版1)

1区(南)北東端に位置する。南北方向に伸びる溝であり、長さ 2.8 m、幅 0.35 m、深さ 0.13 mを測る。埋土は 10Y4/2 灰黄褐色シルトの単層である。遺物は縄文土器の浅鉢(2)が出土した。体部外面に沈線を 1 条巡らせ、沈線の上部には LR 単節縄文を施す。縄文時代晩期の中屋式である。

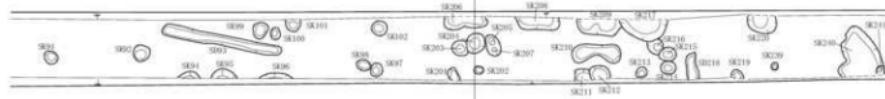
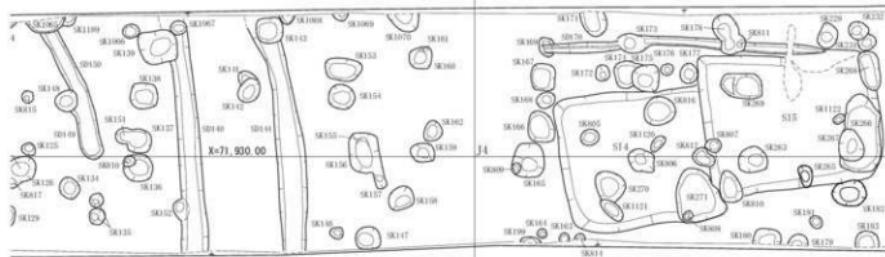
#### SK1110 (図19・24、写真 図版1)

1区(南)北東端に位置する。平面は楕円形であり、長径 0.26 m、短径 0.25 m、深さ 0.40 mを測る。埋土は 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルトを基調としており、縄文土器・炭化種子などを多量に含む。遺物は、縄文土器の土器(3～9)、弥生土器(10)及び土製品(11)、多量の炭化物と炭化種子が出土した。縄文土器は、精製浅鉢(3～6)、粗製深鉢(7・9)、精製深鉢(8)がある。3～6は口唇部に楕円圧痕・列点押圧文を加飾し、体部外面には横方向の条痕を施す。3は口唇部に列点押圧文を、外面には口縁部から体部にかけて単節縄文(LR)と沈線文・列点刺突文を交互に施す。4・5はいずれも体部外面に平行する沈線文と列点刺突文を施す。7・8はいずれも口縁部の形態がくの字を呈する。3～9の時期は

4-1

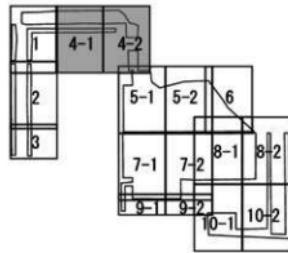
Y=71,926.00

N  
↓



X=71,919.00

Y



X=71,919.00

Y

図 11 調査区全体区割図 4-1 (S = 1/100)



4-2

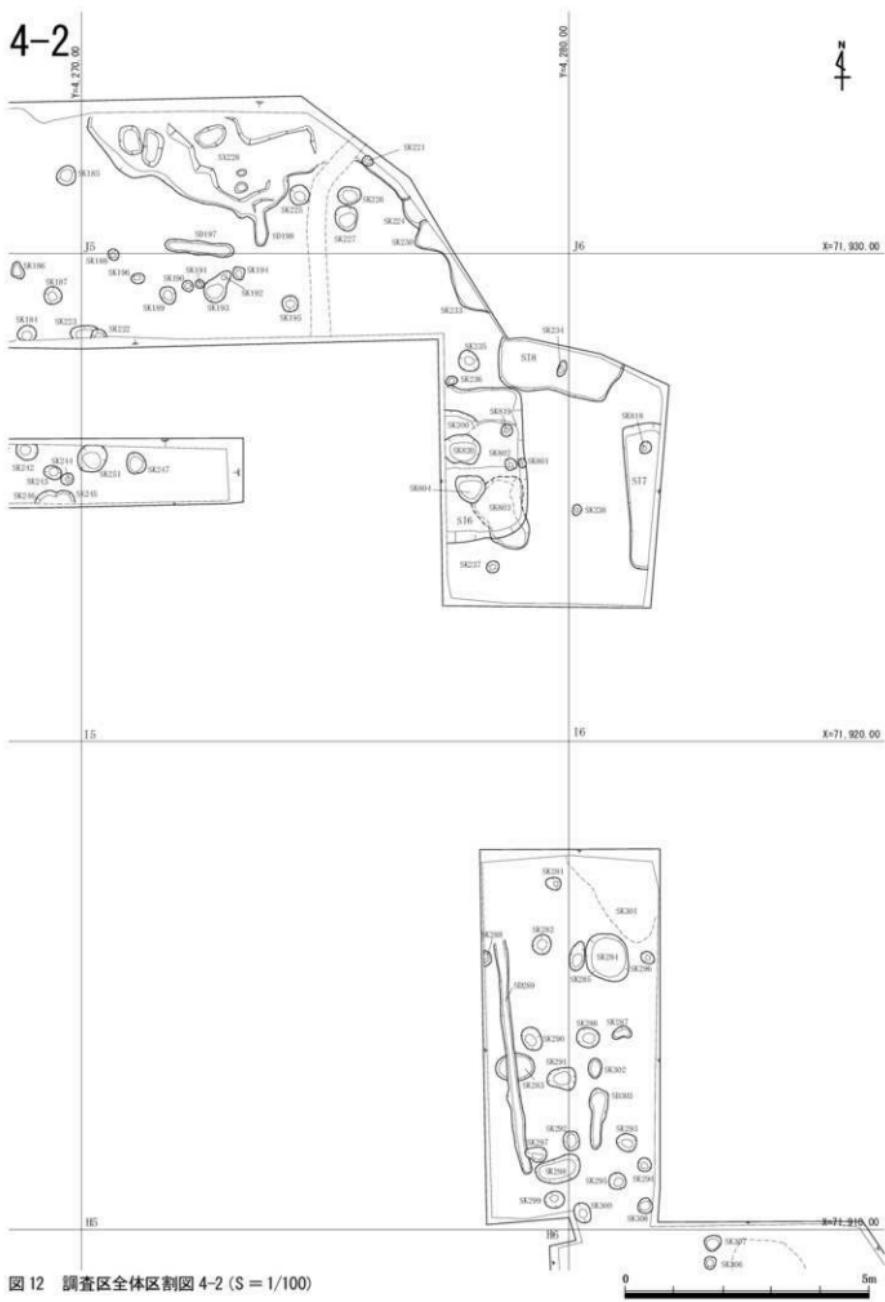


図 12 調査区全体区割図 4-2 (S = 1/100)

5-1

X=71,910.00

Y=4,290.00

N  
†

H7

X=71,900.00

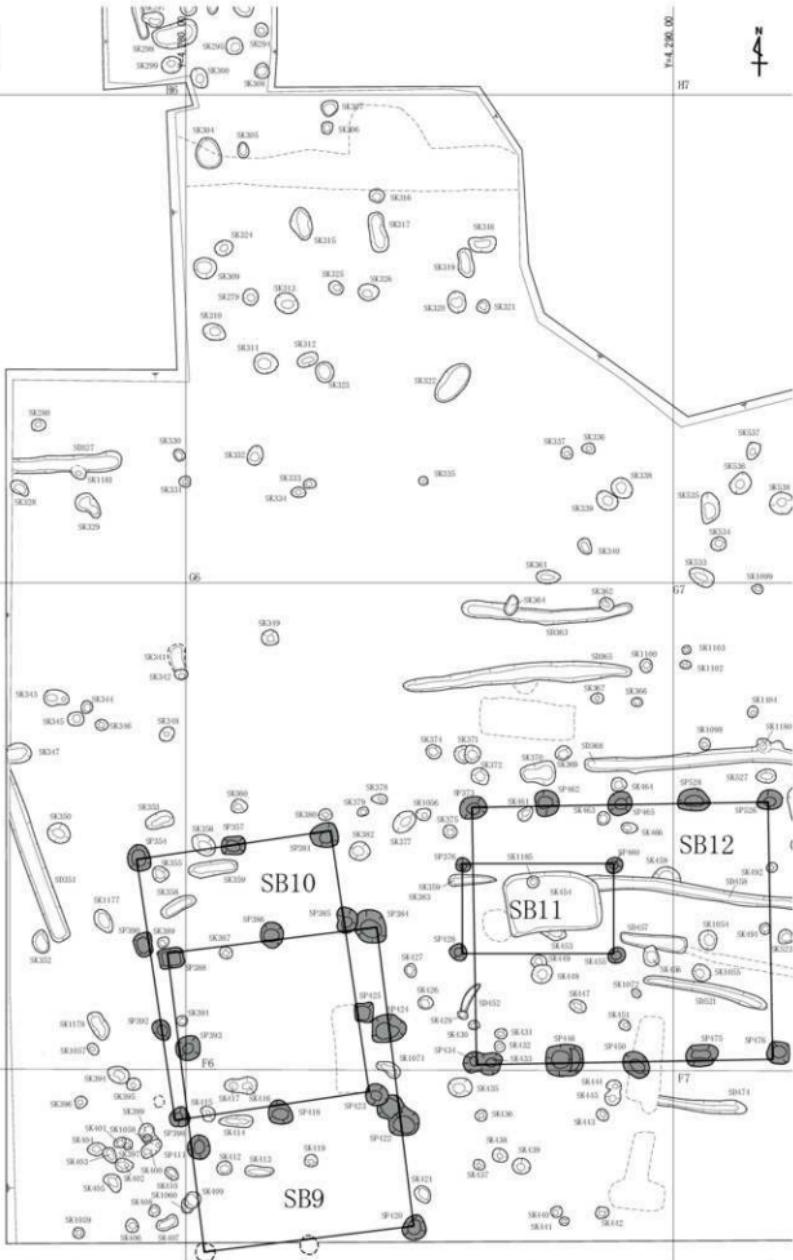
67

X=71,890.00

SB12

SB9

図 13 調査区全体区割図 5-1 (S = 1/100)



## 5-2

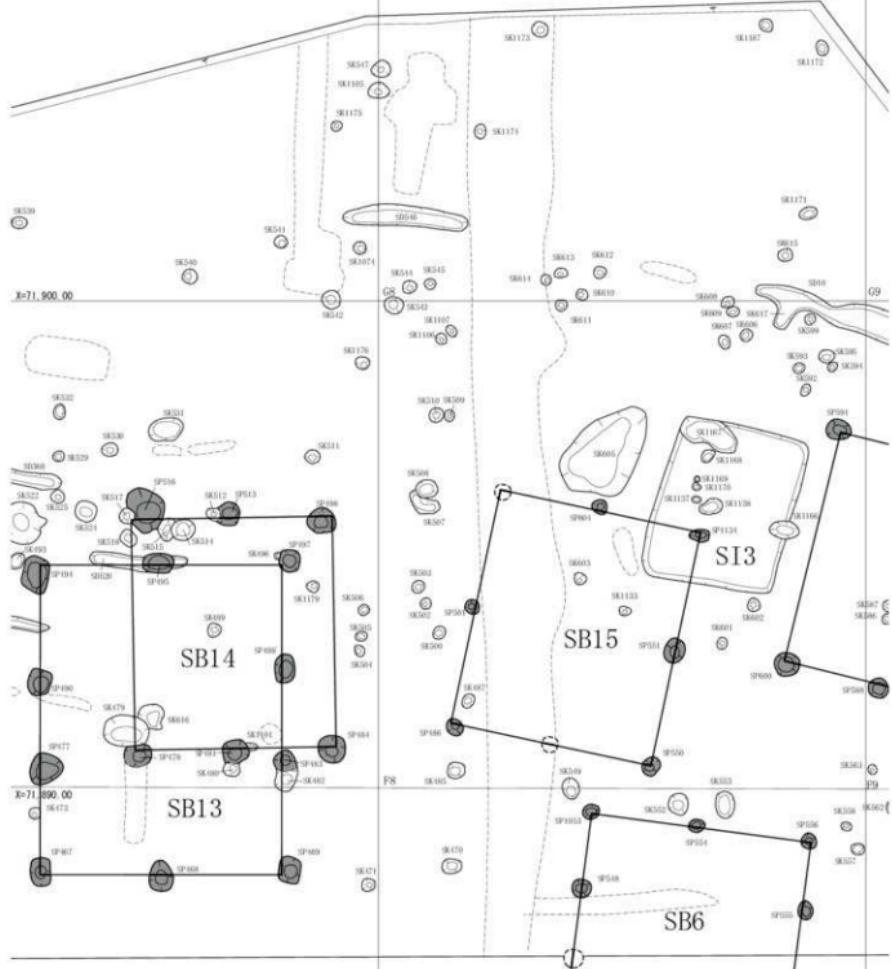
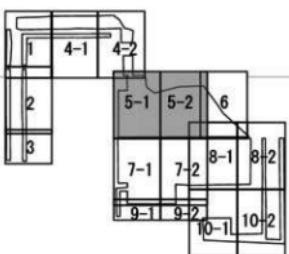
X=71,910.00

Y=4,300.00

HS

Y=4,310.00

HS



0 5m

図14 調査区全体区割図 5-2 (S = 1/100)

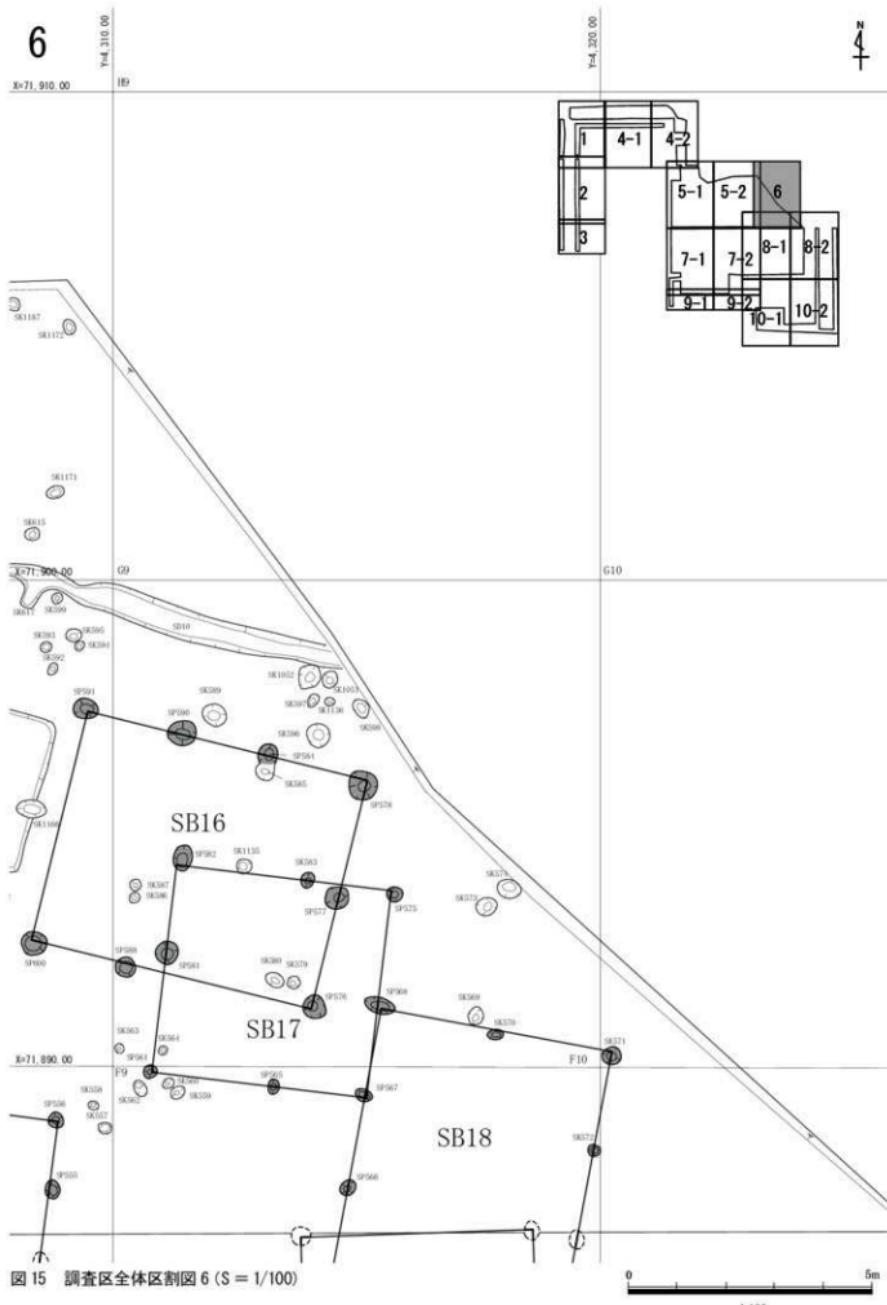


図 15 調査区全体区割図 6 (S = 1/100)

いずれも縄文土器晩期中葉、中葉式土器である。10は弥生時代中期の甕である。小松式土器で、口縁に刻みを施す。掘削時の混入と考えられる。11は土製品である。球状有孔土製品で、紡錘車の可能性がある。径約4cmを測り、外面には2条平行して沈線を施す。中央に穿孔の痕跡が残る。主な遺物の時期は縄文時代晩期中葉で、深鉢の内面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果も、縄文時代晩期（BC915年～BC831年、第4章自然科学分析第2節）で、遺物の時期と整合する。多量に出土した種子は、破片が主で、数百点以上を数え、全て炭化している。数十点無作為に抽出して同定分析を行った結果は、全てオニグルミの炭化核である（第4章自然科学分析第6節）。遺構の時期は縄文時代晩期中葉で、遺構の種類は廃棄土坑と考えられる。

## （2）遺物

縄文時代の遺物として、縄文土器、土製品、打製石斧が出土した。遺物包含層が削平されているため、当該期の遺物のほとんどはSK1110からの出土である。遺物包含層から出土した遺物として、打製石斧があり、いずれも2区の地山直上で出土した。188～190はいずれも打製石斧である。石材は輝石安山岩で、撥形、円刃のものである。

## 2 弥生時代終末期～古墳時代初頭

当該期の遺構の検出および遺物の出土は1区調査区南東に集中する。主要な遺構として、建物SI1、SI2、掘立柱建物SB2、建物周溝と考えられるSD991、大型の廃棄土坑SK1025等がある。遺物は、調査区の大部分の遺物包含層は削平されていることから、遺物包含層出土遺物は少なく、出土遺物の大半が前述の主要遺構に伴うものである。

### （1）遺構

#### ア 壓穴建物

##### SI1（図19・25図、写真図版1・2）

1区（南）東南端・2区北西、グリッドCD10・11に位置する。周溝式の竪穴または平地建物である。外周溝が推定長約12m、建物主体にあたる部分の軸が約6.42mを測る平面が隅丸方形のプランである。外側から中心に向けて、幅の狭い外周溝・周堤・幅広の内周溝・主屋部分となる建物部分で構成される。上部構造は削平されており、周堤部分はほとんど残存していない。また建物主体の大部分が調査区の1区～2区間で、調査区外に位置するため、建物部分のプランの詳細は不明瞭である。床面の高さは外周溝の外側の地山の高さよりやや浅く、調査区内では柱穴・炉跡等はみられない。検出時の規模は、外周溝は幅0.25m、深さ0.15mを、周堤部は幅1.06m、高さ0.1mを、内周溝は幅0.98～1.40m、深さ0.16mを測る。埋土は、外周溝・内周溝ともに2.5Y3/1黒褐色砂質シルトを基調とする。

遺物はくの字口縁甕（12）、有段無文口縁甕（13～15）、有段壺（16）、有段小型壺（17）、台付壺（18）、有段鉢形高杯（19～22）、高杯（23）、有錐蓋（24）のほか、玉韃製白玉（25）が出土したほか、埋土上面から古代の須恵器（26・27）・土師器（28・29）、製塙土器（30）も出土した。弥生土器の形式は月影II式（新）である。16は有段壺で口縁端部に向かって軽く外反する。17の有段口縁は端部に向かつて外反し、下部がやや垂下する。18の胴部は突縁を省略し体部に直接擬回線を施す。19・21の有段部分の下部外面には沈線を1～2条巡らす。16、18～20、24等、赤彩を施したものが多い。周溝・周堤部分の上層埋土から出土したものが多い。

7-1

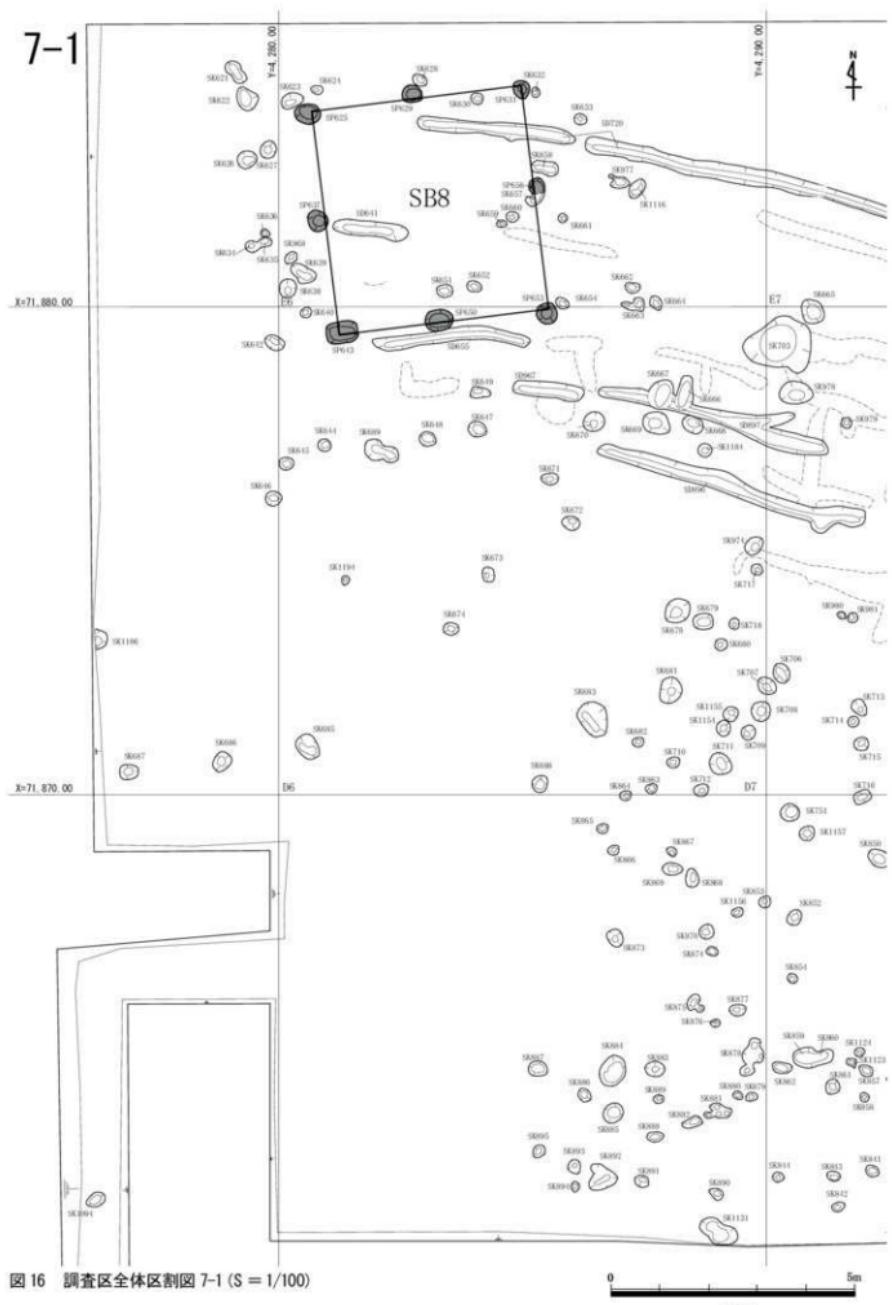


図 16 調査区全体区割図 7-1 (S = 1/100)

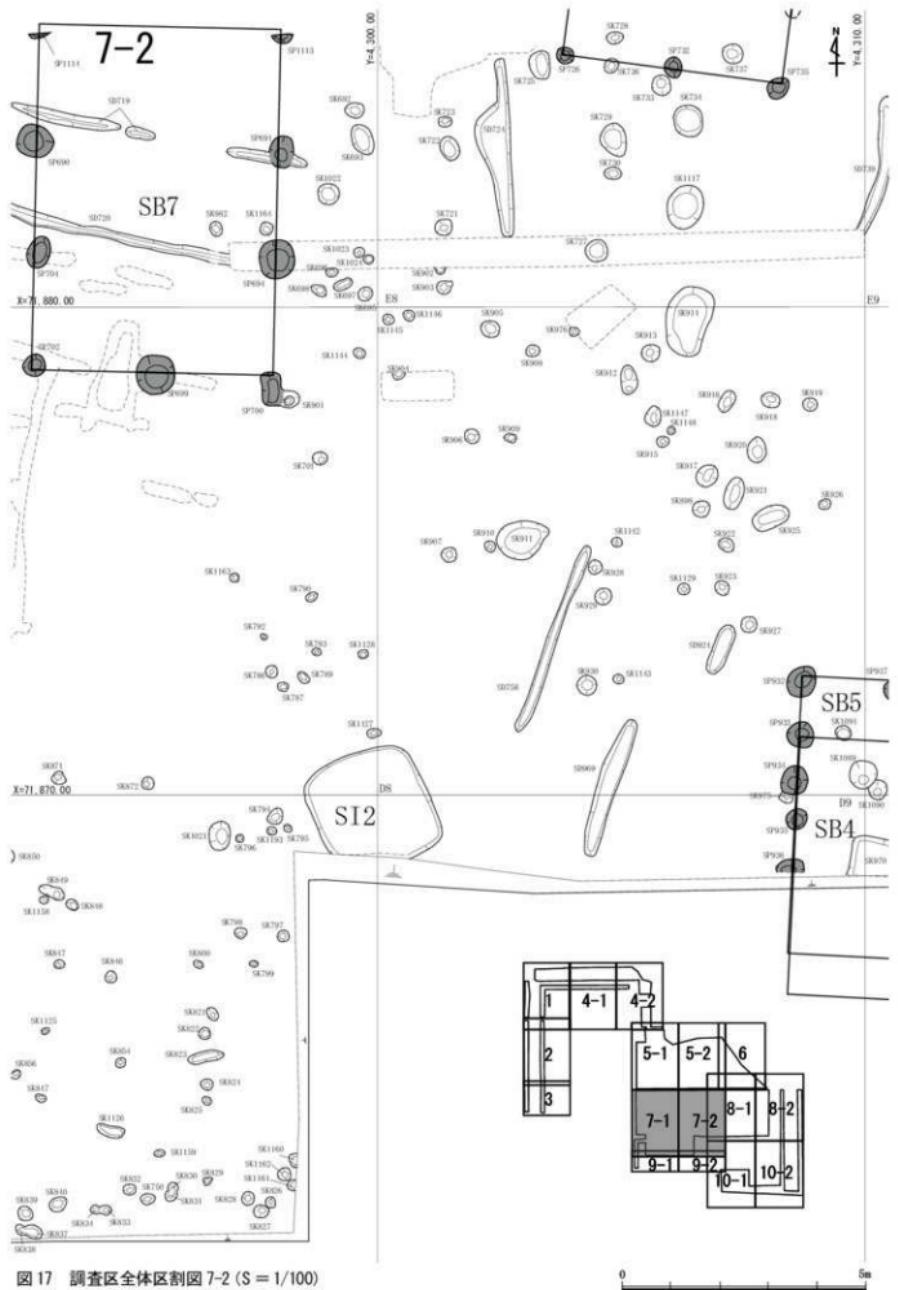


図 17 調査区全体区割図 7-2 (S = 1/100)

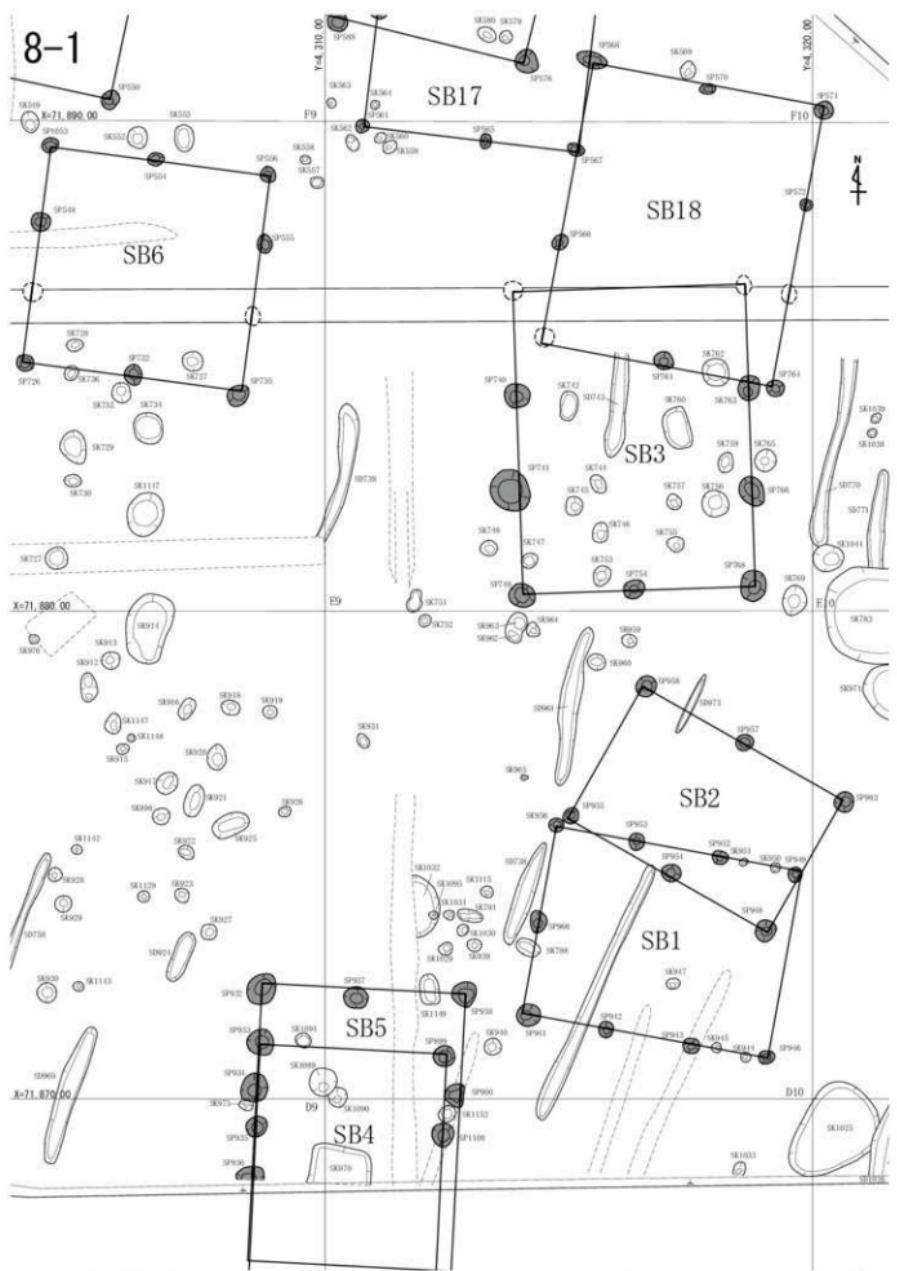


図18 調査区全体区割図 8-1 ( $S = 1/100$ )

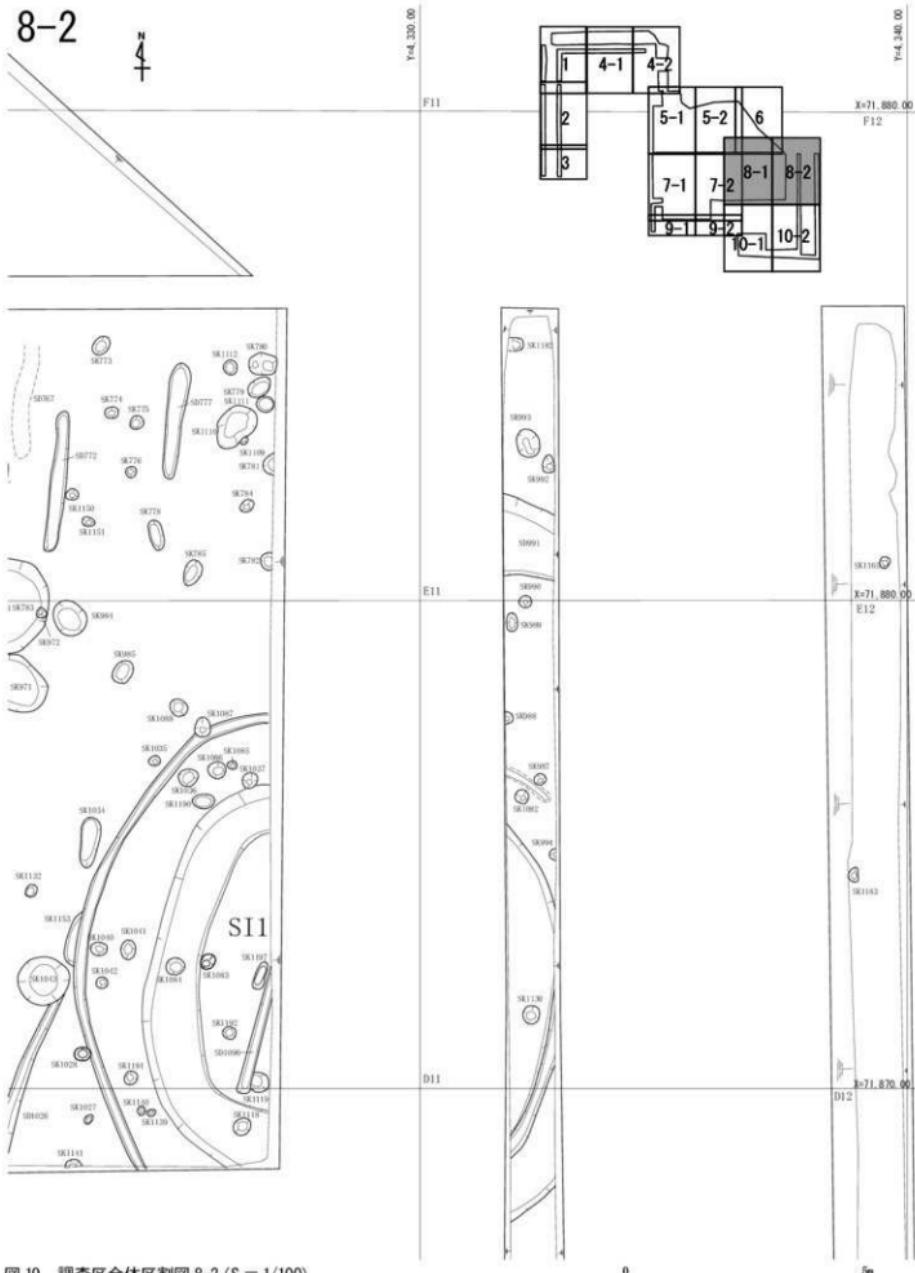


図 19 調査区全体区割図 8-2 ( $S = 1/100$ )

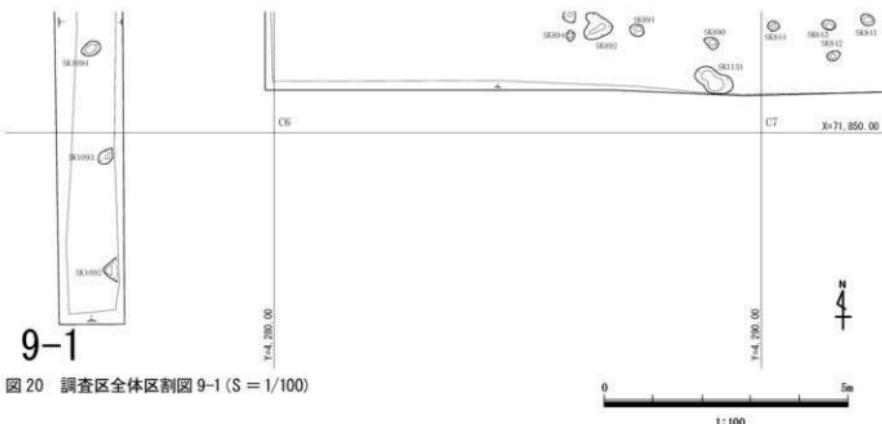


図20 調査区全体区割図 9-1 ( $S = 1/100$ )

#### SI1-SK1130 (図19・25、写真図版2)

2区D11グリッドに位置する。平面は円形で、長径0.42m、短径0.33m、深さ0.31mを測る。埋土は黒褐色粘質土を基調としており、上層部分を中心として全体に約5~10cmの大の礫が多量に混じり、炭化物・焼土を少量含む。SI1に伴うと考えられる。

#### SI2 (図17・27、写真図版3)

1区(南)中央南端、D8グリッド杭周辺に位置する。平面形は輪方向に約2.42mを測る隅丸方形のプランである。南側部分は調査区外に拡がる。構造上部は削平されており、検出面からの掘り込みは0.16mである。埋土はほぼ単層で、2.5Y2/1黒色シルトを基調とする。柱穴・カマドは不明である。東側には床面に掘り込みがあること、直径20cm大の石が遺物とともに出土し、その周辺埋土に炭化物が多く混じること等から、カマドは東側に存在した可能性がある。

遺物は構造の中央と東側に集中して出土した。有段無口縁甕(31~38)、くの字口縁甕(39~41)、有段口縁甕(44)、短細頭甕(45)、台付甕(46)、高杯(47・48)、長頸壺蓋(49)、蓋(50)等がある。31~38の有段口縁外面の擬圓線文がほぼ消失する。44の口縁はやや外傾して伸び、端部はそのまま丸く收める。体部外面に煤が付着する。45は有段口縁の細頭甕で、口縁が外反して立ち上がり、外側に肥厚し、端部は斜め上方に面を取る。46は有段口縁の台付甕で、口縁はやや外反して立ち上がり、下部に突帯を3条巡らす。体部中程に突帯の剥離痕がある。47は盤状高坏で、ほぼ水平に伸びる底部から体部が外反して伸び、端部はそのまま丸く收める。土器の型式は月影II式(新)~白江式である。

#### イ 挖立柱建物

#### SB2 (図18・29、写真4・5)

1区(南)東、D9・10グリッドに位置し、SB1と重なる。梁行1間、桁行2間の東西棟で、梁行長3.04m、桁行長4.76mで床面積は約14.47m<sup>2</sup>である。軸方向はN60°Wである。当該期の竪穴建物SI1の約3m西に位置する。柱根の遺存は認められないものの、SP954、948、955、956、957、983に柱痕跡が残る。柱穴SP955は古代の掘立柱建物SB1-SB956と重複関係にあり、より古い。遺物はSP948から弥生土器小片が出土した。埋土は2.5Y2/1黒色シルトを基調としており、SI1埋土との共通性から、構造の時期は弥生時代終末期~古墳時代前期と考えられる。

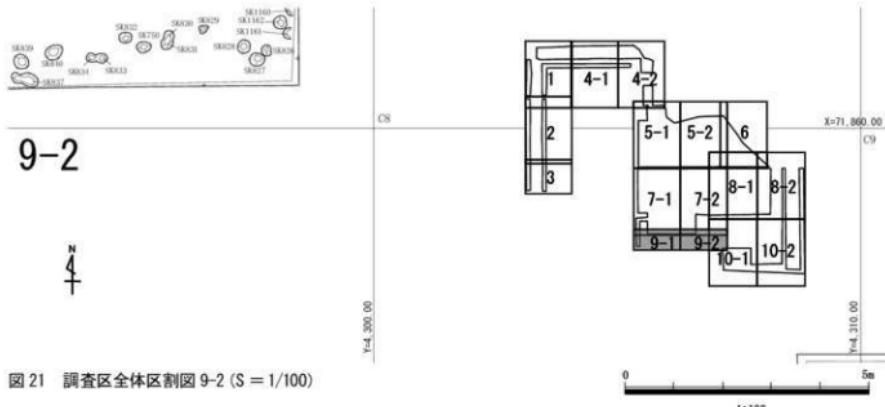


図21 調査区全体区割図 9-2 ( $S = 1/100$ )

#### ウ 溝

##### SD924 (図17・29、写真図版5)

1区(南) 南東、D8 グリッドに位置する。長さ 1.1 m、幅 0.35 m、深さ 0.08 mを測り、南・西側に位置する SD758、SD969と並行して伸びる。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色シルトを基調とした単層である。外面に赤彩を施す高杯の脚部(51)が出土した。遺物の時期は弥生時代終末期と考えられる。

##### SD991 (図19・29、写真図版5)

2区の西側トレンチ北東、E11 グリッドに位置する。幅 1.69 m、深さ 0.21 mを測り、平面形は北側にやや膨らむ弧状を呈する。SI1 と同様、堅穴建物の周溝の可能性がある。埋土はほぼ単層で 10YR1.7/1 黒色シルトを基調とする。遺物は有段擬回線文口縁甕(52)、蓋(53)が構底で出土した。52 は有段口縁でやや外反して伸び、端部は丸く收める。外側には擬回線を 5 条巡らす。口径 16.6 cm を測る。体部中程に径 1.0 cm の焼成後穿孔を施す。53 は弥口径 16.9 cm を測る。内外面赤彩で、端部付近には径 3.5 mm 大の焼成後穿孔を 2ヶ所施す。甕外面に煤が付着していること、口径がほぼ同様であること等から、共伴する甕の蓋として利用された可能性がある。土器の形式は月影II式(古)である。遺構の時期は弥生時代終末期である。

#### エ 土坑

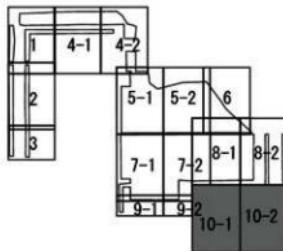
##### SK778 (図19・30、写真図版33)

1区(南) E10 グリッドに位置する。平面は橢円形で、長径 0.61 m、短径 0.33 m、深さ 0.18 mを測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は器台(54)が出土した。外面に赤彩を施す。土器の型式は月影II式(新)である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。

##### SK783 (図18・19・30、写真図版6)

1区(南) DE10 グリッドに位置する。平面は橢円形で、長径 2.12 m、短径 1.85 m、深さ 0.36 mを測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。SK972 と重複関係にある。遺物は蓋(55)が出土した。土器の型式は月影II式(新)である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。

10-1



C9

X=71,860.00

C10

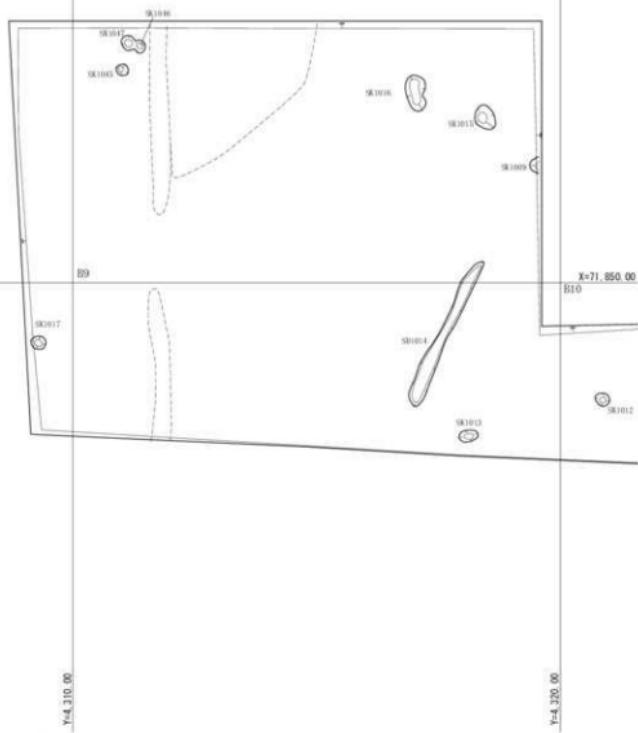


図22 調査区全体区割図 10-1 (S = 1/100)

10-2

4

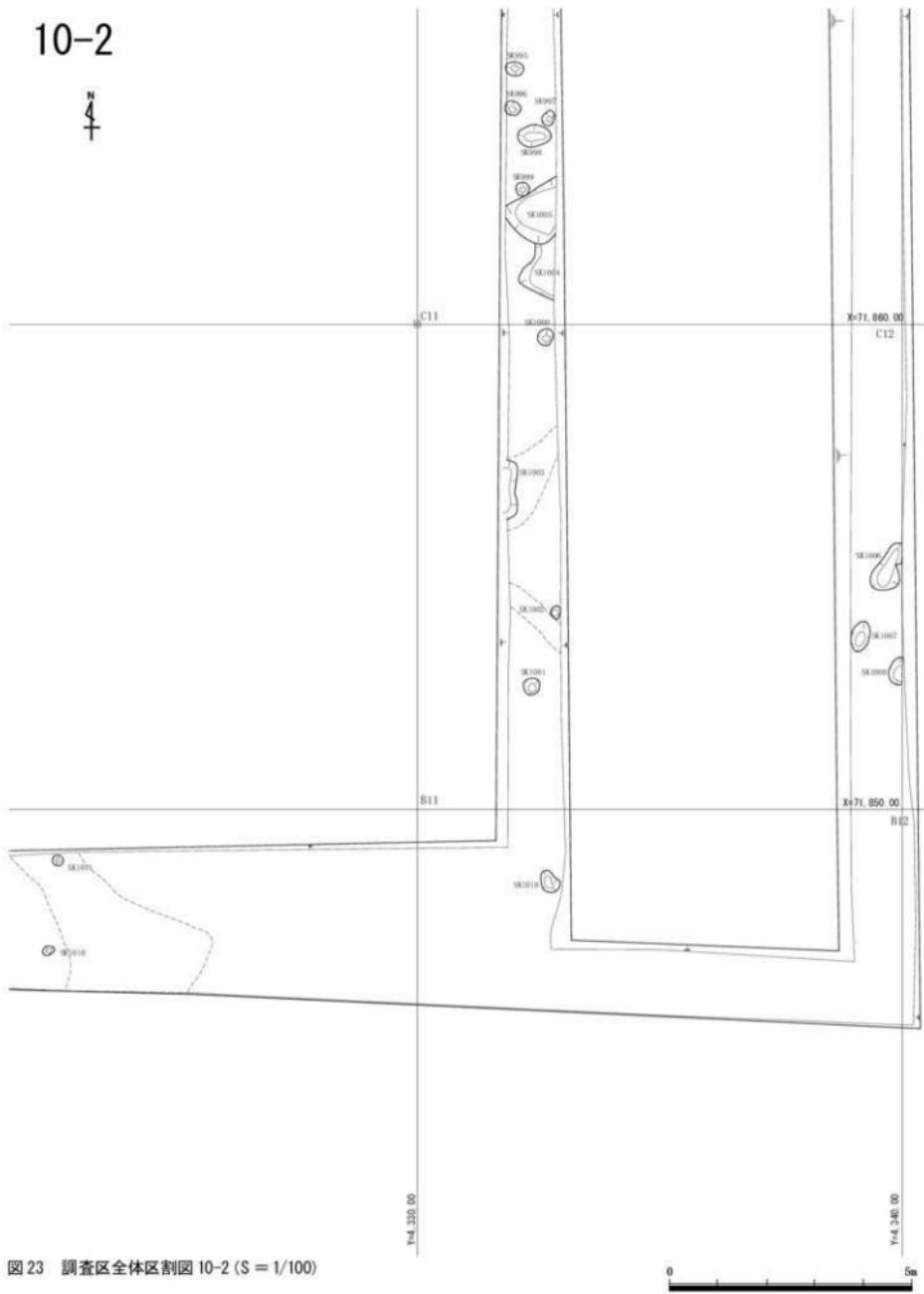


図23 調査区全体区割図 10-2 ( $S = 1/100$ )

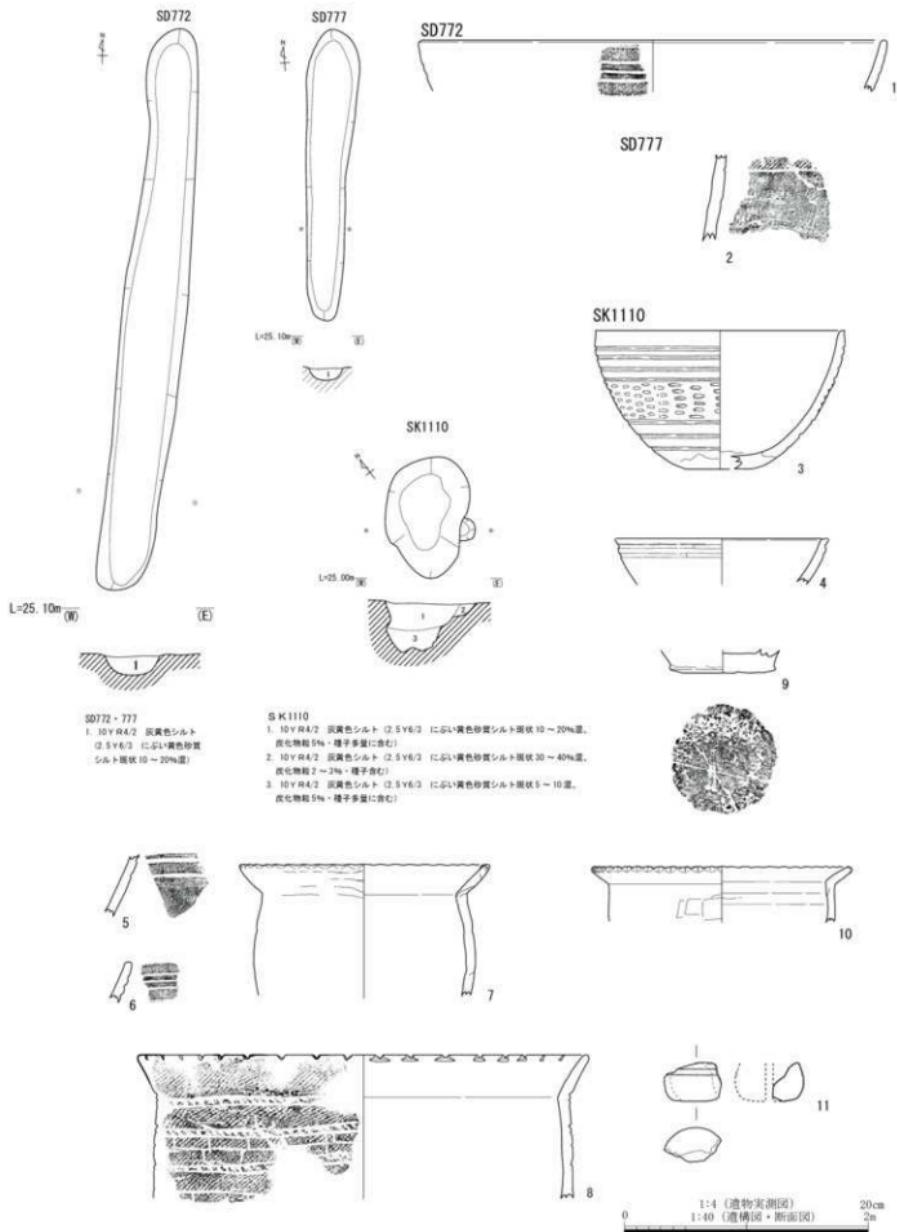


図 24 SD772・SD777・SK1110 遺構図、断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )、8は ( $S=1/4$ )

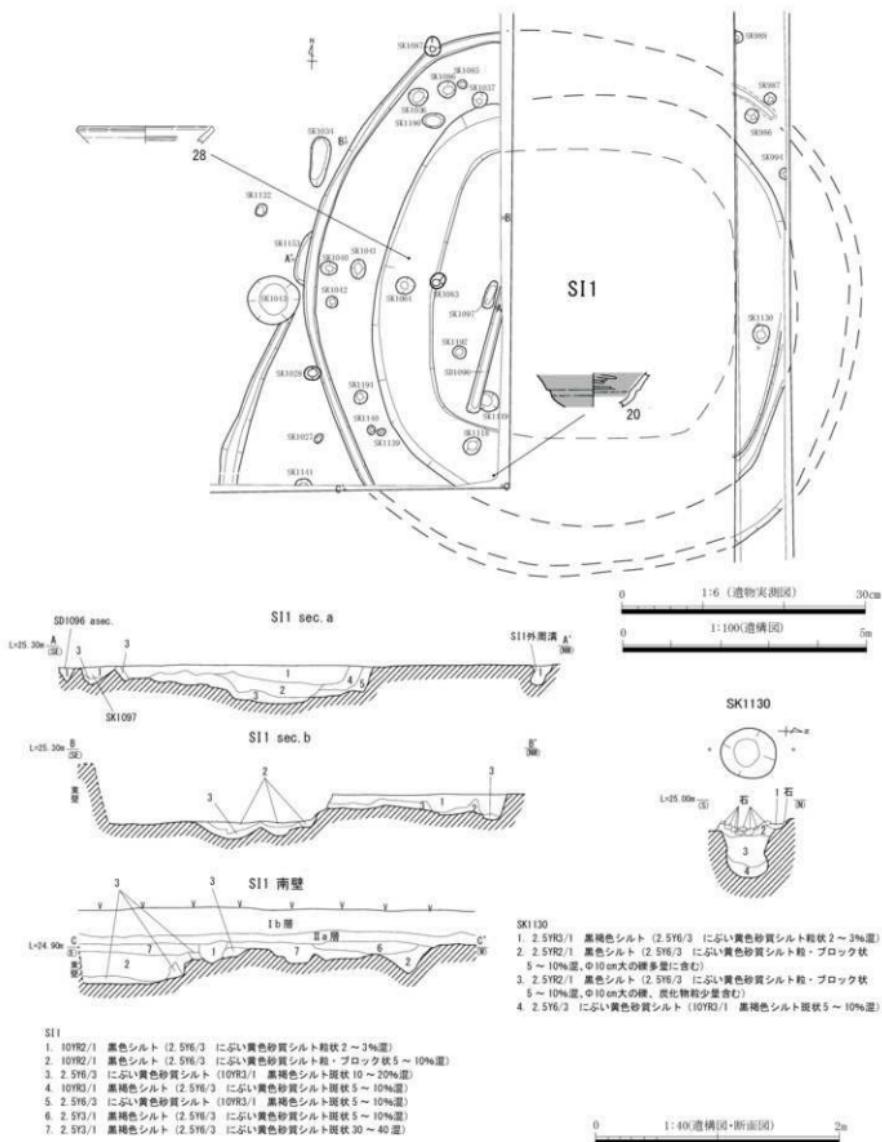
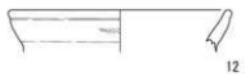
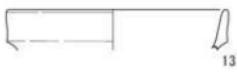


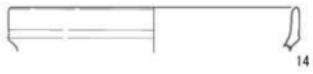
図25 SII 造構図 ( $S = 1/100$ )、SK1130 造構図 ( $S = 1/40$ )、断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )



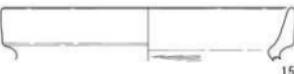
12



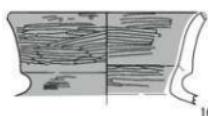
13



14



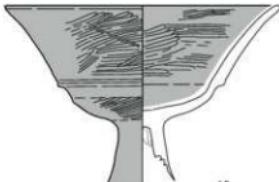
15



16



18



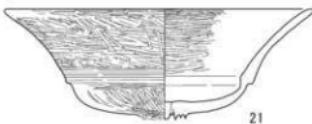
19



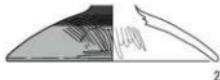
17



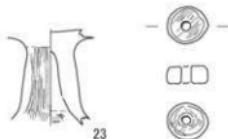
20



21



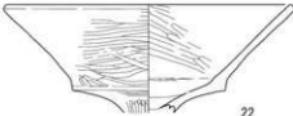
24



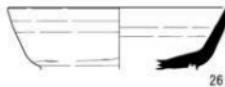
23



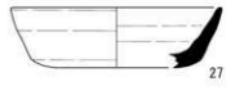
25



22



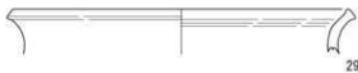
26



27



28



29

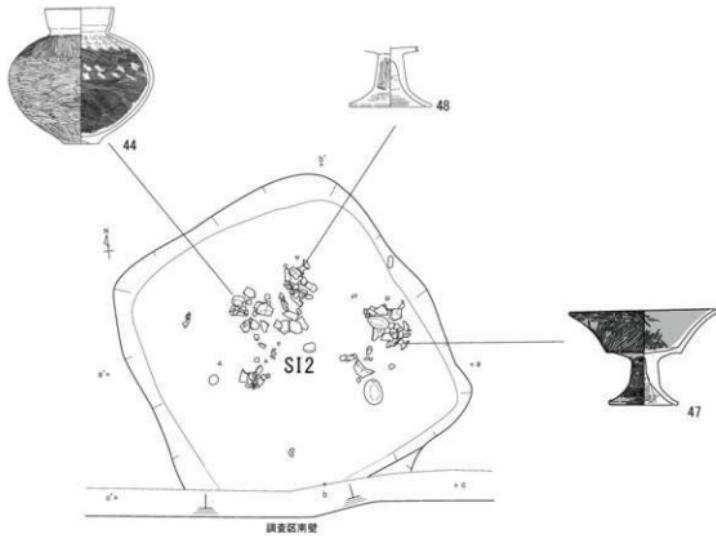


30

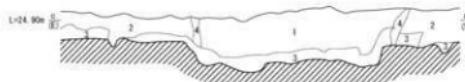
0 1:25 5cm

0 1:3 15cm

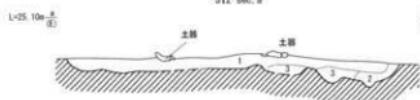
図 26 SI1 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )、25 は ( $S = 1/1$ )



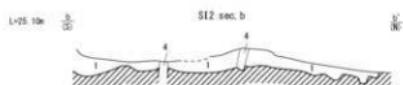
SI2 sec. c



SI2 sec. a



C'



- SI2**
1. 2.512/1 黒色シルト (2.517/2 因黃色砂質シルト混状 2~3%)  
炭化物粒 1~2%含む
  2. 2.512/1 黒色シルト (2.514/1 黄褐色シルト混状 20~30%, 2.517/2 因黃色砂質シルト混状 7~20%)  
炭化物粒 1~2%含む
  3. 2.517/2 反対色砂質シルト (2.514/1 黄褐色シルト混状 10~20%, 2.512/1 黑色シルト混状 20~30%)
  4. 2.514/1 黑色シルト (2.512/1 黑色シルト混状 10~20%, 2.517/2 因黃色砂質シルト混状 2~3%)  
炭化物粒 1~2%含む

図 27 SI2 遺構図、断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

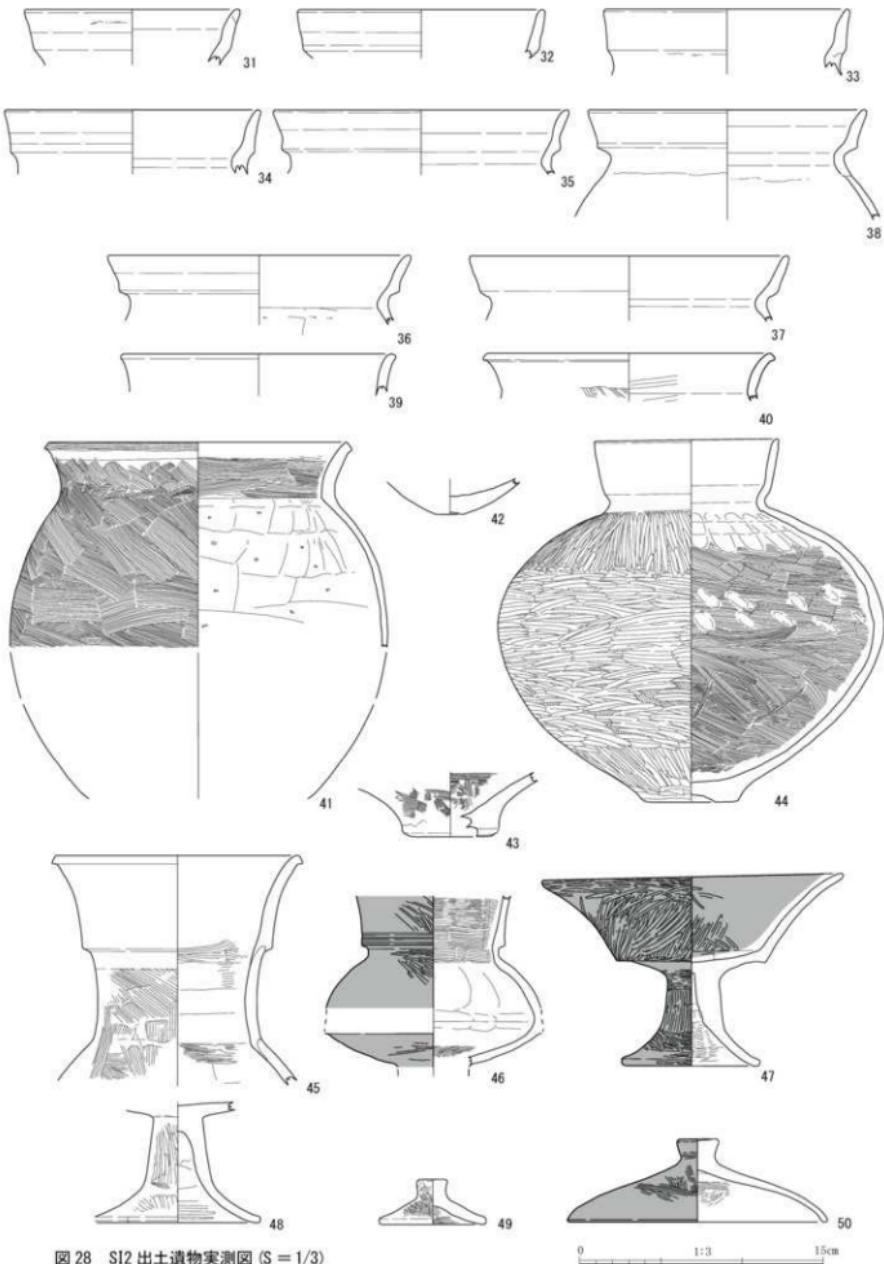
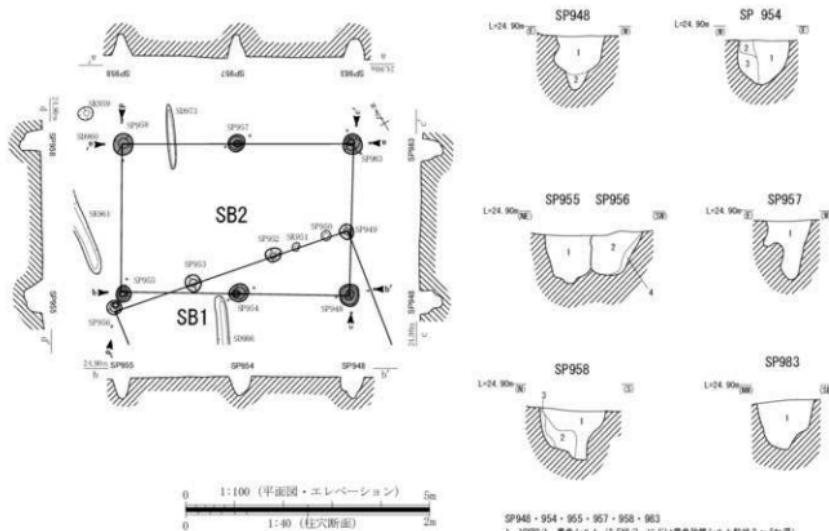
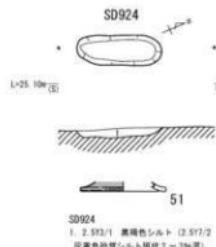


図 28 S12 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )



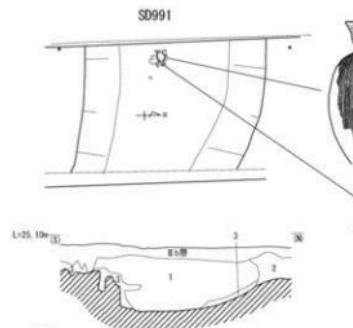
SP948・954・955・957・958・963

1. 1092/1 黒褐色シルト (2.5Y6/2) に於ける黄色砂質シルト層状2~5%混入
2. 5Y7/1 黑褐色シルト (2.5Y6/1) 黄褐色シルト層状20~30%、炭化物粒1~2%含む
3. 5Y7/2 黄褐色砂質シルト (2.5Y6/1) 黄褐色シルト層状10~20%、2.5Y7/1 黑褐色シルト層状20~30%混入
4. 2.5Y6/3 に於ける黄色砂質シルト (1093/1 黑褐色シルト層状10~20%混入)



SD924

1. 2.5Y7/1 黑褐色シルト (2.5Y7/2)  
黄褐色砂質シルト層状2~3%混入



SD991

1. 1091/1 黑褐色シルト (2.5Y7/2) 黄褐色砂質シルト層状2~3%混入。  
炭化物粒1~2%含む

2. 5Y7/1 黑褐色シルト (2.5Y7/2) 黄褐色砂質シルト層状2~3%混入。  
炭化物粒1~2%含む

3. 2.5Y7/2 黄褐色砂質シルト (2.5Y6/1) 黄褐色シルト層状10~20%、2.5Y2/1 黑褐色シルト層状20~30%混入

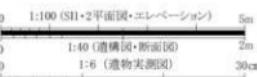


図29 SB1・SB2 遺構図 ( $S = 1/100$ )・断面図 ( $S = 1/40$ )  
SD924・SD991 遺構図・断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

#### SK914（図 18・30、写真図版 34）

1 区（南）DE8 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 1.44 m、短径 0.92 m、深さ 0.26 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は有段口縁壺（56）が出土した。口縁下端がやや膨らむ器種で、山陰の影響が残る。土器の型式は月影 II 式（古）である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。

#### SK1004（図 23、写真図版 6）

2 区西側トレンチ C11 グリッドに位置する。平面は推定隅丸方形で、東側調査区外へ拡がる。長軸 1.15 m、短軸 0.72 m、深さ 0.20 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は盤状高杯（57）と椀状高杯（58）が出土した。土器の型式は月影 II 式（新）である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。SK1005 と重複関係にあり、より古い。

#### SK1006（図 23・31、写真図版 6）

2 区東側トレンチ B11 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 1.05 m、短径 0.92 m、深さ 0.18 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は有段口縁甕（59）と盤状高杯（60）が出土した。59 は弥生土器の小型甕である。有段口縁で、口縁はやや外反して立ち上がり、端部は丸く収める。口径 11.4 cm を測る。弥生時代終末期・月影 II 式である。60 は弥生時代の高杯である。盤状高杯の杯部で、内外面に赤彩を施す。土器の型式は月影 II 式（古）である。遺構の時期は弥生時代終末期である。

#### SK1025（図 18・30、写真図版 6）

1 区（南）南西端、C9・CD10 グリッドに位置し、南側調査区外に拡がる。規模は幅 1.60 m、調査区内での最大長 1.96 m、深さ 0.76 m を測る大型土坑である。埋土は黒色シルトを基調とし、基本的にレンズ状に堆積するが、上部西側には新しい掘り込みが確認できる。下部埋土には炭化物と焼土が多く含まれる。遺物は有段無文口縁甕（61～64）、平縁甕（65～67）、有段口縁壺（68）、高杯（69・70）、有鉢蓋（71・72）等が出土した。62 の口縁部下端は肥厚し、72 の外面には二次被熱痕がみられる。土器の型式は月影 II 式（新）である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。

#### SK1028（図 19・30・32、写真図版 7）

1 区（南）D10 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.40 m、短径 0.35 m、深さ 0.12 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は有段口縁甕（73）が出土した。土器の形式は月影 II 式（新）であり、遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。SI1 外周溝と重複し、より新しい。

#### SK1040（図 19・30、写真図版 7）

1 区（南）D10 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.35 m、短径 0.25 m、深さ 0.13 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は有段口縁甕（74）が出土した。土器の形式は月影 II 式（新）である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。SI1 周堤部分と重複し、より新しい。

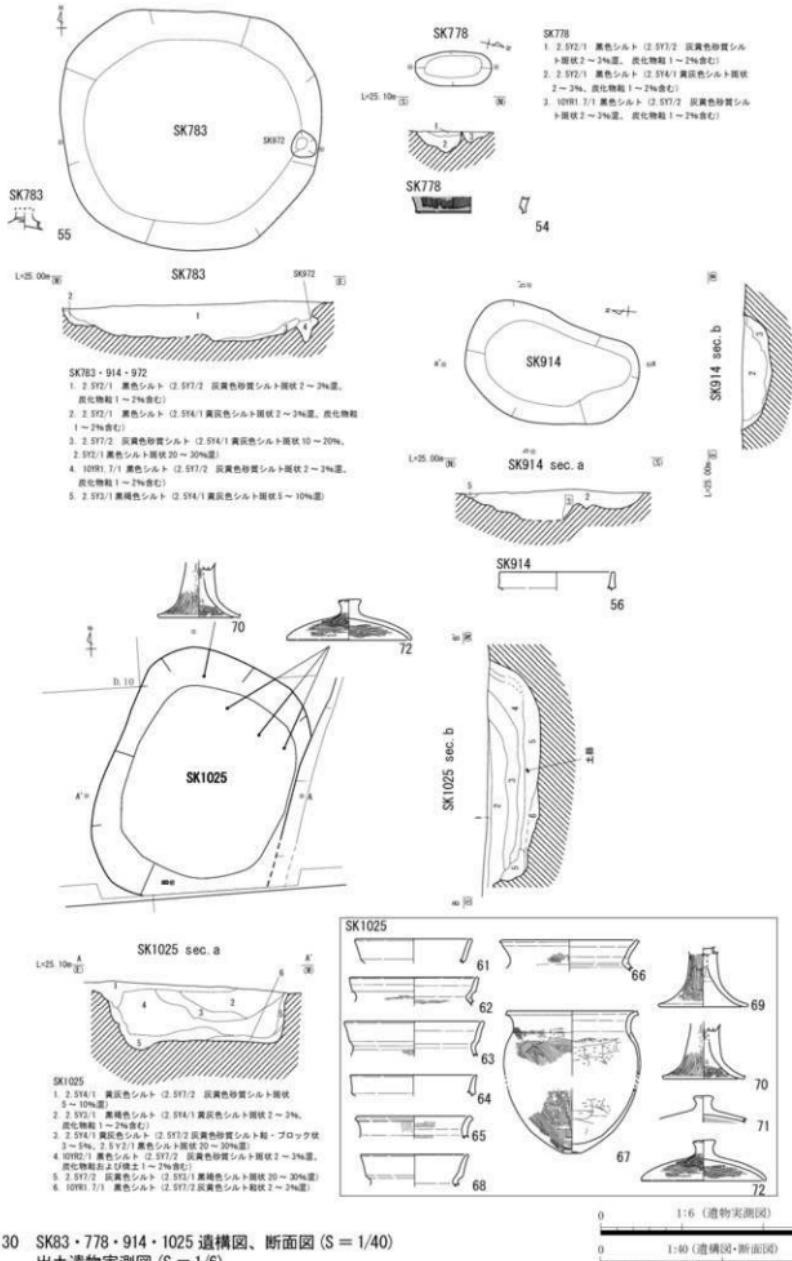
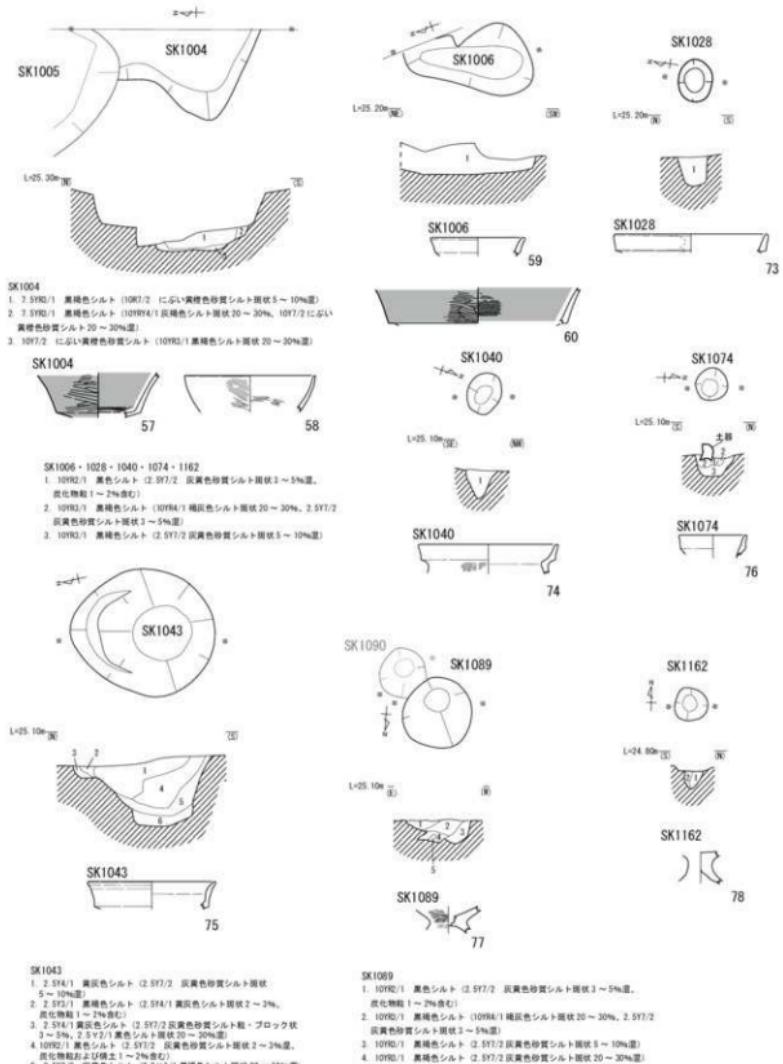


図 30 SK83・778・914・1025 遺構図、断面図 (S = 1/40)  
出土遺物実測図 (S = 1/6)



0 1:6 (遺物実測図) 30cm 0 1:40 (構造図・断面図) 2m

図 31 SK1004 · 1006 · 1028 · 1040 · 1043 · 1074 · 1089 · 1162 遺構図、断面図 (S = 1/40)  
出土遺物実測図 (S = 1/6)

#### SK1043（図 19・31、写真図版 7）

1 区（南）D10 グリッドに位置する。平面は円形で、径 1.03 m、深さ 0.29 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は有段口縁甕（75）が出土した。土器の形式は月影 II 式（新）であり、遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代前期である。SD1026 と重複し、より新しい。

#### SK1074（図 14・31、写真図版 35）

1 区（南）G7 グリッドに位置する。平面は円形で、径 0.25 m、深さ 0.12 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は有段口縁甕（76）が出土した。土器の形式は月影 II 式（新）であり、遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代前期である。SD1026 と重複し、より新しい。

#### SK1089（図 17・31、写真図版 7）

1 区（南）D8・9 グリッドに位置する。平面は円形で、径 0.55 m、深さ 0.20 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は高杯（77）が出土した。土器の形式は月影 II 式期である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。

#### SK1162（図 17・21・31、写真図版 7）

1 区（南）G8 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.55 m、短径 0.20 m、深さ 0.16 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は高杯（78）が出土した。土器の形式は月影 II 式である。遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭である。

#### （2）遺物（図 54・55）

当該期の遺物は遺構出土遺物が大半を占める。遺構以外の出土遺物は 141～158 で、器種は高杯や蓋等である。そのうち多く（141・143～145・149・150・154・156・158）が D7 グリッド付近の遺物包含層から出土し、その他の遺物は落ち込みや耕作土等からの出土である。遺物の時代のわかるものは、弥生時代終末期から古墳時代初頭を中心としており、遺構出土遺物と同時期である。

141～149 は鉢か壺甕である。142 は無頬の鉢で、口縁部に 2 点並べて穿孔を施す。143 は擬回線有段口縁壺である。144～146 は有段口縁の甕で、145 は端部に向かって立ち上がり、144 はやや外傾、146 は大きく外傾する。151 は細頬壺または台付壺の口縁である。

### 3 古代

今回調査区の遺構・遺物の主体をなす時期であり、調査区全域に遺構が広がる。検出した古代の遺構の総数は約 1,100 以上で、掘立柱建物 17 棟、竪穴建物 5 棟のほか、溝、土坑などが確認できた。また今回調査区の約 100 m 北で行われた 1998 年調査で、掘立柱建物 1 棟、竪穴建物 1 棟が検出されている。本調査では、竪穴建物を主体とするグループのほか、掘立柱建物の主軸方向が主に 3 方向に集約できることから、4 期の変遷と考えられる。古代の遺物は主に 8 世紀後半～9 世紀前半の土師器、須恵器であり、9 世紀後半以降の古代の遺物がほぼ出土していないことから、集落の時期は約 100 年の間におさまり、その変遷は比較的の短期間に行われたと考えられる。遺物は、おもに 1 区（南）南西、D7 グリッドを中心に半径約 5～7 m を範囲に残っていた遺物包含層（II 層）、および竪穴建物や土坑等の遺構から出土した。

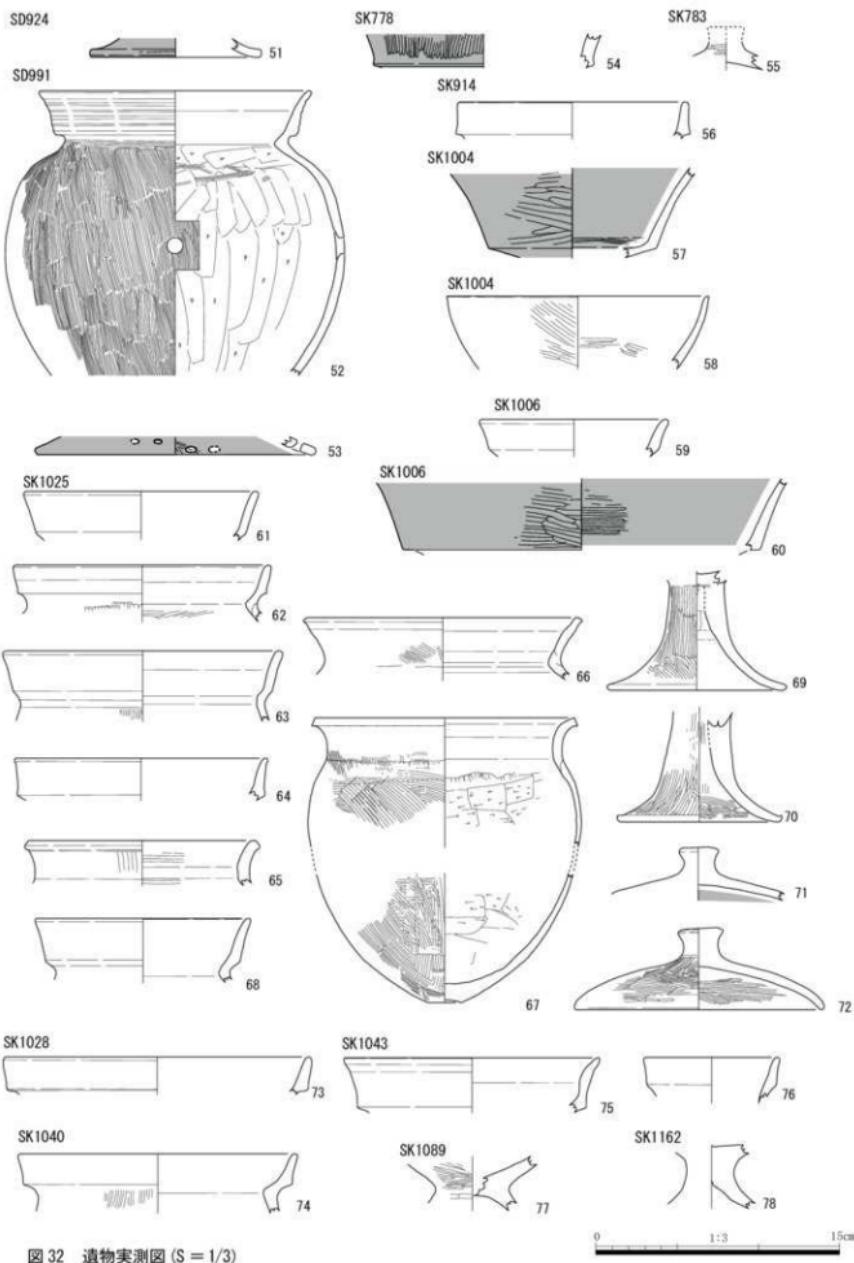


図 32 遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

### (1) 遺構

#### ア 堅穴建物

##### SI3 (図 14・33、写真図版 8)

1 区(北)東、F8 グリッドに位置する。平面のプランは方形で長軸 3.38 m、短軸 2.76 m、床面積 9.33 m<sup>2</sup>を測る。主軸方向は N-12.2° -E である。床面直上まで削平されていることから確認できた掘り込みは浅く、壁面の立ち上がりは不明である。埋土はほぼ単層で、2.5Y2/1 黒色シルトを基調とし、炭化物粒を含む。東側の埋土には焼土と炭化物が多量に含まれており、カマドを付設していたと考えられる。床面は平坦で固くしまる。また遺構に伴う明確な柱穴は確認できなかった。遺物は床面直上で土師器、須恵器杯 A (79・80)・甕 (81) が出土している。79・80 はいずれも二次被熱を受け、外側全体に煤が付着する。31 は須恵器甕である。遺物の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半、同遺構から採取した炭化物の放射性炭素年代測定の結果は AD788～825 年であることから、建物の時期も同様である。

##### SI4 (図 11・34、写真図版 8・9)

3 区北東、IJ4 グリッドに位置する。平面のプランは方形で長軸 3.34 m、短軸 2.86 m、床面積 9.55 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-9° -W である。埋土は 2.5Y2/1 黒色シルトを基調とし、炭化物粒が斑状に混じる。床面は平坦で、2.5Y3/1 黒褐色シルトと 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルトの混土が固くしまる。SK270、271、805～809、812、816、1120、1121、SI5 と重複関係にあり、SI5 より古い。SK270、271、806 は SI4 に伴う遺構と考えられる。明確な柱穴は確認できなかった。埋土掘り下げ後に南東で検出した SK271 は付設していたカマド跡と考えられるもので、その中央には土師器鍋、甕等が敷き詰められた状態にあり、土器の上下には多量の焼土・炭化物が混じる黒色土が堆積していた。遺物は床面直上で土師器、須恵器 (82)・甕 (83) 等が出土している。82 は須恵器杯 B である。83 は土師器甕である。体部がやや内傾気味に立ち上がり、口縁は外傾し、端部を上方へ摘み上げる。焼成後に端部は全体に打ち欠いており、小波状を呈する。遺物の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。SI4-SK271 から採取した炭化物の放射性炭素年代測定の結果は 7～8 世紀 (655～689 年: 57.29%、742～773 年: 36.91%) で、遺物の時期も併せ、遺構の時期は 8 世紀後半である。

##### SI4-SK270 (図 11・34、写真図版 9)

SI4 内南西に位置する。SI4 を掘り下げた段階で検出した。平面のプランは楕円形で、長径 0.66 m、短径 0.59 m、深さ 0.21 cm を測る。埋土は黒色シルトを基調とする。遺物は須恵器の杯 (84・85) が出土した。

##### SI4-SK271 (図 11・34・35、写真図版 9)

SI4 内の南東端に位置する。SI4 埋土を掘り下げた段階で検出した。平面のプランは楕円形で、長径 1.12 m、短径 0.93 m、深さ 0.12 cm を測る。埋土は黒色シルトを基調とし、焼土ブロック・炭化物を多量に含む。遺物は土師器甕 (86)・鍋 (87) が出土しており、土師器鍋は底部外面を上方に向か水平にし、敷いたような状態であった。SI4 の中で、焼土ブロック・炭化物が偏在しており、カマドの痕跡である可能性が高い。86 は長胴甕で口縁は強く外傾し端部は丸くおさめる。口径 27.0 cm を測るもの。87 は鍋で、接合の結果、完形となり、口径 33.8 cm、底径 12.1 cm、器高 17.6 cm を測る。底部は平底、口縁は外傾し、端部は外側に肥厚して、外側斜め上方に面を取る。遺物の時期は 8 世紀後半である。

#### SI4-SK806 (図 11・34、写真図版 9)

SI4 内ほぼ中央に位置する。SI4 埋土を掘り下げた段階で検出した。平面のプランは楕円形で、長径 0.65 m、短径 0.45 m、深さ 0.23 cm を測る。埋土は SI4 上層埋土と同様で、黒色シルトを基調とする。遺物は須恵器壺蓋 (88)・杯 (89) が出土している。

#### SI5 (図 11・34、写真図版 8・10)

3 区北東、IJ4 グリッドに位置する。平面形のプランは方形で長軸 3.6 m、短軸 2.86 m、床面積 10.23 m<sup>2</sup> を測る。軸方向は N-7° -W である。埋土は黒色シルトを基調とし、床面には黒色シルトと灰黄色砂質シルトの混土で固くしまる。SK263、265、266、267、268、269、809、812、1122、SI4 と重複関係にあり、SI4 より新しい。東南部に位置する SK266 は焼土、炭化物を埋土中に多量に含んでおり、SI5 に付設されたカマドの痕跡の可能性がある。柱穴はみられない。遺物は土師器壺 (90) 等が出土した。長胴甕で、口縁端部は外側斜め上方に面を取る。遺物の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半であり、SI4 との重複関係から、建物の時期は 8 世紀後半と考えられる。

#### SI5-SK266 (図 11・34)

SI5 内の南東端に位置する。平面のプランは楕円形で、長径 1.61 m、短径 0.83 m、深さ 0.16 cm を測る。埋土は黒色シルトを基調とし、焼土ブロック・炭化物を多量に含む。SI5 の埋土を掘り下げた段階で検出しておらず、カマドの痕跡であると考えられる。遺物は土師器壺 (91) が出土している。口縁は強く外側に屈曲し、端部を上方につまみ上げ、外側にほぼ垂直に面を取る。体部外面はカキメ調整で、赤彩を施す。遺物の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SI6 (図 12・36、写真図版 8・10)

3 区北東、I5・6 グリッドに位置する。平面形のプランは方形で、西側は調査区外へ延びる。南北軸は 3.24 m、東西軸は調査区内で 2.36 m、床面積 7.45 m<sup>2</sup> を測る。軸方向は N-6° -W である。埋土は全体に黒色シルトを基調とする。SK200、801～804、819、820 と重複関係にあり、SK801 以外は竪穴建物に伴う遺構のと考えられる。東南部に位置する SK803 の埋土には固くしまった焼土層があり、炭化物が多量に混じることから、付設されたカマドの痕跡と認められる。同遺構から採取した炭化物の放射性炭素年代測定の結果 (657 ~ 690 年 : 50.44%、741 ~ 773 年 : 42.06%) と併せ、建物の時期は 8 世紀半ば～後半と考える。また SK802・819 は柱穴の可能性がある。遺物は須恵器杯・杯 B (92) が出土した。遺物の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SI6-SK803 (図 12・36、写真図版 10)

SI6 内の南東端に位置する。SI6 埋土を掘り下げた段階で検出した。平面のプランは不整形で、長径 1.53 m、短径 0.92 m、深さ 0.07 cm を測る。埋土は黒色シルトを基調とし、焼土ブロック・炭化物を多量に含む。遺物は土師器壺が出土した。SI6 の中で、焼土ブロック・炭化物が偏在する南東に位置していることから、カマドの痕跡と考えられる。

#### SI7 (図 12・36、写真図版 8・10)

3 区北東、I5・6 グリッドに位置する。平面形のプランは方形で、東側は調査区外へ延びる。南北軸は 3.0 m、東西軸は調査区内で 0.8 m、床面積 2.4 m<sup>2</sup> を測る。軸方向は N-6° -W である。竪穴建

物の上部構造のほとんどが削平されている。遺構埋土は、固く締まった黒色シルトと黄灰色砂質シルトの混土で、全体に薄く広がる。建物の東半が東側調査区外に拡がること、今回の調査で検出した周辺の竪穴建物のカマドの痕跡が全て建物の東側に位置していることから、当建物のカマドも東側調査区外に付設されていた可能性がある。柱穴はみられない。SK818と重複関係にある。約2m西側にあるSI6と平行関係にあり、同時期の建物の可能性があり、その場合の時期は8世紀半ば～後半である。遺物は須恵器杯A(93)が出土した。遺物の時期は8世紀後半～9世紀前半である。

#### SB1 (図12、写真図版8)

3区北東、15・6グリッドに位置する。平面形のプランは方形で、北側は調査区外へ延びる。東西軸は2.6m、南北軸は調査区内で1.05m、床面積2.73m<sup>2</sup>を測る。軸方向はN-10°-Eである。竪穴建物の上部構造のほとんどが削平されており、掘り込みは浅い痕跡のみ残る。柱穴・カマドはみられず、遺物も出土していない。SK234と重複関係にあり、より古い。SI6と南西端が隣接する。同時期の建物の可能性があり、その場合の時期は8世紀半ば～後半である。

#### イ 堀立柱建物

##### SB1 (図18・29・37、写真図版11)

1区(南)南東、D9グリッドに位置し、SB2と重なる。桁行3間、梁行2間の東西棟の側柱建物で、規模は桁行長5.00m、梁行長4.00m、床面積約20.00m<sup>2</sup>を測る。軸方向はN-81°-Wである。柱根は遺存していない。柱穴SP956は弥生時代の堀立柱建物SB2-SP955と重複関係にあり、より新しい。埋土は2.5Y2/1黒色砂質シルトを基調とする。遺物はSP948・953から土師器が出土した。遺構の時期は8世紀後半～9世紀前半である。

##### SB3 (図18・37、写真図版12・13)

1区(南)北東、E9グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間と考えられる南北棟の側柱建物である。北側は現代用水に削平される。規模は桁行長6.25m、梁行長4.80m、床面積推定約30.00m<sup>2</sup>を測る。軸方向はN-2°-Wである。柱根は遺存していない。埋土は2.5Y2/1黒色砂質シルトを基調とする。遺物はSP741から弥生土器甕(94・95)、SP763から土師器椀(96)が出土した。遺構の時期は8世紀後半～9世紀前半である。

##### SB4 (図18・22・38、写真図版13・14)

1区(南)南、CD8・9グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間と考えられる南北棟で、南側調査区外に拡がる。調査区内の桁行長2.80m(推定長6.00m)、梁行長3.80m、床面積10.64m<sup>2</sup>(推定床面積約22.80m<sup>2</sup>)を測る。軸方向はN-3°-Eである。柱根は遺存していない。埋土は2.5Y2/1黒色砂質シルトを基調とする。SK970は堀立柱建物に付設された遺構と考えられる。遺物は出土していない。遺構の時期は8世紀後半～9世紀前半である。同一軸方向のSB5と重複関係にあることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

##### SB5 (図18・38、写真図版13・14)

1区(南)南、CD8・9グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間と考えられる南北棟の側柱建物で、南側調査区外に拡がる。規模は調査区内の桁行長3.95m(推定長5.69m)、梁行長4.20m、床面

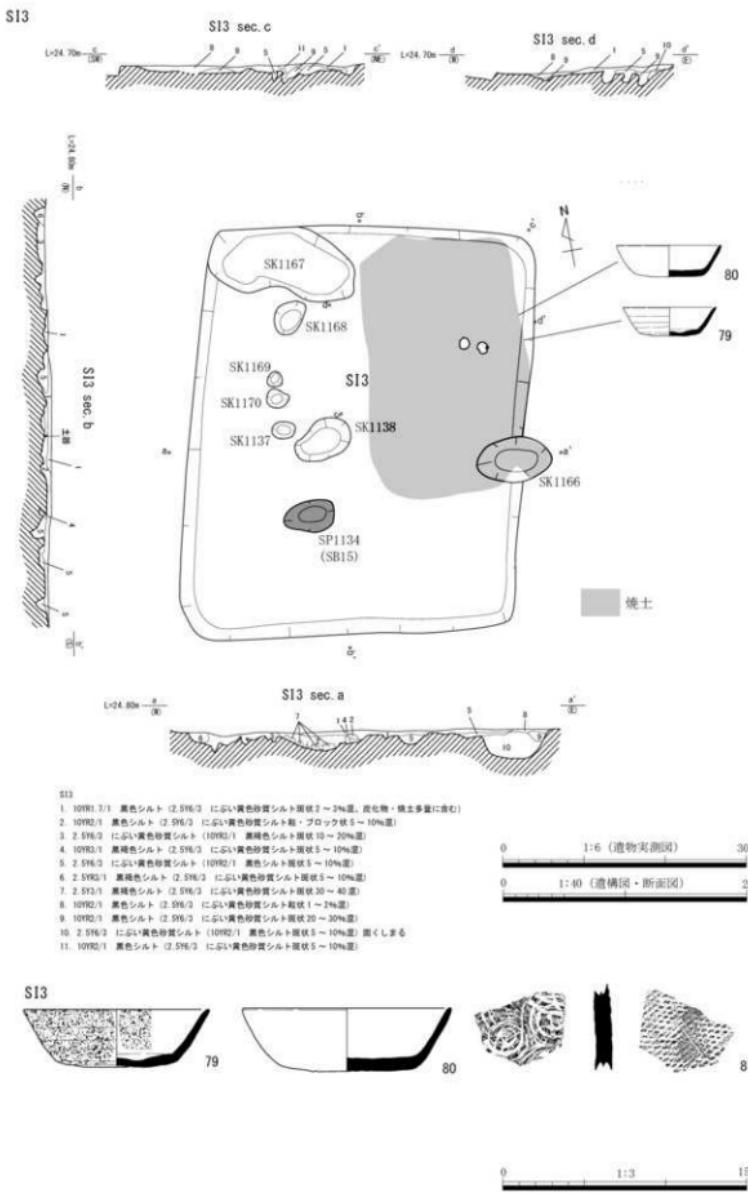


図33 SI3 遺構図、断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

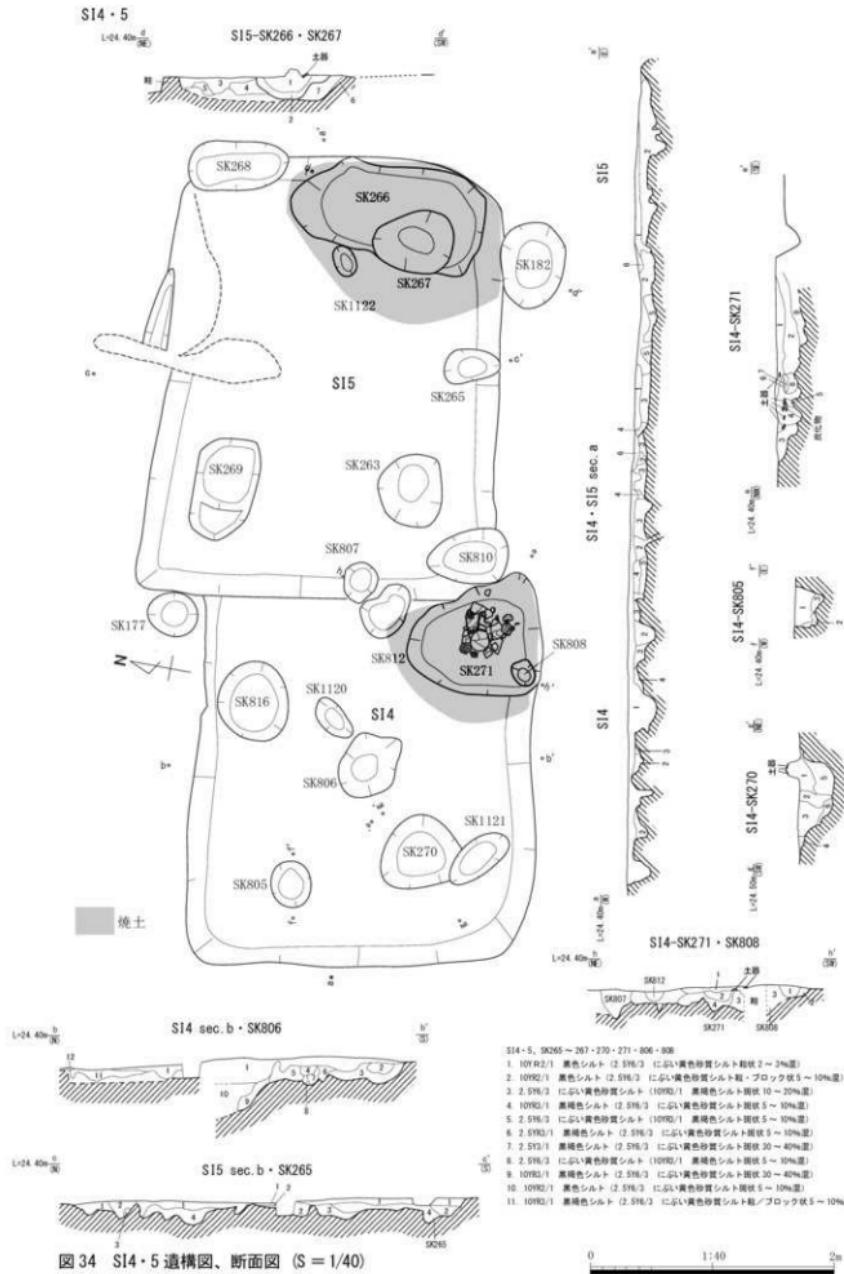


図 34 S14-5 遺構図、断面図 (S = 1/40)

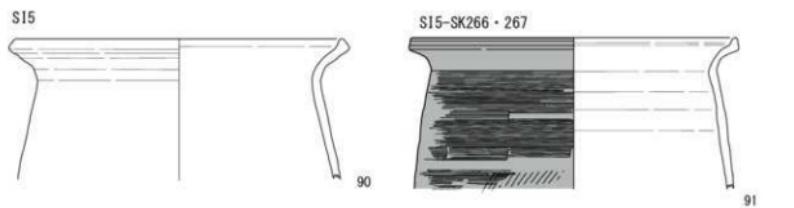
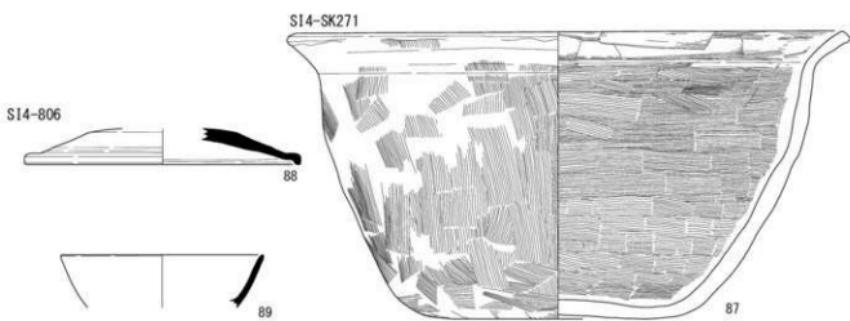
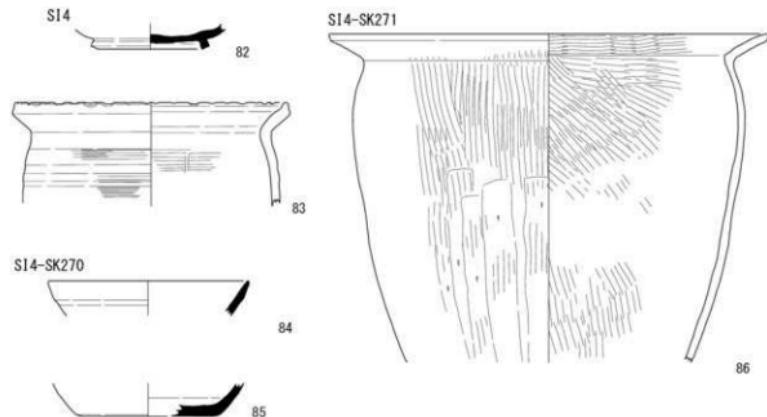


図35 S14・5関連遺構出土遺物実測図 (S = 1/3)

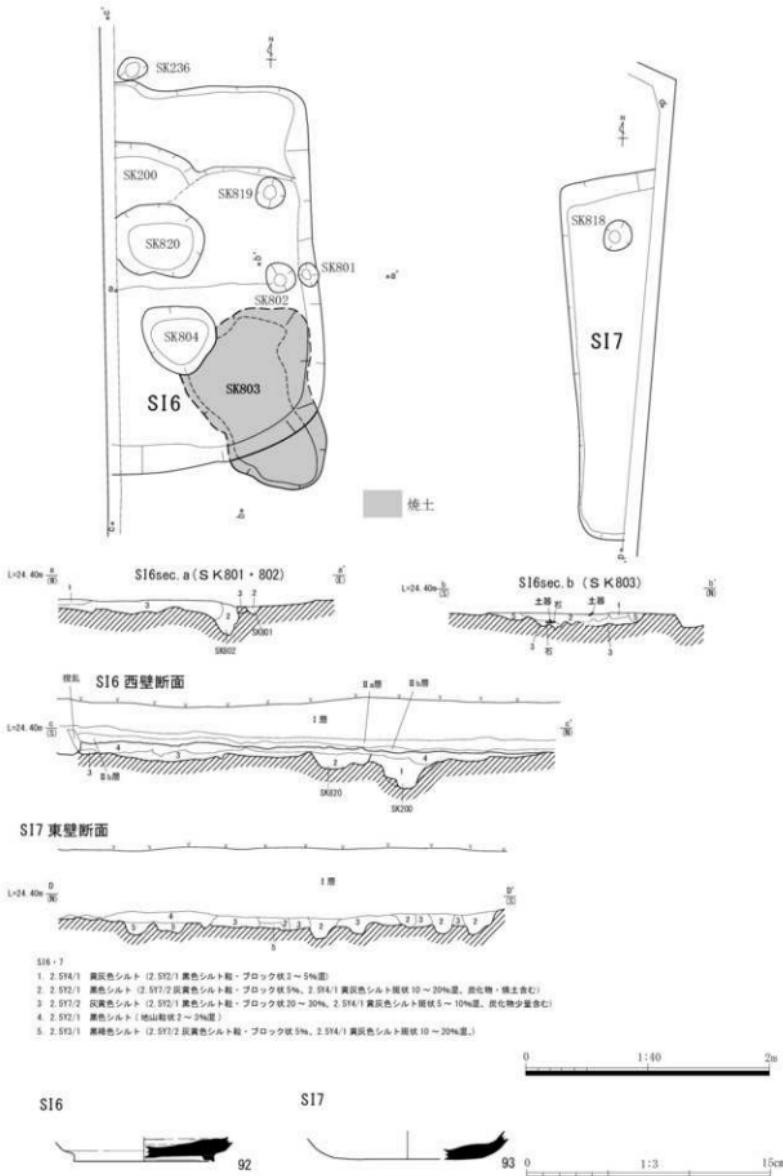


図 36 S16・7 遺構図、断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

積 16.59 m<sup>2</sup>（推定床面積約 23.9 m<sup>2</sup>）を測る。軸方向は N-2° -E である。柱根の遺存は認められない。遺物は SP937 から土師器蓋（97）が出土した。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。また重複関係にある SB4 は同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

#### SB6（図 11・38、写真図版 15）

1 区中央、E8 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物で、中央を現代の用水に削平される。規模は桁行長 4.50 m、梁行長 4.55 m、床面積約 20.48 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-8° -E である。柱根の遺存は認められない。遺物は SP735 から土師器甕（98）が出土した。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SB7（図 17・39、写真図版 15・16）

1 区中央やや南西、DE7 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物で、北側を現代の用水に削平される。規模は桁行長 7.10 m、梁行長 4.90 m、床面積約 34.79 m<sup>2</sup>を測る。軸方向はほぼ真北、N-1° -E である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。遺物は SP691 から土師器が出土した。北側 2.58 m に位置する SB13 とは並行関係にあり、同時期に併存した公的施設等の重要施設であった可能性がある。

#### SB8（図 16・39、写真図版 17）

1 区（南）北西、DE6 グリッドに位置する。桁行 2 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物である。規模は桁行長 4.35 m、梁行長 4.60 m、床面積約 20.01 m<sup>2</sup>を測る。軸方向はほぼ真北、N-8° -W である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺物は出土していない。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。北側 2.31 m に位置する SB9 とは並行関係にあり、同時期の建物と考えられる。

#### SB9（図 13・40、写真図版 18・19）

1 区（北）南西、EF5・6 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物で、南端を現代の用水に削平される。規模は桁行長 6.24 m、梁行長 4.20 m、床面積約 26.21 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-8° -W である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。遺物は SP422 から土師器が出土した。南側 2.31 m に位置する SB7 とは並行関係にあり、同時期に併存した公的施設等の重要施設であった可能性がある。また重複関係にある SB10 とは同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

#### SB10（図 13・40、写真図版 19）

1 区（北）南西、EF5・6 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物である。規模は桁行長 5.40 m、梁行長 4.10 m、床面積約 22.14 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-8° -W である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺物は出土していない。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。重複関係にある SB9 とは同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

#### SB11（図 13・41、写真図版 20・21）

1 区（北）中央やや南西、F6 グリッドに位置する。桁行 1 間、梁行 1 間と考えられる東西棟の側柱建物である。規模は桁行長 3.20 m、梁行長 1.80 m、床面積約 5.76 m<sup>2</sup>を測る。軸方向はほぼ真西である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺物は出土していない。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。大型土坑 SK454 を覆うような位置関係に設置されていることから、SK454 に伴う施設である可能性がある。また重複関係にある SB12 とは同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

#### SB11-SK454（図 13・41、写真図版 21）

1 区（北）、F6 グリッドに位置する土坑で、長径 1.85 m、短径 1.20 m、深さ 0.46 m を測る平面が隅丸方形の土坑である。埋土は下部を中心に黒色シルトが混じる炭化物・炭化材が堆積しており、周辺の遺構の埋土とは異質な性質を示す。焼壁土坑の可能性が考えられたが、遺構内面や遺構周辺部に焼けた痕跡が認められず、埋土に土器類の破片などが一切含まれていないことから、炭化物・炭化材のみを選択的に埋めたと考えられる。SD458、SK453、SK1185 と重複し、より新しい。前述の通り、遺物は出土していないものの、炭化材の AMS 分析の結果は 7 世紀後半であり、古木効果の影響を考慮に入れると、周辺の掘立柱建物と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半の遺構と考えられる。また炭化材の樹種同定結果はクリである。クリは焼成効率が高く、古代鍛冶で使用される頻度が高いとされており、小鍛冶に関連する遺構の可能性がある。

#### SB12（図 13・42、写真図版 20・21・41）

1 区（北）中央やや南西、EF6・F7 グリッドに位置する。桁行 4 間、梁行 4 間と考えられる東西棟の側柱建物である。規模は桁行長 6.08 m、梁行長 5.20 m、床面積約 31.62 m<sup>2</sup>を測る。軸方向はほぼ真西である。柱根の遺存は認められない。遺物は SP373 から須恵器杯 A (99)、SP475 から須恵器杯蓋 (100)、須恵器杯 (101) が出土した。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。重複関係にある SB11 とは同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

#### SB12-SP373（図 13・42、写真図版 20・21）

1 区 F6 グリッドに位置する。SB12 を構築する柱穴の一つである。平面は円形で、径 0.55 m、深さ 0.27 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯 A (99) が出土した。遺構内ほぼ中央から完形で出土しており、建物廃棄時の祭祀に伴い埋められた可能性がある。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SB12-SP475（図 13・42、写真図版 20）

1 区 F7 グリッドに位置する。SB12 を構築する柱穴の一つである。平面は梢円形で、長径 0.65 m、短径 0.45 m、深さ 0.30 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器蓋 (100)・杯 (101) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SB13（図 14・42・43、写真図版 22・23）

1 区（北）中央やや南西、EF7 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物である。

規模は桁行長 6.20 m、梁行長 5.15 m、床面積約 31.93 m<sup>2</sup>を測る。軸方向はほぼ真北である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺物は SP477 から須恵器甕(103)と土師器甕(105)、SP494 から土師器甕(104)、SP495 から土師器甕(105)、SP488 から須恵器が出土した。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。南側 2.58 m に位置する SB7 とは並行関係にあり、同時に併存した公的施設等の重要施設であった可能性がある。また重複関係にある SB14 とは同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。

#### SB14 (図 14・43・44、写真図版 23)

1 区(北) 中央や南西、F7 グリッドに位置する。桁行 2 間以上、梁行 2 間と考えられる南北棟の側柱建物である。規模は桁行長 5.00 m、梁行長 3.95 m、床面積約 19.75 m<sup>2</sup>を測る。軸方向はほぼ真北である。柱根の遺存は認められない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。重複関係にある SB13 とは同一軸方向であることから、比較的短期間に連続して建て替えられたと考えられる。遺物は SP481 から完形の須器杯 B(106) がつぶれた状態で出土した。須恵器は遺構内ほぼ中央に位置し、長径 20 cm 大の石が上に重なり完形の 106 がひしゃげてつぶされており、建物の祭祀に伴う可能性がある。

#### SB15 (図 14・44、写真図版 24)

1 区(北) 中央や東、F8 グリッドに位置する。桁行 2 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物である。規模は桁行長 4.90 m、梁行長 4.15 m、床面積約 20.34 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-12° -E である。柱根の遺存は認められない。遺物は出土していない。2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺物は SP551・1134 から土師器、SP576 から土師器および須恵器が出土した。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SB16 (図 15・18・45、写真図版 25)

1 区(北) 東、F8・9 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間と考えられる東西棟の側柱建物である。規模は桁行長 5.90 m、梁行長 4.70 m、床面積約 27.73 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-77° -W である。柱根の遺存は認められないものの、柱痕跡はいくつかの柱穴でみられる。遺物は SP576 から須恵器杯 B(107) が出土した。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SB17 (図 15・18・45、写真図版 25)

1 区(北) 東、EF9 グリッドに位置する。桁行 2 間、梁行 2 間と考えられる南北棟の側柱建物である。規模は桁行長 6.15 m、梁行長 4.40 m、床面積約 27.06 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-8° -E である。柱根の遺存は認められないものの、柱痕跡はいくつかの柱穴でみられる。遺物は出土していない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SB18 (図 15・18・45・46、写真図版 26)

1 区東、EF9・10 グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟の側柱建物である。規模は桁行長 5.65 m、梁行長 4.85 m、床面積約 27.40 m<sup>2</sup>を測る。軸方向は N-11° -E である。柱根の遺存は認められないものの、柱痕跡はいくつかの柱穴でみられる。遺物は出土していない。埋土は 2.5Y2/1 黒色砂質シルトを基調とする。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。重複する掘立柱建物のうち、ほぼ同一軸方向の SB17 は比較的短期間に連続して建て替えられたもの、SB3 は異なる時期・集

団の建物と考えられる。

## ウ 溝

古代の溝は 54 条検出した。その大部分は鋤溝と考えられるものであるが、区画溝と考えられるもの、道路側溝と考えられるものなどが数条存在する。

### SD35（図 9・47）

3 区の南西トレンチ右側、F1・2 グリッドに位置する。長さは調査区内で 1.75 m、幅 0.47 m、深さ 0.12 m を測り、西北西 - 東南東方向に調査区外へ伸びる。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色シルトを基調とする。土師器甕（108）が出土した。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

### SD140・144（図 11、写真図版 27）

3 区北、I・J3 グリッドに位置する。長さ 4.3～4.45 m、幅 0.45～0.6 m、深さ 0.16 m を測り、南北方向に調査区外へ、幅 1.4 m を空け並行して伸びる。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色シルトを基調とする。SD140 は SK139・152・1067 と、SD144 は SK143 と重複し、より古い。遺物は SD144 から土師器が出土した。南北方向に伸びる区画溝または道路側溝の可能性がある。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

### SD724（図 17、写真図版 27）

1 区（南）、E8 グリッドに位置する。長さ 3.65 m、幅 0.72 m、深さ 0.16 m を測り、南北方向に伸びる。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色シルトを基調とする。弥生土器の高杯が出土した。混入と考えられる。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

## エ 土坑

### SK30（図 9・48、写真図版 27）

3 区 F1・2 グリッドに位置する。平面は円形で、長径 0.25 m、短径 0.21 m、深さ 0.12 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器甕（109）が出土した。口縁は体部上半内外面にカキメ調整がみられる。口縁は屈曲し、外上方に延び、端部はまるくおさめる。口径 20.8 cm。8 世紀のものである。遺構の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

### SK154（図 11・48、写真図版 28）

3 区 J3 グリッドに位置する。平面は梢円形で、長径 0.55 m、短径 0.52 m、深さ 0.20 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯（110）が出土した。高台径 7.3 cm を測る。底部から明瞭な稜を持って立ち上がる。遺構・遺物の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

### SK156（図 11・48、写真図版 28）

3 区 I・J3 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.73 m、短径 0.61 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器甕（111）が出土した。くの字口縁で、口縁端部に面を取り、1 条沈線を巡らす。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

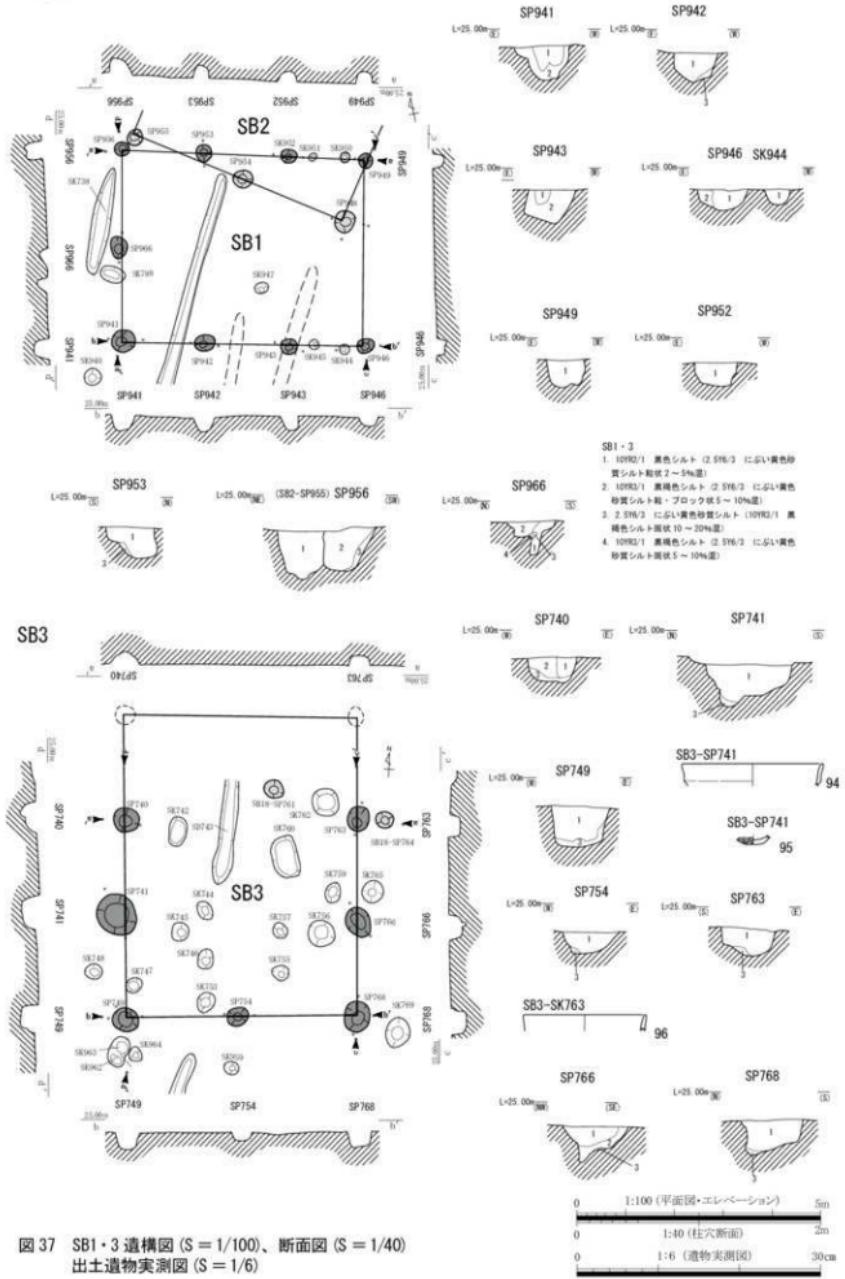
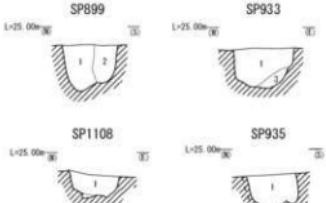
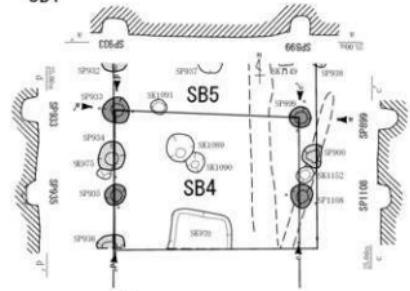


図37 SB1・3 遺構図 ( $S = 1/100$ )、断面図 ( $S = 1/40$ )  
出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

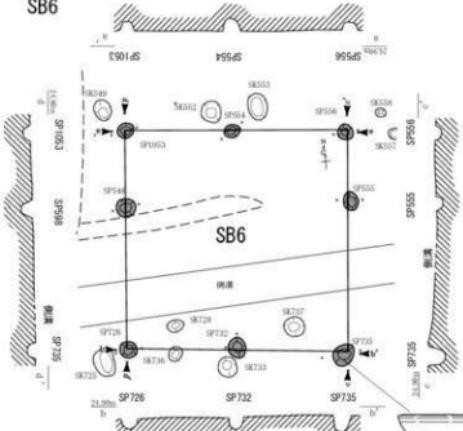
SB4



SB4 ~ 6

1. 10YR7/1 黒色シルト (2.516/3 にぶい黒色砂質シルト斑状 2 ~ 5%面)
2. 10YR7/1 黒褐色シルト (2.516/3 にぶい黒色砂質シルト層 + ブロック状 5 ~ 10%面)
3. 2.516/3 にぶい黒色砂質シルト (10YR7/1 黒褐色シルト斑状 10 ~ 20%面)
4. 10YR3/1 黑褐色シルト (2.516/3 にぶい黄色砂質シルト斑状 5 ~ 10%面)

SB6



SP548, SP554



SP555, SP556



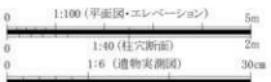
SP726, SP732

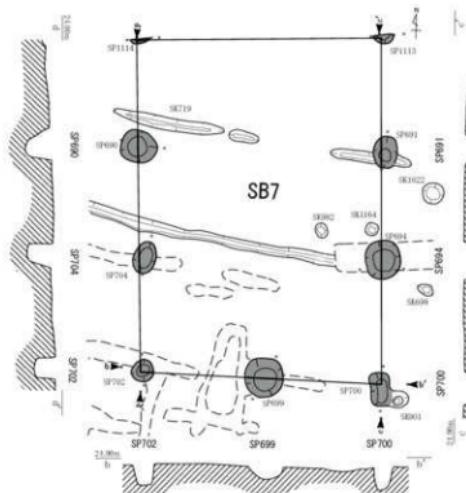


SP735, SP1053

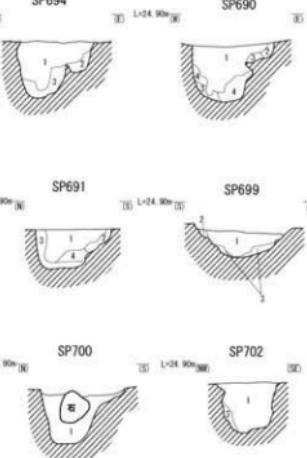


図38 SB4 ~ 6 遺構図 (S = 1/100)、断面図 (S = 1/40)  
出土遺物実測図 (S = 1/6)



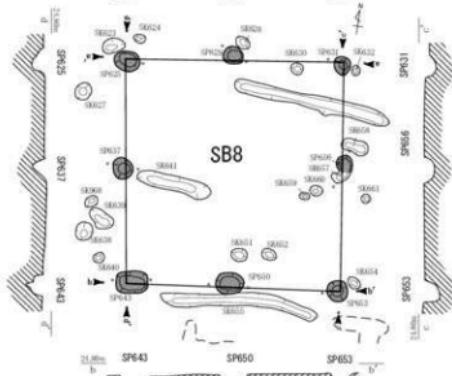


SP694

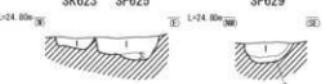


SB7

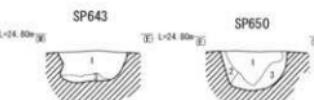
1. 2. SY3/1 黒褐色シルト (2. SY3/2 黄褐色砂質シルト斑状 2~3%混、底化物粒 1~2%含む)
2. SY3/1 黑褐色シルト (2. SY4/1 黄褐色シルト斑状 20~30%、2. SY7/2 黄褐色砂質シルト斑状 2~3%混、底化物粒 1~2%含む)
2. SY7/2 黄褐色砂質シルト (2. SY4/1 黄褐色シルト斑状 5~10%、2. SY7/1 黑褐色シルト斑状 10~15%混)
4. 2. SY3/1 黑褐色シルト (2. SY4/1 黄褐色シルト斑状 40~50%、2. SY7/2 黄褐色砂質シルト斑状 3~5%混、底化物粒 1~2%含む)



SK623 SP625



SP643



SP653



1. SY3/1 黑褐色シルト (2. SY3/2 黄褐色砂質シルト斑状 2~3%混、底化物粒 1~2%含む)
2. SY3/1 黑褐色シルト (2. SY4/1 黄褐色シルト斑状 20~30%、2. SY7/2 黄褐色砂質シルト斑状 2~3%混、底化物粒 1~2%含む)
3. 2. SY7/2 黄褐色砂質シルト (2. SY4/1 黄褐色シルト斑状 5~10%、2. SY3/1 黑褐色シルト斑状 10~15%混)

図 39 SB7・8 遺構図 (S = 1/100)、断面図 (S = 1/40)

0 1:100 (平面図・エレベーション)  
0 1:40 (柱穴断面) 5m

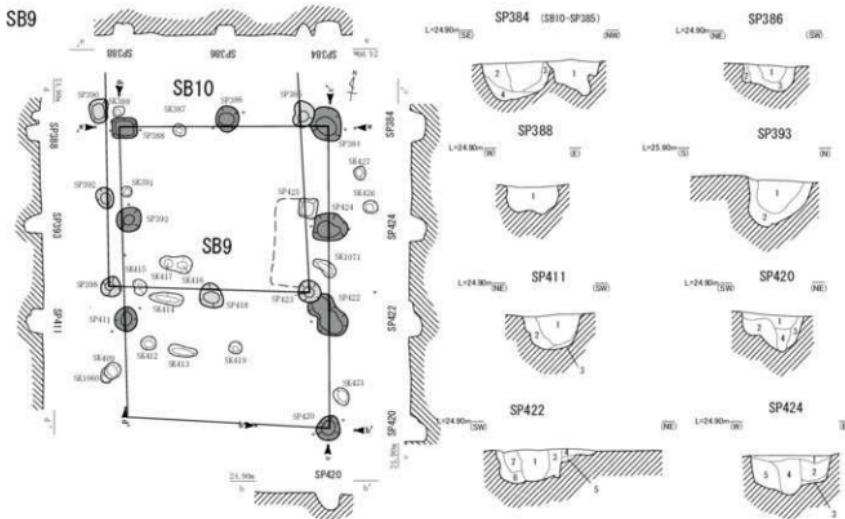
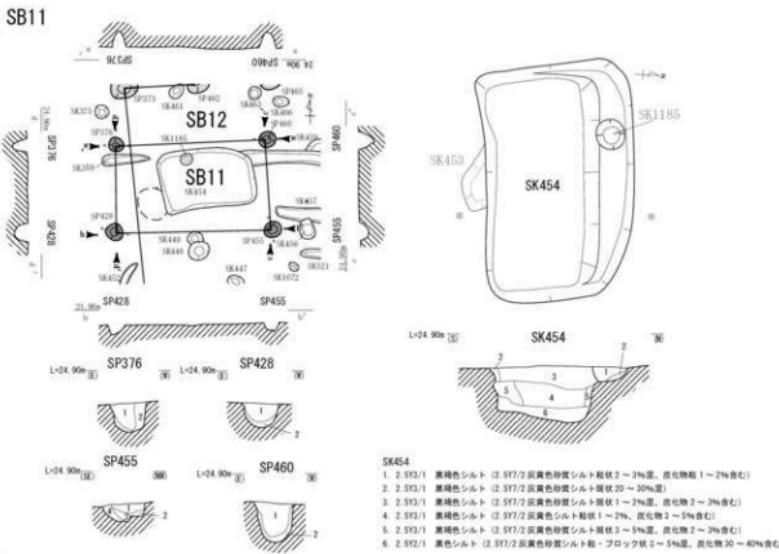


図 40 SB9・10 遺構図 ( $S = 1/100$ )、断面図 ( $S = 1/40$ )



SB11

1. 2.SY3/1 黒褐色シルト (2.SY7/2 黄色砂質シルト斑状 2~3%混。炭化物粒 1~2%含む)

2. 2.SY3/1 黒褐色シルト (2.SY4/1 黑褐色シルト斑状 20~30%、2.SY7/2 黄色砂質シルト斑状 2~3%混。炭化物粒 1~2%含む)

3. 2.SY3/1 黑褐色シルト (2.SY4/1 黑褐色シルト斑状 40~50%、2.SY7/2 黄色砂質シルト斑状 3~5%混。炭化物粒 1~2%含む)

4. 2.SY7/2 黄色砂質シルト (2.SY4/1 黑褐色シルト斑状 5~10%、2.SY5/1 黑褐色シルト斑状 10~15%混)

図 41 SB11 遺構図 (S = 1/100)

断面図・SK454 遺構図、断面図 (S = 1/40)



SK217 (図 11・48、写真図版 29)

3 区 14 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.72 m、短径 0.62 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器壺 (112) が出土した。口径 24.0 cm を測る。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

SK224 (図 12・48、写真図版 29)

3 区 J5 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯 B (113) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

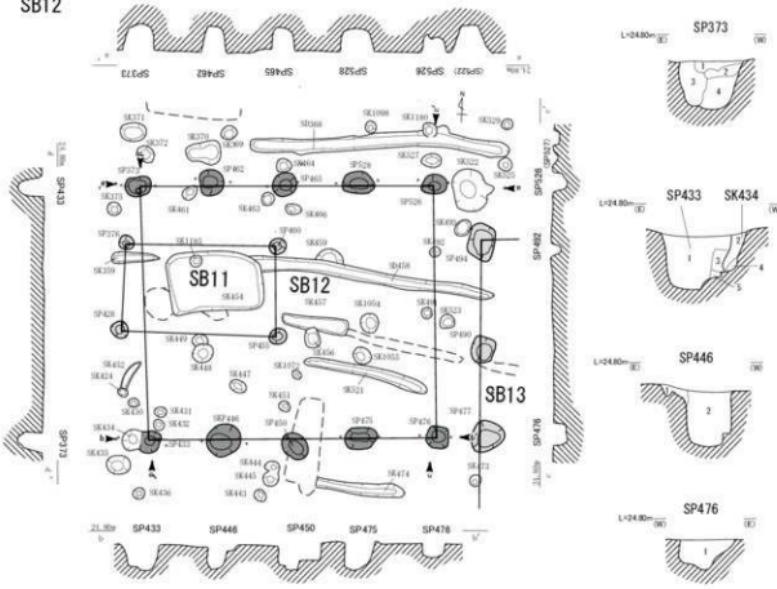
SK231 (図 11・49)

3 区 J4 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器壺 (114) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

SK253 (図 8・49、写真図版 29)

3 区 I・J1 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器瓶 (115) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

SB12



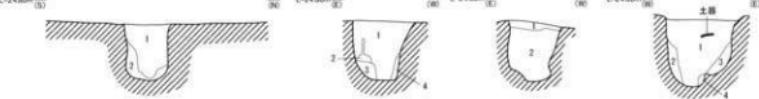
L=24.80m (S)

SP450

SP462

SP465

SP476



L=24.80m (S)

SP526

SP528

SB12

1. 2.573/1 黒褐色シルト (2.574/2 黄色沙質シルト混在 20 ~ 30%)
2. 2.573/1 黒褐色シルト (2.574/1 黄色シルト混在 7 ~ 15%)
3. 2.573/1 黒褐色シルト (2.574/1 黄色沙質シルト混在 40 ~ 50%)
4. 2.573/2 黄色沙質シルト (2.574/1 黄色シルト混在 5 ~ 10%)
5. 2.573/1 黑褐色シルト (混在 5 ~ 15%)
6. 2.573/2 黄色沙質シルト (2.574/1 黄色シルト混在 5 ~ 10%)
7. 2.573/1 黑褐色シルト (2.574/1 黄色シルト混在 20 ~ 30%)

SB12-SP373

SB12-SP475



99



100



101

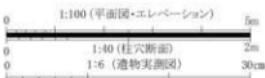
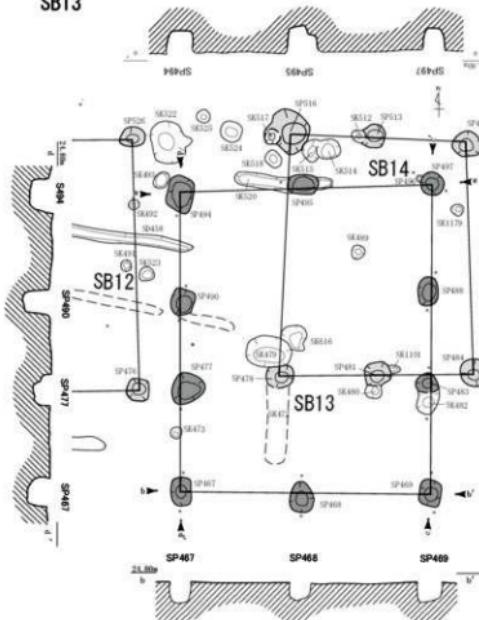
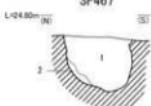


図 42 SB12 遺構図 ( $S = 1/100$ )、断面図 ( $S = 1/40$ )  
出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

### SB13



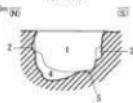
### SP467



### SP468



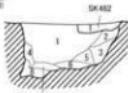
### SP469



### SP477



### SP483



### SP488



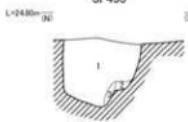
### SP490



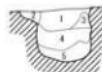
### SP494



### SP495



### SP496 SP497



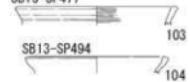
### SB13

1. SP13/1 黄褐色シルト 2. SP13/2 黄褐色砂質シルト層状  
2 ~ 3層厚、底地物粒 1~2%含む
2. SP13/1 黄褐色シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 3~30%、  
底地物粒 1~2%含む
3. SP13/1 黄褐色シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 3~30%、  
底地物粒 1~2%含む
4. SP13/2 黄褐色砂質シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5~10%、  
2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 10~15%含む
5. 2. SP13/2 黄褐色砂質シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5%、  
2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5~10%含む
6. 2. SP13/2 黄褐色砂質シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5%、  
2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5~10%含む
7. 2. SP13/3 黄褐色シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5~20%、  
2. SP14/2 黄褐色砂質シルト 層状 5~10%含む、底地物粒 1~2%含む
8. 2. SP13/2 黄褐色砂質シルト 2. SP14/1 黄褐色シルト 層状 5~10%含む

### SB13-SP477



### SB13-SP497

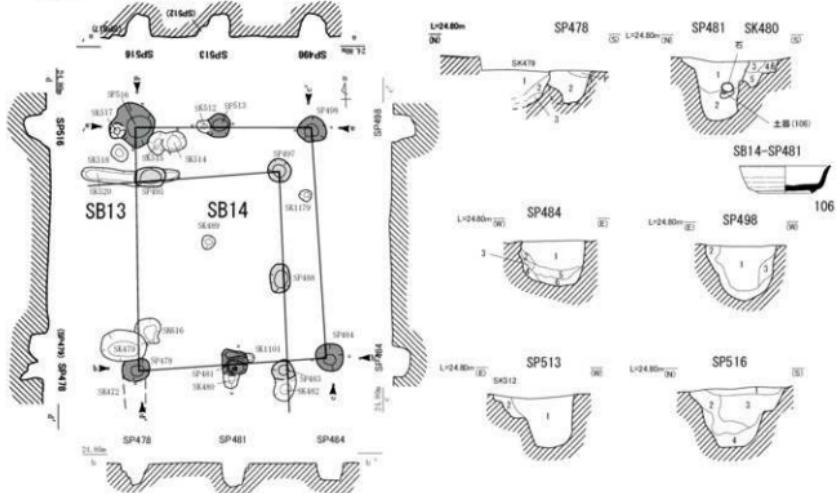


### SB13-SP495



図 43 SB13 遺構図 ( $S = 1/100$ )、断面図 ( $S = 1/40$ )  
出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

## SB14



## SB15

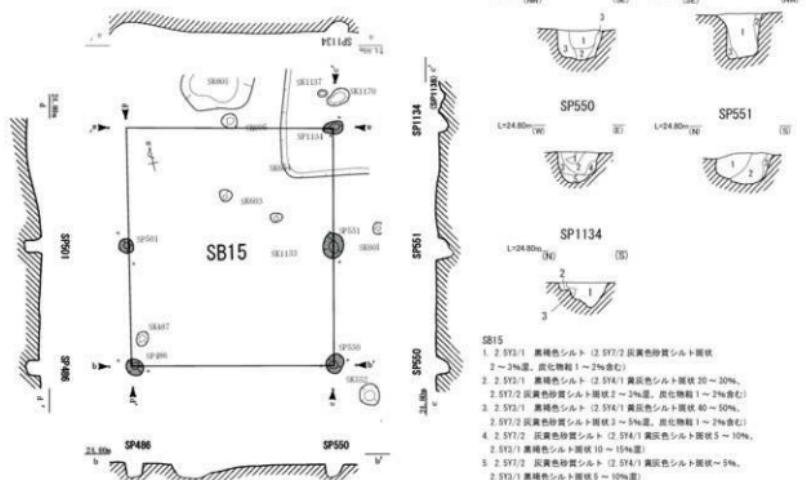
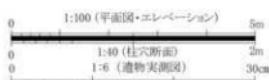
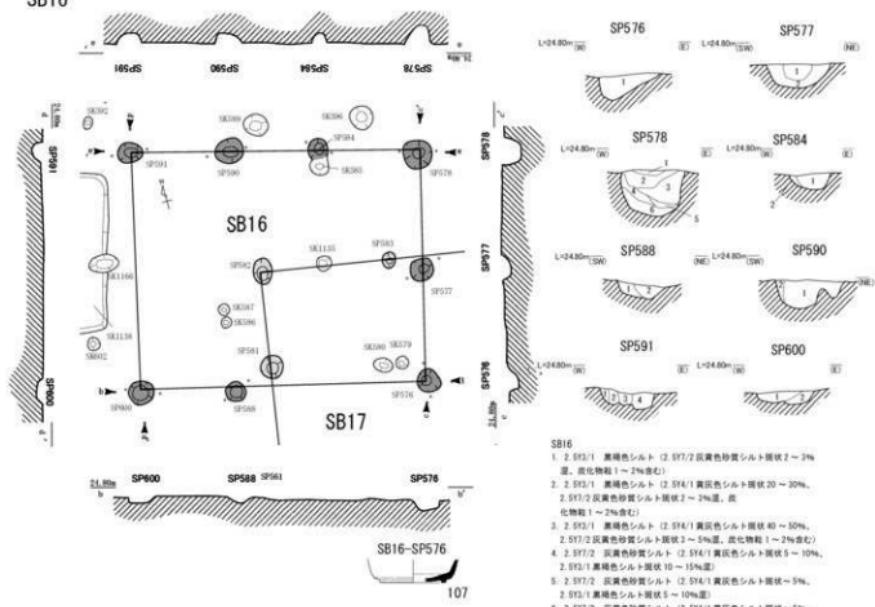


図 44 SB14・15 遺構図 (S = 1/100)、断面図 (S = 1/40)  
出土遺物実測図 (S = 1/6)



SB16



SB17

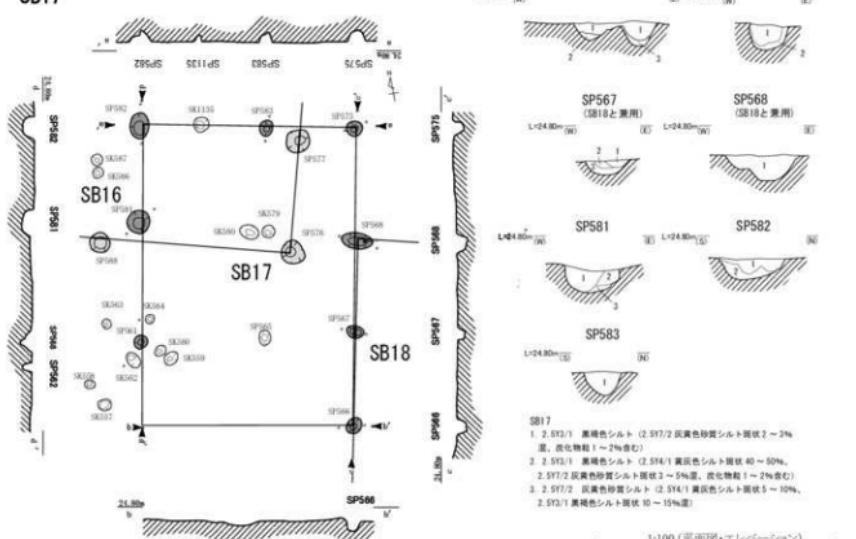


図45 SB16・17 遺構図 ( $S = 1/100$ )、断面図 ( $S = 1/40$ )  
出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

— 58 —

## SB18

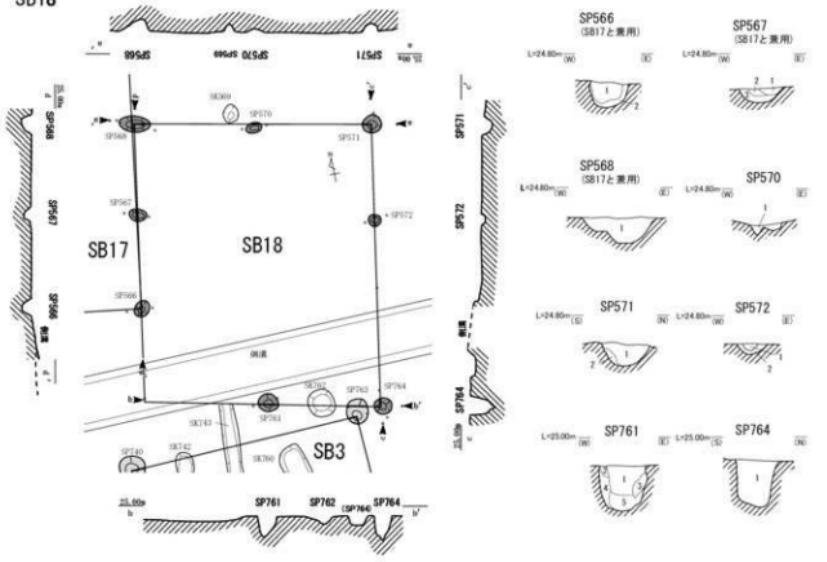


図 46 SB18 遺構図 ( $S=1/100$ )、断面図 ( $S=1/40$ )

0 1:100 (平面図・エレベーション)  
0 1:40 (柱穴断面) 5m  
2m

## SK470 (図 14)

3 区 E8 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器甕 (116) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

## SK471 (図 14・49)

1 区 I・J3 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯、杯 A(118)、鉢 (117)、土師器甕 (119) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

## SK485 (図 14・49)

1 区 E6 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器甕 (120) が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

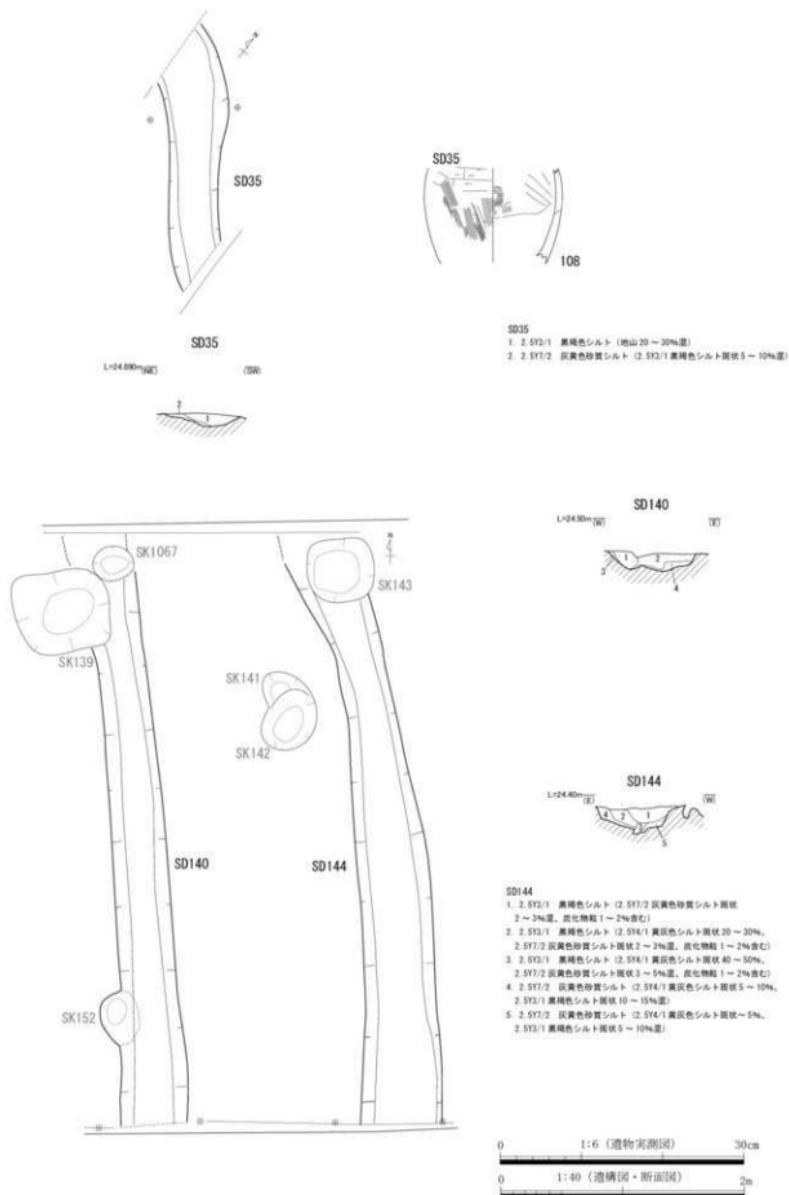


図 47 SD35・140・144 造構図、断面図 (S = 1/40)  
出土遺物実測図 (S = 1/6)

#### SK703（図 16・50、写真図版 32）

1 区（南）D6・7 に位置する。平面は楕円形で、長径 1.4 m、短径 1.05 m、深さ 0.38 m を測る。埋土は黒褐色を基調とする。遺物は須恵器甕（121）、土師器甕（122・123）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK760（図 18・50）

1 区 E9 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器甕（124）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK780（図 19・50）

1 区 E10 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.55 m、短径 0.45 m、深さ 0.32 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器蓋（125）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK868（図 16・50・写真図版 34）

1 区 C6 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯 A（126）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK979（図 16・50、写真図版 34）

3 区 D7 グリッドに位置する。平面は不整形で、長径 0.7 m、短径 0.6 m、深さ 0.24 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器鉢（127）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK1007（図 23・50、写真図版 34）

2 区 B11 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.65 m、短径 0.4 m、深さ 0.15 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器（128）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK1032（図 18・51、写真図版 35）

1 区 D9 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 1.25 m、短径 0.5 m、深さ 0.11 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器（129・130）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK1074（図 14、写真図版 35）

1 区 G7 グリッドに位置する。平面は円形で、径 0.25 m、深さ 0.12 m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器、土師器（76）が出土した。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。

#### SK1087（図 19・50、写真図版 35）

1 区 D10 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径 0.41 m、短径 0.32 m、深さ 0.09 m を測る。

埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器(131)が出土した。時期は8世紀後半～9世紀前半である。

#### SK1149(図19・51、写真図版35)

1区D9グリッドに位置する。平面は楕円形で、長径1.21m、短径0.82m、深さ0.11mを測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯A(132)、土師器甕(133)が出土した。時期は8世紀後半～9世紀前半である。

#### SX228(図12、写真図版35)

3区J5グリッドに位置する。平面は不整形で、長径0.7m、短径0.6m、深さ0.24mを測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器杯(135)、杯B(134・136)、横瓶(137)が出土した。時期は8世紀後半～9世紀前半である。

### 4 近世以降の遺構

#### SK605(図14・51、写真図版35)

1区F8グリッドに位置する。平面は不整形で、長径2.2m、短径1.3m、深さ0.22mを測る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とする。遺物は越中瀬戸(138・139)、ガラス製薬瓶(140)等が出土した。時期は18世紀前半である。

#### (2) 遺物

##### ア 遺構出土遺物

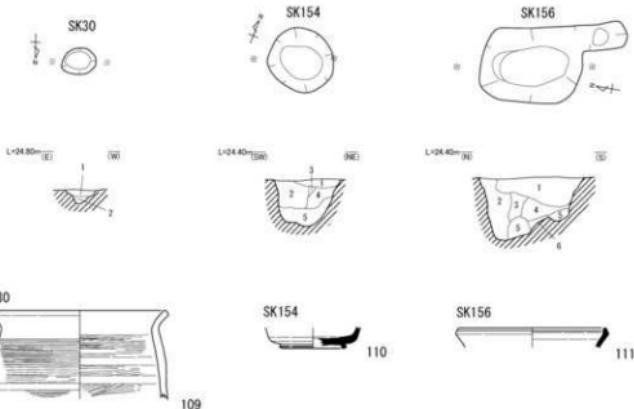
SI3(図33、写真図版37) 79・80は須恵器杯Aである。79は口径11.3cm、器高3.55cmを測る。外面全体に煤が付着する。底部外面にヘラ切痕がみられる。80は口径13.4cm、器高4.0cm、23は口径12.8cm、器高3.9cmを測る。81は須恵器甕である。

SI4(図35、写真図版40) 82は須恵器杯Bである。高台径6.5cmを測る。83は土師器甕である。体部がやや内傾気味に立ち上がり、口縁は外傾し、端部を上方へ摘み上げる。端部は全体に打ち欠いており、小波状を呈する。口径16.4cmを測る。時期は9世紀前半である。

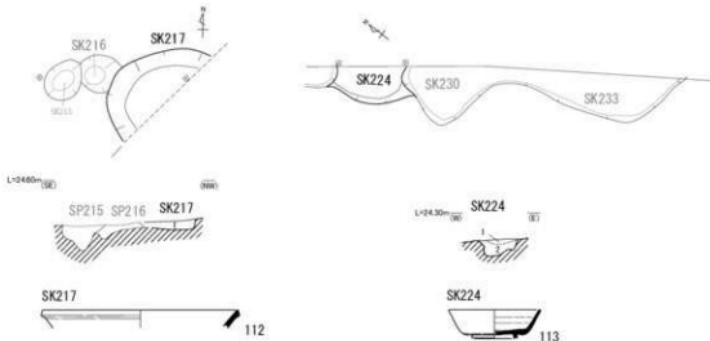
SI4-SK271(図35、写真図版37) 86は土師器甕である。長胴甕で口縁は強く外傾し端部は丸くおさめる。口径27.0cmを測る。8世紀後半～9世紀前半のものである。87は土師器鍋である。口径33.8cm、底径12.1cm、器高17.6cmを測る。底部は平底、口縁は外傾し、端部は外側に肥厚して、外側斜め上方に面を取る。8世紀後半～9世紀前半である。

SI5-SK266・267(図35、写真図版37) 91は土師器甕である。体部はやや内傾気味に立ち上がり、口縁は強く外反する。口縁端部は上方へ摘み上げ、端部外側に沈線を1条施す。体部外面は赤彩である。口径19.9cmを測る。9世紀前半である。

SB6-SP735(図38・52、写真図版41) 98は土師器甕である。口径20.5cmを測る。口縁端部をほぼ直线上に面を取り、端面には約1cmの間隔で刺突点痕がみられる。8世紀である。



- SK30**
1. 2.SY3/1 黒褐色シルト (2.SY7/2 反黃色砂質シルト層状2~3%混、炭化物1~2%含む)
  2. 2.SY7/2 反黃色砂質シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状5~10%混、2.SY3/1 黑褐色シルト層状10~15%混)
- SK154 + 156**
1. 2.SY3/1 黑褐色シルト (2.SY7/2 反黃色砂質シルト層状2~3%混、炭化物1~2%含む)
  2. 2.SY3/1 黑褐色シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状20~30%, 2.SY7/2 反黃色砂質シルト層状2~3%混、炭化物1~2%含む)
  3. 2.SY3/1 黑褐色シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状40~50%, 2.SY7/2 反黃色砂質シルト層状2~3%混、炭化物1~2%含む)
  4. 2.SY7/2 反黃色砂質シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状5~10%, 2.SY3/1 黑褐色シルト層状10~15%混)
  5. 2.SY7/2 反黃色砂質シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状20~30%混)
  6. 2.SY7/2 反黃色砂質シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状5~10%混)



- SK217 - 224**
1. 2.SY3/1 黑褐色シルト (2.SY7/2 反黃色砂質シルト層状2~3%混、炭化物1~2%含む)
  2. 2.SY7/2 反黃色砂質シルト (2.SY4/1 黑灰色シルト層状5~10%, 2.SY3/1 黑褐色シルト層状10~15%混)

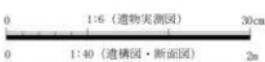


図 48 SK30・154・156・217・224 遺構図、断面図 ( $S = 1/40$ )  
出土遺物実測図 ( $S = 1/6$ )

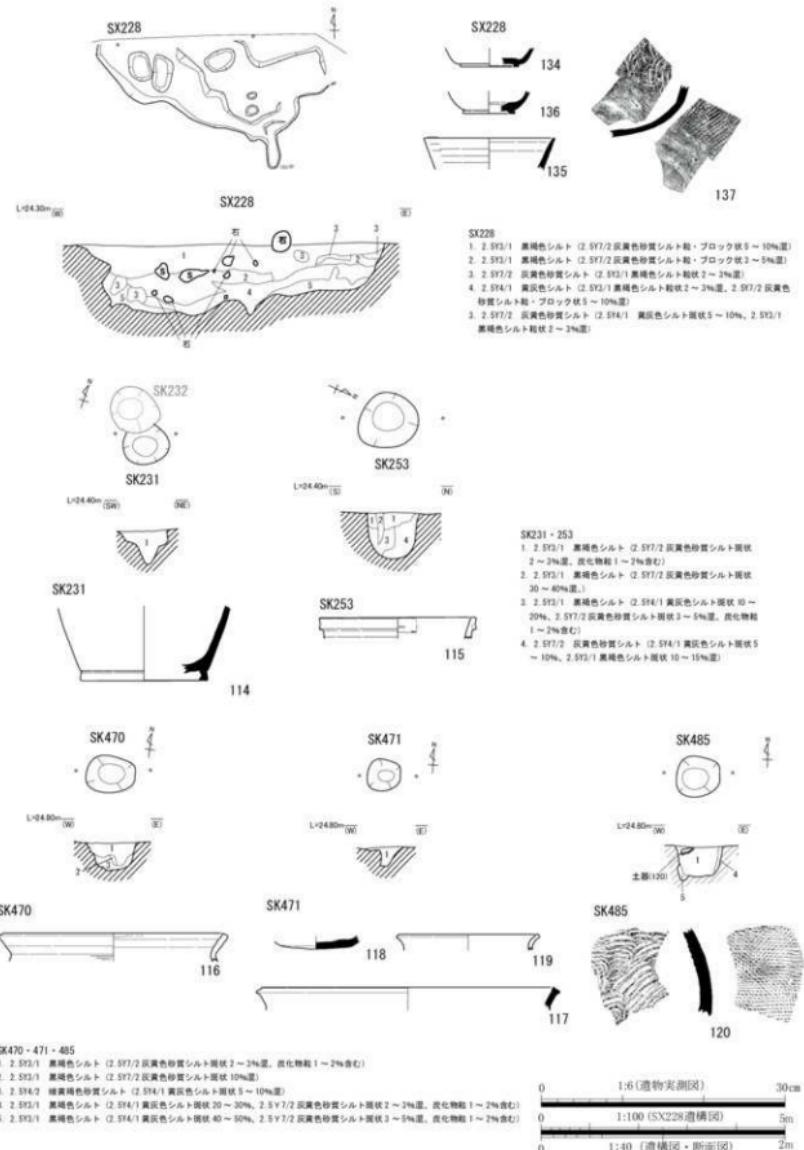
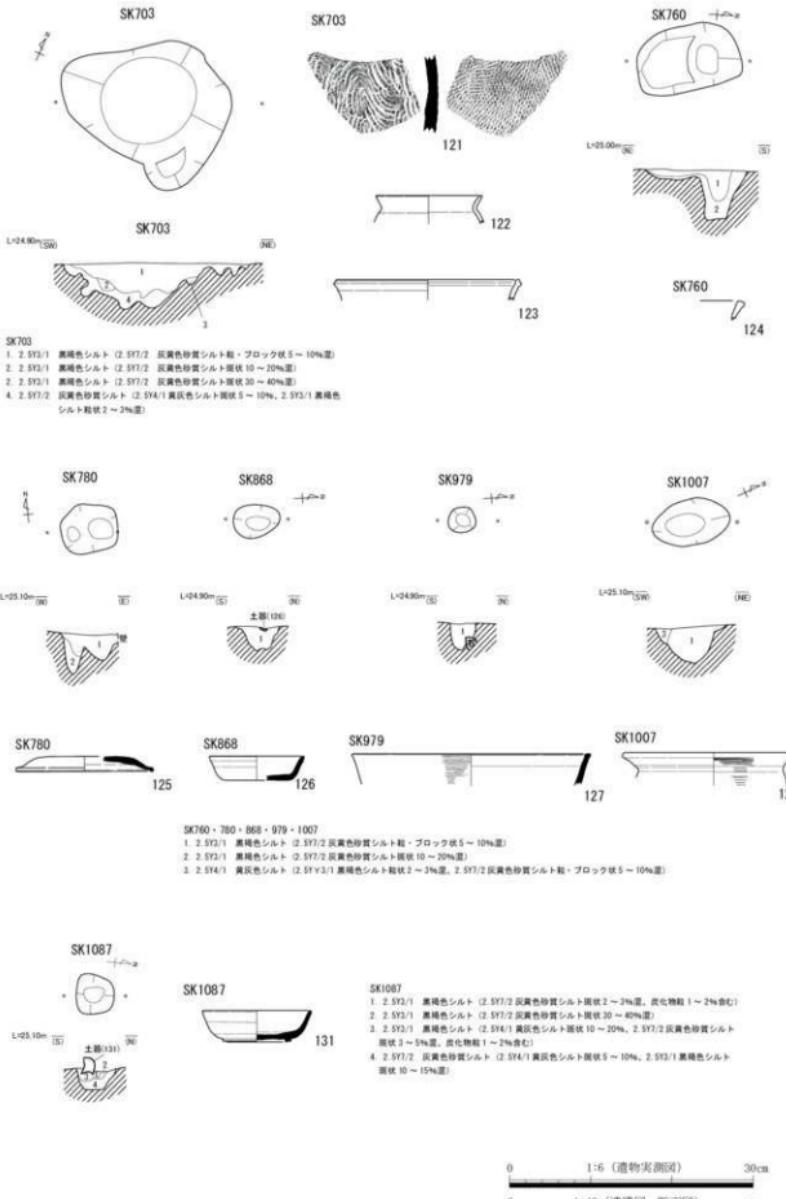


図 49 SK231・253・470・471・485 遺構図、断面図 (S = 1/40)  
SK228 遺構図 (S = 1/100)、断面図 (S = 1/40)、出土遺物実測図 (S = 1/6)



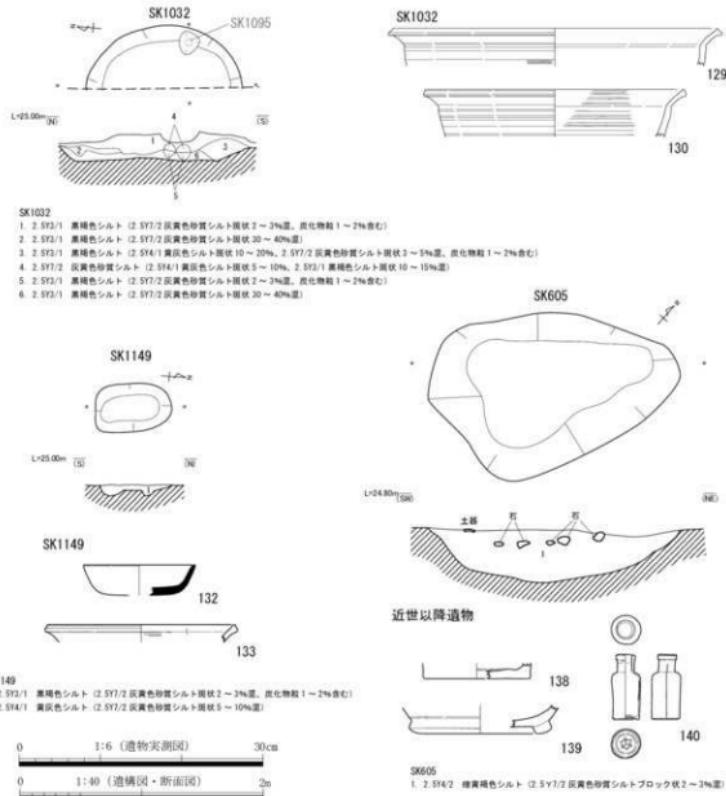


図 51 SK605・1032・1149 遺構図、断面図 ( $S = 1/40$ )、出土遺物実測図 1 =  $S = 1/6$ )

SB12-SP373 (図 42・52、写真図版 37) 99 は須恵器杯 A である。口径約 12.9 cm 器高 3.3 cm。8 世紀後半～9 世紀前半である。

SB13-SP477 (図 43・52、写真図版 41) 103 は土師器甕である。口縁はやや屈曲して外傾し、端部はやや肥厚して丸く收める。

SB13-SP494 (図 43・52、写真図版 41) 104 は土師器甕である。口径 16.6 cm。受口状の口縁で、やや内側に屈曲して立ち上がり。口縁端部は斜め上方に面を取り、端面には沈線が巡る。8 世紀後半～9 世紀前半である。

SB13-SP495 (図 43・52、写真図版 41) 105 は土師器甕である。薄甕で、口径 14.4 cm を測る。くの字口縁で、口縁は外傾し端部を丸くおさめる。

#### B14-SP481 (図 44・52、写真図版 37)

106 は須恵器杯Bである。口径 11.2 cm、高台径 6.4 cm、器高 3.4 cm を測る。体部は口縁端部に向かって外反して立ち上がる。

#### SB16-SP576 (図 45・52、写真図版 37)

107 は須恵器杯Bである。高台径 8.2 cm。薄手で底部から明瞭な稜を持ち体部が立ち上がる。

#### SK253 (図 49・52、写真図版 42)

115 は土師器の瓶である。口縁を外側に折り返し肥厚させる。口径 19 cm。8世紀後半～9世紀前半である。

#### SK470 (図 49・52、写真図版 42)

116 は土師器甕である。口縁はやや外傾し、端部は内側に肥厚し、外側斜め上方に面を取る。口径 27 cm を測る。9世紀前半である。

#### SK471 (図 49・53、写真図版 42)

118 は須恵器甕Aである。底部外面にヘラ切痕がみられる。

119 は土師器甕である。口縁は外傾し、端部は面を取る。口径 17.1 cm。

#### SK703 (図 50・53、写真図版 42)

122 は土師器甕である。くの字口縁の薄甕で端部は丸くおさめる。口径 13.1 cm。

121 は須恵器甕である。外面及び断面に被熱痕がみられる。

123 は土師器甕である。口縁端部は内面を肥厚し、外側上方に面を取り、端面には沈線が 1 条巡る。口径 22.2 cm を測る。

#### SK760 (図 50・53、写真図版 42)

124 は土師器甕の口縁である。口縁端部はやや肥厚し、斜め上方に向かって面を取る。8世紀後半～9世紀前半である。

#### SK1149 (図 50・53、写真図版 42)

132 は須恵器杯Aである。胎土は軟質で、色調は灰白色である（窯）。口径約 13.6 cm、器高 3.75 cm。8世紀後半～9世紀前半のものである。

133 は土師器甕である。口縁は外反して伸び、端部は肥厚して外側斜め上方に面を取る。端面に 1 条沈線を巡らす。口径 23.0 cm を測る。8世紀後半～9世紀である。

#### SK605 (図 51・54、写真図版 42)

138 は近世以降の越中瀬戸である。匣鉢で底径 12.8 cm を測る。内外面に鉄軸を施し、底部に回転糸切り痕が残る。共伴遺物から 18世紀以降のものと考えられる。

140 は近代のガラス瓶である。茶色透明の薬瓶で底部に商標と考えられる印が押し出される。口径 1.1 cm、底径 3.0 cm、器高 8.0 cm を測る。

139 は近世以降の陶器である。鉢で高台径 15.0 cm を測る。底部内面に目跡が残る。

#### イ 遺構外出土遺物（第 55・56、写真図版 44）

- 159～173 は須恵器である。159～163 は壺 B である。高台径 8.0～9.3 cm を測る。
- 164～169 は杯 A である。口径 10.9～15.0 cm を測る。8 世紀後半～9 世紀前半である。
- 164 は口径 10.9 cm、器高 3.3 cm を測り、口縁はやや外反する。胎土は軟陶である。166 は口径 15.0 cm、器高 2.35 cm を測る。9 世紀半ばである。
- 170 は須恵器稜楕である。口縁端部は外面をやや強く横ナデし、外反味に立ち上がる。口径 12.5 cm。8 世紀後半～9 世紀前半である。171・172 は甌、173 はの平瓶である。
- 174・175 は土師器楕である。174 は底径 5.6 cm を測り、高台内側を含む全面に赤彩を施し施釉陶器を模倣している。9 世紀後半である。175 は口径 15.4 cm を測るもので、内面はミガキ、体部外面下部にはロクロケズリ調整を施す。9 世紀後半～10 世紀前半である。
- 176 は土師器甌である。体部外面下部にケズリを施す。底部はヘラ切りで、底径 7.8 cm を測る。8 世紀後半である。
- 177( 第 56 図、図版 44) は I35(E9) 出土の土師器甌である。くの字口縁で端部は内側に肥厚して外側斜め上方に面を取る。8 世紀後半～9 世紀前半である。179～183 は土師器鍋である。179 は口縁を強く外方へ屈曲させ、端部は上方へつまみ上げる。外側に端面を取る。端面内側に沈線が 1 条巡る。口径 34.0 cm を測る。8 世紀後半～9 世紀前半である。180 の口縁は外傾して伸び、端部は肥厚し外側に面を取り、端面には 1 条沈線が巡る。口径 32.8 cm を測る。8 世紀後半～9 世紀前半である。181 の口縁は外傾し、端部は内外に肥厚し、上方に面を取る。口径 25.0 cm を測る。9 世紀前半である。183 の口縁は外傾し、端部は丸く收める。口径 36.0 cm を測る。8 世紀と考えられる。
- 184 は土師器甌か鍋である。口径 22 cm。8 世紀のものである。
- 185・186 は越中瀬戸である。185 は皿である。削り出し高台で、内底面に軸止めの段はない。宮田編年の III 期、17 世紀後半～18 世紀前半である。186 は匣鉢である。底径 11.0 cm を測る。内外面に鉄軸を施し、底部外面に回転糸切り痕が残る。17～18 世紀である。
- 187 は土鍤である。現存長 4.8 cm を測る。

(朝田)

遺構出土古代遺物 (1)

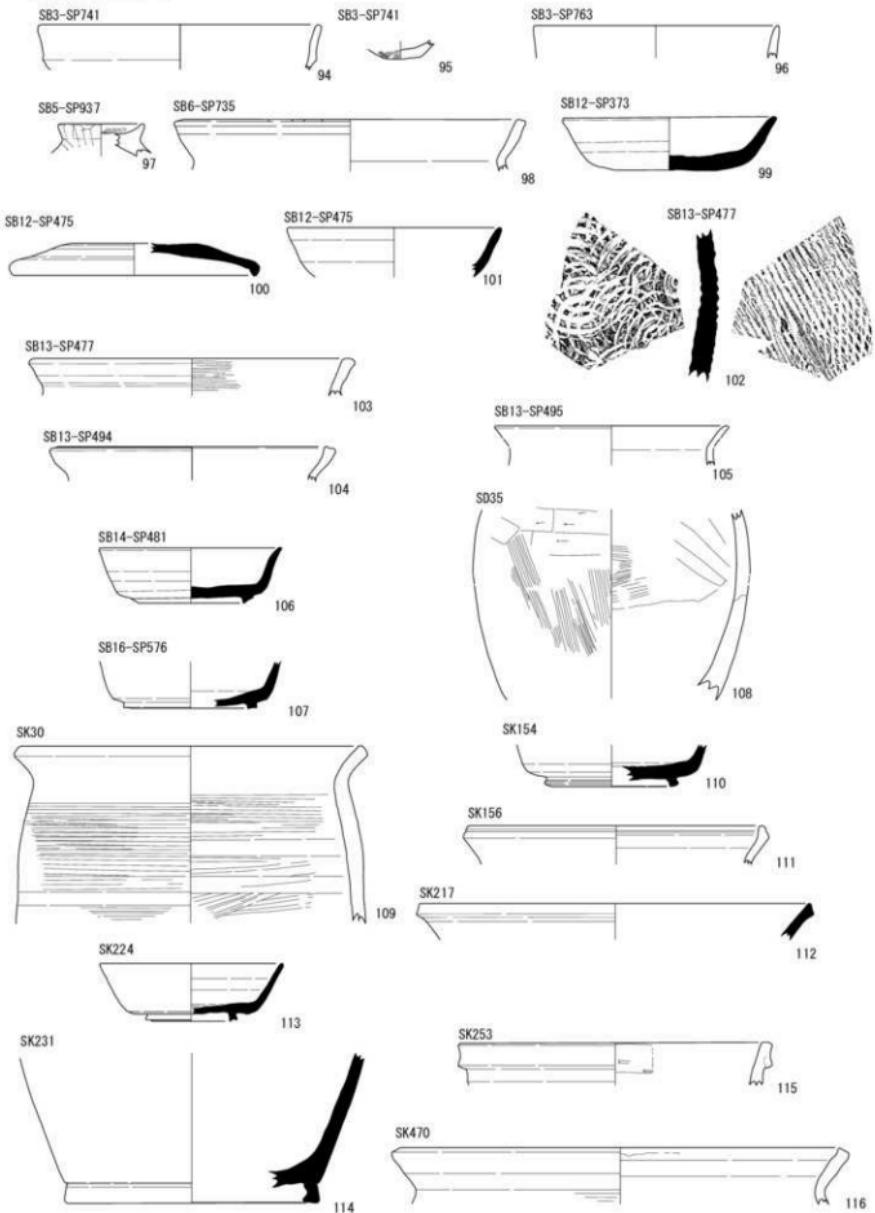


図 52 遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

0 1:3 15cm

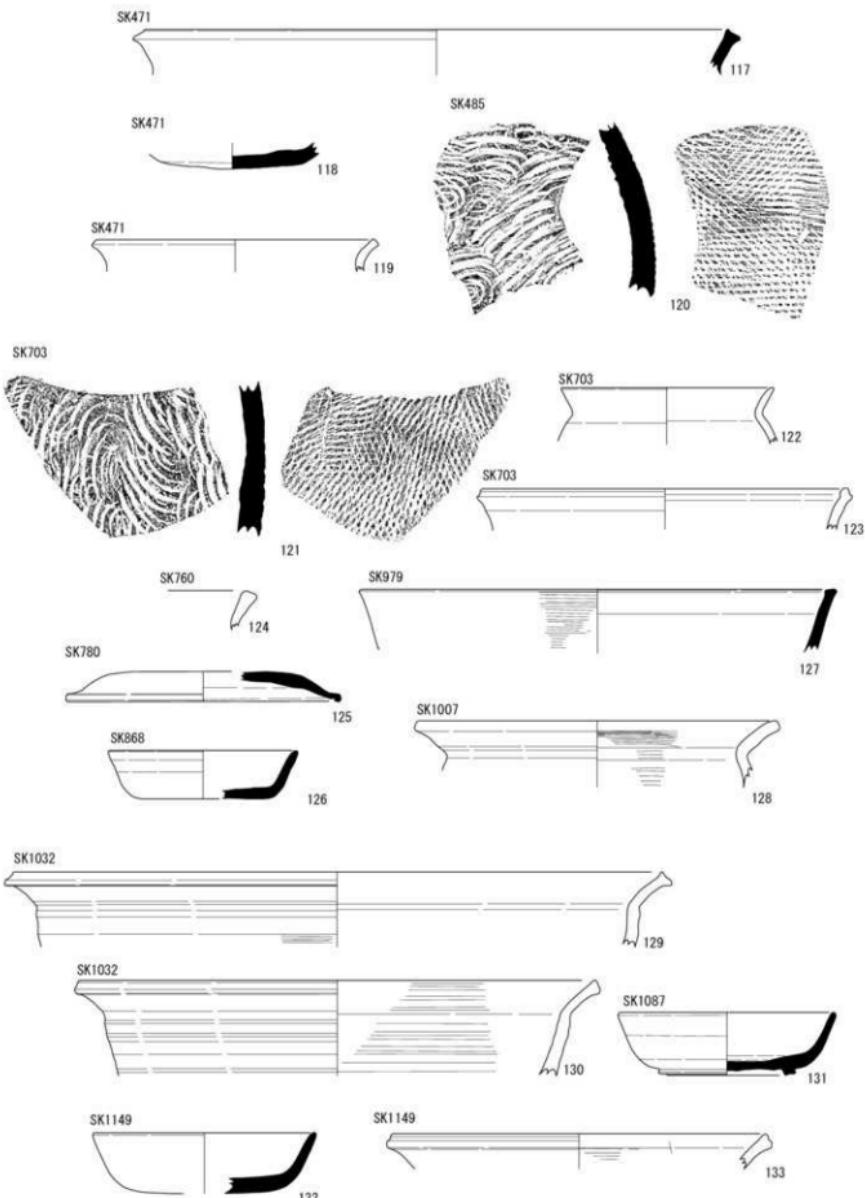
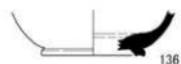
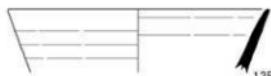


図 53 遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

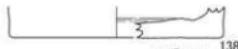
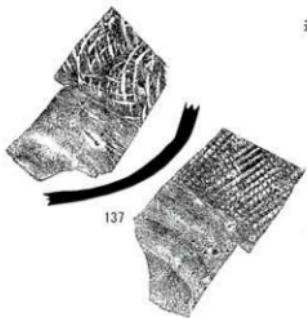
0 1:3 15cm

SX228

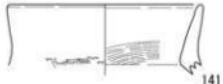


近世造構出土遺物

SK605



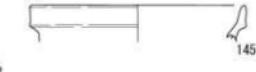
D7



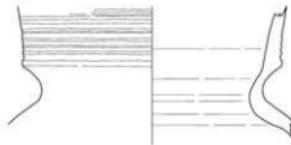
E8



D7



D7



D7



D7

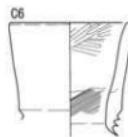
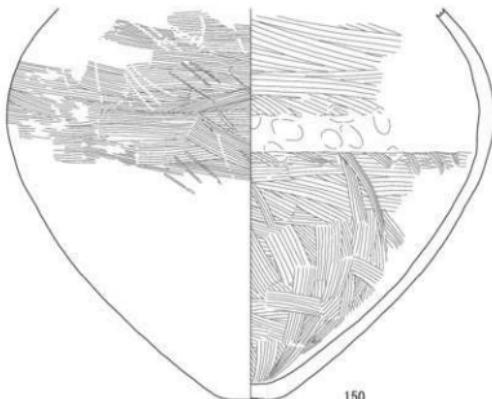


図 54 遺物実測図 (S = 1/3)

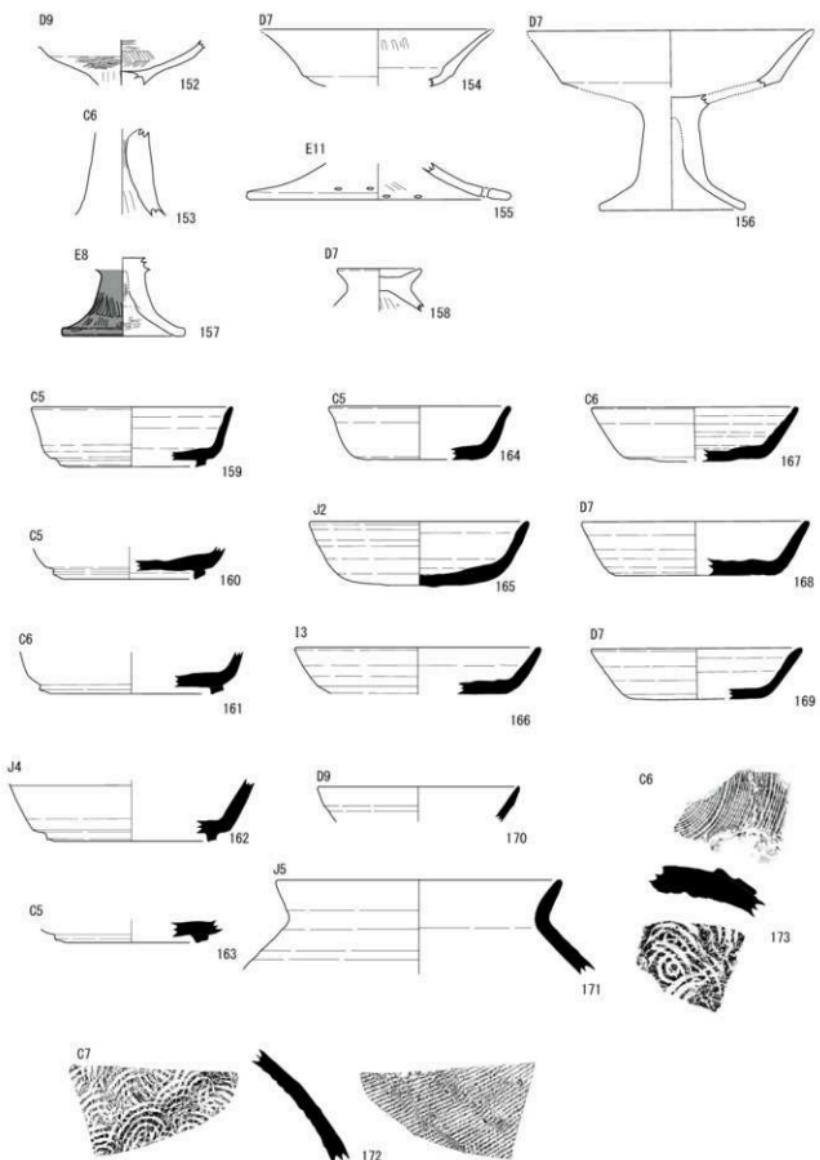


図 55 遺物実測図 (S = 1/3)

0 1:3 15cm

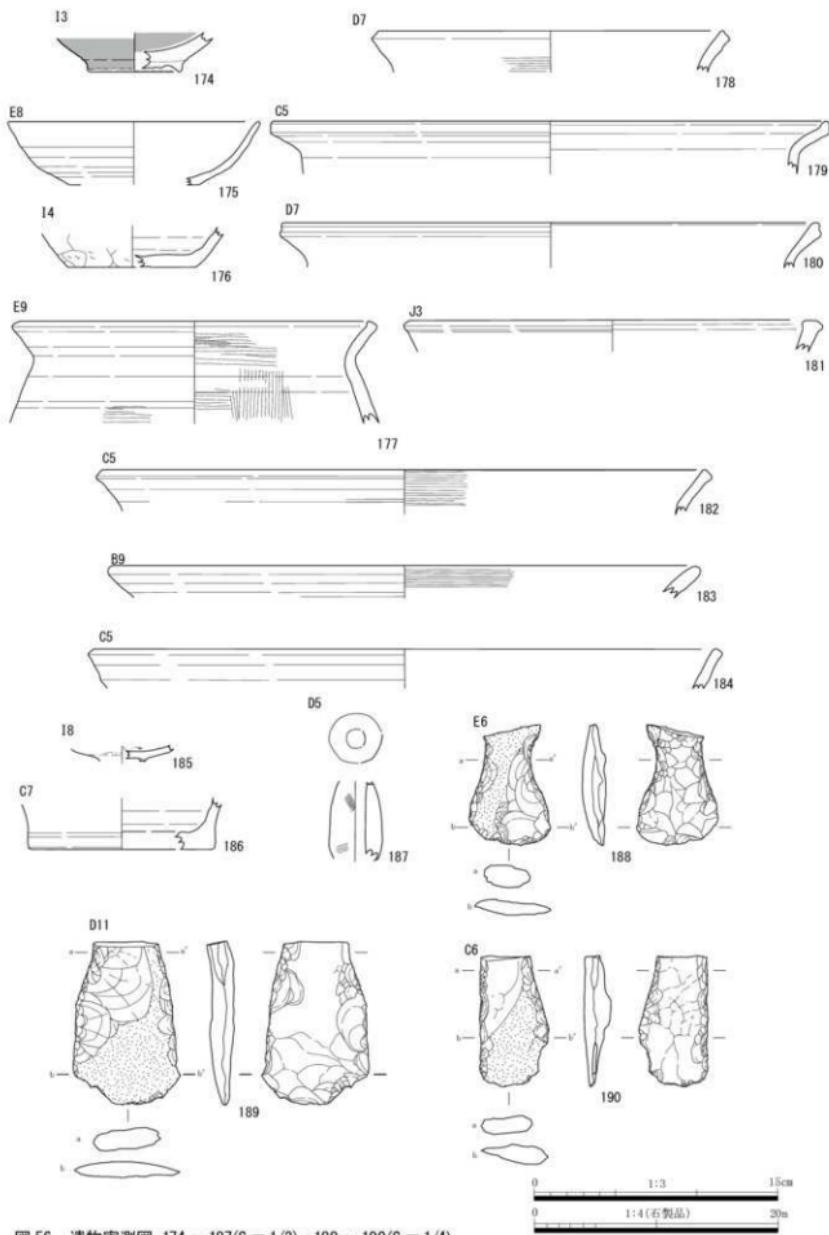


図 56 遺物実測図 174 ~ 187(S = 1/3)・188 ~ 190(S = 1/4)

表1 構造一覧表(1)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	構造		規模 (a × b × c) (m)		平面形	裏側、遮構との新旧関係	時期	備考 (注文:造物、相手:告書等監査年、種別:自然科学分科会結果等)
				種類	面積	長幅 (m)	短幅 (m)				
8-2	19・25	I	B10, C11 C10, C11	柱	1	11.82	11.41	0.38	円	待生脚	昭和12～30（済生土器・土師器・道楽器・日式）1段・2段にまたがり、東側隣接区画内に立てる。直径1000×高さ1000～1050×1000mm・1050×1050×1000～1100×1100×1100mm・1100×1100×1150mm・1180×1180×1180mmを伴う。
8-2	19・25	2	D11	柱-SK	1130	0.41	0.35	0.30	円	待生脚	昭和12～30（済生土器・土師器・道楽器・日式）1段・2段に立てる。直径1000×高さ1000～1050×1000mm・1050×1050×1000～1100×1100×1100mm・1100×1100×1150mm・1180×1180×1180mmを伴う。
7-2	17・27	1	C7, C8	柱	2	2.40	2.35	0.30	圓丸方角形	待生脚	昭和12～30（済生土器）隣接区画内へ立てる。
5-2	14・33	1	F8	柱	3	3.38	2.76	0.30	圓丸方角形	古代	昭和79・81（漁魚器・土師器）昭和79世紀後半～8世紀紀半ば
4-1	11・34	3	J4, J4	柱	4	0.34	2.86	0.18	圓丸方角形	古代	昭和79・81（漁魚器・土師器）AM（7世紀後半～8世紀紀半ば）
5-2	14・33	1	F8	柱-SK	1137	0.21	0.08	0.30	円	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）古代
5-2	14・33	1	F8	柱-SK	1136	0.51	0.18	0.12	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）古代
5-2, 6	14・15・23	1	F8	柱-SK	1166	0.61	0.2	0.23	橢円	柱	昭和79・81に伴う。裏側中央に位置する。カマド跡の可能性あり。
5-2	14・33	1	F8	柱-SK	1167	(1.25)	0.25	0.16	橢円内か	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）古代
5-2	14・33	1	F8	柱-SK	1168	0.32	0.25	0.08	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）古代
5-2	14・33	1	F8	柱-SK	1169	0.18	0.15	0.08	円	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）古代
5-2	14・33	1	F8	柱-SK	1170	0.21	0.15	0.08	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	270	0.66	0.58	0.40	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器・土師器）AM（7世紀後半～8世紀紀半ば）
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	271	(1.12)	0.93	0.30	橢円内か	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	805	0.35	0.6	0.34	円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	806	0.45	0.45	0.46	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	807	0.31	0.3	0.10	円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	812	0.51	0.3	0.08	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	816	0.62	0.6	0.10	円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	817	0.50	0.2	0.16	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	819	0.59	0.25	0.08	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	821	5.3	0.81	(2.86)	圓丸方角形	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	265	0.45	0.25	0.14	橢円	柱	昭和79・81（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	266	1.61	0.83	0.22	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	267	0.62	0.5	0.30	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	269	1.7	1.1	0.26	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	807	0.61	0.6	0.26	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	810	1.22	0.9	0.22	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-1	11・34	3	J4	柱-SK	1122	0.51	0.3	0.14	橢円	柱	昭和79・80（漁魚器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱	6	2.24	(2.36)	0.14	平盤形か	柱	昭和81（土師器）埋土中に炭化物・焼土を多量に含む。柱間に立てるカマド。
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	2901(B) 813	0.72	(0.55)	0.30	橢円内か	柱	昭和81（土師器）埋土中に炭化物・焼土を多量に含む。柱間に立てるカマド。
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	801	0.21	0.15	0.08	円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	802	0.25	0.25	0.08	円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	803	1.52	(0.92)	0.07	不整形か	柱	昭和81（土師器）埋土中に炭化物・焼土を多量に含む。柱間に立てるカマドの痕跡。
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	804	0.50	0.55	0.26	円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	813	1.31	0.8	0.38	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	819	0.26	0.25	0.14	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	820	0.71	0.6	0.16	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	817	7	3.02	(0.86)	圓丸方角形	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	12・36	3	I5	柱-SK	818	0.25	0.25	0.18	円	柱	昭和81（土師器）古代
4-2	11	3	I5	柱	8	2.61	(1.05)	0.06	圓丸方角形	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	941	0.45	0.45	0.34	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	942	0.35	0.3	0.28	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	943	0.22	0.6	0.30	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	944	0.36	0.25	0.16	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	945	0.21	0.3	0.22	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	952	0.34	0.5	0.22	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	953	0.35	0.3	0.26	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	956	0.32	0.33	0.28	橢円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	966	0.44	0.35	0.38	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	948	0.45	0.45	0.46	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	954	0.41	0.35	0.40	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	955	0.34	0.35	0.48	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	957	0.25	0.35	0.48	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	958	0.46	0.45	0.46	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	963	0.45	0.45	0.38	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	970	0.51	0.5	0.34	円	柱	昭和81（土師器）古代
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	741	0.92	0.8	0.36	橢円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	749	0.56	0.45	0.36	橢円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	754	0.44	0.35	0.35	橢円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	762	0.51	0.45	0.34	円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	766	0.66	0.5	0.36	橢円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	768	0.61	0.5	0.34	橢円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
6-1	18・37	1	E9	柱-SK	899	0.48	0.45	0.40	円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
7-2, 8-1	17・18・38	1	D6	柱-SK	833	0.54	0.55	0.34	円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）
7-2, 8-1	17・18・38	1	D6	柱-SK	835	0.44	0.40	0.30	円	柱	昭和84（土師器）昭和85（済生土器）

表1 構造一覧表(2)

全体固有 番号	構造番号	地区	グリッド	造様		屋根 (a × l) : ( )は調査区内	平面形	屋根、造様との割合関係	時期	備考 (出土物、相馬古事記遺物等、 地質、自然科学研究結果等)
				種類	面積	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)		
6-1	18・38	1	C9	SBS-SP	1106	0.51	0.45	0.22	円	-
6-1	18・38	1	C9 D9	SBS-SP	900	0.56	0.4	0.52	橢円	-
7-2, 8-1	17・18・38	1	D8	SBS-SP	932	0.61	0.6	0.64	円	-
7-2, 8-1	17・18・38	1	C9, D8	SBS-SP	934	0.62	0.55	0.46	円	SP924/SK975
7-2, 8-1	17・18・38	1	C8	SBS-SP	936	0.56	0.56	0.25)	0.42	橢円か
7-2, 8-1	17・18・38	1	D9	SBS-SP	937	0.56	0.45	0.30	橢円	-
8-1	18・38	1	D9	SBS-SP	938	0.51	0.50	0.48	円	-
5-2, 8-1	14・18・38	1	G8	SBS-SP	548	0.42	0.40	0.24	円	-
5-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	554	0.36	0.30	0.26	円	-
5-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	555	0.41	0.30	0.18	橢円	-
5-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	556	0.34	0.35	0.18	円	-
7-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	726	0.36	0.35	0.22	円	-
7-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	732	0.46	0.35	0.28	橢円	-
7-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	735	0.51	0.40	0.38	橢円	-
5-2, 8-1	14・18・38	1	E8	SBS-SP	1053	0.36	0.35	0.20	円	-
J-2	17・39	1	E7	SET-OP	690	0.77	0.33	0.54	円	-
J-2	17・39	1	E7	SET-OP	691	0.66	0.50	0.32	橢円	-
J-2	17・39	1	E7	SET-OP	694	0.81	0.70	0.52	円	-
J-2	17・39	1	D7	SET-OP	699	0.82	0.80	0.26	円	-
J-2	17・39	1	D7	SET-OP	700	0.69	0.4	0.46	橢円	SP700/SK930
J-2	17・39	1	D7	SET-OP	702	0.44	0.45	0.44	円	-
J-2	17・39	1	E7	SET-OP	704	0.66	0.5	0.52	橢円	-
J-2	17・39	1	E7	SET-OP	1113	0.44	(0.2)	0.26	円か	-
J-2	17・39	1	E7	SET-OP	1114	0.46	(0.2)	0.10	円か	-
J-1	16・39	1	E6	SBS-SP	625	0.56	0.4	0.26	円	-
J-1	16・39	1	E6	SBS-SP	629	0.41	0.35	0.14	橢円	-
J-1	16・39	1	E6	SBS-SP	631	0.36	0.35	0.21	円	-
J-1	16・39	1	E6	SBS-SP	637	0.46	0.4	0.28	円	-
J-1	16・39	1	D6	SBS-SP	643	0.66	0.45	0.34	圓丸方形	-
J-1	16・39	1	D6	SBS-SP	650	0.61	0.45	0.32	橢円	-
J-1	16・39	1	D6, E6	SBS-SP	653	0.46	0.45	0.32	円	-
J-1	16・39	1	E6	SBS-SP	656	0.31	0.3	0.22	円	SK857と重複。
S-1	13・40	1	F6	SBS-SP	384	0.88	0.65	0.32	円	SP385/SP384
S-1	13・40	1	F6	SBS-SP	386	0.51	0.5	0.22	円	-
S-1	13・40	1	F5	SBS-SP	389	0.49	0.4	0.28	圓丸方形	-
S-1	13・40	1	F5, F6	SBS-SP	393	0.51	0.5	0.40	円	-
S-1	13・40	1	E5	SBS-SP	411	0.52	0.45	0.34	円	-
S-1	13・40	1	E5	SBS-SP	470	0.54	0.55	0.36	円	-
S-1	13・40	1	E5	SBS-SP	471	0.41	0.3	0.22	橢円	-
S-1	13・40	1	E5	SBS-SP	472	0.91	0.45	0.28	橢円	SP423/SP422
S-1	13・40	1	F6	SBS-SP	474	0.71	0.6	0.34	円	土師器
S-1	13・40	1	F5	SBS-SP	354	0.56	0.45	0.40	橢円	-
S-1	13・40	1	F6	SBS-SP	357	0.54	0.4	0.24	橢円	-
S-1	13・40	1	F6	SBS-SP	381	0.56	0.5	0.44	円	-
S-1	13・40	1	F5	SBS-SP	385	0.54	0.45	0.30	橢円	SP385/SP384
S-1	13・40	1	F5	SBS-SP	390	0.51	0.35	0.34	橢円	-
S-1	13・40	1	F5	SBS-SP	392	0.46	0.35	0.36	橢円	-
S-1	13・40	1	E5, E6	SBS-SP	398	0.41	0.4	0.34	円	-
S-1	13・40	1	E6	SBS-SP	418	0.52	0.45	0.19	橢円	-
S-1	13・40	1	E6	SBS-SP	423	0.46	0.45	0.22	円	SP423/SP422
S-1	13・40	1	F6	SBS-SP	425	0.42	0.4	0.28	圓丸方形	-
S-1	13・41・42	1	F6	SB11-OP	378	0.31	0.3	0.22	円	SB11と重複。
S-1	13・41・42	1	F6	SB11-OP	426	0.36	0.35	0.28	円	-
S-1	13・41・42	1	F6	SB11-OP	455	0.34	0.35	0.20	円	-
S-1	13・41・42	1	F6	SB11-OP	460	0.36	0.35	0.34	円	-
S-1	13・41・42	1	F6	SB11-OP	454	1.84	1.20	0.46	圓丸方形	大型土師器414に伴う屋根部分の可能性あり。
S-1	13・41・42	1	F6	SB11-OP	373	0.58	0.45	0.34	橢円	-
S-1	13・41・42	1	E6, F6	SB11-OP	446	0.36	0.65	0.50	圓丸方形	SP446/SP445
S-1	13・42	1	E6, F6	SB11-OP	450	0.61	0.45	0.58	橢円	-
S-1	13・42	1	F6	SB11-OP	462	0.61	0.5	0.34	円	-
S-1	13・42	1	F7	SB11-OP	476	0.51	0.5	0.30	圓丸方形	SP476/SP475
S-1	13・42	1	F7	SB11-OP	526	0.55	0.4	0.36	橢円	-
S-1	14・43	1	F7	SB11-OP	528	0.45	0.45	0.48	橢円	-
S-1	14・43	1	E7	SB11-OP	567	0.6	0.4	0.46	橢円	-
S-1	14・43	1	E7	SB11-OP	662	0.45	0.5	0.40	橢円	-
S-1	14・43	1	E7	SB11-OP	469	0.55	0.45	0.52	橢円	-
S-1	14・43	1	F7	SB11-OP	477	0.45	0.65	0.38	橢円	SP477/SP476
S-1	14・43	1	F7	SB11-OP	482	0.45	0.4	0.08	円か	SP482/SP482
S-1	14・43	1	F7	SB11-OP	483	0.45	0.45	0.48	円か	SP483/SP483
S-2	14・42	1	F7	SB11-OP	488	0.6	0.4	0.50	橢円	-
S-2	14・42	1	F7	SB11-OP	490	0.55	0.55	0.56	円	-
S-2	14・42	1	F7	SB11-OP	494	0.25	0.55	0.50	橢円	SP494/104(土師器)
S-2	14・42	1	F7	SB11-OP	495	0.64	0.4	0.58	橢円	SP495/105(土師器)
S-2	14・42	1	F7	SB11-OP	497	0.45	0.45	0.48	円	SP497の柱跡取り扱い
S-2	14・42	1	F7	SB11-OP	478	0.65	0.45	0.46	円か	SP478/SP478, SK472

表1 遺構一覧表(3)

全体遺構番号	標本番号	地区	グリッド	遺構		遺構 (a) × (b) は調査区内			平面形	裏面、遺構との新旧関係、漢の移向	時期	備考(出土物類、相馬古事記載植物、種類、自然学分野結果等)
				種類	№	長径(幅)	短径(幅)	深さ(高)				
5-2	14・43・44	1	F7	SE14-SP	401	0.50	(0.5)	0.40	円か	S481>SK1101, SK480	古代	相馬106(遺構面)
5-2	14・43・44	1	F7	SE14-SP	404	0.55	0.55	0.38	円	-	古代	
5-2	14・43・44	1	F7	SE14-SP	406	0.50	0.46	0.40	円	-	古代	
5-2	14・43・44	1	F7	SE14-SP	513	0.5	0.4	0.40	円	SP5(3)>SK312	古代	
5-2	14・44	1	F8	SE15-SP	406	0.4	0.35	0.30	円	-	古代	
5-2	14・44	1	F8	SE15-SP	501	0.6	0.3	0.38	円	-	古代	
5-2, 8-1	14・18・44	1	F8	SE15-SP	550	0.4	0.3	0.38	円	-	古代	
5-2	14・44	1	F8	SE15-SP	551	0.55	0.4	0.36	椭円	-	古代	土師器
B-2	18・44	1	D10	SE15-SP	1134	0.25	0.25	0.22	円	SD134(SB15)>S13	古代	土師器 S13と重複し、より新しいSB15の柱穴。
6, 8-1	15・18・45	1	F9	SE16-SP	576	0.5	0.45	0.34	椭円	-	古代	相馬107(遺構面)
6	15・45	1	F9	SE16-SP	577	0.5	0.45	0.30	円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE16-SP	578	0.65	0.6	0.40	円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE16-SP	584	0.4	0.4	0.22	円	SD365と重複。	古代	遺構面
B-2, 6	14・15・45	1	F9	SE16-SP	588	0.4	0.4	0.14	円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE16-SP	590	0.6	0.5	0.34	椭円	-	古代	
B-2, 6	14・15・45	1	F9	SE16-SP	591	0.5	0.4	0.22	椭円	-	古代	
B-2, 6	14・15・45	1	F9	SE16-SP	600	0.5	0.5	0.14	円	-	古代	
6, 8-1	15・18+	1	E9	SE17-18-SP	567	0.4	0.25	0.14	椭円	-	古代	
6, 8-1	15・18+	1	E9	SE17-18-SP	568	0.65	0.35	0.24	椭円	-	古代	
6, 8-1	15・18・45	1	E9	SE17-SP	561	0.25	0.25	0.24	円	-	古代	
6, 8-1	15・18・45	1	E9	SE17-SP	565	0.3	0.25	0.22	円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE17-SP	575	0.3	0.3	0.24	円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE17-SP	581	0.40	0.45	0.24	円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE17-SP	582	0.55	0.4	0.24	椭円	-	古代	
6	15・45	1	F9	SE17-SP	583	0.35	0.25	0.20	椭円	-	古代	
6, 8-1	15・18+	1	E9	SE18-SP	566	0.2	0.3	0.24	椭円	-	古代	
6, 8-1	15・18・46	1	F9	SE18-SP	570	0.35	0.2	0.10	椭円	-	古代	
6, 8-1	15・18・46	1	F10	SE18-SP	571	0.4	0.4	0.20	円	-	古代	
6, 8-1	15・18・46	1	E9	SE18-SP	572	0.25	0.25	0.10	円	-	古代	土師器
6-3	18・40	1	E9	SE18-SP	761	0.4	0.35	0.42	椭円	-	古代	
6-3	18・40	1	E9	SE18-SP	764	0.35	0.35	0.50	円	-	古代	
5-2, 6	14・15	1	F9	SD	10	7.15	0.63	0.16	-	8-75.3'-E	古代	8-75.3'に北側約1.9mに位置し、植物に平行に伸びる。底面渦状。
2	9・47	3	F1,F2	SD	35	(1.75)	0.47	0.12	-	8-42.-E	古代	相馬108(土師器)東西脚踏区付へ伸びる。
1	8	3	H1	SD	64	(1.5)	0.24	0.18	-	8-42.5'-E	古代	西側脚踏区外へ伸びる。
1	8	3	H1	SD	66	(1.46)	0.21	0.12	-	8-64.8'-E	古代	SD7と並行して東側脚踏区付へ伸びる。
1	8	3	H1	SD	73	(1.32)	0.26	0.16	-	8-64.8'-E	古代	SD6と並行して東側脚踏区付へ伸びる。
1	8	3	H1	SD	88	(1.66)	0.4	0.26	-	8-15.6'-E	古代	東北脚踏区外へ伸びる。
1	8	3	H1	SD	90	0.61	0.26	0.04	-	8-13.5'-E	古代	北東脚踏区外へ伸びる。
4-1	11	2	I3	SD	93	2.51	0.2	0.12	-	8-79.5'-E	古代	-
1	8	3	J2	SD	113	1.15	0.25	0.08	-	8-25.3'-E	古代	-
1	8	2	J2	SD	120	1.7	0.25	0.18	-	8-77.0'-E	古代	-
4-1	11	47	I3	SD	140	(4.5)	0.45	0.16	-	8-4'-E	古代	約1.4m東にI344が並行して伸びる。
4-1	11	47	I3	SD	144	(4.3)	0.6	0.16	-	SD142/SD44 N-4'-E	古代	土師器 約1.4m西にSD142が並行して伸びる。
4-1	11	3	J3	SD	149	(1.2)	0.24	0.10	-	8-14.5'-E	古代	-
4-1	11	3	J3	SD	150	(5.5)	0.18	0.14	-	SD144 / SD305(SD150) N-25.7'-E	古代	-
4-1	11	3	J4	SD	170	11.5	0.5	0.23	-	SD153 / SK169 + 173 - 811 N-25.7'-E	古代	-
4-2	12	3	J5	SD	197	2.8	0.6	0.10	-	SD23と北側が重複。N-2.0'-E	古代	遺構面
4-2	12	3	J5	SD	198	(1.3)	0.6	0.20	-	SD23と北側が重複。N-2.0'-E	古代	
4-3	11	2	J4	SD	219	(1.1)	0.5	0.12	-	N-4'-E	古代	
1	8	3	J2	SD	257	(2.45)	0.4	0.14	-	SD23 / SD150 / SD257 N-24.3'-E	古代	土師器 漆器面
4-2, 5-3	12・13	1	H5	SD	289	(4.3)	0.2	0.12	-	N-2.2'-E	古代	
4-2, 5-3	12・13	1	H6	SD	303	1.25	0.3	0.12	-	N-6.0'-E	古代	
5-3	13	1	H5	SD	321	(2.25)	0.35	0.12	-	SD217 / SD193 N-6.0'-E	古代	
5-3	13	1	F5	SD	351	(3.4)	0.4	0.16	-	8-22.0'-E	古代	
5-3	13	1	F6	SD	363	3.5	0.3	0.08	-	SD6 / SD424 / SD263 N-5.3'-E	古代	
5-3	13	1	F6	SD	365	4.05	0.3	0.08	-	SD5 / SD243 N-5.3'-E	古代	
5-3	13	1	F6	SD	452	(2.8)	0.15	0.06	-	SD5 / SD243 N-5.3'-E	古代	
5-3	13	1	F6,F7	SD	457	1.25	0.25	0.12	-	SD5 / SD548 N-5.2'-E	古代	
5-3	13	1	F6,F7	SD	464	(5.1)	0.25	0.26	-	SD44.1'-E	古代	
5-3	13	1	F6,F7	SD	474	(1.85)	0.25	0.18	-	SD44.1'-E	古代	
5-3	14	1	F7	SD	509	2.6	0.5	0.13	-	SD45.2/SD509 N-61.0'-E	古代	
5-3	13	1	F6,F7	SD	521	2.6	0.02	0.12	-	8-62.2'-E	古代	
5-2	14	1	SD	546	0.26	0.4	0.20	-	8-67.0'-E	古代		
7-1	16	1	E6	SD	641	1.5	0.3	0.12	-	8-63.7'-E	古代	
7-1	16	1	SD	655	3.25	0.25	0.20	-	SD63 / SD548 N-60.0'-E	古代		
7-2	17	1	E7	SD	719	2.25	0.25	0.12	-	8-78.5'-E	古代	
T-1,T-2	16・17	1	E6-E7	SD	720	14.7	0.15	0.12	-	SD720と平行脚面	古代	
T-2	17	1	E8	SD	744	3.65	0.72	0.16	-	8-3.0'-E	古代	
T-2	17	1	E9	SD	728	2.26	0.39	0.12	-	8-25.0'-E	古代	
T-2, 6-1	17・18	1	E8,E9	SD	739	2.59	0.25	0.14	-	8-25.0' ~ 11.0'-E	古代	
6-1	18	1	E9	SD	742	2.14	0.46	0.16	-	8-4.0'-E	古代	
7-2, 8-1	17・18	1	E6	SD	758	4.22	0.19	0.17	-	8-21.0'-E	古代	
6-2	19	1	E10	SD	767	2.68	0.33	0.12	-	8-6.0'-E	古代	
6-1	19	1	E9,E10	SD	770	3.91	0.26	0.10	-	8-10.0'-E	古代	
6-1	18	1	E10	SD	771	2.02	0.28	0.10	-	SD63 / SD771 N-4.2'-E	古代	磯文土器
6-2	19	1	E10	SD	772	2.01	0.29	0.26	-	8-6.5'-E	古代	磯文土器

表1 構造一覧表(4)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	造様		屋根 (a) × (b) は調査区内			平面形	壁厚、造様との新旧関係、漢の輪方向	時期	備考(土造物、相馬告書用鉄造物、種類、自然科学分野結果等)
				種類	面積	長径(縦)	短径(横)	深さ(高)				
6-2	19	1	E10	SD	777	2.29	0.36	0.10	-	8-6. 0°-E	古代	相馬2(漢文土器)
7-1	16	1	D6+7	SD	396	5.76	0.25	0.18	-	8-74. 0°-E	古代	土師器 約1m北に位置する50897と東西方向に並行して伸びる。
7-1	16	1	D6+7	SD	397	4.36	0.31	0.12	-	50897:50898: 667 ￥72. 5°-E	古代	西側に位置する50895と同一の漢の可能性がある。
7-2, 8-1	17 + 18	1	G8, D8	SD	924	1.11	0.36	0.08	-	8-20. 0°-E	古代	相馬3(土師器)
8-1	18	1	D9	SD	961	3.29	0.46	0.08	-	8-9. 3°-E	古代	-
7-1	16	1	D6	SD	967	1.51	0.31	0.12	-	8-32. 4°-E	古代	東側に位置する50897と同一の漢の可能性がある。
7-2, 8-1	17 + 18	1	G8, D8	SD	969	2.79	0.47	0.12	-	8-18. 6°-E	古代	-
8-1	18	1	D9	SD	973	1.37	0.17	0.10	-	8-26. 5°-E	古代	-
8-1	18	1	G9, D9	SD	986	5.72	0.23	0.20	-	8-24. 6°-E	古代	-
8-2	19 + 29	2	E11	SD	391	1.05	1.69	0.21	-	8-65. 5°-E	界生期	相馬32-53(生土層) 積穴調査箇所の可能性がある。
10-1	22	2	A9, B9	SD	1014	3.31	0.22	0.08	-	8-25. 4°-E	古代	-
B-1, 2-2	18 + 19	1	C10	SD	1026	(0.52)	0.33	0.30	-	8-23. 7°-E	古代	-
8-2	19	1	C10	SD	1096	(2.4)	0.24	0.21	-	501096:501109 + 511 ￥14. 6°-E	古代	東側調査区外へ延びる。(511内)
3	10	3	D1	SK	11	0.35	(0.13)	0.23	円か	-	古代	-
2	10	3	D2	SK	12	0.25	0.24	0.20	円	-	古代	-
2	9	3	F1	SK	15	0.34	0.26	0.10	楕円	-	古代	-
2	9	3	F1	SK	16	0.75	(0.41)	0.17	楕円内か	-	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	17	0.4	0.32	0.20	円	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	18	0.45	0.26	0.24	楕円	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	19	0.30	0.18	0.16	楕円	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	20	0.65	0.55	0.08	楕円	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	21	0.62	0.41	0.26	不規則	-	古代	5022と重複關係。
2	9	3	G1	SK	22	0.39	0.23	0.22	不規則	-	古代	5021と重複關係。
2	9	3	G1	SK	23	0.35	0.36	0.20	円	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	24	0.35	0.36	0.22	円	-	古代	-
1, 7	8 + 9	3	G1	SK	25	(1.1)	0.66	0.10	不規則か	5025-5026	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	26	(0.3)	0.31	0.20	楕円内か	5025-5026	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	F2	SK	28	0.35	0.36	0.04	円	-	古代	-
2	9	3	F1, F2	SK	29	0.35	0.24	0.04	円	-	古代	-
2	9 + 48	3	F1, F2	SK	30	0.25	0.21	0.12	円	-	古代	相馬109(土師器)
2	9	3	F1, F2	SK	31	0.55	0.22	0.12	楕円	-	古代	-
2	9	3	F1, F2	SK	32	0.25	0.20	0.06	円	-	古代	-
2	9	3	F1, F2	SK	33	(0.7)	0.54	0.18	楕円	-	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	F1	SK	34	0.25	0.24	0.26	円	-	古代	-
2	9	3	F1	SK	35	0.55	(0.27)	0.08	楕円内か	-	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	37	0.3	(0.21)	0.16	楕円内か	-	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1, G2	SK	38	0.4	0.32	0.30	楕円	-	古代	-
2	9	3	G2	SK	39	0.2	0.19	0.12	円	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	40	0.25	(0.16)	0.18	円か	-	古代	西側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	41	0.15	(0.17)	0.04	円か	-	古代	-
2	9	3	G1	SK	42	0.25	(0.37)	0.12	円か	-	古代	東側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	43	(0.7)	0.42	0.14	楕円内か	5043-5027?	古代	東側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	44	0.6	(0.37)	0.30	楕円内か	-	古代	東側調査区外へ延びる。
2	9	3	G1	SK	45	(0.75)	0.66	0.12	円か	-	古代	東側調査区外へ延びる。
2	9	3	G2	SK	46	0.30	0.21	0.06	楕円	-	古代	東側調査区外へ延びる。
2	9	3	F2	SK	47	0.25	0.26	0.14	円	-	古代	-
2	9	3	F2	SK	48	0.3	0.22	0.12	楕円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	52	0.35	0.31	0.40	不規則	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	53	0.2	0.2	0.18	円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	54	0.2	0.19	0.12	円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	55	0.25	0.24	0.16	円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	56	0.25	0.24	0.16	円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	57	3.4	(0.95)	0.17	楕丸形	-	古代	東側調査区外へ延びる。
1	8	3	H1	SK	58	0.85	(0.5)	0.13	楕円内か	5081と重複。	古代	東側調査区外へ延びる。
1	8	3	H1	SK	59	0.28	0.18	0.24	楕円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	60	0.65	0.58	0.14	楕円	-	古代	-
1	8	3	H1	SK	61	0.25	0.24	0.07	円	5058と重複。	古代	-
1	8	3	H1	SK	62	0.25	0.5	0.21	円	-	古代	東側調査区外へ延びる。
1	8	3	H1, JD	SK	63	0.45	0.4	0.16	円	-	古代	南側調査区外へ延びる。
3	8	3	H2	SK	65	0.24	0.5	0.21	円	-	古代	土師器 東側調査区外へ延びる。
1	8	3	H1	SK	67	0.24	0.26	0.12	円	-	古代	-
1	8	3	H1, H1	SK	68	(0.44)	0.36	0.08	楕円内か	5069-5068	古代	西側調査区外へ延びる。
1	8	3	H1, H1	SK	69	0.31	(0.16)	0.12	円	5069-5068	古代	西側調査区外へ延びる。
1	8	3	H2, H2	SK	70	0.38	0.44	0.17	不規則	5071-5070	古代	-
1	8	3	H2	SK	71	0.56	0.33	0.26	楕円	5071-5070	古代	-
1	8	3	H2	SK	72	0.3	0.29	0.21	円	-	古代	-
1	8	3	H2, JD	SK	74	0.23	0.15	0.24	円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	75	0.32	0.32	0.20	円	-	古代	-
1	8	3	H2, JD	SK	76	0.52	0.37	0.19	楕円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	77	0.71	0.41	0.16	楕円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	78	0.46	0.46	0.24	円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	79	0.59	0.29	0.14	不規則か	5079-5082	古代	南側調査区外へ延びる。
1	8	3	H2	SK	80	0.26	0.23	0.09	楕円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	81	0.24	0.24	0.06	円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	82	(0.21)	0.15	0.04	楕円内か	5078-5082	古代	-
1	8	3	H2	SK	83	0.22	0.31	0.48	円	-	古代	北側調査区外へ延びる。
1	8	3	H2	SK	84	0.36	0.3	0.10	円	-	古代	-
1	8	3	H2	SK	85	0.16	0.16	0.12	円	-	古代	-

表1 構造一覧表(5)

全体固有 番号	構造番号	地区	グリッド	構造		属性 (a) × (b) は調査区内		平面形	裏側、裏構との割合関係	時期	備考 (出土文物、相手告書等古物類、 種類、自然科学分野結果等)
				種類	№	長径 (m)	短径 (m)				
1	8	3	12	SK	86	0.24	0.25	0.10	円	~	古代
1	8	3	12	SK	89	0.32	0.29	0.12	円	~	古代 土葬器
4-1	11	3	13	SK	91	0.32	0.25	0.14	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	92	0.36	0.35	0.06	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	94	0.32	(0.16)	0.11	楕円か	~	古代 南側調査区外へ延びる。
4-1	11	3	13	SK	95	0.57	(0.22)	0.13	楕円か	~	古代
4-1	11	3	13	SK	96	0.71	(0.12)	0.11	楕円か	~	古代 南側調査区外へ延びる。
4-1	11	3	13	SK	97	0.36	0.33	0.22	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	98	0.31	0.24	0.06	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	99	0.32	0.29	0.18	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	100	0.21	0.26	0.10	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	101	0.3	(0.25)	0.08	円か	~	古代 北側調査区外へ延びる。
4-1	11	3	13	SK	102	0.3	0.3	0.08	円	~	古代
1	8	3	12	SK	103	0.2	(0.2)	0.08	円か	~	古代 南側調査区外へ延びる。
1	8	3	12	SK	104	0.3	0.3	0.18	円	~	古代
1	8	3	12	SK	105	0.4	0.3	0.06	円	SK105>SK106	古代
1	8	3	12	SK	106	0.35	0.35	0.26	円	SK105>SK106	古代
1	8	3	J2	SK	107	0.3	0.2	0.16	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	108	0.35	0.35	0.10	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	109	0.36	0.2	0.10	楕円	SK110と重複。	古代
1	8	3	J2	SK	110	0.45	0.25	0.22	楕円	SK110と重複。	古代
1	8	3	J2	SK	111	0.5	0.25	0.24	楕円	~	古代
1	8	3	J2	SK	112	0.9	0.45	0.50	楕円	~	古代
1	8	3	J2	SK	114	0.46	0.4	0.22	円	SK114>SK115	古代
1	8	3	J2	SK	115	0.5	0.4	0.12	楕円	SK114>SK115	古代
1	8	3	J2	SK	116	0.4	0.4	0.08	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	117	0.4	0.4	0.20	円	SK117>SK118	古代
1	8	3	J2	SK	118	0.4	(0.2)	0.14	円か	SK117>SK118	古代
1	8	3	J2	SK	119	0.46	0.45	0.26	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	121	0.25	0.25	0.08	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	122	0.35	0.2	0.06	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	123	0.5	0.2	0.14	楕円	~	古代
1	8	3	J2	SK	124	0.25	0.2	0.34	楕円	~	古代
1, 4-1	8+11	3	J0	SK	125	0.3	0.25	0.22	円	~	古代
1, 4-1	8+11	3	J0	SK	126	0.6	0.5	0.42	不整形	SK810と重複。	古代
1	8	3	12, 13	SK	128	0.5	0.5	0.16	不整形	SK810と重複。	古代
1, 4-1	8+11	3	13	SK	129	0.45	0.4	0.04	不整形	SK810と重複。	古代
1	8	3	13	SK	130	0.25	0.15	0.20	楕円	~	古代
1	8	3	12, 13	SK	131	0.3	1.25	0.10	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	132	0.3	0.25	0.04	円	~	古代
1	8	3	J2	SK	133	0.45	0.2	0.14	楕円	~	古代
4-1	11	3	12	SK	134	0.45	0.4	0.30	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	135	0.6	0.3	0.18	楕円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	136	0.6	0.55	0.52	円	SK810>SK136	古代
4-1	11	3	J2	SK	137	0.5	0.45	0.21	不整形	SK810と重複。	古代
4-1	11	3	J2	SK	138	0.6	0.55	0.36	楕丸方形	~	古代 土葬器
4-1	11	3	J2	SK	139	0.6	0.65	0.70	楕丸方形	SK139>SK140	古代
4-1	11	3	J2	SK	141	0.3	(0.25)	0.08	楕円か	SK142>SK143	古代
4-1	11	3	J2	SK	142	0.5	0.4	0.18	楕円	SK142>SK142	古代
4-1	11	3	J2	SK	143	0.55	0.55	0.44	円	SK143>SK144	古代
4-1	11	3	13	SK	146	0.25	0.25	0.04	円	~	古代
4-1	11	3	13	SK	147	0.5	0.45	0.34	円	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	148	0.45	0.45	0.34	円	SK148>SK150	古代
4-1	11	3	J2	SK	151	0.3	0.35	0.16	不整形	SK137と重複。	古代
4-1	11	3	13	SK	152	0.45	0.3	0.15	円か	SK132>SK140	古代
4-1	11	3	J2	SK	153	0.75	0.45	0.14	楕円	~	古代
4-1	11+48	3	J2	SK	154	0.55	0.52	0.20	円	~	古代 横幅10(土葬器) 游歩器
4-1	11+48	3	J2	SK	155	0.24	0.12	0.50	不整形	SK156>SK155	古代 土葬器
4-1	11+48	3	J2	SK	156	0.72	0.61	0.24	不整形	SK156>SK157	古代 横幅11(土葬器)
4-1	11	3	13	SK	157	0.45	(0.2)	0.20	円か	SK156>SK157	古代
4-1	11	3	13	SK	158	0.5	1.45	0.14	円	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	159	0.5	0.4	0.20	円	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	160	0.57	(0.48)	0.26	不整形か	SK160>SK161	古代
4-1	11	3	J2	SK	161	0.22	(0.20)	0.26	円か	SK160>SK161	古代
4-1	11	3	J2	SK	162	0.45	0.7	0.08	円	~	古代
4-1	11	3	14	SK	163	0.3	(0.2)	0.14	円か	~	古代
4-1	11	3	14	SK	164	0.2	0.2	0.14	円	~	古代
4-1	11	3	14	SK	165	0.8	0.8	0.49	円	SK809と重複。	古代
4-1	11	3	J2	SK	166	0.45	0.55	0.12	楕丸方形	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	167	0.55	0.5	0.22	楕丸方形	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	168	0.7	0.3	0.32	円	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	169	0.4	0.15	0.08	円	SK170>SK169	古代
4-1	11	3	J2	SK	171	(0.5)	0.25	0.22	楕円か	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	172	0.3	0.12	0.20	円	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	173	0.85	0.2	0.38	楕円	SK170>SK173	古代
4-1	11	3	J2	SK	174	0.65	(0.16)	0.20	円か	SK173>SK174	古代
4-1	11	3	J2	SK	175	0.55	0.27	0.32	円	SK175>SK174	古代
4-1	11	3	J2	SK	176	0.25	0.23	0.14	円	~	古代
4-1	11	3	J2	SK	177	0.4	0.13	0.22	円	~	古代
4-1	11	2	J2	SK	178	0.9	0.25	0.42	楕円	SK178>SK811	古代
4-1	11	2	14	SK	179	0.4	(0.12)	0.44	円か	~	古代 南側調査区外へ延びる。
4-1	11	2	14	SK	180	0.6	0.15	0.36	楕丸方形	~	古代 南側調査区外へ延びる。

表1 造構一覧表(6)

全体固有番号	探査番号	地区	グリッド	造構		属性 (a) × (b) : 調査区内	平面形	裏層、造構との剥離関係	時期	備考 (出土遺物、相馬古着用遺物等、 種類、自然科学分野結果等)
				種類	№.	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]		
4-1	11	3	14	SK	181	0.25	0.13	0.35	円	-
4-1	11	3	14	SK	182	0.7	0.55	0.32	橢円	SK182>SK15
4-1	11	3	14	SK	183	0.45	(0.35)	0.40	円か	-
4-2	12	3	14	SK	184	0.4	(0.3)	0.48	円か	-
4-2	12	3	J4	SK	185	0.4	0.4	0.22	円	-
4-2	12	3	14	SK	186	0.35	0.25	0.10	橢円	-
4-2	12	3	14	SK	187	0.35	0.35	0.30	円	-
4-2	12	3	15...6	SK	188	0.25	0.2	0.14	円	-
4-2	12	3	15	SK	189	0.4	0.15	0.20	橢円	-
4-2	12	3	15	SK	190	0.25	0.12	0.22	円	-
4-2	12	3	15	SK	191	0.15	0.07	0.12	円	-
4-2	12	3	15	SK	192	0.25	[0.12]	0.04	円か	SK192と重複。
4-2	12	3	15	SK	193	0.5	(0.25)	0.12	円か	SK192と重複。
4-2	12	3	15	SK	194	0.3	0.25	0.22	橢円	-
4-2	12	3	15	SK	195	0.25	0.35	0.30	円	-
4-2	12	3	15	SK	196	0.25	0.2	0.20	円	-
4-1	11	3	14	SK	199	0.45	(0.1)	0.06	橢円か	-
4-1	11	3	13	SK	201	0.3	0.2	0.36	橢円	-
4-1	11	3	14	SK	202	0.2	0.15	0.18	円	-
4-1	11	3	14	SK	203	0.18	0.16	0.22	円	SK204>9033
4-1	11	3	14	SK	204	0.22	0.29	0.28	橢円	SK204>9033
4-1	11	3	14	SK	205	0.25	0.3	0.22	円か	SK207と重複。
4-1	11	3	13...14	SK	206	0.9	(0.25)	0.44	楕丸方角か	-
4-1	11	3	14	SK	207	0.25	(0.2)	0.36	円か	SK207と重複。
4-1	11	3	14	SK	208	0.9	(0.25)	0.38	楕丸方角か	SK208と重複。
4-1	11	3	14	SK	209	0.9	(0.16)	0.16	楕丸方角か	SK211>9039
4-1	11	3	14	SK	210	1.0	0.2	0.10	不規則	-
4-1	11	3	14	SK	211	(0.2)	(0.25)	0.12	橢円か	SK212>9211
4-1	11	3	14	SK	212	(0.5)	(0.25)	0.34	橢円か	SK212>9211
4-1	11	3	14	SK	213	0.25	0.2	0.12	円	-
4-1	11	3	14	SK	214	0.3	0.25	0.36	円	-
4-1	11	3	14	SK	215	0.25	0.3	0.30	円	SK215>9216
4-1	11	3	14	SK	216	0.3	(0.2)	0.12	円か	SK217>9216<9203
4-1	11...48	3	14	SK	217	0.36	(0.13)	0.34	橢円か	SK217>9209>216
4-1	11	3	14	SK	219	0.25	(0.42)	0.12	橢円か	-
4-1	11	3	14	SK	220	0.6	(0.35)	0.28	橢円か	-
4-2	12	3	J5	SK	221	0.2	0.2	0.16	円	SK221>SK225
4-2	12	3	15	SK	222	0.3	(0.3)	0.30	橢円か	SK222>9223
4-2	12	3	14...5	SK	223	0.5	(0.25)	0.50	橢円か	SK223>9223
4-2	12...48	3	J5	SK	224	0.70	(0.6)	0.26	橢円か	SK224>9224
4-2	12	3	J5	SK	225	0.4	0.4	0.22	円	-
4-2	12	3	J5	SK	226	0.5	0.35	0.14	橢円	-
4-2	12	3	J5	SK	227	0.5	0.45	0.24	円	-
4-2	12...49	3	J5	SK	228	5.6	(2.16)	0.76	不整形	SK228と一部が重複。
4-1	11	3	J4	SK	229	0.55	0.35	0.36	橢円	-
4-2	12	3	J5	SK	230	0.6	(0.38)	0.18	楕丸方角か	SK231>SK230, SK224
4-1	11...49	3	J4	SK	231	0.7	(0.6)	0.24	円か	SK232>9203
4-1	11	3	J4	SK	232	0.4	(0.4)	0.34	円か	SK232>9203
4-1	12	3	J5	SK	233	1.4	(0.4)	0.34	円か	SK232>9203
4-2	12	3	15	SK	234	0.25	0.15	0.04	橢円	SK234>918
4-2	12	3	15	SK	235	0.5	0.4	0.38	橢円	-
4-2	12	3	15	SK	236	0.25	0.1	0.22	橢円	-
4-2	12	3	15	SK	237	0.25	0.25	0.22	円	-
4-2	12	3	16	SK	238	0.2	0.2	0.12	円	-
4-1	11	3	14	SK	239	0.15	0.04	0.10	円	-
4-1	11	3	14	SK	240	1.2	0.85	0.30	不規則	SK241と重複。
4-1	11	3	14	SK	241	0.2	(0.2)	0.18	円か	SK241>9240
4-2	12	3	14	SK	242	0.45	0.3	0.20	円	-
4-2	12	3	14	SK	243	0.25	0.25	0.10	橢円	-
4-2	12	3	14	SK	244	0.25	0.25	0.08	円	-
4-1	12	3	14	SK	245	0.45	(0.45)	0.26	円か	SK246と重複。
4-2	12	3	14	SK	246	0.45	(0.45)	0.34	円か	SK246と重複。
4-2	12	3	15	SK	247	0.43	0.43	0.12	円	-
4-2	12	3	14...5	SK	251	0.60	0.51	0.30	円	-
1	8	3	J1	SK	252	0.4	(0.4)	0.42	楕丸方角か	-
1	8...49	3	J1/J1	SK	253	0.29	0.3	0.24	円	SK253と 111 署
1	8	3	11	SK	254	0.85	0.6	0.38	橢円	-
1	8	3	11	SK	255	0.6	(0.21)	0.16	橢円か	-
1	8	3	J2	SK	256	0.26	0.35	0.26	円	-
1	8	3	J1+2	SK	258	(1.2)	0.8	0.26	橢円か	SK258>9237
1	8	3	J2	SK	259	0.5	0.45	0.34	円	-
1	8	3	12	SK	260	0.26	(0.3)	0.16	橢円か	-
1	8	3	J2	SK	261	0.65	(0.6)	0.16	橢円か	SK261>9237
4-1	11	3	J4	SK	263	0.6	0.55	0.40	円	SK263と 111 署
4-1	11	3	14	SK	267	0.45	0.45	0.26	橢円	SK267>9236, 511と重複。

表1 構造一覧表(7)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	選択		属性 (a) × (b) は調査区内			平面形	面積、構造との割合関係	時期	備考 (出土遺物、相馬告書用遺物名、種類、自然学分野結果等)
				種類	№	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)				
4-1	11	3	J4	SK	269	0.8	0.6	0.14	楕円	90268>515	古代	
2	9	3	G1	SK	277	0.55	0.3	0.35	楕円	90272>5073	古代	
2	9	3	G1	SK	273	(0.4)	0.3	0.18	楕円	90272>5073	古代	
2	9	3	G1	SK	274	0.35	(0.25)	0.36	円	90214>5018	古代	
2	9	3	G1	SK	275	0.2	0.2	0.06	円	90275>5040	古代	著者調査区外へ延びる。
5-1	13	1	G6	SK	279	0.35	0.3	0.06	円	-	古代	
5-1	13	1	G5	SK	280	0.3	0.3	0.12	円	-	古代	
4-2	12	1	H5	SK	281	0.3	0.25	0.20	円	-	古代	
4-2	12	1	H5	SK	282	0.4	0.4	0.22	円	-	古代	
4-2	12	1	H5	SK	283	0.8	0.55	0.16	楕円	90289>5083	古代	
4-2	12	1	H6	SK	284	0.95	0.85	0.22	円	-	古代	
4-2	12	1	H6	SK	285	0.6	0.3	0.18	楕円	-	古代	
4-2	12	1	H6	SK	286	0.45	0.4	0.12	円	-	古代	
4-2	12	1	H6	SK	287	0.4	0.25	0.10	楕円	-	古代	
4-2	12	1	H5	SK	288	0.35	(0.15)	0.20	円か	-	古代	
4-2	12	1	H5	SK	290	0.5	0.4	0.16	円	-	古代	
4-2	12	1	H6	SK	291	0.6	0.46	0.28	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H5, H6	SK	292	0.4	0.3	0.10	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H5	SK	293	0.4	0.4	0.12	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H5	SK	294	0.3	0.3	0.10	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H6	SK	295	0.35	0.35	0.08	円	-	古代	
4-2	12	1	H6	SK	296	0.3	0.25	0.10	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H5	SK	297	0.45	0.3	0.10	楕円	90297>5008	古代	
4-2, 5-1	12	13	H6, H6	SK	298	0.9	0.5	0.12	楕円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H5	SK	299	0.4	0.34	0.16	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H5	SK	300	0.4	0.36	0.28	円	-	古代	
4-2	12	1	H6	SK	302	0.4	0.15	0.04	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	304	0.65	0.5	0.14	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	305	0.35	0.2	0.04	楕円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H6	SK	306	0.25	0.25	0.18	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H6	SK	307	0.35	0.35	0.08	円	-	古代	
4-2, 5-1	12	13	H6	SK	308	0.3	0.3	0.12	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	309	0.45	0.25	0.12	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	310	0.5	0.35	0.10	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	311	0.5	0.45	0.16	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	312	0.45	0.25	0.10	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	313	0.5	0.4	0.14	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	315	0.65	0.8	0.14	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	316	0.3	0.6	0.18	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	317	0.8	0.6	0.16	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	318	0.55	0.6	0.10	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	319	0.6	0.3	0.10	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	320	0.45	0.4	0.16	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	321	0.25	1.25	0.10	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	322	0.95	0.5	0.16	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	323	0.4	0.35	0.10	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	324	0.25	0.3	0.08	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	325	0.3	0.25	0.10	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	326	0.4	0.35	0.10	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	328	0.4	0.25	0.26	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	329	0.45	0.3	0.16	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	330	0.25	0.2	0.02	円	-	古代	
5-1	13	1	G6, G6	SK	331	0.25	0.25	0.18	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	332	0.4	0.3	0.10	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	333	0.35	0.2	0.20	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	334	0.3	0.2	0.20	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	335	0.2	0.2	0.16	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	336	0.3	0.25	0.08	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	337	0.25	0.25	0.10	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	338	0.45	0.4	0.24	円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	339	0.45	0.35	0.14	楕円	-	古代	
5-1	13	1	G6	SK	340	0.25	0.25	0.14	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	341	(0.5)	0.35	0.04	楕円	90407>9047	古代	
5-1	13	1	F5, F6	SK	342	0.25	0.2	0.16	円	90402>9041	古代	
5-1	13	1	F5	SK	343	0.5	0.3	0.18	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	344	0.25	0.25	0.18	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	345	0.25	0.3	0.14	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	346	0.25	0.29	0.16	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	347	0.5	(0.4)	0.14	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	348	0.3	0.3	0.28	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	349	0.39	0.3	0.22	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	350	0.3	0.4	0.18	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	351	0.5	0.35	0.26	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	352	0.39	0.3	0.14	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	353	0.65	0.4	0.28	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	354	0.6	0.3	0.34	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	355	0.39	0.3	0.14	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	356	0.65	0.4	0.28	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	357	0.79	0.25	0.16	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	359	1.0	0.3	0.12	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	360	0.35	0.3	0.19	円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	361	0.5	0.28	0.08	楕円	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	362	0.2	0.25	0.20	円	90367>9040	古代	
5-1	13	1	F5	SK	364	0.4	0.25	0.12	楕円	90364>90365	古代	

表1 構造一覧表(8)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	構造		面積 (a) × (m)	面積 (a)	面積 (m)	深さ (m)	平面形	裏層、構造との割合関係	時期	備考 (土造物、相%告書監査結果%、種類、自然科学分野結果等)
				種類	面積								
5-1	13	1	F6	SK	366	0.29	0.25	0.06	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	367	0.29	0.25	0.06	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	369	0.3	0.3	0.18	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	370	0.7	0.35	0.42	橿円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	371	0.55	0.4	0.14	橿円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	372	0.35	0.3	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	374	0.3	0.3	0.08	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	375	0.3	0.25	0.20	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	377	0.55	0.4	0.40	橿円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	378	0.3	0.2	0.10	橿円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	379	0.2	0.15	0.12	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	380	0.3	0.25	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	382	0.45	0.4	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	387	0.25	0.25	0.20	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F5	SK	389	0.25	0.25	0.18	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F5,F6	SK	391	0.25	0.35	0.16	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E5,F5	SK	394	0.45	0.7	0.30	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E5	SK	395	0.3	0.25	0.18	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E5	SK	396	0.25	0.25	0.16	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E5	SK	399	0.4	0.3	0.14	橿円	30399<SK600・SK108	古代		植物倒伏部分が凹凸と重複する。
5-1	13	1	E5	SK	400	0.25	0.25	0.06	橿円	SK400>SK098	古代		
5-1	13	1	E5	SK	401	0.25	0.25	0.20	内	SK401>SK097	古代		
5-1	13	1	E5	SK	402	0.35	0.25	0.14	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E5	SK	403	0.35	0.25	0.12	橿円	SK403>SK604	古代		
5-1	13	1	E5	SK	404	0.35	0.25	0.26	橿円	SK403>SK604	古代		
5-1	13	1	E5	SK	405	0.45	0.45	0.20	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E5	SK	406	0.3	0.25	0.20	内	-	古代		
5-1	13	1	E5	SK	407	0.5	0.2	0.14	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E5	SK	408	0.25	0.25	0.20	内	-	古代		
5-1	13	1	E5,E6	SK	409	0.25	0.3	0.18	内	SK409>SK1060	古代		
5-1	13	1	E5	SK	410	0.31	0.20	0.10	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E6	SK	412	0.6	0.6	0.24	内	-	古代		
5-1	13	1	E6	SK	413	0.6	0.2	0.10	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E6	SK	414	0.7	0.25	0.10	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E6	SK	415	0.35	0.25	0.22	橿円	-	古代		
5-1	13	1	E6	SK	416	0.25	0.35	0.14	内	SK416>SK417	古代		
5-1	13	1	E6	SK	417	0.3	0.3	0.12	内	SK416>SK417	古代		
5-1	13	1	E6	SK	419	0.25	0.25	0.16	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	426	0.3	0.3	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	427	0.3	0.25	0.06	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	429	0.2	0.15	0.06	内	SK429>SK429	古代		
5-1	13	1	F6	SK	430	0.25	0.2	0.18	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	431	0.25	0.2	0.24	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	432	0.25	0.2	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6,F6	SK	433	0.75	0.4	0.54	内	SK433>SK434	古代		
5-1	13	1	E6,F6	SK	434	0.15	0.45	0.34	内	SK433>SK434	古代		
5-1	13	1	E6	SK	435	0.5	0.4	0.14	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	436	0.25	0.25	0.26	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	437	0.12	0.12	0.26	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	438	0.3	0.25	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	439	0.25	0.3	0.24	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	440	0.25	0.25	0.14	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	441	0.3	0.3	0.10	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	442	0.25	0.25	0.14	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	443	0.25	0.25	0.08	内	-	-	古代	
5-1	13	1	E6	SK	444	0.3	0.25	0.18	内	SK444>SK445	古代		
5-1	13	1	E6	SK	445	0.35	0.3	0.20	内	SK444>SK445	古代		
5-1	13	1	F6	SK	447	0.35	0.25	0.08	橿円	-	古代		土跡面
5-1	13	1	F6	SK	448	0.4	0.35	0.32	内	SK448>SK449	古代		土跡面
5-1	13	1	F6	SK	449	0.3	0.2	0.34	内	SK448>SK449	古代		土跡面
5-1	13	1	F6	SK	451	0.25	0.2	0.17	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	452	0.45	0.25	0.16	橿円	SK452>SK453	古代		
5-1	13	1	F6	SK	454	0.45	0.3	0.34	橿円	SK457>SK466	古代		
5-1	13	1	F6,F7	SK	459	0.6	0.25	0.10	内	SK458>SK469	古代		
5-1	13	1	F6	SK	461	0.25	0.25	0.22	橿円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	462	0.25	0.25	0.18	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	464	0.3	0.3	0.20	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	466	0.35	0.2	0.16	橿円	-	-	古代	遺物面
5-2	14-49	1	E7	SK	470	0.4	0.3	0.22	橿円	-	-	古代	相%16(土跡面)
5-2	14-49	1	E7	SK	471	0.7	0.6	0.24	内	-	-	古代	相%117~119(土跡面) 漢唐器
5-2	14-42	1	E7	SK	472	0.25	0.25	0.34	内	-	-	古代	
5-2	14-43	1	F7	SK	479	0.95	0.65	0.40	橿円	SK479>SK478	古代		
5-2	14	1	F7	SK	480	0.35	(0.25)	0.27	内か	SK481, SK480	古代		
5-2	14-48	1	F8	SK	481	0.7	0.6	0.34	内	-	-	古代	相%120(土跡面)
5-2	14	1	F8	SK	481	0.15	0.25	0.28	内	-	-	古代	
5-2	14-50	1	F7	SK	489	0.11	0.25	0.17	内	-	-	古代	
5-2	13	1	F7	SK	491	0.25	0.25	0.22	内	-	-	古代	
5-1	13	1	F7	SK	492	0.22	0.22	0.27	内	-	-	古代	
5-1,5-2	13-14	1	F7	SK	493	0.4	0.28	0.20	橿円	-	-	古代	
5-2	14-42	1	F7	SK	496	0.75	0.05	0.44	内	SK497と重複	古代		
5-2	14-43~44	1	F8	SK	500	0.25	0.25	0.16	内	-	-	古代	

表1 構造一覧表(9)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	選択		属性 (a) × (b) は調査区内			平面形	裏層、表層との剥離関係	時期	備考 (出土物類、相%、告書類若者等)	
				種類	N.	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]					
5-2	14	1	F8	3K	502	0.2	0.2	0.16	円	-	古代		
5-2	14	1	F8	3K	503	0.25	0.25	0.30	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	504	0.25	0.2	0.08	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	505	0.25	0.2	0.06	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	506	0.25	0.25	0.12	円	-	古代		
5-2	14	1	F8	3K	507	0.7	0.3	0.30	楕円	95050>95057	古代		
5-2	14	1	F8	3K	508	0.45	0.35	0.08	円	95050>95057	古代		
5-2	14	1	F8	3K	509	0.25	0.25	0.14	円	-	古代		
5-2	14	1	F8	3K	510	0.3	0.3	0.30	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	511	0.3	0.3	0.16	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	512	0.3	0.25	0.30	円	9513>9512	古代		
5-2	14-43-44	1	F7	3K	514	0.5	0.45	0.10	円か	9514/9515	古代	土跡群	
5-2	14-43-44	1	F7	3K	515	0.45	0.25	0.12	楕円	9514+9514>9515	古代		
5-2	14	1	F7	3K	516	0.9	0.65	0.22	楕円	9514+9514>9515	古代		
5-2	14-43-44	1	F7	3K	517	0.3	0.3	0.10	円	9517>9516	古代		
5-1-2	13-14	1	F7	3K	518	0.25	0.3	0.36	楕円	-	古代		
5-1	13	1	F7	3K	522	0.9	0.66	0.60	不整形	-	古代	土跡群	
5-2	13	1	F7	3K	523	0.3	0.3	0.16	円	-	古代	土跡群	
5-2	13	1	F7	3K	524	0.4	0.4	0.18	円	-	古代		
5-2	13	1	F7	3K	525	0.25	0.25	0.22	円	-	古代		
5-1	13	1	F7	3K	527	0.4	0.3	0.12	楕円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	529	0.25	0.2	0.14	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	530	0.35	0.3	0.22	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	531	0.7	0.45	0.12	楕円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	532	0.3	0.25	0.12	楕円	-	古代		
5-1-3	13	1	F7, 07	3K	533	0.55	0.3	0.30	楕円	-	古代		
5-3	13	1	G7	3K	534	0.3	0.3	0.06	円	-	古代		
5-1-3	13	1	G7	3K	535	0.6	0.35	0.16	楕円	-	古代		
5-1	13	1	G7	3K	536	0.45	0.35	0.26	楕円	-	古代		
5-1-3	13	1	G7	3K	537	0.25	0.25	0.18	楕円	-	古代		
5-1-3	13	1	G7	3K	538	0.5	0.45	0.36	円	-	古代		
5-2	14	1	G7	3K	539	0.3	0.25	0.18	円	-	古代		
5-2	14	1	G7	3K	540	0.3	0.3	0.22	円	-	古代		
5-2	14	1	G7	3K	541	0.25	0.25	0.26	円	-	古代		
5-2	14	1	F7, 07	3K	542	0.35	0.35	0.22	円	-	古代		
5-2	14	1	F8, 08	3K	543	0.25	0.25	0.36	円	-	古代		
5-2	14	1	F7	3K	544	0.3	0.25	0.14	円	-	古代		
5-2	14	1	G8	3K	545	0.25	0.25	0.10	円	-	古代		
5-2	13	3	G7, 08	3K	547	0.25	0.35	0.46	円	-	古代	土跡群	
5-2, 8-1	14+18	1	E8, F8	3K	549	0.45	0.35	0.24	楕円	-	古代	土跡群	
7-2, 8-1	14+18	1	E8	3K	552	0.45	0.4	0.24	円	-	古代		
7-2, 8-1	17+18	1	E8	3K	553	0.55	0.55	0.4	0.10	楕円	-	古代	
5-2, 8-1	14+15+18	1	E8	3K	557	0.25	0.25	0.08	円	-	古代		
5-2, 8-1	14+15+18	1	E8	3K	558	0.2	0.2	0.08	円	-	古代		
6, 8-1	15+18	1	E9	3K	559	0.3	0.25	0.18	円	-	古代		
6, 8-1	15+18	1	E9	3K	560	0.25	0.2	0.12	円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	E9	3K	562	0.30	0.25	0.22	楕円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	F9	3K	563	0.2	0.2	0.08	円	-	古代		
6, 8-1	15+18	1	F9	3K	564	0.2	0.2	0.08	円	-	古代		
6, 8-1	15+18	1	F9	3K	569	0.4	0.3	0.16	楕円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	572	0.6	0.18	0.40	円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	574	0.5	0.2	0.22	楕円	-	古代	土跡群	
6, 8-1	15+18	1	F9	3K	579	0.25	0.13	0.10	円	-	古代		
6, 8-1	15+18	1	F9	3K	580	0.4	0.15	0.06	楕円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	585	0.4	0.15	0.08	楕円	95044と重複。	古代		
5-2, 8-1	14+15+18	1	F9	3K	586	0.2	0.2	0.10	円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	F9	3K	587	0.2	0.2	0.14	円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	589	0.5	0.23	0.34	円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	F9	3K	592	0.25	0.2	0.12	楕円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	F9	3K	593	0.25	0.2	0.12	円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	F9	3K	594	0.2	0.2	0.16	円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	595	0.3	0.25	0.12	楕円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	596	0.5	0.23	0.40	円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	597	0.3	0.1	0.18	楕円	-	古代		
6	15	1	F9	3K	598	0.4	0.15	0.20	楕円	-	古代		
5-2, 6-1	14+15+18	1	F9	3K	599	0.2	0.2	0.20	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	601	0.13	0.1	0.10	楕円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	602	0.15	0.13	0.17	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	603	0.15	0.12	0.20	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	604	0.15	0.15	0.24	円	-	古代		
5-2	14+51	1	F9	3K	605	2.2	1.3	0.22	楕円	-	近代	網戸133-180(通中面戸、近代陶磁器、ガラス裏盤)	
5-2	14	1	F9	3K	606	0.25	0.25	0.16	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	607	0.15	0.07	0.16	楕円	-	古代		
5-2	14	1	F9, 08	3K	608	0.13	0.13	0.16	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	609	0.13	0.16	0.14	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	610	0.13	0.12	0.02	円	-	古代		
5-2	14	1	F9, 08	3K	611	0.13	0.12	0.08	円	-	古代		
5-2	14	1	F9	3K	612	0.13	0.13	0.16	円	-	古代		

表1 遺構一覧表(10)

全体固有番号	標本番号	地区	グリッド	遺構		属性 (a) × (b) )は調査区内		平面形	裏層、遺構との剖面関係	時期	備考 (出土遺物、相馬古着用遺物等、 種類、自然科学分野結果等)
				種類	№	長径 (m)	短径 (m)				
5-2	14	1	GB	SK	613	0.13	0.12	0.10	円	-	古代
5-2	14	1	GB	SK	614	0.10	0.10	0.20	円	-	古代
b-2, 6	14+ 15	1	GB	SK	615	0.15	0.13	0.22	円	-	古代
5-2	14+ 42+ 44	1	F7	SK	616	0.28	(0.23)	0.26	橢円	SK476/SK816	古代
5-2, 6	14+ 15	1	FB	SK	617	(0.15)	0.15	0.20	橢円(b)	SK101/SK871	古代
7-1	16	1	E5	SK	621	0.55	0.25	0.22	橢円	-	古代
7-1	16	1	E5	SK	622	0.5	0.4	0.22	橢円	-	古代
7-1	16	1	E5	SK	623	0.45	0.3	0.10	橢円	-	古代
7-1	16	1	E5	SK	624	0.25	0.2	0.10	円	-	古代
7-1	16	1	E5	SK	626	0.4	0.4	0.16	円	-	古代
7-1	16	1	E5	SK	627	0.4	0.35	0.14	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	628	0.35	0.25	0.16	橢円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	630	0.25	0.25	0.24	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	632	0.2	0.15	0.20	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	633	0.25	0.25	0.16	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	634	0.25	0.25	0.18	円	SK634/SK635	古代
7-1	16	1	E5	SK	635	0.25	0.2	0.16	円	SK634/SK635	古代
7-1	16	1	E5	SK	636	0.2	0.15	0.08	円	-	古代
7-1	16	1	D5	SK	636	0.4	0.35	0.30	橢円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	638	0.25	0.35	0.16	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	639	0.55	0.3	0.10	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	640	0.25	0.25	0.10	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	642	0.40	0.3	0.12	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	644	0.25	0.5	0.18	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	645	0.3	0.25	0.16	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	646	0.35	0.3	0.14	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	647	0.4	0.3	0.22	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	648	0.35	0.3	0.12	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	649	0.4	0.25	0.14	橢円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	651	0.35	0.25	0.12	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	652	0.3	0.2	0.16	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6, E6	SK	654	0.3	0.2	0.34	橢円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	657	0.35	0.2	0.22	橢円	SK658と重複	古代
7-1	16	1	E6	SK	658	0.55	0.25	0.12	橢円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	659	0.2	0.15	0.10	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	660	0.25	0.2	0.12	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	661	0.2	0.2	0.16	円	-	古代
7-1	16	1	E6	SK	662	0.3	0.2	0.06	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6, E6	SK	663	0.3	0.2	(0.3)	不整形	-	古代
7-1	16	1	D6, E6	SK	664	0.35	0.25	0.42	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6, E6	SK	665	0.27	0.22	0.26	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	666	(0.7)	0.3	0.14	橢円	SK657-SK666	古代
7-1	16	1	D6	SK	667	0.6	(0.25)	0.10	橢円	SK657-SK667	古代
7-1	16	1	D6	SK	668	0.45	0.18	0.16	橢円	SK657-SK668	古代
7-1	16	1	D6	SK	669	0.3	0.23	0.28	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	670	0.45	0.2	0.10	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	671	0.4	0.12	0.12	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	672	0.25	0.15	0.08	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	673	0.3	0.13	0.20	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	674	0.3	0.12	0.12	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	678	0.5	0.25	0.20	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	679	0.4	0.15	0.16	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	680	0.25	0.13	0.10	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	681	0.55	0.22	0.56	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	682	0.25	0.1	0.14	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	683	0.26	0.28	0.24	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	685	0.55	0.2	0.39	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	686	0.23	0.09	0.27	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	687	0.4	0.15	0.16	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	688	0.35	0.15	0.10	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	689	0.35	0.12	0.12	不整形	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	692	0.4	0.15	0.26	橢円	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	693	0.65	0.23	0.16	橢円	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	695	0.3	0.15	0.28	円	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	696	0.19	0.1	0.17	円	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	697	0.4	0.1	0.18	橢円	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	698	0.4	0.1	0.26	橢円	-	古代
7-2	17	1	E7	SK	701	0.2	0.12	0.12	円	-	古代
7-1	16+ 17	1	D6+ 7	SK	703	1.6	1.05	0.38	橢円	-	古代
7-1	16	1	D7	SK	705	0.55	0.45	0.08	円	-	古代
7-1	16	1	D7	SK	706	0.4	0.3	0.15	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6+ 7	SK	707	0.6	0.3	0.12	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6+ 7	SK	708	0.6	0.4	0.39	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	709	0.2	0.3	0.08	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	710	0.25	0.25	0.18	円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	711	0.45	0.28	0.22	橢円	-	古代
7-1	16	1	D6	SK	712	0.5	0.28	0.22	円	-	古代
7-1	16	1	D7	SK	713	0.25	0.3	0.28	橢円	-	古代
7-1	16	1	D7	SK	714	0.25	0.2	0.22	円	-	古代

幅約12m×12m(土師器) 深差約

土師器

表1 遺構一覧表(11)

全体固有番号	採取番号	地区	グリッド	遺構		遺構 (a) × (b) は調査区内			平面形	裏層、遺構との剖面関係	時期	備考 (出土遺物、相%、告書や既往物%、地質、自然分類結果等)
				種類	№	長径(幅)	短径(幅)	深さ(高)				
7-1	16	1	B7	SK	715	0.3	0.3	0.22	円	-	古代	
7-1	16	1	C07	SK	716	0.25	0.3	0.22	橢円	-	古代	
7-1	16	1	D6	SK	717	0.25	0.25	0.08	円	-	古代	
7-1	16	1	D6	SK	718	0.2	0.2	0.16	円	-	古代	
7-2	17	1	E8	SK	721	0.35	0.17	0.24	円	-	古代	
7-2	17	1	E8	SK	722	0.5	0.35	0.08	橢円	-	古代	
7-2	17	1	E8	SK	723	0.3	0.2	0.15	橢円	-	古代	
7-2	17	1	E8	SK	725	0.6	0.4	0.34	橢円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	727	0.45	0.45	0.35	円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	728	0.35	0.25	0.22	橢円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	729	0.7	0.55	0.35	橢円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	730	0.35	0.25	0.14	橢円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	733	0.4	0.4	0.34	円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	734	0.65	0.6	0.26	円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	736	0.3	0.3	0.26	円	-	古代	
7-2, B-1	17・18	1	E8	SK	737	0.40	0.40	0.22	円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	742	0.60	0.35	0.12	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	744	0.40	0.30	0.20	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	745	0.35	0.35	0.14	円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	746	0.40	0.30	0.22	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	747	0.35	0.30	0.08	円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	748	0.35	0.30	0.08	円	-	古代	
7-2, B-2	17・21	1	C7	SK	750	0.30	0.25	0.12	橢円	-	古代	
B-1	18	09, E9	SK	751	0.50	0.25	0.14	橢円	-	古代		
B-1	18	1	D8	SK	752	0.25	0.25	0.20	円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	753	0.40	0.35	0.08	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	755	0.35	0.30	0.14	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	756	0.58	0.55	0.06	円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	757	0.35	0.30	0.12	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	759	0.45	0.30	0.10	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	760	1.40	1.04	0.35	橢円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	762	0.55	0.55	0.16	円	-	古代	
B-1	18	1	E9	SK	765	0.45	0.45	0.44	円	-	古代	
B-1	18	1	D9, E9	SK	769	0.60	0.50	0.22	橢円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	773	0.40	0.30	0.08	橢円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	774	0.25	0.25	0.20	円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	775	0.30	0.30	0.12	円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	776	0.25	0.25	0.18	円	-	古代	
B-2	19・30	1	E10	SK	778	0.41	0.33	0.18	橢円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	779	0.56	0.33	0.26	橢円	-	古代	
B-2	19・50	1	E10	SK	780	0.55	0.45	0.22	橢円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	781	0.46	0.21	0.13	橢円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	782	0.33	0.19	0.30	円	-	古代	
B-1, B-2	18・19・30	1	D10, E10	SK	783	2.12	1.85	0.36	橢円	SK163と重複。	古代	
B-2	19	1	E10	SK	784	0.30	0.25	0.18	橢円	-	古代	
B-2	19	1	E10	SK	785	0.55	0.35	0.20	橢円	-	古代	
3-2	17	1	D7	SK	786	0.25	0.25	0.12	円	-	古代	
3-2	17	1	D7	SK	787	0.25	0.20	0.18	円	-	古代	
B-1	18	1	D9	SK	788	0.50	0.35	0.22	橢円	-	古代	
3-2	17	1	D7	SK	789	0.30	0.20	0.10	橢円	-	古代	
3-2	17	1	D7	SK	790	0.25	0.20	0.10	橢円	-	古代	
B-1	18	1	D9	SK	791	0.50	0.25	0.34	橢円	-	古代	
3-2	17	1	D7	SK	792	0.15	0.10	0.08	橢円	-	古代	
3-2	17	1	D7	SK	793	0.20	0.15	0.16	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	794	0.25	0.30	0.18	橢円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	795	0.20	0.15	0.17	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	796	0.15	0.15	0.18	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	797	0.25	0.25	0.14	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	798	0.25	0.25	0.14	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	799	0.15	0.15	0.17	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	800	0.20	0.15	0.17	橢円	-	古代	
4-1	11	3	I4	SK	802	0.2	0.4	0.28	円かSK163と重複。	古代		
4-1	11	3	J4	SK	811	(0.3)	(0.25)	0.57	橢円かSK111・SK178	古代		
4-1	11	3	I4	SK	814	0.25	(0.15)	0.34	橢円かSK111	古代		
1, A-1	8・11	3	J5	SK	815	0.25	0.25	0.18	円	-	古代	
1, A-1	8・11	3	J5	SK	817	0.25	0.25	0.2	円かSK129と重複。	古代		
3-2	17	1	C7	SK	821	0.30	0.20	0.20	橢円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	822	0.35	0.25	0.19	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	823	0.25	0.25	0.18	橢円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	824	0.25	0.25	0.16	円	-	古代	
3-2	17	1	C7	SK	825	0.20	0.15	0.12	円	-	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	826	0.25	0.20	0.20	橢円	-	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	827	0.30	0.25	0.20	円	-	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	828	0.30	0.25	0.12	円	-	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	829	0.19	0.18	0.10	橢円	-	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	830	0.29	0.20	0.16	円かSK31と重複。	古代		
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	831	0.40	0.20	0.28	円かSK31と重複。	古代		
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	832	0.25	0.20	0.18	円	-	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	833	0.25	0.20	0.14	橢円かSK31と重複。	古代		
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	834	0.20	0.20	0.08	円	SK31と重複。	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	837	0.25	0.25	0.10	橢円	SK31と重複。	古代	
3-2, B-2	17・21	1	C7	SK	838	0.20	0.20	0.10	円	SK31と重複。	古代	

表1 構造一覧表(12)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	構造		属性 (a) × (b) は調査区内				平面形	裏層、表層との剥離関係	時期	備考 (出土遺物、相%、告書用記述箇所、種類、自然科學分野結果等)
				種類	№	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)					
7-2, 9-2	17 + 21	1	C7	石	829	0.30	0.30	0.12	円	-	-	古代	
7-2, 9-2	17 + 21	1	C7	石	840	0.40	0.30	0.30	円	-	-	古代	
7-1, 9-1	16 + 20	1	C7	石	841	0.32	0.21	0.30	円	-	-	古代	
7-2, 9-1	17 + 20	1	C7	石	842	0.30	0.20	0.30	円	-	-	古代	
7-2, 9-1	17 + 20	1	C7	石	843	0.30	0.20	0.30	円	-	-	古代	
7-2, 9-1	17 + 20	1	C7	石	844	0.35	0.20	0.14	円	-	-	古代	
7-2	17	1	C7	石	845	0.25	0.20	0.34	円	-	-	古代	
7-2	17	1	C7	石	846	0.25	0.25	0.14	円	-	-	古代	
7-2	17	1	C7	石	848	0.30	0.20	0.34	円	-	-	古代	
7-2	17	1	C7	石	849	0.35	0.20	0.36	円	-	-	古代	
J-1, 3-2	16 + 17	1	C7	石	850	0.49	0.41	0.12	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	851	0.41	0.39	0.40	円	-	-	古代	土師器
J-1	16	1	C7	石	852	0.36	0.26	0.22	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	853	0.26	0.25	0.22	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	854	0.25	0.18	0.30	円	-	-	古代	
J-2	17	1	C7	石	855	0.24	0.16	0.18	円	-	-	古代	
J-1, 3-2	17	1	C7	石	856	0.25	0.15	0.30	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	857	0.35	0.25	0.10	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	858	0.2	0.2	0.24	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	859	0.45	0.22	0.22	円	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	860	0.3	(0.25)	0.14	円か	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	861	0.3	0.3	0.22	円か	-	-	古代	
J-1	16	1	C7	石	862	0.35	0.25	0.30	円	-	-	古代	
J-1	16	1	D6	石	863	0.25	0.2	0.14	円	-	-	古代	
J-1	16	1	G06	石	864	0.25	0.2	0.16	円	-	-	古代	
J-1	16	1	G06	石	865	0.25	0.2	0.12	円	-	-	古代	
J-1	16	1	G06	石	866	0.2	0.2	0.10	円	-	-	古代	
J-1	16	1	G06	石	867	0.2	0.2	0.14	円	-	-	古代	
J-1	16 + 50	1	G06	石	868	0.35	0.3	0.24	円	-	-	古代	相%125(漆器部)
J-1	16	1	G06	石	869	0.5	0.25	0.04	円	-	-	古代	
J-1	16	1	G06	石	870	0.3	0.3	0.22	円	-	-	古代	
J-2	17	1	B7	石	871	0.33	0.23	0.24	円	-	-	古代	
J-2	17	1	B7	石	872	0.26	0.24	0.18	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	873	0.35	0.3	0.18	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	874	0.25	0.2	0.10	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	875	0.4	0.15	0.12	不整形	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	876	0.2	0.15	0.10	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	877	0.35	0.2	0.22	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	878	0.8	0.3	0.18	不整形	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	879	0.25	0.2	0.24	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	880	0.2	0.15	0.14	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	881	0.6	0.3	0.18	不整形	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	882	0.4	0.2	0.17	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	883	0.4	0.3	0.12	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	884	0.45	0.5	0.14	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	885	0.45	0.4	0.08	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	886	0.3	0.25	0.26	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	887	0.4	0.3	0.26	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	888	0.35	0.2	0.14	円	-	-	古代	
J-3	16	1	G06	石	889	0.2	0.2	0.10	円	-	-	古代	
J-1, 9-1	16 + 20	1	G06	石	890	0.3	0.2	0.08	円	-	-	古代	
J-1, 9-1	16 + 20	1	G06	石	891	0.3	0.25	0.22	円	-	-	古代	
J-1, 9-1	16 + 20	1	G06	石	892	0.55	0.55	0.12	不整形	-	-	古代	
J-1, 9-1	16 + 20	1	G06	石	893	0.3	0.3	0.16	円	-	-	古代	
J-1, 9-1	16 + 20	1	G06	石	894	0.2	0.2	0.10	円	-	-	古代	
J-1	16	1	G06	石	895	0.3	0.25	0.20	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	896	0.25	0.35	0.28	円	-	-	古代	
J-2	17	1	B7	石	897	0.35	0.35	0.18	円	-	-	2000-1307(B)	古代
J-2	17	1	E8	石	898	0.20	(0.16)	0.12	円か	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	899	0.35	0.28	0.26	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	900	0.45	0.40	0.10	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	901	0.40	0.35	0.18	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	902	0.20	0.16	0.12	円か	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	903	0.35	0.28	0.26	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	904	0.30	(0.15)	0.10	円か	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	905	0.40	0.40	0.10	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	906	0.20	0.30	0.18	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	907	0.30	0.30	0.24	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	908	0.30	0.25	0.10	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	909	0.25	0.15	0.12	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	910	0.25	0.20	0.12	円	-	-	古代	
J-2	17	1	E8	石	911	1.10	0.80	0.18	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	912	0.60	0.35	0.20	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	913	0.40	0.35	0.24	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	914	1.44	0.92	0.36	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	915	0.25	0.20	0.14	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	916	0.50	0.30	0.30	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	917	0.50	0.40	0.22	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	918	0.40	0.30	0.18	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	919	0.35	0.25	0.06	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	920	0.65	0.40	0.08	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	921	0.45	0.35	0.20	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	922	0.35	0.25	0.12	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	923	0.30	0.30	0.12	円	-	-	古代	
J-2, 8-1	17 + 18	1	B8	石	925	0.75	0.45	0.28	円	-	-	古代	

表1 構造一覧表(13)

全体面積 面積	構造番号	地区	グリッド	造様		屋根 (a) × (b) )は調査区内		平面形	裏層、造様との割合関係	時期	備考(生土造物、相馬告書用鉄道物、 地盤、自然科学分野結果等)	
				種類	面積	長径 (m)	短径 (m)					
7-2, 8-1 17 + 18	1	DB	SK	807	0.30	0.30	0.28	円	-	古代		
7-2, 8-1 17 + 18	1	DB	SK	829	0.30	0.30	0.10	円	-	古代		
7-2, 8-1 17 + 18	1	DB	SK	929	0.35	0.35	0.16	円	-	古代		
7-2, 8-1 17 + 18	1	DB	SK	930	0.40	0.40	0.06	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	831	0.35	0.25	0.18	楕円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	839	0.30	0.25	0.22	楕円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	940	0.35	0.35	0.15	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	944	0.20	0.20	0.30	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	945	0.20	0.20	0.30	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	947	0.25	0.25	0.10	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	950	0.20	0.20	0.10	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	951	0.15	0.15	0.12	円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	959	0.30	0.25	0.24	楕円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	960	0.40	0.35	0.08	楕円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	962	0.25	0.25	0.10	楕円	SKE63と重複。	古代		
8-1 18	1	D9	SK	963	0.40	0.35	0.12	楕円	SKE62と重複。	古代		
8-1 18	1	D9	SK	964	0.30	0.25	0.18	楕円	-	古代		
8-1 18	1	D9	SK	965	0.15	0.10	0.08	楕円	-	古代		
7-3	17	1	E6	SK	966	0.30	0.25	0.11	楕円	-	古代	
7-2, 8-1 17 + 18	1	08, 29	SK	970	1.30	(0.90)	0.23	圓丸方形容	SB4またはSB5に伴う。	古代	東側調査区外へ延がる。	
B-1, 8-2 18 + 19	1	D10	SK	971	1.35	1.00	0.38	楕円	-	古代	土師器	
B-2	19	1	D10	SK	972	0.20	0.20	0.20	円	SKE63と重複。	古代	
J-1	16	1	D6	SK	974	0.41	0.29	0.12	楕円	-	古代	
J-2, 8-1 17 + 18	1	C8	SK	975	0.31	(0.21)	0.12	楕円	SB241・SB255	古代		
J-2, 8-1 17 + 18	1	DB	SK	976	0.22	0.22	0.30	円	-	古代		
J-1	16	1	E6	SK	977	0.45	0.2	0.16	不整形	-	古代	
J-1	16	1	E7	SK	978	0.7	0.45	0.20	楕円	-	古代	
J-2	16 + 50	1	D7	SK	979	0.7	0.6	0.24	円	-	古代	
J-1	16	1	D7	SK	980	0.2	0.15	0.10	円	-	古代	
J-1	16	1	D7	SK	981	0.2	0.2	0.22	円	-	古代	
J-2	17	1	E7	SK	982	0.3	0.25	0.10	円	-	古代	
B-2	19	1	D10	SK	984	0.75	0.65	0.44	楕円	-	古代	
B-2	19	1	D10	SK	985	0.5	0.35	0.10	楕円	-	古代	
B-2	19	2	D11	SK	987	0.25	0.25	0.16	円	-	古代	
B-2	19	2	D11	SK	988	0.25	0.15	0.18	円	-	古代	
B-2	19	2	D11	SK	989	0.40	0.25	0.12	楕円	-	古代	
B-2	19	2	B11, E11	SK	990	0.25	0.25	0.30	円	-	古代	
B-2	19	2	E11	SK	992	0.35	0.25	0.08	楕円	-	古代	
B-2	19	2	E11	SK	993	0.60	0.45	0.22	楕円	-	古代	
B-2	19	2	D11	SK	994	0.25	(0.15)	0.30	円か?	-	古代	
10-2	23	2	C11	SK	995	0.35	0.30	0.14	円	-	古代	
10-2	23	2	C11	SK	996	0.30	0.30	0.10	円	-	古代	
10-2	23	2	C11	SK	997	0.35	0.25	0.18	円	-	古代	
10-2	23	2	C11	SK	998	0.30	0.50	0.18	楕円	-	古代	
10-2	23	2	C11	SK	999	0.30	0.30	0.22	円	-	古代	
10-2	23	2	B11, C11	SK	1000	0.25	0.30	0.16	円	-	古代	
10-2	23	2	B11	SK	1001	0.25	0.35	0.18	円	-	古代	
10-2	23	2	B11	SK	1002	0.25	0.20	0.10	円か?	-	古代	
10-2	23	2	B11	SK	1003	0.61	0.17	0.28	不整形	-	古代	
10-2	23 + 31	2	C11	SK	1004	(1.15)	(0.72)	0.30	圓丸方形容	-	古代	
10-2	23 + 31	2	C11	SK	1005	(1.32)	1.02	0.32	圓丸方形容	SB157・SB158(生土層) 東側調査区外へ延がる。	古代	
10-2	23 + 31	2	B11	SK	1006	(1.05)	0.92	0.26	不整形か	-	生土層	
10-2	23 + 30	2	B11	SK	1007	0.68	0.41	0.15	楕円	-	古代	
10-2	23	2	B11	SK	1008	0.55	(0.25)	0.22	楕円か?	-	古代	
10-1	22	2	B9	SK	1009	0.35	(0.20)	0.20	円か?	-	古代	
10-2	23	2	A10	SK	1010	0.25	0.25	0.10	円	-	古代	
10-2	23	2	A10	SK	1011	0.25	0.25	0.15	円	-	古代	
10-1	22	2	A10	SK	1012	0.30	0.25	0.14	円	-	古代	
10-1	22	2	A9	SK	1013	0.40	0.25	0.08	楕円	-	古代	
10-1	22	2	B9	SK	1015	0.55	0.40	0.27	円	-	古代	
10-1	22	2	B9	SK	1016	0.75	0.30	0.20	楕円	-	古代	
10-1	22	2	A8	SK	1017	0.30	0.30	0.14	円	-	古代	
10-2	23	2	A11	SK	1018	0.50	0.25	0.12	楕円	-	古代	
J-2	17	1	E7	SK	1021	0.6	0.4	0.16	楕円	-	古代	
J-2	17	1	E7	SK	1022	0.45	0.45	0.14	円	-	古代	
J-2	17	1	E7	SK	1023	0.5	0.2	0.14	円	-	古代	
J-2	17	1	E7	SK	1024	0.2	0.2	0.14	円	-	古代	
B-1	18 + 30	1	C10, D10	SK	1025	(1.96)	1.60	0.36	円か?	生土層	SB181~72(生土層) 東側調査区外へ延がる。	
B-2	19	1	C10	SK	1027	0.19	0.16	0.10	楕円	-	古代	
B-2	19 + 31	1	D10	SK	1028	0.42	0.36	0.12	楕円か?	生土層	SB172(生土層)	
B-1	18	1	D9	SK	1029	0.32	0.31	0.20	円	-	古代	
B-1	18	1	D9	SK	1030	0.26	0.21	0.14	円	-	古代	
B-1	18	1	D9	SK	1031	0.22	0.22	0.18	円	-	古代	
B-1	18 + 51	1	D9	SK	1032	1.29	0.52	0.11	楕円	SK1095・SK1032	古代	
B-2	19	1	C9	SK	1033	(0.30)	0.25	0.20	楕円か?	-	古代	
B-2	19	1	D10	SK	1034	1.00	0.40	0.22	楕円	-	古代	
B-2	19	1	D10	SK	1035	0.25	0.20	0.24	楕円	-	古代	
B-2	19	1	D10	SK	1036	0.25	0.35	0.26	円	SK1036>511	古代	
B-2	19	1	D10	SK	1037	0.30	0.30	0.30	円	SK1037>511	古代	

表1 構造一覧表(14)

全体固有番号	構造番号	地区	グリッド	遺構		属性 (a) × (b) は調査区内				平面形	裏面、表面との割合関係	時期	備考 (出土遺物、相手古事記載遺物等、 地質、自然科学分野結果等)
				種類	№	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)					
6-1	18	1	E10	SK	1038	0.20	0.20	0.26	円	-	-	古代	
6-1	18	1	E10	SK	1039	0.20	0.20	0.24	円	-	-	古代	
6-2	19+31	1	D10	SK	1040	0.36	0.26	0.13	橢円	SK1040>SI1	古代	備考47(古墳土跡部)	
6-2	19	1	D10	SK	1041	0.41	0.29	(0.12)	橢円か	SK1041>SI1	古代		
6-2	19	1	D10	SK	1042	0.26	0.25	0.08	円	SK1042>SI1	古代		
6-2	19+31	1	D10	SK	1043	1.03	1.01	0.60	円	SK1043>SD1026	古生層	備考45(古生土器)	
6-3	18	1	E10	SK	1044	0.62	0.54	0.23	橢円	SK1044>SD70	古代		
10-1	22	2	B9	SK	1045	0.25	0.25	0.10	円	-	-	古代	
10-1	22	2	B9	SK	1046	0.20	0.20	0.12	円	1047と重複。	-	古代	
10-1	22	2	B9	SK	1047	0.56	0.20	0.12	円	1048と重複。	-	古代	
6	15	1	F9	SK	1051	0.25	0.15	0.32	円	-	-	古代	
6	15	1	F9	SK	1052	0.55	0.23	0.18	橢円	SK1052>SD10	古代		
6-3	13	1	F7	SK	1054	0.4	0.35	0.12	円	-	-	古代	
6-3	13	1	F7	SK	1055	0.4	0.35	0.18	円	-	-	古代	
6-3	13	1	F6	SK	1056	0.3	0.25	0.08	円	-	-	古代	
6-3	13	1	F5	SK	1057	0.25	0.2	0.16	円	-	-	古代	
6-3	13	1	E5	SK	1058	0.2	0.15	0.10	円	SK1058>SK1099	古代		
6-3	13	1	E5	SK	1059	0.25	0.25	0.18	円	-	-	古代	
6-3	13	1	E5,F5	SK	1060	0.25	(0.15)	0.08	橢円か	SK1059>SK1060	古代		
1	8	3	J2	SK	1061	0.4	(0.25)	0.22	円か	-	-	古代	北側調査区外へ延びる。
1	8	3	J2	SK	1062	0.95	0.3	0.35	橢円	-	-	古代	北側調査区外へ延びる。
1	8	3	J2	SK	1063	0.5	0.35	0.30	橢円	-	-	古代	北側調査区外へ延びる。
1	8	3	J3	SK	1064	0.5	0.2	0.36	橢円	-	-	古代	北側調査区外へ延びる。
4-3	11	3	J3	SK	1065	0.8	0.25	0.14	橢円	SK1065>SD150	古代		
4-3	11	3	J3	SK	1066	0.35	0.3	0.14	円	-	-	古代	
4-3	11	3	J3	SK	1067	0.35	0.3	0.22	円	SK1067<SD140	古代		
4-3	11	3	J3	SK	1068	0.2	0.35	0.12	橢円	-	-	古代	北側調査区外へ延びる。
4-3	11	3	J3	SK	1069	0.15	0.35	0.34	橢円	-	-	古代	北側調査区外へ延びる。
4-5	11	3	J3	SK	1070	0.55	0.5	0.46	橢円	-	-	古代	
5-1	13	1	E6,F6	SK	1071	0.5	0.25	0.14	橢円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	1072	0.2	0.15	0.08	橢円	-	-	古代	
5-2	14+31	1	G7	SK	1074	0.25	0.25	0.12	円	-	-	古代	備考56。相手76(土跡部)
6-2	19	2	D11	SK	1082	0.13	0.13	0.16	円	SK1082>SI1	古代		
6-2	19	1	D10	SK	1083	0.34	0.32	0.24	円	-	-	古代	
6-2	19	1	D10	SK	1084	0.41	0.34	0.20	円	-	-	古代	
6-2	19	1	D10	SK	1085	0.21	0.19	0.16	円	SK1085>SI1	古代		
6-2	19	1	D10	SK	1086	0.36	0.34	0.20	円	SK1086>SI1	古代		
6-2	19+50	1	D10	SK	1087	0.41	0.32	0.09	橢円	SK1087>SI1	古代	備考131(須土器)	
6-2	19	1	D10	SK	1088	0.41	0.37	0.16	円	-	-	古代	
7-2,8-1	17+18+31	1	SD+8	SK	1091	0.55	0.55	0.20	円	SK1089>SK1090	古代	備考77(砂土土器)	
7-2,8-1	17+18	1	C9	SK	1090	0.42	0.41	0.24	円	SK1089>SK1090	古代		
7-2,8-1	17+18	1	D8	SK	1091	0.31	0.30	0.10	円	-	-	古代	
9-1	20	1	B5	SK	1092	0.51	(0.27)	0.26	円か	-	-	古代	
9-1	20	2	B5	SK	1093	0.36	(0.26)	0.20	橢円か	-	-	古代	
7-1,9-1	16+20	1	C5	SK	1094	0.42	0.29	0.30	橢円	-	-	古代	
8-1	18	1	S9	SK	1095	0.22	0.16	0.20	橢円	SK1095>SK1032	古代		
5-1	13	1	F7	SK	1096	0.25	0.25	0.26	円	-	-	古代	
5-1	13	1	F7	SK	1097	0.2	0.2	0.10	円	-	-	古代	
5-1	13	1	F6	SK	1098	0.25	0.25	0.18	円	-	-	古代	
5-2	14+41+44	1	F7	SK	1101	(0.2)	0.15	0.20	橢円か	SD101と同一遺構。	-	柱根跡を勘定除外。	
5-1	13	1	F7	SK	1102	0.25	0.2	0.08	円	-	-	古代	
5-1	13	1	F7	SK	1103	0.2	0.2	0.18	円	-	-	古代	
5-1	13	1	F7	SK	1104	0.25	0.2	0.16	円	-	-	古代	
5-2	14	1	G7,G8	SK	1105	0.45	0.17	0.18	橢円	-	-	古代	
5-2	14	1	F8	SK	1106	0.25	0.1	0.16	円	-	-	古代	
5-2	14	1	F8	SK	1107	0.25	0.1	0.10	橢円	-	-	古代	
8-2	19	1	E10	SK	1109	0.24	0.21	0.14	橢円	SK1109>SK1110	古代		
8-2	19+24	1	E10	SK	1110	1.02	0.59	0.40	橢円	SK1109>SK1110	古代		
8-2	19	1	E10	SK	1111	0.36	0.35	0.16	円	-	-	古代	
8-2	19	1	E10	SK	1112	0.31	0.30	0.30	円	-	-	古代	
8-1	18	1	S9	SK	1115	0.26	0.24	0.24	円	-	-	古代	
7-1	16	1	E6	SK	1116	0.47	0.32	0.17	橢円	-	-	古代	
7-2,8-1	17+18	1	E9	SK	1117	0.91	0.74	0.17	橢円	-	-	古代	
8-2	19	1	C10	SK	1118	0.36	0.36	0.14	円	SK1118>SI1	古代		
8-2	19	1	C10,D9S	SK	1119	0.44	0.41	0.49	円	SK1119>SI119>SI1	古代		
7-1	16	1	C7	SK	1123	0.21	0.16	0.14	橢円	-	-	古代	
7-1	16	1	C7	SK	1124	0.26	0.21	0.17	円	-	-	古代	
7-2	17	1	C7	SK	1125	0.19	0.15	0.12	円	-	-	古代	
7-2	17	1	C7	SK	1126	0.65	0.25	0.14	橢円	-	-	古代	
7-2	17	1	D7,D8	SK	1127	0.30	0.20	0.16	橢円	-	-	古代	
7-2	17	1	D7	SK	1128	0.39	0.20	0.18	円	-	-	古代	
7-2,8-1	17+18	1	B6	SK	1129	0.25	0.25	0.22	円	-	-	古代	
7-1,9-1	17+20	1	B6	SK	1131	0.89	0.40	0.39	橢円	-	-	古代	
8-2	19	1	D10	SK	1132	0.25	0.25	0.18	円	-	-	古代	
8-2	14	1	F9	SK	1133	0.27	0.11	0.12	橢円	-	-	古代	
6	15	1	F9	SK	1135	0.22	0.08	0.14	円	-	-	古代	
6-2	19	1	C10	SK	1139	0.20	0.15	0.24	円	SK1139>SI1	古代		
6-2	19	1	C10	SK	1140	0.20	0.15	0.20	円	SK1140>SI1	古代		

備考1-5-1(須土土器、竹手土器、土器類)  
須土中に多量の土器、陶片、骨子(ナニガル)を  
自然科學分析結果参照。  
ANAL: 915-601cal BC (95.4%)

表1 構造一覧表(15)

全体固有番号	採集番号	地区	グリッド	遺構		遺構 (a) × (l) は調査区内	平面形	裏層、遺構との剖面関係	時期	備考 (出土遺物、相馬古墳群遺物等、地質、自然分類結果等)
				種類	名					
6-2	19	1	C10	SK	1141	0.35 (0.15)	0.32	円か	-	古代
7-2, 8-1	17 + 18	1	D8	SK	1142	0.30 (0.20)	0.40	円	-	古代
7-2, 8-1	17 + 18	1	D8	SK	1143	0.35 (0.20)	0.38	円	-	古代
7-2	17	1	D7	SK	1144	0.25 (0.20)	0.16	楕円	-	古代
7-2	17	1	D8	SK	1145	0.30 (0.20)	0.16	円	-	古代
7-2	17	1	D8	SK	1146	0.35 (0.20)	0.18	円	-	古代
7-2, 8-1	17 + 18	1	D8	SK	1147	0.40 (0.30)	0.10	円	-	古代
7-2, 8-1	17 + 18	1	D8	SK	1148	0.15 (0.15)	0.10	円	-	古代
8-1	19 + 51	1	D9	SK	1149	1.21	0.82	0.12	楕円	-
8-2	19	1	E10	SK	1150	0.26	0.26	0.35	円	-
8-2	19	1	E10	SK	1151	0.31	0.21	0.12	楕円	-
8-1	18	1	C9	SK	1152	0.34	0.33	0.10	円	-
8-2	19	1	O10	SK	1153	1.15	(0.20)	0.08	楕円か	311と重複。
7-1	16	1	D6	SK	1154	0.29	0.28	0.20	円	-
7-1	16	1	D6	SK	1155	0.31	0.29	0.26	円	-
7-1	16	1	G6	SK	1156	0.26	0.21	0.08	円	-
7-1	16	1	C7	SK	1157	0.31	0.30	0.24	円	-
7-2	17	1	C7	SK	1158	0.21	0.14	0.12	楕円	-
7-2	17	1	C7	SK	1159	0.24	0.16	0.18	楕円	-
7-2, 8-2	17 + 21	1	C7	SK	1160	0.33	(0.15)	0.22	円か	-
7-2, 8-2	17 + 21	1	C7	SK	1161	0.26	(0.16)	0.30	円か	-
7-2, 8-2	17 + 21 + 31	1	C7	SK	1162	0.51	0.26	0.28	楕円	-
7-2	17	1	D7	SK	1163	0.22	0.21	0.20	円	-
7-2	17	1	E7	SK	1164	0.26	0.24	0.18	円	-
8-2	19	2	E11	SK	1165	0.23	0.21	0.12	円	-
5-2, 6	14 + 15	1	G8	SK	1171	0.35	0.25	0.16	楕円	-
5-2, 6	14 + 15	1	G8	SK	1172	0.3	0.2	0.16	楕円	-
5-2	14	1	G8	SK	1173	0.35	0.3	0.40	円	-
5-2	14	1	G8	SK	1174	0.3	0.25	0.20	楕円	-
5-2	14	1	G7	SK	1175	0.25	0.3	0.18	円	-
5-2	14	1	F7	SK	1176	0.25	0.25	0.18	円	-
5-1	13	1	F5	SK	1177	0.55	0.35	0.22	楕円	-
5-1	13	1	F5	SK	1178	0.6	0.3	0.28	楕円	-
5-2	14 + 40 + 44	1	F7	SK	1179	0.25	0.25	0.12	円	-
5-1	13	1	F7	SK	1180	(0.41)	0.25	0.28	円か	SK168+SK1180
5-1	13	1	G8	SK	1181	0.35	(0.25)	0.18	楕円か	SK177+SK1181
8-2	19	2	E11	SK	1182	0.24	0.19	0.28	円か	-
8-2	19	2	O11	SK	1183	0.31	0.22	0.24	楕円	-
7-1	16	1	D6	SK	1184	0.3	0.3	0.14	円	-
5-1	13 + 41	1	F6	SK	1185	0.25	0.25	0.20	円	SK185+SK454
7-1	16	1	S5	SK	1186	0.26	(0.4)	0.34	円か	-
5-2, 6	14 + 15	1	G8	SK	1187	0.3	0.25	0.22	円	-
4-1	11	2	J3	SK	1189	(0.25)	(0.2)	0.22	楕円か	SK106+SK1189
8-2	19	1	D10	SK	1190	0.45	0.30	0.14	楕円	SK190>311
8-2	19	1	O10	SK	1191	0.25	0.25	0.16	円	SK191>511
8-2	19	1	O10	SK	1192	0.25	0.25	0.18	円	-
7-2	17	1	C7	SK	1193	0.29	0.15	0.16	円	-
7-1	16	1	D6	SK	1194	0.21	0.16	0.13	楕円	-

表2 遺物観察表(1)

報告書 番号	地区	グリッド	位置/ 遺物 層組 区分	出土/ 加工品	遺物種類	器種	時代	法量 (cm) * ( )は推定 値。 ( )は保存値		保存率 (口数/ 器高)	測量		色調	胎土 特徴	構成	備考 (測定詳細、書名、 著者名他記述)	
								口径	底径/ 器高		外側	内面					
試1	BT		取上	507	縄文土器	深鉢	縄文	-	(2.7)	-	縄文	ハケメ	1097.4 にぶい質地	黒	良	中選Ⅱ	
試2	BT		SD	119	野生土器	台付盆	野生前末～ 古墳期	-	-	(3.45)	-	ミガキ	ナゲ	2.595±3mm	良	良	内面質地目付 月影Ⅱ
試3	BT		取上	534	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	(18.6)	-	(6.2)	10	ミガキ	ミガキ	7.096±6mm	黒	良	内面質地目付 月影Ⅱ
試4	BT		取上	546	土師器	高杯	野生前末～ 古墳期	-	-	(3.45)	-	ミガキ	ナゲ、ミガキ	1097.5 にぶい質地	黒	良	-
試5	BT		取上	547	深鉢器	杯蓋	古代	(14.6)	-	(2.2)	5	クロコナメ	ロクロナメ	2.595±1mm	良	良	8c後～8c前半
試6	BT		取上	1	深鉢器	杯	古代	-	(2.3)	(1.9)	0/100	ナゲメ、 圓錐形切妻口	ロクロナメ	2.595±1mm	黒	良	-
試7	BT		取上	547	深鉢器	杯	古代	-	(9.2)	(2.3)	20	ナゲメ、 圓錐形切妻口	ナゲ	7.597.4 にぶい質地	黒	良	-
試8	BT		取上	1	土師器	甕	古代	(23.8)	-	(2.85)	5	クロコナメ	ロクロナメ	7.595.6 にぶい質	良	良	-
試9	BT		SD	25	土師器	甕	古代	-	(7.0)	(2.8)	10	ミガキ	ミガキ	1097.5 にぶい質地	黒	良	内面質地Ⅱ
試10	BT		取上	1	陶器	甕	中世	-	-	(2.9)	-	タタキ	タタキ	2.594.1mm	良	良	-
試11	BT		取上	2	陶器	甕	中世	-	(12.6)	(3.45)	0/20	ナゲメ、 八角形切妻口ナゲ	ナゲ	1097.1mm	黒	良	-
試12	BT		横土	-	青磁	碗	中世	14.0	-	(2.1)	5	-	-	2.597.1mm	黒	良	青磁碗(1096.1オリーブ)
1	I	E10	SD	772	縄文土器	深鉢	縄文先期	(28.0)	-	(4.2)	5	縄文(單面L)	ミガキ	1097.5 にぶい質地	黒	良	-
2	I	E10	SD	777	縄文土器	深鉢	縄文先期	-	-	(7.1)	-	ケズリ	ヘラミガキ	7.594.2	やや粗	良	石舟・石美・雲舟・ 青磁含む
3	I	E10	SK	1110	縄文土器	深鉢	古墳先期	(20.4)	(11.35)	(5.4)	20/30	ミガキ	ミガキ	1097.5 にぶい質地	黒	良	外面上刻文
4	I		野付	367	縄文土器	深鉢	縄文先期	(17.4)	-	(3.7)	5以下	ミガキ	ミガキ	1097.5 にぶい質地	黒	良	-
5	I	E10	SK	1110	縄文土器	深鉢	縄文先期	-	-	(4.1)	-	縄文、ヘラ ミガキ	ヘラミガキ	1097.5 にぶい質地	やや粗	良	石舟・石美・雲舟・ 青磁含む
6	I	E10	SK	1110	縄文土器	深鉢	古墳先期	-	-	(3.2)	-	縄文	ナゲ	2.595.9 にぶい質地	黒	良	石舟・石美・雲舟・ 青磁含む
7	I	E10	SK	1110	縄文土器	深鉢	縄文先期	(20.2)	-	(10.10)	10	ヘラケズリ	(上)ヘラミガキ (下)ヘラケズリ	1.595.4 にぶい質地	黒	良	内面多孔(2.5mm)水滴痕 中空・削痕有り
8	I	E10	SK	1110	縄文土器	深鉢	縄文先期	(26.6)	-	(11.3)	25	口縁 縄文(單面L)	ヘラミガキ	1097.5 にぶい質地	良	良	中選Ⅱ・浅刻文・波打付上よりナ ギサを斜方方に残す
9	I	E10	SK	1110	縄文土器	深鉢	縄文先期	(8.6)	-	(1.85)	100	ヨナナデ	-	1097.5 にぶい質地	粗	良	底面に動物の跡あり
10	I	E10	SK	1110	野生土器	粗粒圓 鋸合	野生中期	(21.0)	-	(4.6)	10	(上)ヘラミガキ (下)ナゲ	(上)ヘラミガキ (下)ナゲ	1.597.5 にぶい質地	黒	良	長石・石英量多く含む、 野生中期
11	I	E10	SK	1110	土製品	粗粒圓 鋸合	縄文先期	(5.6)	-	(3.15)	-	-	-	7.596.4 にぶい質地	黒	良	-
12	I	D10	S1	1	野生土器	甕	野生前末～ 古墳期	(12.6)	-	(2.7)	10	ヨコナデ	ヨコナデ	7.597.4 にぶい質地	黒	良	-
13	I	D10	S1	1	野生土器	甕	野生前末～ 古墳期	(12.9)	-	(2.5)	5	ナゲ	ナゲ	7.597.4 にぶい質地	黒	良	外面上部にスリ付痕、雨滴内 凹部有り
14	I	D10	S1	1-190	野生土器	甕	野生前末～ 古墳期	(18.0)	-	(2.75)	10	ナゲ、ハケメ	ナゲ	7.597.4 にぶい質地	やや粗	不直	外面上スリ付痕S1
15	I	D10	S1	1	野生土器	甕	野生前末～ 古墳期	(17.0)	-	(3.2)	5	ナゲ	ナゲ、ハケメ	1097.4 にぶい質地	黒	良	外面上スリ付痕
16	I	D10	S1-1	6	野生土器	甕	野生前末～ 古墳期	(11.0)	-	(5.1)	5以下	ミガキ	ミガキ	1097.4 にぶい質地	黒	良	内外面多孔(1095.5) S1
17	I	D10	S1	1	野生土器	小口甕	野生前末～ 古墳期	(10.1)	(0.8)	(0.25)	50	ヨナナデ、 ミカゲ	ヨナナデ、ナゲ ミカゲ	7.597.4 にぶい質地	黒	良	長石・石英やや多い、雲舟・ 青磁含む
18	2	C-D10	S1	1	野生土器	台付盆	野生中期	-	-	(5.2)	-	(上)(下)ミガキ (中)(下)ハケメ	(上)(下)ミガキ (中)(下)ハケメ	1097.5 にぶい質地	黒	良	内面多孔(2.5mm)水滴痕、 中空・削痕有り
19	I	D10	S1	1	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	(16.6)	-	(10.75)	20	ヘラミガキ	ヘラミガキ	1097.4 にぶい質地	黒	良	内面多孔(2.5mm)水滴痕、 中空・削痕有り
20	I	G10	S1	1-192	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	-	-	(4.3)	-	ミガキ	ミガキ	1097.4 にぶい質地	黒	良	内面多孔(2.5mm)水滴痕、 中空・削痕有り
21	I	G10	S1	1	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	(18.0)	-	(6.75)	95/60	ミガキ	ミガキ	7.596.4 にぶい質地	やや粗	良	外面上に堅い結晶、長石・石英含 む
22	I	G10	S1	1	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	(17.5)	-	(6.65)	5以下	ミガキ	ミガキ	7.596.4 にぶい質地	黒	良	青影II(白)→白江
23	2	B11	S1	1	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	-	-	(5.35)	-	(上)ミガキ、 ナゲ、ハケメ	(上)ミガキ、 ナゲ、ハケメ	1097.4 にぶい質地	黒	良	-
24	I	D10	S1	1	野生土器	高杯	野生前末～ 古墳期	(12.9)	-	(3.45)	20	ミガキ	ミガキ	1097.4 にぶい質地	黒	良	外面上堅い結晶、外葉根
25	I	D10	S1	1	ガラス製品	玉皿	野生前末～ 古墳期	總7.75	總6.05	厚さ0.35	100	-	-	-	-	-	-
26	I	B10	S1	1-117	深鉢器	縄紋	古代	(12.9)	-	(3.7)	10	口縁・体部 クロコナメ (中)ミガキ(下) ミカゲ、ハケメ	ロクロナメ	1097.4 にぶい質地	黒	不良	S11
27	I	B10	S1	1-114	深鉢器	縄紋	古代	(13.5)	-	(3.8)	5	底盤 ハラ切妻口 アーチ	ロクロナメ	1097.4 にぶい質地	黒	不良	S11
28	I	D10	S1	1-120	土師器	甕	古代	(16.3)	-	(2.15)	5	ナゲ	ナゲ	7.597.4 にぶい質地	黒	良	S11
29	2	G10	S1	1	土師器	甕	古代	(20.6)	-	(2.8)	5以下	ナゲ	ナゲ	1097.4 にぶい質地	黒	良	-
30	1	G10	S1	1-14	土師器	塗瓦	古代	-	-	(3.4)	-	ナゲ	ナゲ	1098.4 白江	白江	S11 四脚足	-
31	1	988.黒裏	S1	2	野生土器	甕	野生前末～ 古墳期	(13.2)	-	(3.4)	10	ヨコナデ (茎)	ヨコナデ (茎)	1097.4 にぶい質地	やや粗	不直	外面上に黒裏

表2 遺物観察表(2)

報告書 番号%	地区	グリッド	位置/ 面積 面積	遺物類	種類	時代	法量 (cm) * ( )は推定 値、( )は既存 値)		背卓率 (既存/ 既高)	測量		色調	地土 特徴	構成	備考 (焼附跡、器形、色彩、 色斑等)		
							口径	底径/ 既高		外面	内面						
							既高	既高									
32	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(15.0)	~	(3.0)	10	ヨコナヂ、ナヂ	ナヂ	2,599±2.0 にぶい・薄	黒	良	~
33	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(14.8)	~	(4.25)	5以下	ヨコナヂ、ナヂ	ナヂ	3,095±6.0 にぶい・薄	やや細 く	良	~
34	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(16.6)	~	(3.95)	10	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2,595±5.0 にぶい・薄	粗	やや 不均	外面上に黒斑
35	I	D7	S12-I	74	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(18.0)	~	(3.9)	50	ナヂ	(上)ナヂ (下)ケズリ	1097±7.0 にぶい・薄	黒	良	SII
36	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(18.6)	~	(4.3)	5以下	ヨコナヂ	ヨコナヂ ナヂ	1098±2.0 にぶい・薄	黒	良	月割Ⅲ
37	I	CR	SI	2-168	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(19.6)	~	(4.05)	10	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2,599±1.0 にぶい・薄	黒	やや 不均	SII
38	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(17.0)	~	(6.8)	60	(上)ヨコナヂ (下)マツリ	(上)ヨコナヂ (下)マツリ	1099±1.4 にぶい・薄	やや細 く	良	月割Ⅲ
39	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(16.5)	~	(2.6)	5	ナヂ	ナヂ	2,598±6.0 にぶい・薄	黒	良	~
40	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(17.2)	~	(2.95)	10	ナヂ	(上)ナヂ (下)マツリ	2,599±9.0 にぶい・薄	黒	良	口縁部断面
41	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(18.3)	~	(12.6)	90/20	ヨコナヂ ハケナヂ	ヨコナヂ ハケナヂ、ケズリ	1098±1.2/1段目	黒	良石・石英多量に含む	~
42	I	CR	SI	2-166	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	~	(1.0)	(2.2)	100	ナヂ	マツリ	2,598±5.0 にぶい・薄	粗	良	月割Ⅲ SII
43	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(6.0)	~	(3.9)	100	ハケナヂ	ハケナヂ	2,598±5.0 にぶい・薄	黒	良	~
44	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(11.2)	5.5	(22.25)	10/90	ヨコナヂ オオガタ	ヨコナヂ オオガタ	2,598±1.6 にぶい・薄	黒	良	外面上にスミ付着、長石・石英少 量、基母含む。時時灰白色化含む
45	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(14.6)	~	(14.15)	30	(上)ヨコナヂ (下)ハケナヂ	(上)ヨコナヂ (下)ハケナヂ ハナヂ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	月割Ⅱ (上)～白江
46	I	DE40南面	SI	2	野生土器	付付 付?	野生焼成～ 古窯跡 付合?	~	~	(10.5)	20	ミガキ	ハケナヂ ビニヤナ	2,598±6.0 にぶい・薄	やや細 く	良	外面上に暗緑色斑、丹波赤鉄 (SII)、馬鹿石、石英多量 月割Ⅲ
47	I	DE40南面	SI	2	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	(18.2)	直径 (3.0) 腹径 (3.15)	腹径 (11.8)	50/85	ミガキ	(上)ミガキ (中)ヨコナヂ (下)ハケナヂ ヨコナヂ	1097±2.0 にぶい・薄	黒	良	長石・石英多量に含む。外壁材質 が二重で、受ける内壁材質が D. SIIの付着。月割Ⅲ・上井上
48	I	DE40南面	SI	2	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	(10.0)	~	(7.4)	5	ミガキ	ミガキ	2,598±9.0 にぶい・薄	黒	良	月割Ⅲ
49	I	DB	SI	2-165	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(6.3)	~	2.8	50	(上)ナヂ (下)マツリ	ミガキ	2,598±2.0 にぶい・薄	黒	良	月割Ⅲ
50	I	DE40南面	SI	2	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	15.8	~	5.1	30	ヘラミガタ	ヘラミガタ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	内部面剥落 (2,598±4.0付着), 馬鹿石 (下)～白江
51	I	DB	SD	954	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	(10.4)	~	(1.2)	10	ミガキ	ナヂ	1097±2.0 にぶい・薄	黒	良	馬鹿石剥落 (1098±4.0付着)
52	I	EII	SD	991	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	16.6	~	(17.5)	100/40	ヨコナヂ ハケナヂ	ヨコナヂ ハケナヂ、ケズリ	2,598±6.0 にぶい・薄	黒	良	焼成後変形、口縁部に馬鹿石付 着、外壁にスミ付着、月割Ⅲ
53	2	EII	SD	991	野生土器	付	野生焼成～ 古窯跡	(16.9)	~	(1.1)	20	ハケナヂ	ミガキ	1098±2.0 にぶい・薄	黒	良	外壁面剥落 (1098±4.0付着)
54	I	EII	SK	778	野生土器	付付	野生焼成～ 古窯跡	~	~	(2.1)	~	ミガキ	剥離 (ミガ キ)	1097±4.0 にぶい・薄	黒	良	外壁面剥落 (1095±5.0付着)
55	I	D6	SK	780	野生土器	付	野生焼成～ 古窯跡	~	縦径	(1.8)	~	ミガキ	ミガキ	2,598±2.0 にぶい・薄	黒	良	~
56	I	D3	SK	914	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(14.0)	~	(2.3)	5	ナヂ	ヨコナヂ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	馬鹿石剥落 (1098±4.0付着)
57	2	CD10	SK	1004	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	~	~	(3.2)	~	ミガキ	ミガキ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	内壁面剥落 (2,598±4.0付着)
58	2	CD10	SK	1004	土師器	板	野生焼成～ 古窯跡	(16.1)	~	(4.5)	5	ミガキ	ミガキ	2,598±7.0 にぶい・薄	黒	良	口縁部欠損
59	2	BII	SK	1006	野生土器	板	野生焼成～ 古窯跡	(11.4)	~	(2.3)	10	ナヂ	ナヂ	2,598±7.0 にぶい・薄	黒	良	~
60	2	BII	SK	1006	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	~	~	(4.5)	~	ミガキ	ミガキ	2,598±9.0 にぶい・薄	黒	良	内壁面剥落 (1098±4.0付着)
61	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(14.7)	~	(3.0)	10	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2,598±0.0 にぶい・薄	黒	良	~
62	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(15.8)	~	(3.5)	15	(上)ヨコナヂ (下)ハケナヂ	(上)ヨコナヂ (下)ハケナヂ	1097±2.0 にぶい・薄	黒	良	口縁部外壁にスミ付着、月割 Ⅲ
63	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(16.7)	~	(4.4)	5	ヨコナヂ (中)ケズリ (下)ハケナヂ	ヨコナヂ (中)ケズリ (下)ハケナヂ	1097±2.0 にぶい・薄	黒	良	口縁部外壁にスミ付着、月割 Ⅲ
64	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(15.5)	~	(2.6)	5	ナヂ	ナヂ	1097±4.0 にぶい・薄	黒	良	~
65	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(13.9)	~	(2.8)	5	ハケナヂ	ハケナヂ、ナヂ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	やや 不均	~
66	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(16.6)	~	(3.85)	5	ナヂ	ナヂ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	外壁にスミ付着、月割Ⅲ
67	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(16.0)	(2.0)	(17.5)	50	(上)ヨコナヂ (中)ハケナヂ (下)ハケナヂ	(上)ヨコナヂ (中)ハケナヂ (下)ハケナヂ	1097±2.0 にぶい・薄	やや細 く	良	月割Ⅲ
68	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	(13.1)	~	(3.95)	10	ヨコナヂ	ヨコナヂ (下)ケズリ	1097±2.0 にぶい・薄	黒	良	~
69	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	(10.7)	~	(5.3)	5以下	ミガキ	(上)ヨコナヂ (中)ハケナヂ (下)ハケナヂ	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	月割Ⅲ
70	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	高科	野生焼成～ 古窯跡	(9.8)	~	(7.1)	0/40	ミガキ、 ヨコナヂ	ミガキ、 (中)ヨコナヂ (下)ハケナヂ	1097±2.0 にぶい・薄	黒	良	月割Ⅲ
71	I	CB, CD10	SK	1025	野生土器	董	野生焼成～ 古窯跡	~	縦径2.5	(3.3)	50/100	~	~	2,598±4.0 にぶい・薄	黒	良	内壁面剥落 (2,598±4.0付着) 月割Ⅲ (上)～白江

表2 遺物観察表(3)

報告書 規番	地区	グリッド	位置/ 面積 面積	遺物種類	器種	時代	法量 (cm) □底面 △底面/ 目底面 ■目底面/ 目底面			測定 基準		測定		地質 地質 地質	出土 状況 状況	備考 備考 備考		
							△ ( ) は底面 基準			目底面/ 底面		目底面/ 底面						
							底面	底面/ 目底面	目底面/ 底面	底面	底面/ 目底面	目底面/ 底面	底面	底面/ 目底面	目底面/ 底面			
72	I	C9+CD10	SK	1025	野生土器	朴糞	野生樹木～ 古墳樹木	15.0	—	5.05	80	ミガキ	ミガキ、 ミコナチ	2.5986/6 底	更	良	月刊II(翻)～白江	
73	I	D10	SK	1028	野生土器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(18.6)	—	(2.3)	5	ナゲ	ナゲ	2.5986/6 底	更	良	外面に異質、月刊II式	
74	I	D10	SK	1040	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(16.9)	—	(3.7)	5以下	(上)ナゲ (下)ナゲメ	ナゲ	2.5986/5 底 底	更	良	外面上部にスス付蓋	
75	I	D10	SK	1043	野生土器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(15.5)	—	(2.4)	5	ナゲ	ナゲ	2.5986/4 底	更	良	外面上部にスス付蓋	
76	I	G7	SK	1074	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(18.0)	—	(2.8)	5以下	ナゲ	ナゲ	2.5986/4 底	更	良	内面にスス付蓋	
77	I	D6	SK	1089 (158)	野生土器	高杯	野生樹木～ 古墳樹木	—	—	(3.35)	—	ミガキ	ミガキ	2.5986/5 底	更	良	外東側、(詳細)ミガキ (底部)ナゲ	
78	J	C7	SK	1162	野生土器	高杯	野生樹木～ 古墳樹木	—	—	(3.9)	—	—	—	10986/7 底 底	更	やや 不良	—	
79	I	H8	S1	2	漆器	朴糞	古代	11.3	6.4	3.55	50/100	底面 底面 底面	ロクロナゲ	2.5971/1 底	更	良	内外面にスス付蓋、二次被施	
80	I	F9	S1	3	漆器	朴糞	古代	(12.8)	8.3	3.9	40/100	底面 底面 底面	ロクロナゲ	2.5971/2 底	やや粗	良	—	
81	I	H8	S1	3	漆器	重	古代	—	—	(10.9)	1	タカキ	タカキ	2.5951/1 底	更	良	—	
82	I	I,J4	S1	4	漆器	朴糞	古代	—	(6.5)	(1.55)	25	底面 底面 底面	ロクロナゲ	2.5951/1 底	更	良	—	
83	J	I,J4	S1	4	土師器	重	古代	(16.4)	—	(6.35)	20	(上)ナゲ (下)ナゲ (中)ナゲ	ナゲ	2.5987/2 底 底	更	良	9割～中	
84	J	I,J4-SK	270	漆器	朴糞	古代	(12.4)	—	(2.2)	5	ロクロナゲ	ロクロナゲ	106/0R	更	良	—		
85	J	I,J4-SK	270	漆器	朴糞	古代	—	(8.0)	(2.1)	10	底面 底面 底面	ロクロナゲ	2.5956/1 底	更	良	—		
86	J	I,J4-SK	271	土師器	良崩土	古代	(27.0)	—	(20.2)	15	ミナチ ミケズ	ミナチ ミケズ	7.0986/3 底 底	更	良	長石・石英含む。泥和材 (5cm) 小破片		
87	J	I,J4-SK	271	土師器	崩	古代	(33.8)	(12.1)	17.6	30/40	ハケナ	ハケナ	7.0986/3 底 底	やや粗	良	粗粒含む。泥和材あり		
88	J	I,J4-SK	286	漆器	朴糞	古代	(16.9)	—	(2.2)	30	上・ロクロ ケズリ 下・ロクロナゲ	ロクロナゲ	2.5956/2 底	更	良	—		
89	J	I,J4-SK	286	漆器	朴糞	古代	(12.4)	—	(3.2)	5	ロクロナゲ	ロクロナゲ	2.5956/1 底	更	良	—		
90	J	I,J4	S1	5	土師器	重	古代	(20.2)	—	(8.7)	10	ロクロナゲ	ロクロナゲ	2.5987/4 底 底	更	良	S15年以前	
91	J	I,J4-SK	286-287	土師器	重	古代	(18.9)	—	(9.3)	30	(上)ロクロナゲ (下)ナゲ (中)ナゲ	ロクロナゲ	2.5987/3 底 底	更	良	朴漆器群(2.S15-6.明治場)		
92	J	I,S5	S1	6	漆器	朴糞	古代	—	(8.5)	(1.5)	50	ロクロナゲ	ロクロナゲ	106/0R	更	良	—	
93	I	D10	S1	7	漆器	朴糞	古代	—	(9.0)	(1.75)	20	底面 底面 底面	ロクロナゲ	2.5956/1 底	更	良	S15	
94	I	E9	S83-SP	741	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(17.1)	—	(2.8)	5	ミコナチ	ミコナチ	2.5987/4 底 底	更	良	白江	
95	I	E9	S83-SP	741	野生土器	重	野生樹木～ 古墳樹木	—	(2.1)	(1.25)	0/100	ハケナ	ハケナ	—	やや粗	良	朴漆器全般にスス付蓋 (底土質不規)	
96	I	E9	S83-SP	742	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(15.0)	—	(2.0)	10	ナゲ	ナゲ	2.5987/4 底 底	更	良	内外面赤彩(2.S15-6.明治場)	
97	I	O9	S83-SP	937	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	—	糊理	(5.0)	40	ヘラケズリ	ミガキ	2.5987/4 底 底	更	良	—	
98	I	E8	S86-SP	725	土師器	重	古代	(20.5)	—	(3.2)	10	ロクロナゲ	ロクロナゲ	2.5987/4 底 底	更	良	口縁無底面。側面に突起突 底間に突出突一底間に突出す。白江	
99	I	F6	S812-SP	373	漆器	朴糞	古代	12.9	3.3	7.7	100	上・ロクロ ケズリ 下・ロクロナゲ	ロクロナゲ	10986/1 底 底	更	良	—	
100	I	F7	S812-SP	475	漆器	朴糞	古代	(15.0)	—	(1.95)	5	ロクロナゲ	ロクロナゲ	ロクロナゲ ロクロナゲ	更	良	—	
101	I	F7	S812-SP	475	漆器	朴糞	古代	(13.0)	—	(3.05)	5	ロクロナゲ	ロクロナゲ	2.5987/1 底 底	更	良	—	
102	I	F7	S813-SP	477	漆器	重	古代	—	—	(9.3)	0	タカキ	タカキ	2.5956/1 底 底	更	良	—	
103	I	F7	S813-SP	477	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(19.6)	—	(2.3)	5	ミコナチ	ハケナ	10986/3 底 底	やや粗	良	—	
104	I	F7	S813-SP	494	土師器	重	古代	(16.6)	—	(2.15)	10	ロクロナゲ	ロクロナゲ	2.5987/4 底 底	更	良	口縁無底面。側面に突起突 底間に突出突一底間に突出す。白江	
105	I	F7	S813-SP	495	土師器	重	野生樹木～ 古墳樹木	(14.4)	—	(2.4)	10	ナゲ	ナゲ	10986/3 底 底	やや粗	良	—	
106	I	F7	S814-SP	481	漆器	朴糞	古代	11.2	6.4	3.4	5	底面 底面 底面	ロクロナゲ	ロクロナゲ ロクロナゲ	106/0R	更	良	—
107	I	F9	S816-SP	576	漆器	重	古代	—	(8.2)	(2.9)	30	ロクロナゲ	ロクロナゲ	106/0R	更	良	—	
108	I	F1	S9	35	土師器	重	古代	—	—	(11.6)	—	ハケナ	ナゲ、ハケナ	10986/2 底 底	やや 不良	朴漆器底板	—	
109	I	F1+2	SK	39	土師器	重	古代	(20.8)	—	(10.9)	25	ロクロナゲ	ロクロナゲ	10986/3 底 底	更	良	注記	
110	J	J3	SK	154	漆器	朴糞	古代	—	(7.3)	(2.6)	40	ロクロナゲ	ロクロナゲ	10986/4 底 底	更	良	受口吹口吹。口縁部の外側に 又違二点並む	
111	J	J3	SK	156	土師器	重	古代	(18.0)	—	(2.3)	10	ロクロナゲ	ロクロナゲ ナゲ	10986/4 底 底	更	良	—	

表2 遺物観察表(4)

報告書 組合番号	地区	グリッド	位置/ 遺物 種類	遺物上層	遺物種類	器種	時代	法量 (cm) ■ ( ) は推定 値、( - ) は推存値			生存率 (口数/ 個数)	調査		色調	地土 特徴	構成	備考 (詳細説明、基準、色彩、 変色斑斑、法、加理等付記等)	
								口数	個数/ 個数	高さ		外面	内面					
112	3	J4	SK	217	須恵器	壺	古代	(24.0)	-	(2.2)	10	ロクロナヂ	ロクロナヂ	0.08t/2.2m直壁	黒	良	-	
113	3	J6	SK	224	須恵器	杯	古代	(11.2)	(4.8)	3.55	40	須恵器 田部切 縁部、ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/1.1 黄灰	黒	良	-	
114	3	J4	SK	231	須恵器	短縦壺	古代	-	(15.3)	(9.2)	10	ロクロナヂ	ナヂ	2.5t/1.1 黄灰	黒	良	-	
115	3	J1	SK	253	土師器	壺	古代	(19.0)	-	(2.1)	5	-	ヘルカズワ	2.5t/1.4 にぶい縁	黒	良	外側に折り返した 口縁が肥厚する。	
116	1	E8	SK	470	土師器	壺	古代	(27.0)	-	(3.55)	5	ヨコナヂ、 ハケメ	ナヂ	10t/8.3 直壁	やや黒	良	9t前	
117	1	E7	SK	471	須恵器	鉢	古代	(35.8)	-	(2.8)	5	ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/2.7 白波	黒	良	-	
118	1	E7	SK	471	須恵器	鉢	古代	-	8.0	(1.6)	0.0/100	直壁、へう切引	ロクロナヂ	2.5t/2.8m直壁	黒	良	-	
119	1	E7	SK	471	土師器	壺	古代	(17.1)	-	(2.0)	10	ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/1.4 にぶい縁	黒	良	-	
120	1	F8	SK	485	須恵器	壺	古代	-	-	(10.8)	0	タタキ	当直値	2.5t/1.1 黄灰	黒	やや不良	-	
121	1	D6+7	SD	703	須恵器	壺	古代	-	-	(9.5)	-	タタキ	当直値	2.5t/1.9m直壁	黒	やや黒	断面、外面上にストレート (二次復熱)	
122	1	D6+7	SD	703	土師器	壺	古代	(22.2)	-	(2.5)	5以下	ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	9t前 口縁端面に沈継+条染	
123	1	D7	SD	702	土師器	壺	古代	(18.1)	-	(3.2)	20	ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	小型壺	
124	1	E9	SK	760	土師器	壺	古代	-	-	(2.4)	-	ナヂ	ナヂ	10t/7.0 にぶい縁	黒	良	口縁端面取り	
125	1	E10	SK	780	須恵器	鉢	古代	16.6	-	(1.85)	10	ロクロナヂ	-	2.5t/1.1 黄灰	黒	良	-	
126	1	G6	SK	866	須恵器	鉢	古代	(31.4)	(7.4)	2.95	29	直壁、田部へら 切り、体部 ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/1.1 白波	黒	良	-	
127	1	D7	SK	979	須恵器	鉢	古代	(29.2)	-	(3.9)	5	ナヂ	ハケメ	10t/5.4 白波	黒	やや不良	-	
128	2	B11	SK	1007	土師器	壺	古代	(21.6)	-	(4.1)	10	(上) ヨコナヂ (下) ナヂ	ハケメ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	8t後半	
129	1	B9	SK	1032	土師器	壺	古代	(40.0)	-	(4.6)	5	(上) ロクロナヂ (中) ハセナヂ (下) ロクロナヂ	(上) ヨコナヂ (中) ハセナヂ (下) ロクロナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	9t前～中	
130	1	O9	SK	1032	土師器	壺	古代	(31.8)	-	(5.9)	5	口部切引、ロクロ ナヂ、田部へら 切り、体部 ロクロナヂ (下) カヌメ	カヌメ	2.5t/2.3 にぶい縁	黒	良	9t前～中	
131	1	O10	SK	1067	須恵器	鉢	古代	(32.0)	(8.0)	3.9	35.25	直壁、田部へら 切り、体部 ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/1.1 黄灰	黒	良	9t前	
132	1	O9	SK	1149	須恵器	鉢	古代	(32.6)	-	(3.7)	30.20	直壁、田部へら 切り、体部 ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/0.8 白波	黒	不良	8t後～9t前・土の要剥離	
133	1	O9	SK	1149	土師器	壺	古代	(32.0)	-	(2.15)	5	ロクロナヂ	(上) ロクロナヂ (下) ハケメ	10t/9.4 直壁	黒	良	口縁端面に施錆+条染 9t前～中	
134	3	J5	SK	228	須恵器	鉢	古代	-	(7.0)	(2.3)	10	ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/1.1 黄灰	黒	良	-	
135	3	J5	SK	228	須恵器	鉢	古代	(36.0)	-	(4.9)	5以下	ロクロナヂ	ロクロナヂ	10t/6.0 直壁	黒	良	-	
136	2	J5	SK	228	須恵器	鉢	古代	-	(8.2)	(2.8)	15	直壁、ハセナヂ 体部、ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/1.1 黄灰	黒	良	-	
137	3	J5	SK	228	須恵器	鉢	古代	-	-	(9.6)	0	タタキ	タタキ	10t/9.4 直壁	黒	良	-	
138	1	F8	SK	605	須恵器	壺	古代	(32.8)	-	(1.9)	10	ロクロナヂ 直壁、ハセナヂ ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/2.0 白波	黒	良	-	
139	1	F8	SK	605	近代陶器	鉢	近代	(35.0)	-	(3.5)	15	ロクロナヂ 直壁、ハセナヂ ロクロナヂ	ロクロナヂ	2.5t/2.0 白波	やや黒	良	内外面に施錆+条染 8t前～外	
140	1	F8	SK	605	ガラス陶器	瓶	近代	(3.1)	3.0	8.0	100	-	-	-	内面に白膜あり	-	-	
141	1	D7	取上	38	野生土器	短縦壺	野生	(31.8)	-	(4.3)	20	ヨコナヂ 直壁、ハセナヂ ヨコナヂ	ヨコナヂ ハセナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	-	
142	1	E8	1	78	野生土器	壺	野生	(32.9)	-	(3.5)	10	ヨコナヂ 直壁、ハセナヂ ヨコナヂ	ヨコナヂ ハセナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	外・内上面に赤錆(10t後)	-	
143	1	D7	取上	1	野生土器	壺	野生	(32.9)	-	(8.4)	-	ナヂ	ナヂ、ケズリ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	やや不良	-	
144	1	D7	取上	460	野生土器	壺	野生	(35.1)	-	(3.1)	10	ナヂ	ナヂ	10t/9.3 にぶい縁	黒	良	-	
145	1	D7	取上	444	野生土器	壺	野生	(32.2)	-	(2.2)	5	ナヂ	ナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	不良	-	
146	1	J3	取上	392	野生土器	壺	野生	(32.9)	-	(3.2)	5	ヨコナヂ 直壁、ハセナヂ ヨコナヂ	ヨコナヂ ハセナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	-	
147	1	C5	取上	334	野生土器	壺	野生	(36.6)	-	(3.15)	10	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5t/2.4 にぶい縁	黒	良	-	
148	1	C5	取上	304	野生土器	壺	野生	(33.1)	-	(4.15)	10	ナヂ	ナヂ	2.5t/2.5 にぶい縁	黒	良	-	
149	1	D7	取上	444	野生土器	壺	野生	(32.9)	-	1.7	(1.75)	100	ナヂ	ナヂ	10t/9.7/4 にぶい縁	やや黒	良	-
150	1	C6	1	94	野生土器	壺	野生	(32.9)	-	(2.5)	(2.6)	20	ハセナヂ、ミガキ ヨコナヂ	ハセナヂ ヨコナヂ	10t/8.0 直壁	白	良	-
151	1	C6	取上	335	野生土器	瓶	野生	(37.4)	-	(7.0)	25	(上) ヨコナヂ (下) ハセナヂ	(上) ヨコナヂ (下) ハセナヂ	10t/7.3 にぶい縁	黒	良	彦町(10t)～白江	
152	1	D9	取上	342	野生土器	高杯	野生	(34.0)	-	(2.8)	-	ミガキ	ミガキ	10t/7.3 にぶい縁	黒	良	内面裏面(10t)～白江	
153	1	C6	取上	173	野生土器	高杯	野生	(34.0)	-	(3.5)	5	シボリ、ケズリ 直壁、ハセナヂ	シボリ、ケズリ	10t/6.6 直壁	黒	やや不良	-	
154	1	D7	取上	557	野生土器	高杯	野生	(34.0)	-	(3.5)	5	ミガキ	ミガキ	10t/6.6 直壁	黒	良	-	

表2 遺物観察表(5)

報告書 記載欄	地区	グリッド	地質 構造 埋蔵 位置	遺物種類	基準	時代	法量 (cm) + ( ) は推定 量、( ) は参考値		性状 (口絞 度)	調査		色調	地土 特徴	焼成	備考 (消炎灰細、墨書き、赤彩、 黒彩表現、津・泥押捺付等)		
							外縁 深度/ 総高	総高/ 総深		外縁	内縁						
155	2	E11	取上	575	帶生土器	高杯	带生跡某～ 古墳期	-	(15.9) (2.25)	25	-	ミガキ	10987/3 にぶい質感	黒	良	-	
156	1	97	1	32	帶生土器	盤	带生跡某～ 古墳期	(5.0)	-	(2.65)	20	ナデ	ナデ	7.5986/4 にぶい質感	黒	良	-
157	1	E8	1	89	帶生土器	高杯	带生跡某～ 古墳期	-	(7.4) (4.8)	30	ミガキ	ケズリ。ハラメ	10987/7/1 風	黒	良	外周赤紅(7.5984/6赤境)、 月割式	
158	1	97	取上	23	帶生土器	高杯	带生跡某～ 古墳期	(17.6)	(8.8) (11.0)	10	マメツ	マメツ	2.5986/8 糊	黒	不良	-	
159	1	G5	取上	334	漆器	柄輪	古代	(12.3)	(8.0)	3.7	20/20	ナデ	(上)ロクロナデ (下)漆地へラ 切り	10985/1灰糊	黒	良	外周に灰糊(自然糊)
160	1	G5	取上	316	漆器	柄輪	古代	-	(8.1) (1.95)	15	体部 ロクロナ デ	ロクロナデ	2.5987/4 にぶい質感	黒	良	-	
161	1	G8	取上	335	漆器	柄輪	古代	-	(10.0) (2.55)	15	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ	2.595/1黄皮	黒	良	-	
162	3	J4	取上	393	漆器	柄輪	古代	-	(10.4) (3.75)	15	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ	2.597/1灰糊	黒	良	-	
163	1	G5	取上	316	漆器	柄輪	古代	-	(8.0) (1.35)	25	底部 油面へラ 切り 体部 ロクロナデ	ロクロナデ	10987/3 にぶい質感	黒	やや良	内壁に墨書き、転写現の可能性あり	
164	1	G5	取上	334	土師器	柄輪	古代	(10.9)	(8.6)	3.3	10/10	ナデ	ナデ	10986/2灰糊	黒	不良	-
165	3	J2	取上	613	漆器	柄輪	古代	(12.4)	(7.0)	4.0	40/40	底部 ロクロナ デ	ロクロナデ	10987/3 にぶい質感	黒	不良	-
166	3	I3	取上	381	漆器	柄輪	古代	(18.0)	(10.9)	(2.85)	10/20	ナデ ロクロナ デ	ロクロナデ、ケ ズリ、油面へラ 切り	2.5986/2 底白	黒	良	-
167	1	G6	取上	335	漆器	柄輪	古代	(12.6)	(8.8)	3.3	20/20	底部 ハラ切り ハラハラ	ロクロナデ	2.595/1黄皮	黒	良	-
168	1	97	取上	47	漆器	柄輪	古代	(12.6)	(9.4)	3.3	50/50	底部 ロクロナ デ	ロクロナデ	5986/1灰	黒	良	外周面にキズ(へう切き)
169	1	97	取上	479	漆器	柄輪	古代	(12.0)	(8.0)	3.1	50/20	ナデ ロクロナ デ	ナデ、ケズリ、 油面へラカズリ	5986/1灰	黒	良	-
170	1	09	1	42	漆器	柄	古代	(12.5)	-	(1.65)	5	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5987/1 底白	黒	良	-
171	3	J5	取上	396	漆器	盤	古代	(17.4)	-	(5.8)	10	ロコナデ、 カキメ	ハケメ	10986/1 にぶい質感	黒	良	-
172	1	G7	1	76	漆器	盤	古代	-	-	(7.0)	-	タキメ	当具置	10987/1 灰糊	黒	良	-
173	1	G6	取上	336	漆器	平皿	古代	-	-	(3.1)	-	カキメ	当具置	10987/1 灰糊	黒	良	外周自然糊(10985/2灰糊)
174	3	I3	取上	381	漆器	柄輪	古代	(5.6)	-	(2.4)	20	ナデ	ミガキ	10986/3 底質糊	黒	良	内外周赤紅(3986/6糊)
175	1	E8	取上	357	土師器	柄	古代	(15.4)	-	(3.85)	10	底部 油面へラ 切り 体部 (上)ロクロナデ (下)ハラハラ ケズリ	ロクロナデ	2.5987/4 にぶい糊	黒	不良	-
176	3	I4	取上	385	土師器	柄	古代	-	(7.8)	(2.5)	20	ケズリ ハラハ ラ	ナデ	10987/2 にぶい質感	黒	良	-
177	1	E9	1	35	帶生土器	盤	带生跡某～ 古墳期	(21.5)	-	(6.3)	5以下	口縁 ナデ 体部 ハラハラ	ロクロナデ ロクロナデ	2.5987/4 にぶい糊	黒	良	-
178	1	97	取上	474	土師器	盤	古代	(21.2)	-	(2.6)	5	(上)ロクロナ デ(下)ハラメ	ヨコナデ	10988/3 底質糊	黒	良	ロ締糊蓋蓋取り
179	1	G5	取上	313	土師器	盤	古代	(34.0)	-	(3.25)	10	ケズリ。ナデ	ナデ	5987/6 糊	黒	良	外周にスス付蓋
180	1	97	取上	557	土師器	盤	古代	(32.8)	-	(2.75)	5	ナデ	ナデ、ハケメ	2.5985/4 にぶい糊	黒	良	-
181	1	J3	取上	392	帶生土器	盤	带生跡某～ 古墳期	(15.2)	-	(3.7)	5以下	ナデ	ナデ	10985/4 にぶい糊	黒	良	-
182	1	G5	取上	334	土師器	盤	古代	(37.0)	-	(2.8)	5以下	ナデ、ハケメ	ハケメ	10985/3 底質糊	黒	良	-
183	3	II	-	-	土師器	鍋	古代	(36.0)	-	(1.9)	5	ヨコナデ	ハケメ	2.5988/4 にぶい糊	黒	良	糊
184	1	G5	取上	316	土師器	盤	古代	(38.2)	-	(2.5)	5以下	ロクロナデ	ロクロナデ	10987/3 にぶい糊	黒	良	-
185	1	I8	取上	325	越中瀬戸	皿	逝世	-	-	(1.25)	-	ナデ	ナデ	2.5987/2 にぶい糊	黒	良	内外周に糊付蓋(2.5986/2糊)
186	1	G7	取上	323	越中瀬戸	陶器	逝世	-	(11.0)	(3.2)	10	ナデ	ナデ	2.5987/2 にぶい糊	や小糊	不良	外周自然糊(2.5986/2糊)
187	1	G5	取上	330	土製品	土瓶	昭和	(3.2)	-	(1.9)	-	-	-	2.5987/6 糊	黒	良	-
188	1	E6	取上	388	石製品	網文	打製 石刀	網文	網文	厚さ (1.9)	-	-	-	-	-	-	网目(31.6
189	2	D11	取上	590	石製品	網文	網文	網文	網文	厚さ 13.4	厚さ 2.8	-	-	-	-	-	网目(31.6 米テレンジ地山面上)
190	1	G6	取上	387	石製品	網文	網文	(65)	(10.7)	(2.2)	-	-	-	-	-	-	网目(31.6

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 須恵器の蛍光X線分析

胎土分析研究会 三辻 利一

#### 1 分析法

須恵器片試料はタンクステンカーバイド製乳鉢で100メッシュ以下に粉碎したのち、粉末試料は塩化ビニル製リングを枠にして高圧をかけてプレスし、内径20mm、厚さ5mmの綻剤を作成し、分析試料とした。蛍光X線分析には、理学電機製RIX2100（波長分散型）の完全自動式の分析装置を使用した。分析値は同じ日に測定した岩石標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度で標準化した値で表示した。

#### 2 分析結果

分析値は表3にまとめられている。

富山県内には、8世紀代の須恵器窯跡は福野町、福光町に安居窯跡群、小杉町に射水右岸窯跡群、大門町に射水左岸窯跡群、砺波市に梅檀野窯跡群、富山市に射水東端窯跡群（山本藤ノ木窯、平岡II1・2号窯）、滑川市に万年谷窯跡などがある。これらの窯跡群出土須恵器のK-Ca、Rb-Sr分布図は図57～図62に示してある。これらの図には比較対照のための安居領域と射水右岸領域が定性的ではあるが、長方形で描かれている。長方形で描いたのは、試料の分布領域を簡単に比較できるためである。図57～62をみると、各窯跡群の須恵器試料はまとめて分布し、それぞれの領域を形成していることがわかる。このことは窯跡群周辺の在地産の粘土が須恵器の素材となっていることを示唆している。

まず、図57と図58を比較すれば、安居窯跡群の須恵器と射水右岸窯跡群の須恵器は両分布図で明らかにずれて分布しており、その相互識別は容易であることがわかる。また、図59をみると、射水左岸窯跡群の須恵器はK-Ca分布図では図57に示した安居窯跡群の須恵器と類似するが、Rb-Sr分布図では、安居領域からもずれており、安居群と射水左岸群の相互識別も十分可能であることがわかる。図60には、梅檀野窯跡群の須恵器の両分布図を示す。梅檀野群としてまとめて分布することがわかる。両分布図では安居領域にも、射水右岸領域にも対応しないことがわかる。図61をみると、射水東端窯跡群（山本藤ノ木窯、平岡II1・2号窯）の須恵器は両分布図では右岸領域よりも安居領域に近いことがわかる。さらに、図62を見ると、滑川市の万年谷窯跡の須恵器は両分布図で明らかに、安居群領域にも、射水右岸領域にも対応しないことがわかる。この結果、富山県内各地の窯跡群の須恵器の胎土はFe、Na因子では殆ど差がないが、K-Ca、Rb-Srの両分布図では微妙な地域差があることが確認できた。

こうした背景から、当遺跡出土須恵器胎土はどの窯跡群に対応するのかを検討すれば、その产地を推察することができる。

当遺跡出土古代須恵器の両分布図を図63に示す。試料群は両分布図でまとめて分布しており、同じ生産地で作られた須恵器であることを明示している。しかも、試料集団の両分布図における分布位置からみて、安居領域に対応する。射水右岸領域には対応しないことは明白である。ただ、安居領域に対応するものの、安居領域内で偏在しており、安居窯跡群が产地ではない可能性もある。また、富山市の射水東端窯跡群（山本藤ノ木窯、平岡II1・2号窯）の須恵器も両分布図での分布に類似性があり、产地の可能性は否定できない。さらに、当遺跡に近い柄谷南窯跡出土須恵器とも対比してみた。図64には、柄谷南2号窯跡出土瓦の、図65には、須恵器の両分布図を示す。図64では瓦の分析データを包含するようにして、柄谷領域を描いてある。また、図65には、須恵器の分析データを示してある。図65のRb-Sr分布図をみると、5点

の試料は瓦領域に分布するが、他の試料はSrが比較的多い集団と少ない集団があることがわかる。この視点でK-Ca分布図を見ると、K-Ca分布図でもK、Caが比較的多い集団(B群)と少ない集団(A群)があることがわかる。柄谷南2号窯では2種類の胎土を持つ須恵器があることを示している。この原因は不明である。また、柄谷南2号窯では瓦と須恵器の胎土が別々であることも分かる。そして、図63をみると、上野井田遺跡出土須恵器はK-Ca分布図でも柄谷領域にはびたりと対応せず、さらに、Rb-Sr分布図では柄谷領域には殆ど対応しないことがわかる。したがって、柄谷南2号窯跡は上野井田遺跡出土須恵器の産地ではないことは明白である。また、図61の射水東端窯跡群(山本藤ノ木窯、平岡II1・2号窯)の分布とも対応しない。以上のことから、上野井田遺跡出土須恵器はこれまでに分析していない別の窯跡の製品である可能性が高い。しかし、富山県内で生産された須恵器であることはほぼ間違いない。

表3 古代須恵器の分析データ

報告書 開拓 番号	試料 番号	出土地点	分析試料		成分					
			種類	器種	Na	K	Ca	Fe	Rb	Sr
92	1	S16	須恵器	坪素	0.036	0.446	0.120	1.77	0.767	0.587
110	2	SK154	須恵器	坪素	0.105	0.373	0.152	2.08	0.617	0.542
100	3	SH12-SP475	須恵器	蓋	0.133	0.445	0.119	1.52	0.752	0.547
134	4	SK228	須恵器	坪素	0.218	0.486	0.157	2.10	0.693	0.563
125	5	SK780	須恵器	蓋	0.056	0.402	0.090	2.32	0.671	0.479
165	6	日高	須恵器	坪素	0.115	0.425	0.107	2.10	0.599	0.523
80	7	S13	須恵器	坪素	0.186	0.500	0.138	1.81	0.761	0.558
90	8	SH14-SKB06	須恵器	蓋	0.170	0.495	0.135	1.81	0.770	0.556
107	9	SH16-SP576	須恵器	坪素	0.143	0.526	0.113	1.45	0.819	0.598
106	10	SH14-SP481	須恵器	坪素	0.158	0.531	0.105	1.57	0.775	0.555
118	11	SK471	須恵器	坪素	0.103	0.441	0.108	1.49	0.703	0.543
192	12	SH13-SP477	須恵器	便	0.156	0.474	0.136	1.53	0.755	0.570
120	13	SK485	須恵器	便	0.146	0.480	0.143	1.65	0.728	0.567
113	14	SK224	須恵器	坪素	0.148	0.475	0.109	1.63	0.753	0.541
114	15	SK231	須恵器	短筒便	0.195	0.482	0.129	1.49	0.773	0.594
137	16	SK228	須恵器	横瓶	0.119	0.526	0.141	1.64	0.787	0.552

図57 安居群(8世紀代)の両分布図

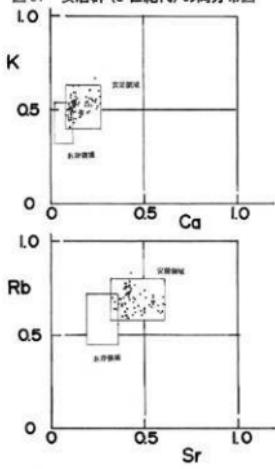


図58 右岸群(8世紀代)の両分布図

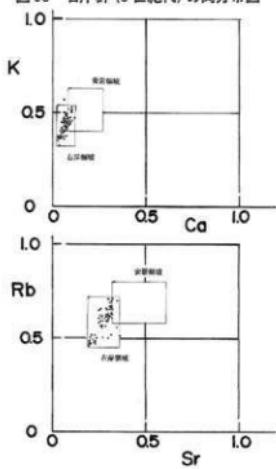


図59 左岸群(8世紀代)の両分布図

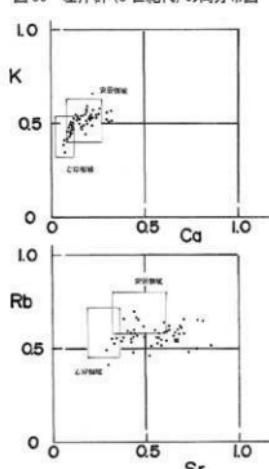


図60 梅檜野群(8世紀代)の両分布図

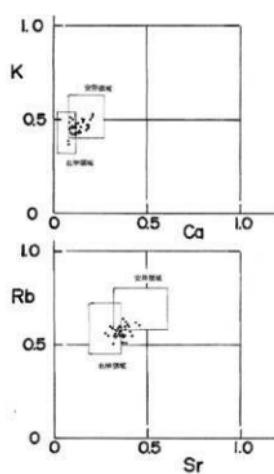


図61 射水東端窯跡群  
(8世紀代)の両分布図

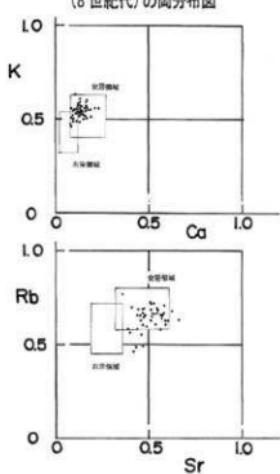


図62 滑川群(万年谷窯)の両分布図

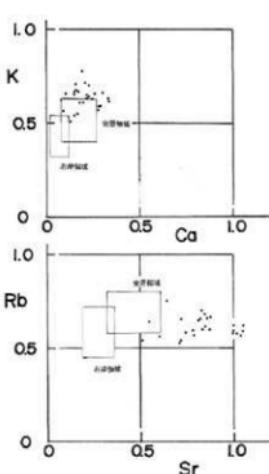


図63 上野井田遺跡の両分布図

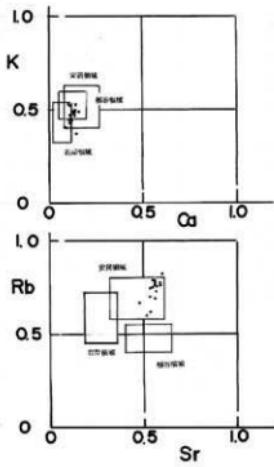


図64 柿谷南2号窯出土瓦の両分布図

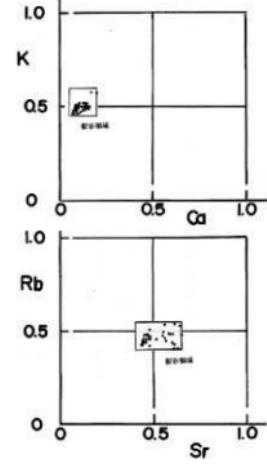
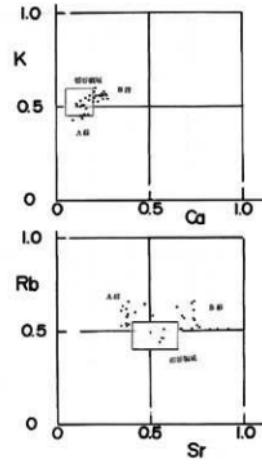


図65 柿谷南2号窯出土須恵器の両分布図



## 第2節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadidze・森 将志

### 1 はじめに

富山県富山市に位置する上野井田遺跡より採取された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

### 2 試料と方法

測定試料は、古代の遺構とされている堅穴住居 SI3～6 のカマドから採取された炭化材 4 点（PLD-41103～41106）と、大型土坑 SK454 から採取された炭化材 1 点（PLD-41107）、土坑 SK1110 から出土した縄文土器の内面付着炭化物 1 点（PLD-41108）の、計 6 点である。測定試料の情報、調製データを表 4 に示す。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

表 4 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41103	遺構：SI 3 位置：カマド	種類：炭化材（コナラ属コナラ属） 試料の性状：最終形成年齢以外 部位不明 状態：dry	粗音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酢・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 過酸：1.2 mol/L）
PLD-41104	遺構：SI 4 位置：カマド	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年齢以外 部位不明 状態：dry	粗音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酢・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 過酸：1.2 mol/L）
PLD-41105	遺構：SI 5 位置：カマド	種類：炭化材（ケヤキ属） 試料の性状：最終形成年齢以外 部位不明 状態：dry	粗音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酢・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 過酸：1.2 mol/L）
PLD-41106	遺構：SI 6 位置：カマド	種類：炭化材（散材） 試料の性状：最終形成年齢以外 部位不明 状態：dry	粗音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酢・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 過酸：1.2 mol/L）
PLD-41107	遺構：SK454	種類：炭化材（環材） 試料の性状：最終形成年齢以外 部位不明 状態：dry	粗音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酢・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 過酸：1.2 mol/L）
PLD-41108	遺構：SK1110	種類：土器付着物・内面（おこり） 状態：dry	粗音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酢・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 過酸：1.2 mol/L）

### 3 結果

表 5 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、暦年較正結果を、図 66 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 衍を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

曆年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の曆年較正には0xCal4.4(較正曲線データ:IntCal20)を使用した。なお、1σ曆年年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の曆年年代範囲であり、同様に2σ曆年年代範囲は95.45%信頼限界の曆年年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

表5 放射性炭素年代測定および曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	曆年較正用年代 (yrBP±1σ)	<sup>14</sup> C年代 (yrBP±1σ)	<sup>14</sup> C年代を曆年年代に較正した年代範囲	
				1σ曆年年代範囲	2σ曆年年代範囲
PLD-41103	-28.65±0.24	1236±20	1235±20	706-727 cal AD (26.69%) 729-737 cal AD (5.43%) 773-775 cal AD (1.79%) 788-825 cal AD (46.46%)	687-698 cal AD (2.97%) 702-742 cal AD (30.38%) 772-776 cal AD (2.40%) 785-878 cal AD (59.70%)
PLD-41104	-27.24±0.18	1326±17	1325±15	669-679 cal AD (45.82%) 710-758 cal AD (17.92%) 798-771 cal AD (4.62%)	655-689 cal AD (57.29%) 698-702 cal AD (1.27%) 742-773 cal AD (36.91%)
PLD-41105	-24.48±0.31	1728±20	1730±20	257-282 cal AD (24.84%) 327-365 cal AD (38.29%) 389-376 cal AD (5.14%)	251-293 cal AD (31.89%) 316-404 cal AD (63.56%)
PLD-41106	-26.40±0.19	1323±17	1320±15	662-680 cal AD (38.59%) 747-759 cal AD (23.29%) 767-771 cal AD (6.39%)	657-690 cal AD (50.44%) 696-703 cal AD (2.96%) 741-773 cal AD (42.96%)
PLD-41107	-27.69±0.16	1337±17	1335±15	656-675 cal AD (62.34%) 730-756 cal AD (5.90%)	652-685 cal AD (74.33%) 744-760 cal AD (16.70%) 766-772 cal AD (4.42%)
PLD-41108	-24.48±0.19	2735±18	2735±20	901-993 cal BC (9.94%) 879-833 cal BC (58.33%)	918-926 cal BC (95.47%)

#### 4 考察

古代の遺構とされている堅穴住居のカマドから採取された炭化材4点は、SI3の炭化材(PLD-41103)が2σ曆年年代範囲で687-698 cal AD (2.97%)、702-742 cal AD (30.38%)、772-776 cal AD (2.40%)、785-878 cal AD (59.70%)で飛鳥時代～平安時代前期の曆年年代を、SI4の炭化材(PLD-41104)が655-689 cal AD (57.29%)、698-702 cal AD (1.27%)、742-773 cal AD (36.91%)で飛鳥時代～奈良時代の曆年年代を、SI5の炭化材(PLD-41105)が251-293 cal AD (31.89%)および316-404 cal AD (63.56%)で、岸本(2011)を参照すると、古墳時代前期～中期に相当する曆年年代を、SI6の炭化材(PLD-41106)が657-690 cal AD (50.44%)、696-703 cal AD (2.96%)、741-773 cal AD (42.06%)で飛鳥時代～奈良時代の曆年年代を示した。なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。これらの試料は、いずれも最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずであり、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。SI3の炭化材(PLD-41103)とSI4の炭化材(PLD-41104)、SI6の炭化材(PLD-41106)は推定時期である古代の曆年年代を示していたが、SI5の炭化材(PLD-41105)は古墳時代前期～中期に相当する曆年年代を示しており、推定時期と少なくとも約190年程度の開きがある。大型土坑SK454から採取された炭化材(PLD-41107)は、2σ曆年年代範囲で652-685 cal AD (74.33%)、

744-760 cal AD (16.70%)、766-772 cal AD (4.42%)で、飛鳥時代～奈良時代の曆年代を示した。

土坑SK1110 から出土した縄文土器の内面付着炭化物 (PLD-41108) は、 $2\sigma$  曆年代範囲で 918-826 cal BC (95.45%) の曆年代を示した。

### 【引用・参考文献】

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337 - 360.  
岸本直文 (2011) 古墳編年と時期区分。一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆編「古墳時代の枠組み」: 34 - 44, 同成社。  
小林謙一 (2017) 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—, 263p, 同成社。  
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の 14C 年代: 3-20, 日本国第四紀学会。  
Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, L., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turner, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capra, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, F., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talama, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0 - 55 cal k BP). Radiocarbon, 62(4), 1 - 33, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

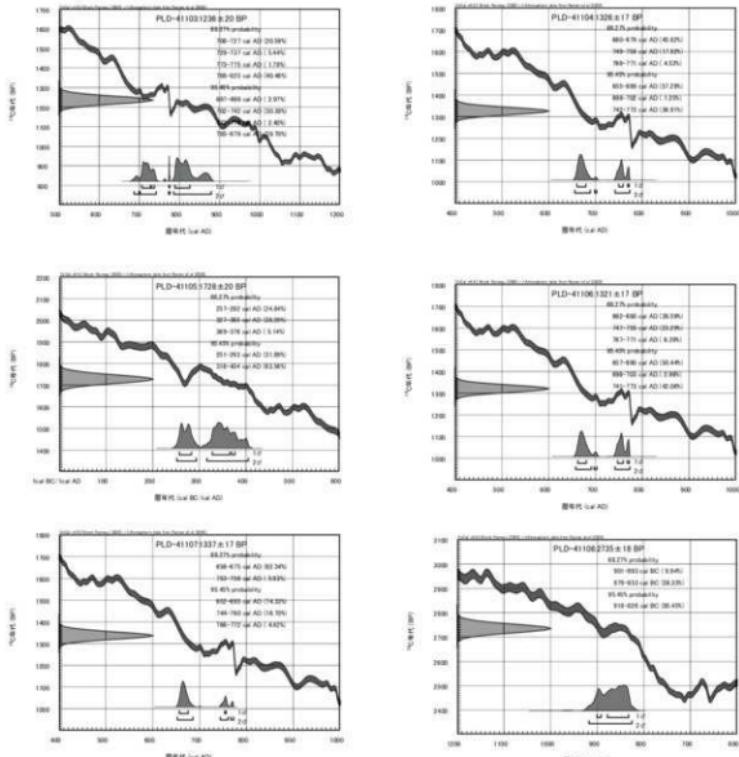


図 66 曆年較正結果

### 第3節 樹種同定

(株) 吉田生物研究所

#### 1 試料

試料は、炭化材・炭を埋土中に多量に含む大型土坑 SR454 から出土した炭化材である。

#### 2 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

#### 3 結果

樹種同定結果（広葉樹1種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に主な解剖学的特徴を記す。  
徴を記す。

##### 4 ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) (遺物 No. 1) (写真 No. 1)

環孔材である。木口では円形ないし梢円形で大体単独の大道管 ( $\sim 500 \mu\text{m}$ ) が年輪にそって幅のかなり広い孔圈部を形成している。孔圈外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2~3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は單穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の單列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊状柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

#### 【参考文献】

林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所 (1991)  
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I ~ V」京都大学木質科学研究所 (1999)

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版 (1988)  
北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社 (1979)

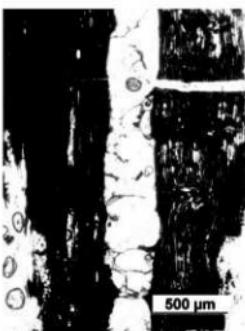
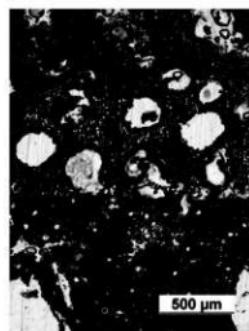
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)  
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

#### 使用顕微鏡

Nikon DS-F11

#### 出土木製品同定表

No.	品名	樹種
1	炭化材	ブナ科クリ属クリ



p-1

## 第4節 珪藻分析

野口真利江（パレオ・ラボ）

### 1はじめに

珪藻は、10～500 μmほどの珪酸質殻を持つ单細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、土層堆積物試料中の珪藻化石群集を調べ、堆積環境について検討した。

### 2 試料と方法

試料は、発掘調査で採取された土層堆積物4点である（表6）。各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレバラートを作製した。

表6 堆積物の特徴

分析No.	試料名	堆積物の特徴
1	弥生遺物包含層②-1	黒褐色（7.5YR 3/1）砂まじりシルト
2	古代遺物包含層（上）③-1	黒褐色（7.5YR 3/1）砂まじりシルト
3	古代遺物包含層（下）④-1	黒褐色（7.5YR 2/1）砂まじりシルト
4	地山⑤-1	にぶい黄褐色（10YR 4/3）砂まじりシルト

(1) 濡潤重量約1.0gを取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロビペットで適量取り、カバーガラスに滴下し、乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入し、プレバラートを作製した。

作製したプレバラートは顕微鏡下400～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。さらに、試料の処理重量とプレバラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。また、保存状態の良好な珪藻化石を選び、写真を図版1に載せた。なお、珪藻化石の少ない試料については、プレバラートの面積の2/3以上について同定・計数した。

### 3 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定し、千葉・澤井（2014）により再検討された環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、海水種は海水不定・不明種（?）として、海～汽水種は海～汽水不定・不明種（?）として、汽水種は汽水不定・不明種（?）として、淡水種は広布種（W）として、その他の種はまとめて不明種（?）として扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は、その種群を不明（?）として扱った。以下に、小杉（1988）が設定した海水～汽水域における環境指標種群のうち海水域における環境指標種群と、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

- [外洋指標種群 (A)] : 塩分濃度が 35 パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。
- [内湾指標種群 (B)] : 塩分濃度が 26 ~ 35 パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。
- [海水藻場指標種群 (C1)] : 塩分濃度が 12 ~ 35 パーミルの水域の海藻や海草 (アマモなど) に付着生活する種群である。
- [海水砂質干潟指標種群 (D1)] : 塩分濃度が 26 ~ 35 パーミルの水域の砂底 (砂の表面や砂粒間) に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。
- [海水泥質干潟指標種群 (E1)] : 塩分濃度が 12 ~ 30 パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。
- [上流性河川指標種群 (J)] : 河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。
- [中～下流性河川指標種群 (K)] : 河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。
- [最下流性河川指標種群 (L)] : 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。
- [湖沼浮遊生指標種群 (M)] : 水深が約 1.5m 以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。
- [湖沼沼澤地指標種群 (N)] : 湖沼における浮遊生種としても、沼澤湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼澤湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。
- [沼澤湿地付着生指標種群 (O)] : 水深 1m 内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。
- [高層原湿原指標種群 (P)] : 尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。
- [陸域指標種群 (Q)] : 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である (陸生珪藻と呼ばれている)。
- [陸生珪藻 A 群 (Qa)] : 耐乾性の強い特定のグループである。
- [陸生珪藻 B 群 (Qb)] : A 群に随伴し、湿った環境や水中にも生育する種群である。

#### 4 結果

堆積物から検出された珪藻化石は、海水種が 1 分類群 1 属、淡水種が 56 分類群 27 属 40 種 2 変種であった (表 7)。これらの珪藻化石は、淡水域における 7 環境指標種群 (K, M, N, O, P, Qa, Qb) に分類された (表 7)。また、珪藻分布図を図 67 に示した。以下では、各試料における珪藻化石の特徴とその堆積環境について述べる。

##### 堆地山③-1 (分析 No. 4)

堆積物 1g 中の珪藻殻数は  $2.1 \times 10^4$  個、完形殻の出現率は 53.5% である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は少ない。環境指標種群では、陸生珪藻 B 群 (Qb)、陸生珪藻 A 群 (Qa)、沼澤湿地付着生指標種群 (O) がわずかに検出された。

珪藻化石の検出数が少ない点と、環境指標種群の特徴から、沼澤湿地を伴うジメジメとした陸域環境が考えられる。

### 弥生遺物包含層② -1 (分析 No. 1)

堆積物 1g 中の珪藻殻数は  $3.7 \times 105$  個、完形殻の出現率は 46.0% である。おもに淡水種からなり、海水種を 1 個体のみ伴う。堆積物中の珪藻殻数が多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群 (K) が多く、沼沢湿地付着生指標種群 (O) を伴い、湖沼沼沢湿地指標種群 (N)、湖沼浮遊生指標種群 (M)、陸生珪藻 B 群 (Qb) をわずかに伴う。

環境指標種群の特徴から、湖沼沼沢湿地を伴う中～下流性河川環境が推定される。

### 古代遺物包含層 (下) ④-1 (分析 No. 3)

堆積物 1g 中の珪藻殻数は  $5.0 \times 104$  個、完形殻の出現率は 50.6% である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は少ない。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群 (K) が多く、沼沢湿地付着生指標種群 (O)、陸生珪藻 B 群 (Qb)、陸生珪藻 A 群 (Qa) などをわずかに伴う。

環境指標種群の特徴から、沼沢湿地やジメジメとした陸域などを伴う中～下流性河川環境が推定される。

### 古代遺物包含層 (上) ③-1 (分析 No. 2)

堆積物 1g 中の珪藻殻数は  $1.5 \times 105$  個、完形殻の出現率は 51.5% である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数はやや多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群 (K) が多く、湖沼沼沢湿地指標種群 (N) と沼沢湿地付着生指標種群 (O) を伴い、陸生珪藻 B 群 (Qb) と湖沼浮遊生指標種群 (M) をわずかに伴う。

環境指標種群の特徴から、湖沼沼沢湿地などを伴う中～下流性河川環境が推定される。

## 5 考察

環境指標種群の特徴から、地山の堆積時はジメジメとした陸域環境であったと考えられ、珪藻化石の検出数が少ない点から、常時水を湛えた環境ではなかった可能性がある。

一方、弥生時代と古代の遺物包含層では、中～下流性河川指標種群 (K) が第一位優占種群であり、流水環境であったと推察される。また、いずれの試料でも第一位優占種は *Cymbella turgidula* で、*Cymbella* 属が特徴的であった。基本的に *Cymbella* 属が第一位種となる群集は清浄な水域を代表する群集とされ (渡辺・浅井, 1992)、さらに、渡辺ほか (2005) では *Cymbella turgidula* は有機汚濁に関しては好清水性種と報告されている。したがって、弥生時代と古代において、遺跡ではきれいな流水域環境が成立していた可能性が高い。

## 【引用文献】

- 安藤一男 (1990) 淡水底珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用、東北地理, 42, 73-88.  
千葉 崇・澤井祐紀 (2014) 環境指標種群の再検討と更新、Diatom, 30, 7-30.  
小杉正人 (1988) 硅藻の環境指針種群の設定と古環境復元への応用、第四紀研究, 27, 1-20.  
渡辺仁治・浅井一規 (1992) 高優占度珪藻による有機汚濁度の判定 (2)。Calomeis, Cocconeis, Cyclotella, Cymbella, Diatoms, Eunotia, Fragilaria, Gomphonema, Gomphonema, を第1位種とする群集、Diatom, 7, 21-27  
渡辺仁治・浅井一規・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 (2005) 淡水珪藻生態図鑑：群集解析に基づく汚濁指標 DAipo, pH 耐性能、784p、内田老舗圖。

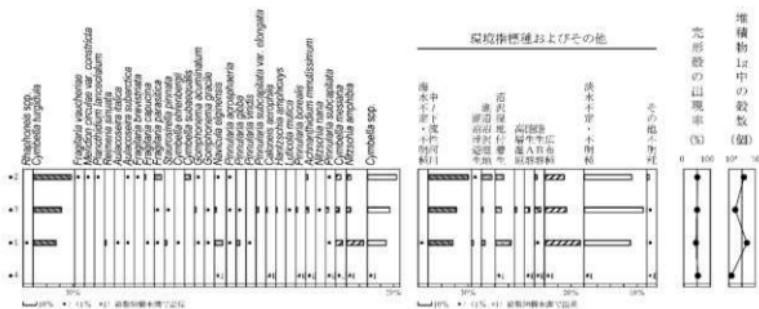
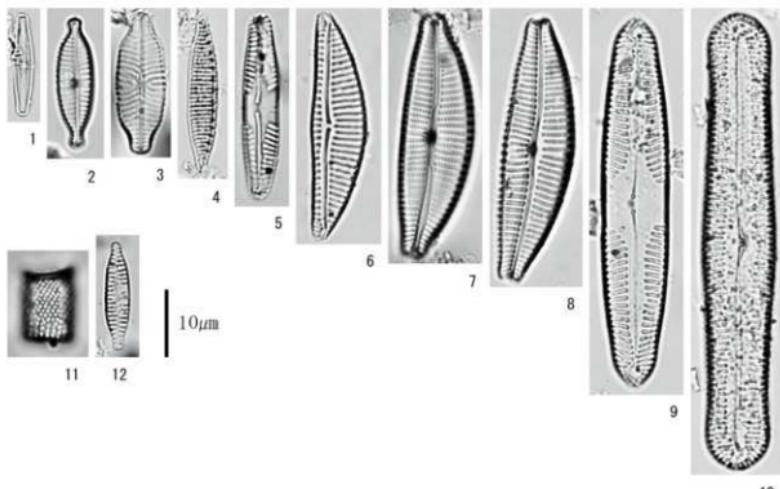


図 67 堆積物中の珪藻化石分布図（主な分類群を表示）



図版1 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1. *Achnanthidium minutissimum* (No. 3)
2. *Gomphonema parvulum* (No. 2)
3. *Navicula elginensis* (No. 1)
4. *Nitzschia amphibia* (No. 1)
5. *Pinnularia subcapitata* (No. 4)
6. *Cymbella mesiana* (No. 2)
7. *Cymbella turgidula* (No. 2)
8. *Cymbella turgidula* (No. 3)
9. *Pinnularia gibba* (No. 1)
10. *Pinnularia acrosphaeria* (No. 2)
11. *Aulacoseira subarctica* (No. 2)
12. *Fragilaria vaucheriae* (No. 2)

表7 堆積物中の珪藻化石産出表(種群は、千葉・澤井(2014)による)

No.	分類群	種群	1	2	3	4
1	<i>Raphoneis</i>	spp.	?	1		
2	<i>Achnanthes</i>	spp.	?	4	3	2
3	<i>Achnanthidium</i>	<i>exigua</i>	W	3		
4	<i>A.</i>	<i>minutissimum</i>	Qb	3	4	2
5	<i>Amphora</i>	<i>copulata</i>	W	1	4	3
6	<i>A.</i>	spp.	?	1	1	2
7	<i>Aulacoseira</i>	<i>italica</i>	M	2		
8	<i>A.</i>	<i>subarctica</i>	M	1	1	
9	<i>A.</i>	spp.	?	1	1	
10	<i>Caloneis</i>	<i>aerophila</i>	Qa		2	1
11	<i>C.</i>	spp.	?	7	2	5
12	<i>Coccoceras</i>	<i>placentula</i>	W	1	1	2
13	<i>Cymbella</i>	<i>ehrenbergii</i>	O	1		
14	<i>C.</i>	<i>mesiana</i>	W	11	8	5
15	<i>C.</i>	<i>naufragium</i>	W			1
16	<i>C.</i>	<i>subsequalis</i>	O		9	
17	<i>C.</i>	<i>tumida</i>	W			3
18	<i>C.</i>	<i>turgida</i>	K	35	58	37
19	<i>C.</i>	spp.	?	29	45	30
20	<i>Diploneis</i>	<i>fimicina</i>	W	1	1	
21	<i>D.</i>	spp.	?	2		1
22	<i>Eunotia</i>	spp.	?			1
23	<i>Fragilaria</i>	<i>brevistriata</i>	N		2	
24	<i>F.</i>	<i>cavolini</i>	N	2	3	
25	<i>F.</i>	<i>parasitica</i>	N	1	11	1
26	<i>F.</i>	<i>vauucheriæ</i>	K	1		
27	<i>Fusulina</i>	spp.	?	1	1	2
28	<i>Gomphonema</i>	<i>acuminatum</i>	O	1	1	2
29	<i>G.</i>	<i>gracile</i>	O	1		1
30	<i>G.</i>	<i>parvulum</i>	W	3	3	4
31	<i>G.</i>	spp.	?	2	7	4
32	<i>Hantzschia</i>	<i>amphioxys</i>	Qa		2	
33	<i>Ludicola</i>	<i>multica</i>	Qa		1	
34	<i>Mitryma</i>	<i>maris</i>	W		3	1
35	<i>Menidion</i>	<i>circulae</i> var. <i>constricta</i>	K	1		
36	<i>Navicula</i>	<i>cuspidata</i>	W	1	1	1
37	<i>N.</i>	<i>elginiensis</i>	O	13	2	3
38	<i>N.</i>	spp.	?	10	5	6
39	<i>Neidium</i>	spp.	?	2		2
40	<i>Nitzschia</i>	<i>amphibia</i>	W	27	7	6
41	<i>N.</i>	<i>nana</i>	Qb		1	
42	<i>N.</i>	spp.	?	3	3	10
43	<i>Pinnularia</i>	<i>acrosphaeria</i>	O	1	1	1
44	<i>P.</i>	<i>borealis</i>	Qa		2	1
45	<i>P.</i>	<i>gibba</i>	O	6		1
46	<i>P.</i>	<i>subcapitata</i>	Qb	2	1	4
47	<i>P.</i>	<i>subcapitata</i> var. <i>elongata</i>	P		3	
48	<i>P.</i>	<i>viridis</i>	O	1		
49	<i>P.</i>	spp.	?	10	5	12
50	<i>Planothidium</i>	<i>lanceolatum</i>	K		1	
51	<i>Reimeria</i>	<i>sinuata</i>	K	3		
52	<i>Rhopalodia</i>	<i>gibba</i>	W	2	1	1
53	<i>R.</i>	<i>gibberula</i>	W	2		3
54	<i>Selliphora</i>	<i>pupula</i>	W	3		1
55	<i>Staurosirella</i>	<i>pinna</i>	N	3		1
56	<i>Suturaria</i>	spp.	?			1
57	<i>Symedra</i>	<i>ulna</i>	W	1	1	1
58	Unknown		?	2	4	1
	合計			202	202	174
	海水不定・不明種		?	1		
	中・下流性河川		K	38	61	37
	湖沼浮遊生		M	3	1	
	湖沼泥炭地		N	6	16	2
	沼沢湿生		O	24	13	8
	高層草原		P		3	
	疊層 A 群		Qa		7	2
	疊層 B 群		Qb	2	4	9
	広布種		W	55	30	29
	淡水不定・不明種		?	71	73	78
	その他不明種		?	2	4	1
	海水種			1		
	淡水種			199	198	173
	壳形殻の出現率(%)			46.0	51.5	50.6
	堆積物1g中の殻数(個)			3.7E+05	1.5E+05	5.0E+04
						2.1E+04

## 第5節 花粉分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

### 1はじめに

富山県富山市の上野井田遺跡において、古環境を検討するために堆積物が採取された。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料を用いて珪藻分析も行われている（珪藻分析の項参照）。

### 2 分析試料および方法

分析試料は、1区・3区の基本層序から採取された計4試料である（表8）。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

表8 分析試料一覧

試料名	岩質
弥生遺物包含層②-1	黒褐色 (7.5YR 3/1) 砂まじりシルト
古代遺物包含層（上）③-1	黒褐色 (7.5YR 3/1) 砂まじりシルト
古代遺物包含層（下）④-1	黒褐色 (7.5YR 2/1) 砂まじりシルト
地山⑤-1	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 砂まじりシルト

試料（湿重量約4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え、1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200に達するまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。十分な花粉化石が含まれない試料については、プレパラート1枚を検鏡するに留めた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC. 3083～3089）を作製し、写真を図版2として載せた。

### 3 結果

検鏡の結果、古代遺物包含層（上）③-1と（下）④-1の2試料からは花粉化石が得られなかった。地山⑤-1と弥生遺物包含層②-1の2試料からは花粉化石が得られており、検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉10、草本花粉10、形態分類のシダ植物胞子2の、総計22である。産出花粉・胞子の一覧表を表2に、分布図を図68に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示している。図表においてハイフン（-）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

十分な量の花粉化石が得られたのは弥生遺物包含層②-1のみで、樹木花粉ではトチノキ属が、草本花粉ではアブラナ科が突出している。

### 4 考察

今回の分析試料は全体的に花粉化石の保存状態が悪く、弥生遺物包含層②-1のみ十分な量の花粉化石が得られた。一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると、紫外線や土壤バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では、花粉化石が残りにくい。珪藻分析の結果では、地山は水分条件の良好な場所ではないと推測されており、地山の堆積物は乾燥の環境に晒されるなどしたために、花粉化石の多くが分解・消失してしまったと考えられる。弥生や古代の遺物包含層では、河川性指標群の珪藻化石が得られているため、堆積時の水分条件は良好であったと考えられるが、古代の遺物包含層については、

堆積後に堆積物が乾燥状態に晒されたため、花粉の保存状態が良好ではなかった可能性が考えられる。以下では、十分な量の花粉化石が得られた弥生遺物包含層②-1の花粉化石群集から、弥生時代の古植生について検討した。

弥生遺物包含層②-1の樹木花粉では、トチノキ属が突出している。また、同層準の珪藻分析の結果では、きれいな流水環境が推測されている。トチノキ属は河畔林要素の植物として知られており、流域周辺の水分条件が良好な場所に分布していたと考えられる。さらに、湿地林要素のハンノキ属花粉の産出も見られるため、流域周辺の湿地的環境の場所にはハンノキ属も生育していたと思われる。

その他には、マツ属複複管束亜属やコナラ属コナラ亜属、クリ属といった二次林要素の分類群の産出も見られ、試料採取地点周辺の開けた明るい場所にはニヨウマツ類やコナラ、クリなどからなる二次林も分布していた可能性がある。

草本花粉では、イネ科やヨモギ属、タンボボ亜科などが産出しているが、最も産出が目立つのがアブラナ科である。流域周辺のやや乾燥した場所にはアブラナ科が分布を広げていたと思われる。あるいは、アブラナ科という分類群には栽培種も含まれており、花粉形態で栽培種か野生種かを区別するのは難しいものの、弥生遺物包含層から産出するアブラナ科には栽培種が含まれている可能性もある。

No.	分類群	種群	1	2	3	4
1	Rhaphoneurus	spp.	?	1		
2	Achnanthes	spp.	?	4	3	2
3	Achnanthidium	exigua	¶	5		
4	A.	minutissimum	Gb		3	4
5	Amphora	coeruleata	¶	1	4	3
6	A.	spp.	?		1	2
7	Aulacoseira	italica	¶	2		
8	A.	subarctica	¶	1	1	
9	A.	spp.	?	1	1	
10	Caloneis	aerophila	Ga			2
11	C.	spp.	?	7	2	5
12	Cocconeis	placentula	¶	1	1	2
13	Cyathella	ehrenbergii	O	1		
14	C.	nesiana	¶	11	8	5
15	C.	navigicula	¶			1
16	C.	subsequalis	O		9	
17	C.	tundia	¶			3
18	C.	turgida	K	35	58	37
19	C.	spp.	?	29	45	30
20	Dokonella	fimicina	¶		1	1
21	D.	spp.	?	2		1
22	Eunotia	spp.	?			1
23	Fragilaria	brevistriata	N		2	
24	F.	cavolina	N	2	3	
25	F.	parasitica	N	1	11	1
26	F.	vaucleriae	K		1	
27	Frustulia	spp.	?	1	1	2
28	Gesophaeum	acuminatum	O	1	1	2
29	G.	gracile	O	1		1
30	G.	parvulum	¶	3	3	4
31	G.	spp.	?	2	7	4
32	Hantzschia	amphioxys	Ga		2	
33	Luticola	nitrica	Ga		1	
34	Martyna	martyi	¶		3	1
35	Meridion	circulae var. constricta	K		1	
36	Navicula	cuspidata	¶	1	1	1
37	N.	elginiensis	O	13	2	3
38	N.	spp.	?	10	5	6
39	Neidium	spp.	?	2		2
40	Nitzschia	ameishiba	¶	27	7	6
41	N.	nana	Gb		1	
42	N.	spp.	?	3	3	10
43	Pinnularia	acrosphaeria	O	1	1	1
44	P.	borealis	Ga		2	1
45	P.	gibba	O	6		1
46	P.	subcapitata	Gb	2	1	4
47	P.	subcapitata var. elongata	P			3
48	P.	viridis	O	1		
49	P.	spp.	?	10	5	12
50	Planothidium	lanceolatum	K		1	
51	Revera	sinuata	K	3		
52	Rhopalodia	globa	¶	2	1	1
53	R.	glomerula	¶	2		
54	Selaphora	pupula	¶	3		1
55	Staurostigmella	pinata	N	3		1
56	Spirula	spp.	?			1
57	Synedra	ulna	¶	1	1	1
58	Unizymnia	spp.	?	2	4	1
合計			202	202	174	43
淡水生・不明種						
中水生・急流浸出	K	38	61	37		
過渡浮遊生	¶	3	1			
湖沼・沼泥地	N	6	26	2		
沼泥地・泥地	O	24	13	8	2	
高麗藻原	P		3			
陸生・水群	Ga		7		2	
陸生・水群	Gb	2	4	9	4	
広布種	¶	55	30	29	17	
淡水不生・不明種	?	71	73	78	17	
その他の水種	?	2	4	1	1	
海水種		1				
淡水種		199	398	179	42	
完形種の出現率(%)		46.0	51.5	50.6	53.5	
堆積物1g中の個数(個)		3.76±0.05	1.56±0.05	5.08±0.04	2.16±0.04	

表9 堆積物中の珪藻化石産出表(種群は、千葉・澤井(2014)による)

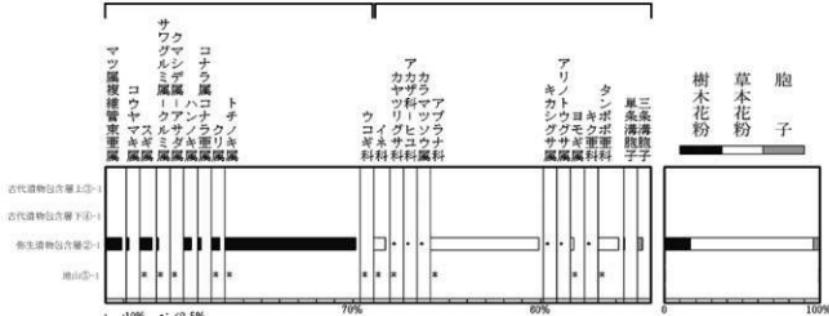
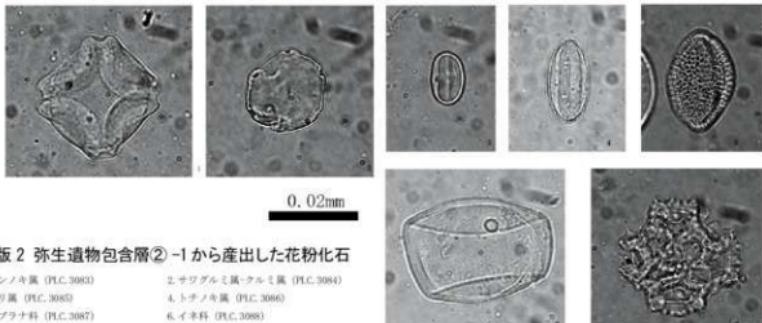


図68 上野井田遺跡における花粉分布図

草木花粉は樹木花粉総数、草木花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。

＊は樹木花粉 200 個標準の試料について、抽出した分類群を示す。



図版2 弥生遺物包含層②-1から産出した花粉化石

- 1. ハシノキ属 (PLC.3083)
- 2. サワグルミ属-クルミ属 (PLC.3084)
- 3. ハリ葉 (PLC.3085)
- 4. ヒチノキ属 (PLC.3086)
- 5. アブラナ科 (PLC.3087)
- 6. イネ科 (PLC.3088)
- 7. タンボク科 (PLC.3089)

## 第6節 種実同定

パンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

### 1 はじめに

富山県富山市二俣地内に位置する上野井田遺跡は、縄文時代～平安時代の集落遺跡である。ここでは、縄文時代の土坑SK1110から出土した炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物について検討した。

### 2 試料と方法

分析試料は、縄文時代の土坑SK1110において肉眼で確認され、採取された炭化種実9試料である。なお、SK1110からは縄文時代の土器が出土しており、土器の内面付着炭化物の放射性炭素年代測定では、縄文時代晩期中葉に相当する年代値が得られている（放射性炭素年代測定の項参照）。

同定および計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。オニグルミについては、重量を計量し、完形に換算した場合の個体数を求めた。試料は、富山市教育委員会に保管されている。

### 3 結果

同定した結果、試料はいずれも木本植物のオニグルミ炭化核であった。この他に、不明の炭化材がみられたが、同定の対象外とした（表10）。

表10 SK1110から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

試料No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
遺構				SK1110					
種別				土坑					
分類群				調査時代					
オニグルミ 炭化種実	$\approx 10^{10}$	31.78g	完形1	1~2 <sup>(+)</sup>	3.08g	2~3 <sup>(+)</sup>	5.14g	4 <sup>(+)</sup>	1.71g
不明 炭化核	(++)		(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	10.5g
合計					5~6 <sup>(+)</sup>	10.5g	1 <sup>(+)</sup>	1.2g	1 <sup>(+)</sup>
備考					5~6 <sup>(+)</sup>	10.5g	1 <sup>(+)</sup>	1.2g	1 <sup>(+)</sup>
					10.5g	1 <sup>(+)</sup>	1.2g	1 <sup>(+)</sup>	1.13g

\*1:9, ++:10-49

以下、炭化種実の産出状況を試料別に記載する。

試料No. 1：オニグルミが31.78g（約16個体分）と完形1個体が得られた。

試料No. 2：オニグルミが3.08g（約1~2個体分）得られた。

試料No. 3：オニグルミが5.14g（約2~3個体分）得られた。

試料No. 4：オニグルミが1.71g（約1個体分）得られた。

試料No. 5：オニグルミが10.5g（約5~6個体分）得られた。

試料No. 6：オニグルミが1.2g（1個体分未満）得られた。

試料No. 7：オニグルミが0.5g（1個体分未満）得られた。

試料No. 8：オニグルミが0.22g（1個体分未満）得られた。

試料No. 9：オニグルミが1.13g（1個体分未満）得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版1に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠する。

#### (1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 炭化核クルミ科

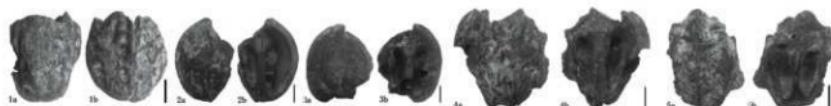
上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縱方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。打撲痕のある個体は、頂部と上部が欠けている。完形個体の大きさは、残存高19.9mm、残存幅14.9mm、厚さ17.7mm（図版3-1）。半割の個体は、高さ23.7mm、残存幅17.4mm、残存厚8.7mm（図版3-2）、高さ23.2mm、残存幅19.7mm、残存厚11.6mm（図版3-3）。打撲痕のある個体は、残存高21.9mm、残存幅20.8mm、残存厚12.0mm（図版3-4）、残存高22.0mm、残存幅17.3mm、残存厚9.5mm（図版3-5）。

### 4 考察

SK1110の土坑からは野生植物で食用可能なオニグルミの核が得られた。また、オニグルミ以外では不明の木材もわずかに得られた。オニグルミには、打撲痕を有する個体や半割の個体、多くの破片も含まれ、内部の子葉を利用するため割られたと考えられる。オニグルミの核は食用部位ではないため、不要な核が燃えた後に、堆積した可能性が考えられる。

#### 【引用文献】

米倉清・梶田 慎（2003-） RG Plants  
和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版3 SK1110から出土した炭化種実

1. オニグルミ炭化核（完形）、2~3. オニグルミ炭化核（半割）。

4~5. オニグルミ炭化核（打撲痕）。

## 第5章 総括

### 第1節 はじめに

今回調査では、縄文時代晚期、弥生時代終末期～古墳時代初頭、古代の遺構を確認した。

縄文時代晚期の遺構は、1区(南)の東側で溝2条や土坑3基を確認した。廃棄土坑の埋土には縄文時代晚期の土器とともに多量の炭化種実が含まれていた。自然科学分析の結果、種実は全てオニグルミであり、当時の食生活の一端を示している。

弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構は、1区(南)東・2区で径約11mを測る大型の周溝を持つ建物や掘立柱建物、廃棄土坑等がある。周溝を持つ建物から出土した高坏の环部外面下部には沈線やキザミを持つものがあり、この周辺地域の弥生時代終末期の固有の施文の可能性がある。

古代は2区・3区含む全域で遺構を検出したものの、その中でも、特に1区中央および3区北側の遺構密度が高く、3区南西及び2区南東の遺構密度が低い。特に3区北側は、調査区北端より約250m北側の調査で同時期の堅穴建物・掘立柱建物が確認されていることもあわせ、同時期の集落が調査区北側にも広がるとみられる(市教委1998)。今回の調査では堅穴建物8棟・掘立柱建物18棟・溝・土坑・ピットなど合計約1,100の遺構を確認した。遺物包含層は調査区全域で大部分が削平されていることから、遺物のほとんどが遺構出土である。遺物はほぼ全て須恵器・土師器であり、そのなかでも須恵器の供膳形態は、1998年の調査で過半数を占めていた未還元のものが、今回調査でも一定量出土している。遺物の時期は、8世紀後半が主体をなし、大部分が8世紀～9世紀前半におさまることから、短期間に営まれた集落であると考えられる。

今回調査区は遺跡範囲のはば中央に位置し、東側に隣接する二俣川と、西側にある土川に挟まれた緩高地に成立した集落である。珪藻・花粉分析の結果から、同遺跡は水分条件が良好な中～下流域のきれいな流水域環境にあり、栽培種の可能性がある有用植物のトチノキ、クリ、アブラナ等が生育する環境であったと考えられる。

以下、第2節では弥生時代終末期～古墳時代初頭の大型の周溝を持つ建物について、第3節では古代集落の変遷について、今回調査の成果をまとめることとする。

### 第2節 弥生時代後期～古墳時代初頭の周溝を持つ建物(SII)について

1区(南)東から2区にかけて、径約11mを測る大型の周溝を持つ建物を1基(SII)確認した。その西側に隣接して、倉庫の可能性がある2×1間の掘立柱建物1棟(SB2)、長径約1.2mを測る廃棄土坑1基(SK1025)、やや西側に離れて小型の堅穴建物1棟(SI2)、2区の北側でSIIと同規模の建物の周溝の可能性がある溝(SD991)などがある。このすぐ北東には旧河川が存在し、SII東側を除く三方には、当該期の遺構が皆無であることから、旧河川の南西、調査区の東側に局所的に集落が広がると考えられる。また出土遺物の様相から、建物の時期は弥生時代終末期(月影Ⅱ式期)～古墳時代初頭(白江式期)である。

ここではSIIの構造及び遺構に伴う同時期の遺物を中心に、県内を中心とする地域で確認されている同様の遺構と比較する。

同時期の建物についての分類と変遷については、2006年、高岡市下老子篠川遺跡において、岡本氏によってまとめられた(富山県埋文2006)。同じく2006年、今回調査した遺跡の所在する富山市では、鍋谷氏により、富山県域における弥生時代後期～古墳時代前期の堅穴建物についての集成がなされている(富山市教委2006)。今回検出した大型建物であるSIIは、中央の隅丸方形の居住部分から外側に向かって順に、円形で幅広の内周溝、周堤、幅狭の外周溝という二重周溝を持つ構成で構築される。このような

二重の周溝をもつ大型の竪穴または平地建物の類例は、既往の調査報告書では確認できなかったものの、広義では岡本氏の分類のうち、広溝式竪穴建物の囲繞型または開口型にあたると考えられる。規模は建物本体部分が1辺約5.6mで床面積は約31.36m<sup>2</sup>、外周溝を含めると径約11mを測り、専有面積は約95m<sup>2</sup>となる。前述の鍋谷氏の区分に従い、直径(辺)が9mを超えるものを大型とした場合、周辺地域では富山市打出遺跡・千坊山遺跡、魚津市佐伯遺跡、射水市中山南遺跡、高岡市下老子笹川遺跡、氷見市上久津呂中屋遺跡にあり、そのうち千坊山遺跡、佐伯遺跡、中山南遺跡、下老子笹川遺跡、上久津呂中屋遺跡では平面円形を呈する大型建物がみられる。また弥生時代後期(法仏期)から弥生時代終末期(月影期)への建物変遷の特徴として、①小屋的な存在である小型建物の増加と②中型建物の大型化があげられており、SI1に共伴する遺物の時期とも整合する(富山市教委2006)。

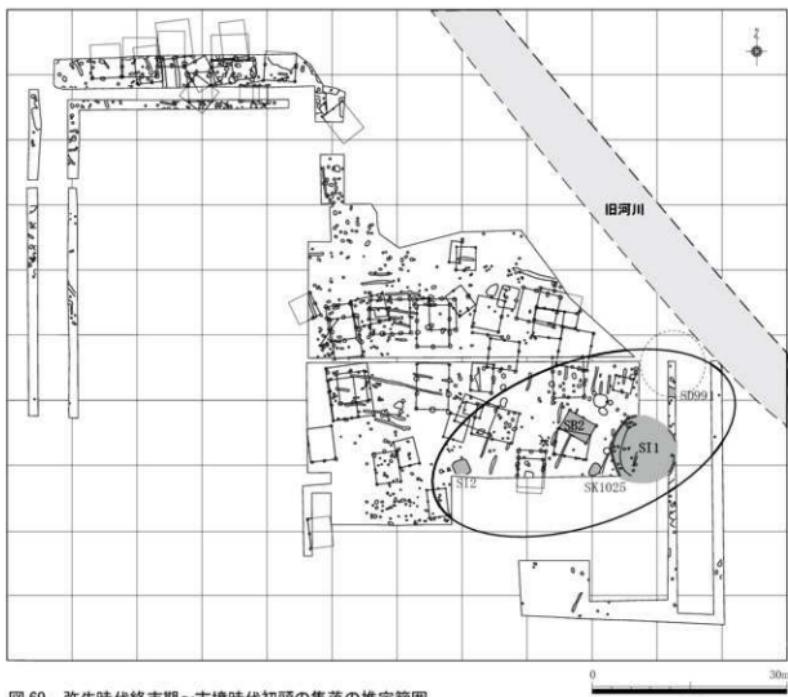


図 69 弥生時代終末期～古墳時代初頭の集落の推定範囲

表11 周辺地域の弥生時代後期～古墳時代初頭の周溝を持つ大型建物一覧(1)

市町村名	遺跡名	立地	遺跡名	平面形		部式				法室		出土遺物	附記	備考		
				周溝	建物	周溝幅	周溝式	柱間様	周壁幅	周溝幅	柱間外縁					
魚津市	佐伯遺跡	極地	3801	円形か	円形か	狭溝式	周溝型か	雙六住居	—	(11.00) × (11.00)	0.43(最大) (3.50)	赤陶片有窓高床(複数 個)、骨、筒瓦、瓦片	住生跡米～古 墳初期	周溝内に馬を手すり。壁面あり。 柱孔有。		
射水市	中山南遺跡	高地	第2号住 居址	不整円形	不整円形	狭溝式	周溝型か	雙六住居	—	12.20m 12.77m	2.44 (最大) 3m	10.34m	周溝内有地形土器 多數	住生跡米～古 墳初期	丘陵頂部に立地。東西削りによる 斜面をもつて立地。周溝の大きさ が他の遺跡に比較してもので大きい 傾向。周溝は土器と石器の混合で 構成される。壁面では馬を手すり 等の二次造形。土器は筒瓦有。	
射水市	中山南遺跡	高地	第3号住 居址	円形	円形	狭溝式	周溝型か	雙六住居	—	12.53m	0.54m	10.24m	住生跡米～古 墳初期	馬を手すり。馬脚は柱脚不同。 筒瓦等で構成された土器遺物はあ まりに見られない。		
射水市	中山南遺跡	高地	第4号住 居址	不規	円形	狭溝式	周溝型か	雙六住居	—	(10.00) × (10.00)	0.60(最大) (3.00)	不規	不規	住生跡米～古 墳初期	馬を手すり。馬脚は柱脚不同。 筒瓦等で構成された土器遺物はあ まりに見られない。	
射水市	中山中遺跡	高地	3801	不整円形	不整円形	狭溝式	周溝型か	雙六住居	—	(10.00) × (10.00)	0.33(最大) (3.00)	—	—	住生跡米～古 墳初期	馬を手すり。馬脚は柱脚不同。 筒瓦等で構成された土器遺物はあ まりに見られない。	
富山市	南郡I遺跡	極地	3110	—	円形か	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	—	—	住生跡米	西(m)に前庭用と想われる丸溝が 有り。同時に他の多段立石。赤 銅鏡等随合有。	
富山市	福光II遺跡	極地	3114	—	圓丸方形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	—	—	住生跡米	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。	
富山市	牛伏山遺跡	極地	3104	—	円形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	—	(11.30)	住生跡米～古 墳中期	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。	
富山市	牛伏山遺跡	極地	3106	—	円形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	—	(9.30)	住生跡米～古 墳中期	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。	
富山市	牛伏山遺跡	極地	3115	—	円形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	—	(10.30)	住生跡米～古 墳中期	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。	
富山市	牛伏山遺跡	極地	3118	—	円形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	—	(10.30)	住生跡米～古 墳中期	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。	
舟橋村	竹内芦芦原遺跡	極地	31102	不規	円形	狭溝式	周溝型か	平地住居	—	8.58	0.33(最大) (3.00)	不規	壁、台形柱、井干柱、 板状柱	住生跡米～古 墳中期	解剖された雙六住居の可能性あり	
永夏市	昭和天宝遺跡	高地	51130	—	圓丸方形 または多 角形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	0.1	0.84m × (5.90)	—	—	住生跡米～古 墳中期	周溝は水平で、周溝幅は約 1.5m以上。
永夏市	昭和天宝遺跡	高地	51152	—	圓丸方形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	0.5	11.4m 11.0m 8.6m 7.2m	壁、屋	住生跡米～古 墳中期	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。	
永夏市	上久瀬沖中畠遺跡	高地	516	円形	円形	広溝式	鍵口型か	雙六住居	2.2m 2.2(上縁)	11.00	0.8	5.7	—	—	住生跡米～古 墳中期	周溝の傾度が急で、周溝内 より約3m深い。
高岡市	白石湖A遺跡	極地	51005	—	圓丸方形	周溝なし	—	雙六住居	—	—	—	(10.2) × (9.5)	—	—	住生跡米	周溝は水平で、周溝内 より約3m深い。
高岡市	白石湖A遺跡	極地	51702	圓丸方形か	方柱か	広溝式	鍵口型	雙六住居	—	不規	0.9	不規	—	—	住生跡米～古 墳中期	周溝は水平で、周溝内 より約3m深い。
高岡市	白石湖A遺跡	極地	51706	圓丸方形	方柱	狭溝式	鍵口型	雙六住居	—	12.00	0.6	3.75 × 3.0m	壁、屋、柱基、板状 柱、井干柱、板状柱、 柱状柱等有り。	住生跡米～古 墳中期	周溝は水平で、周溝内 より約3m深い。	
高岡市	白石湖A遺跡	極地	51707	圓丸方形か	方柱	広溝式	鍵口型	土坑型	雙六住居	—	14.08m 16.84	0.9 (300')	7.28 × 3.0m	壁、屋、柱基、板状 柱等有り。	住生跡米～古 墳中期	周溝は過度な土被りで、円柱に約 0.5m、1.70mにわたる。
高岡市	下老子宿川遺跡	極地	3121	円形	広溝式	鍵口型	平地住居	—	16.00m	1.19m	不規	—	—	住生跡米	周溝は東西に開口部をもつ。	
高岡市	下老子宿川遺跡	極地	315	不整形	広溝式	周溝型か	雙六住居	—	16.5(最大)	0.75	11 × 3.7	—	—	住生跡米	周溝の可動性あり。3.7mと 溝底を共通。	
高岡市	下老子宿川遺跡	極地	516	方柱か	広溝式	鍵口型	雙六住居	—	2.6 (1.80m 2.1m)	16.00m	2.4(最大) (2.1)	—	—	住生跡米	周溝から馬を手すり、壁面 に鍵口柱等有り。	
高岡市	下老子宿川遺跡	極地	517	方柱	広溝式	周溝型	雙六住居	—	12.00	0.75	8.4 × 3.1m	壁、屋、柱基、板状 柱、柱状柱等有り。	住生跡米	周溝は南北で一部墻、張り出し 有り。円柱に約2.70mと方柱。		

表11 周辺地域の弥生時代後期～古墳時代初頭の周溝を持つ大型建物一覧(2)

町町名	遺構名	立地	遺構名	平底斜		斜式		法量		出土物	特 記	備 考		
				周溝	周溝斜	周溝斜式	柱穴柱基	周溝	周溝斜	周溝斜	周溝斜式			
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-19	円柱	広溝式	圓錐型か	竪穴住居	—	17.00	1	10.7	土・石・瓦片・板瓦・土器・瓦器等遺物。	出土埋蔵	
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-10 (西)	円柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	22.5×19.1	1軒	12	多量の朽木土器・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴の跡は複数ある。	出土埋蔵	
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-10 (東)	円柱	狭溝式	圓錐型か	竪穴住居	—	15.3×12.5	0.4~1.2	9.1	多量の朽木土器・多量の瓦器・漆器等遺物。	出土埋蔵	
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-12	楕丸玉形柱	広溝式	土坑型	竪穴住居	1.7 (椭圓形足 り、火窓)	15.00	0.46~1.96	8.4×7.5	室内部から朽木土器・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴から朽木土器・土器・瓦器等遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	周溝は円柱で一部葺き、復元状。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-13	円柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	14.9× (12.0)	0.9~1.93	10	室内部から朽木土器・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴から朽木土器・土器・瓦器等遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	周溝は円柱、壁溝あり、五工工具。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-14	楕丸玉形柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	11.8×12	0.6~1.9	4.5×6.0	室内部から朽木土器・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴から朽木土器・土器・瓦器等遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	周溝は北西に開口部あり。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-15 (西)	円柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	18.50	2(最大)	10.25	土・石・瓦片・板瓦・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴から朽木土器・土器・瓦器等遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	遺物により見られている。遺物は不整円形、更に頂部部あり。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-15 (東)	不整圓柱 方柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	13.50	2(最大)	7.0×5.1	土・石・瓦片・板瓦・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴から朽木土器・土器・瓦器等遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	遺物により見られている。遺物は不整円形、更に頂部部あり。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-16	楕丸玉形柱	広溝式	土坑型	竪穴住居	—	13.4×12.2	2.0(最大)	5.9×6.1	室内部から朽木土器・土器・瓦器・漆器等遺物。柱穴から朽木土器・土器・瓦器等遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	遺物により見られている。遺物は不整円形。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-17	楕丸玉形柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	14.0×15.0	0.8~4.0	7.7×6.7	出土土器片・木製品(朽木的一部分)・板瓦・瓦片・漆器等と合わせて周溝遺物。瓦窓から多量の朽木土器・石製工具等遺物。	出土埋蔵	周溝は不整円形、五工工具。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-18	不整柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	18.5×15.0	1.2~2.4	11.9×9.5	土・石・瓦片・板瓦・土器・瓦器・漆器等と合わせて周溝遺物。瓦窓から多量の朽木土器・土器・瓦器・漆器等と合わせて周溝遺物。瓦窓から多量の朽木土器・土器・瓦器等と合わせて周溝遺物。	出土埋蔵	周溝は円柱。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-19 (東)	楕丸玉形柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	13.4×12.4	0.8~1.7	8.3×5.1	周溝から朽木土器・土器・瓦器・漆器等と合わせて周溝遺物。瓦窓から多量の朽木土器・土器・瓦器等と合わせて周溝遺物。	出土埋蔵	周溝は自然沈没100cmへの排水溝をもつ。南に開口部あり。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-19 (西)	不整圓柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	—	13.4×12.4	0.8~1.7	8.9×6.9	周溝から朽木土器・土器・瓦器・漆器等と合わせて周溝遺物。瓦窓から多量の朽木土器・土器・瓦器等と合わせて周溝遺物。	出土埋蔵	周溝は自然沈没100cmへの排水溝をもつ。南に開口部あり。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-21	楕丸玉形柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	1.5~ 2.0m 2.4~ 3.0(m)	約16	1.9~2.2	7.5×7	土・石・瓦片・板瓦・土器・瓦器・漆器等と合わせて周溝遺物。瓦窓から多量の朽木土器・土器・瓦器等と合わせて周溝遺物。	出土埋蔵	周溝は延縫式である。わずかに傾斜状の斜面がある。瓦窓は土器は瓦窓から出土。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-22	楕丸玉形柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	2.2~ 2.5(L壁)	13.3	0.6~1.9	8.4×5.9	周溝・周溝土より 土・石・瓦片・板 瓦・漆器等と 合わせて周溝 遺物のもの。身の可 動性があるものと 固定性のあるもの。	出土埋蔵	周溝は土器は瓦窓から出土。
高岡市	下老子富川遺跡	盆地	II-23	楕丸玉形柱	広溝式	圓錐型	竪穴住居	3~3.6	0.8~1.0	7.3~6.6	土・石・瓦片・板 瓦・漆器等と 合わせて周溝 遺物のもの。	出土埋蔵	周溝の土器は検出しない。 II-23に限られる。	

※報告書記載から起こした数値だが、本文の記載と異なる。

1. 遺構名は発掘報告書による。

2. 地上部標高にいかわらず、底状地・沖積平野・河原などを等地とし、丘陵・台地などを高地とす。(岡本2006)

3. 方式分類は「下老子富川遺跡周辺遺跡調査報告書」(能郷自立車両運搬車による複数化発音測定値) 第5分冊による。本文式は平均値7mより広いものとする。

4. 位置のうち周溝幅は、報告書本文の記載による。本文記載がないもの周溝幅で財賀と利用し合う場合は、遺構周溝幅から起こした値を用いる。

### 第3節 古代建物の変遷について

上野井田遺跡は今回調査区北端より約250m北側で行われた既往の調査（富山市教委1998）で、古代の堅穴建物および掘立柱建物を各1棟確認している。堅穴建物の主軸はN-87°-E、掘立柱建物は南北棟、桁行2間以上、梁行2間の側柱建物で主軸はN-83°-Eである。今回の調査においても、堅穴建物8棟、掘立柱建物18棟を検出した。これらは8世紀後半～9世紀半ばにかけて展開したものであり、堅穴建物および掘立柱建物の出土遺物から、8世紀後半には掘立柱建物を主体とする集落に先行する形で複数の堅穴建物を伴う集落が存在していたこと、集落の変遷が4期に及ぶことが明らかとなった。

堅穴建物は6棟確認し、そのうち5棟は調査区北側に位置する3区で、のこり1棟を調査区東側で検出した。後世の削平により上部構造の大部分が消失しているものが多く、いずれも平面方形で、確認できるものは東側にカマドを付設する構造である。今回調査区で堅穴建物のカマドの痕跡と認められる地点で採取した炭化物の放射性炭素年代測定の結果と、建物に共伴する遺物の年代から、各々の建物の時期は、北側の堅穴建物群は8世紀中頃から後半、東側の堅穴建物は9世紀前半である。

掘立柱建物は18棟確認し、1区の中央から東側の広範囲で検出した。ただし柱穴はこれ以外にも検出しておらず、特に3区は調査区がトレンチ状のため掘立柱建物の広がりを確認できなかったこともあります。実際の棟数はもっと多かったと考えられる。そのため建物群の検討上、報告書作成時に掘立柱建物となる蓋然性の高い柱穴群も建物として想定し、含めることとした。なお、柱穴に共伴して出土した遺物のうち、時期差を確定できたものがほとんどないため、その変遷については主に主軸方向と立地によりグループ化した上で、他の遺構との位置関係と建物の構造などから判断した。

古代の建物群は大きく4期に分類できる。第一に、堅穴建物の大部分を伴う調査区北端の3区集落が先行する。その後、掘立柱建物の主軸が南北棟の側柱建物を主体とする構成から、東へ振れる構成へと変遷する。集落の変遷の大きな流れとしては、北西が古く、南東に向かって新しくなる。ただし、異なる群とした建物でも、集落自体の存続時期が短く8世紀後半から9世紀前半におさまるため、同時併存した可能性がある。そのうち東側の掘立柱建物群は、前述の堅穴建物1棟を伴う9世紀前半の建物群であった。

I期：調査区北西、3区に位置する堅穴建物SI4～8を主体とする建物群である。主にカマドの痕跡と認められる部分から出土した土器の編年での位置づけ、および炭化物の放射性炭素年代測定結果から、時期を推定した。建物の時期は8世紀中頃から後半である。

II期：建物の主軸方向がN-10°～13°-Eにおさまる建物群である。1区東に位置するSB1・SB6およびSB15～18の6棟で構成する。調査区と東側に流れる二俣川までの間に、居住域が拡大する可能性がある。建物規模は桁行と梁行が各2間のSB6、または桁行2間、梁行3間のSB1・15～18で全て側柱建物である。SB15が同時期の堅穴建物SI3と、SB16とSB17が重なり合うことから、さらに2小期に分けられる。SI3に伴う遺物から、時期は9世紀前半と考えられる。SB16の約1.5m北側には、建物と並行して伸びる集落に伴う区画溝と考えられる溝(SD10)があり、その溝の北側の遺構密度が非常に低いことから、北東へ集落は広がらない。

III期：建物の主軸方向がN-1°～3°-Eにおさまる建物群である。1区南端に位置するSB4・5、中央に位置するSB7およびSB11～14の7棟で構成する。SB4とSB5、SB13とSB14が重複関係にあり、立替の可能性がある。SB11とSB12もまた重複関係にあり、存続時期に差が認められる。SB7・13は南北棟で2×3間の建物が長軸方向に平行して配置される。同時に、西側に隣接するSB12は東西棟で、

東西方向に柱が密に使用された特徴的な建物である。1区の広範囲に建物が広がる、上野井田遺跡の中心となる時期である。

**IV期：建物方位がN-7～8°-Wにおさまる建物群である。1区西に位置する。SB8～10の3棟で構成する。西側調査区外に同時期の建物群が広がる可能性がある。SB9とSB10は重複関係にあり、立替の可能性が高い。建物規模はI期・II期と比較して小さく、古代集落の最終段階である。**

以上、古代の居住域の変遷について概観した。今回調査区の古代集落の存続期間は、出土遺物の年代から8世紀中頃から9世紀前半までの100年に満たない短い期間に限られる。この短い期間に、①堅穴建物を中心に構成される集落（I期）、②堅穴建物を伴うものの掘立柱建物を中心とする集落（II期）、③規格を持つ掘立柱建物を伴い掘立柱建物のみで構成される比較的規模の大きな集落（III・IV期）、への変化が確認できた。こうした集落の拡大については8世紀後半から9世紀前半にかけて神通川右岸でもみられる開拓と荘園の拡大の流れの中で、小河川の左岸に成立した集落であるといえる。同時に、前回調査を含めると南北約1.2kmにおよぶ、比較的広範囲に広がる集落である一方、出土した古代の土器が須恵器・土師器のみで墨書き土器が1点も出土していない。須恵器の胎土分析の結果、分析した成分の比率の傾向がほぼ同様で、富山市では射水東端窯跡群（山本藤ノ木窯、平岡II 1・2号窯）（SC）に類似性があり、各期を通して同じ窯の製品を使用したと認められる。のことから、同一の系譜を持つ集団が継続して住み続けていた可能性がある。

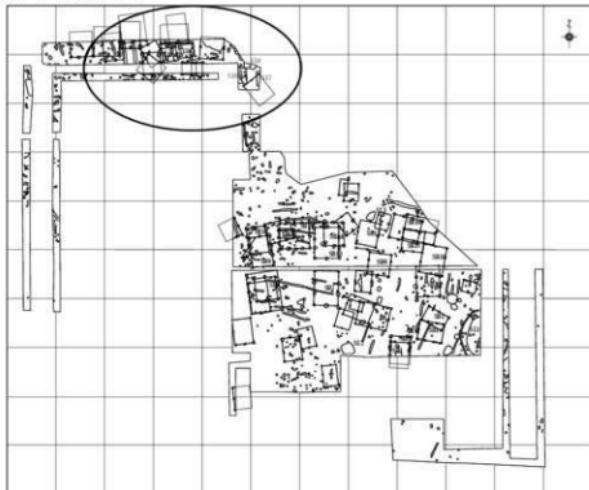
（朝田）

表12 古代の掘立柱建物一覧

建物番号	地区	前行	後行	前行柱間	後行柱間	前行長(m)		後行長(m)		面積(m <sup>2</sup> )	方位	時期区分	柱穴	備考	出土 遺物 (箇数%)	総遺 物数	回復 率%								
						前行柱間距離(m)		後行柱間距離(m)																	
						平均	基	平均	基																
SB1	I区(Ⅰ区)	2	2	1.45	1.75	1.60	1.67	5.00	2.63	1.95	2.00	8.00	20.00	N-41°-W	古代Ⅱ	SP941, 942, 943, 946, 949, 952, 953, 958, 966	SB1 > SB2	37	11						
SB2	I区(Ⅰ区)	3	2	2.00	2.10	1.7, 1.13	2.08	6.25	2.30	2.30	2.40	4.80	30.00	N-2°-W	古代Ⅱ	SP740, 741, 749, 754, 762, 766, 768	SB1 > SB2	37	12						
SB4	I区(Ⅰ区)	3.5	3	1.70	1.18	—	1.70	2.40	3.40	—	3.40	3.80	10.64 (12.96)	S-2°-E	古代Ⅱ	SP909, 933, 933, 1108		38	12						
SB5	I区(Ⅰ区)	3.5	2	2.10	1.85	—	1.98	3.95	1.95	2.25	2.10	4.70	16.19	S-2°-W	古代Ⅱ	SP909, 932, 934, 936, 937, 938, 1152		37	13						
SB6	I区(Ⅰ区)	2.5	2	1.60	2.96	—	2.15	4.50	2.20	2.35	2.30	4.55	20.48	S-8°-W	古代Ⅱ	SP740, 754, 755, 756, 726, 730, 735, 1053		38	14						
SB7	I区(Ⅰ区)	3	2	2.50	2.15	2.45	2.37	7.08	2.50	2.40	2.45	4.90	34.79	S-7°-W	古代Ⅱ	SP909, 931, 934, 698, 1100, 932, 794, 1173, 1118		39	15+ 16						
SB8	I区(Ⅰ区)	2	2	2.10	2.25	—	2.18	4.25	2.30	2.30	2.30	4.80	20.01	S-9°-W	古代Ⅱ	SP920, 429, 631, 637, 643, 650, 652, 656		38	15+ 17						
SB9	I区(Ⅰ区)	2.5	2	2.15	2.00	(2.00)	2.08	6.24	2.10	2.10	2.10	4.20	26.21	S-8°-W	古代Ⅱ	SP914, 368, 388, 393, 411, 420, 422, 424		40	15+ 18						
SB10	I区(Ⅰ区)	3	2	1.80	1.80	1.80	1.80	5.40	2.10	2.00	2.05	4.10	22.14	S-8°-W	古代Ⅱ	SP914, 357, 381, 383, 390, 392, 398, 414, 423, 425		40	15+ 18						
SB11	I区(Ⅰ区)	1	1	3.20	—	—	3.19	5.18	1.60	—	1.60	1.80	5.76	S-9°-W	古代Ⅱ	SP270, 428, 433, 460 (464, 465, 466)	4K4542 付5	41	15+ 20						
SB12	I区(Ⅱ区)	4	10+	1.50	1.55	1.55	1.51	1.52	6.00	3.20	3.20	3.20	23.46	S-49°-W	古代Ⅱ	SP973, 433, 446, 450, 462, 465, 475, 476, 526, 528	99-101	42	15+ 20						
SB13	I区(Ⅱ区)	3	2	2.10	1.80	2.30	2.07	6.28	2.18	2.43	2.58	5.15	33.93	S-9°-W	古代Ⅱ	SP917, 468, 469, 477, 483, 488, 495, 496, 497	102-105	43	22						
SB14	I区(Ⅱ区)	12+	2	2.00	—	—	2.00	5.00	1.95	2.00	1.98	3.95	18.25	S-9°-W	古代Ⅱ	SP919, 481, 484, 490, 513, 518		38	22						
SB15	I区(Ⅱ区)	2	1	2.40	2.45	—	2.43	4.90	4.15	4.15	4.15	20.34	S-12°-W	古代Ⅱ	SP909, 301, 530, 551, 1134		44	24							
SB16	I区(Ⅱ区)	3	2	2.05	1.80	2.05	1.97	5.00	2.40	2.30	2.35	4.70	27.73	S-77°-W	古代Ⅱ	SP919, 317, 578, 584, 588, 590, 591, 600		387	45						
SB17	I区(Ⅱ区)	2	2	1.90	1.90	2.30	2.05	6.15	2.40	1.80	2.20	8.40	27.04	S-8°-W	古代Ⅱ	SP919, 367, 568, 520, 521, 572, 561, 1244 (568-569, S.18と共用)		43	25						
SB18	I区(Ⅱ区)	3	2	1.80	1.85	(1.85)	1.99	5.95	2.45	2.40	2.43	8.85	27.40	S-11°-W	古代Ⅱ	SP919, 367, 568, 520, 521, 572, 561, 1244 (568-569, S.18と共用)		48	26						

( )は推定値

古代 I 期（8世紀後半）



古代 II 期（8世紀後半）

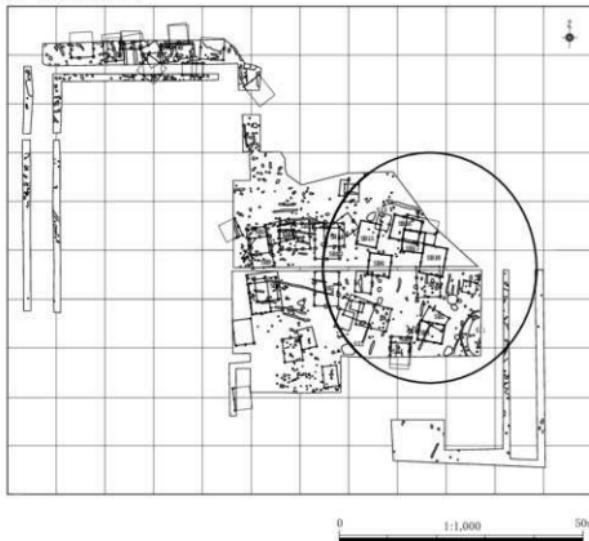
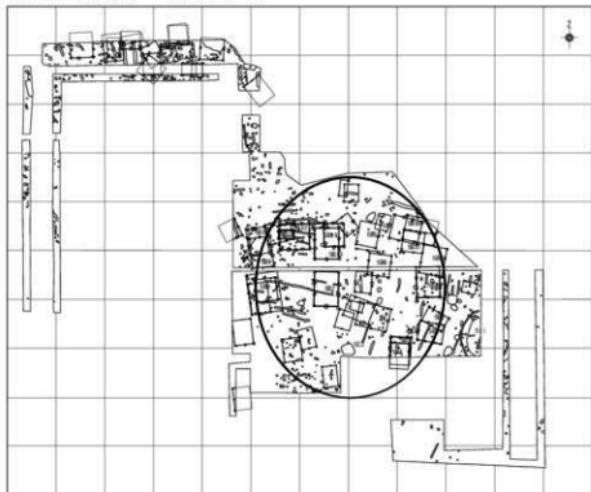


図 70 古代集落の変遷 (I)

古代Ⅲ期（8世紀後半～9世紀前半）



古代Ⅳ期（8世紀後半～9世紀前半）

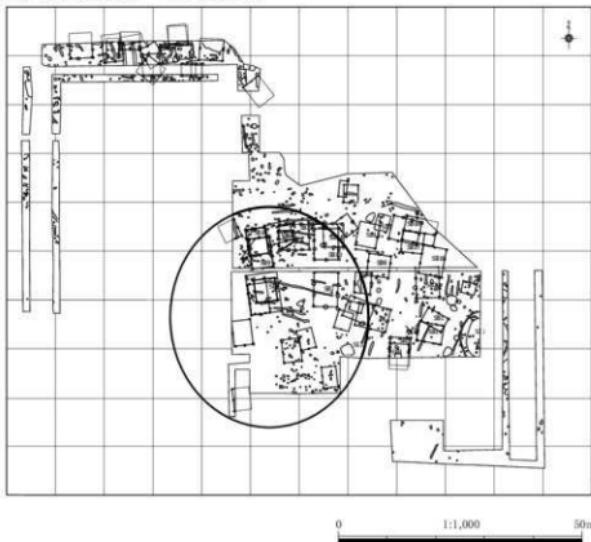


図 70 古代集落の変遷 (2)

## 【引用・参考文献】

- 石川県埋蔵文化財センター 1989『金沢市 米泉遺跡』
- 魚津市教育委員会 1981『富山県魚津市佐伯遺跡・県道拡張に伴う緊急調査報告』
- 上市町教育委員会 1999『平成10年度ひまわり台田地第3期造成に伴う富山県上市町 放士ヶ瀬北遺跡発掘調査報告』
- 北日本新聞社 1994『熊野川』『富山大百科事典』
- 小杉町教育委員会 1990『小杉町中山中遺跡発掘調査概要』
- 高岡市教育委員会 2012『石名瀬A遺跡調査報告・県道高岡環状線工事にともなう発掘調査』
- 立山町教育委員会 1987『辻遺跡・浦田遺跡発掘調査概要』立山町文化財調査報告書第3冊
- 田边昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 富山県教育委員会 1971『小杉町中山中遺跡発掘調査報告書』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2003『富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業発掘体験講座 平成10年度 動使塙古墳 平成11年度 新川郡上市町 水代遺跡 平成12年度 東砺波郡砺野町 安居窯跡群 平成13年度 射水郡小杉町 中山中遺跡 発掘調査報告書』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2006『下老子佐川遺跡発掘調査報告・能越自動車道建設に伴う理蔵文化財発掘報告V』『富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2006『任海宮田遺跡発掘調査報告I』』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2007『任海宮田遺跡発掘調査報告II』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2008『任海宮田遺跡発掘調査報告III』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2010『友杉遺跡発掘調査報告』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2013『上久呂中屋跡発掘調査報告・能越自動車道建設に伴う理 蔵文化財発掘報告X』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2014『稻庭天坂遺跡・稲積天坂北遺跡・稲積才オヤチ南遺跡・宇波西遺跡発掘調査報告 - 能越自動車道建設に伴う発掘報告 -』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2014『下老子佐川遺跡 江尻遺跡 発掘調査報告 - 北陸新幹線建設道建設に伴う理蔵文化財発掘報告IX - 第一分冊』
- 富山市教育委員会 1974『富山市 杉谷内地理蔵文化財予備調査報告書』
- 富山市教育委員会 1987『富山市 飯野新屋遺跡 主要地方道富山環状線工事に伴う古墳時代前期集落跡の調査概要』
- 富山市教育委員会 1988『昭和62年度 富山市埋蔵文化財発掘調査概要』
- 富山市教育委員会 1998『富山県富山市 上野井田遺跡』
- 富山市教育委員会 1998『富山市農田大塚遺跡発掘調査概要』
- 富山市教育委員会 2000『富山市上新保遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2000『調査概要 富山市水橋 清水堂南遺跡』県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業(清水堂地区)に伴う理蔵文化財発掘調査概要(5)
- 富山市教育委員会 2002『富山市吉岡遺跡・経力遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 122
- 富山市教育委員会 2005『富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 2
- 富山市教育委員会 2004『富山市打出道跡発掘調査報告書・富山市打出土地区画整理事業に伴う理蔵文化財発掘調査発掘調査報告 -』
- 富山市埋蔵文化財調査報告 138
- 富山市教育委員会 2006『富山市打出道跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 30
- 富山市教育委員会 2008『富山市富崎遺跡発掘調査報告書一般国道472号道路改良事業に伴う理蔵文化財発掘調査発掘調査報告(1) - 富山市理蔵文化財調査報告 21-(1)』
- 富山市教育委員会 2008『富山市八戸町遺跡発掘調査報告書 - 県営農免農道(糸羽と合2期地区)整備事業に伴う理蔵文化財 発掘調査発掘調査報告 -』富山市理蔵文化財調査報告 22
- 富山市教育委員会 2009a『富山市上新保遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 30
- 富山市教育委員会 2009b『富山市百塚往古遺跡 百塚往古B遺跡 百塚遺跡発掘調査報告書 - 主要地方道富山八尾線道路改良事業に伴う 発掘調査報告 -』富山市理蔵文化財調査報告 32
- 富山市教育委員会 2009b『富山市上新保遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 37
- 富山市教育委員会 2014『富山市内遺跡発掘調査概要概要 X・南部Ⅰ遺跡・崩海寺城跡・今市遺跡・西二俣遺跡・花ノ木C 遺跡・砂川カタ久遺跡・東老田遺跡 -』富山市埋蔵文化財調査報告 60
- 富山市教育委員会 2015a『富山市千石町遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 78
- 富山市教育委員会 2015b『富山市千石町遺跡発掘調査報告書 写真図版編』富山市埋蔵文化財調査報告 78-2
- 富山市教育委員会 2018『富山市黒瀬大屋遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 94
- 富山市教育委員会 2020『富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 101
- 富山県婦中町教育委員会 1995『千坊山遺跡(1)』 遺跡発掘事前総合調査事業に係る埋蔵文化財調査報告
- 中村太一郎 1962『富山市近郊「上野」について』『越中史壇』第24号・越中史壇会
- 婦中町教育委員会 2000『富山県婦中町 県営旧人吉青基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告-婦中南部地区・千里地区-』
- 婦中町教育委員会 1998『富山県婦中町 南部Ⅰ遺跡発掘調査報告』個人住宅建築に係る埋蔵文化財調査報告
- 婦中町教育委員会 2002『富山県婦中町 千坊山遺跡群試掘調査調査 報告書』
- 婦中町教育委員会 2003『富山県婦中町 嶽治町遺跡発掘調査報告』一般国道359号道路改良工事に先立つ埋蔵文化財発掘調査発掘調査報告書
- 舟橋村教育委員会 2002『富山県舟橋村竹内東芦原遺跡発掘調査報告』
- 八尾町教育委員会 1997『翠尾I 遺跡 発掘調査報告 1』八尾町埋蔵文化財調査報告第1集

(五十音順)